愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第227集

大畑遺跡
（おおはたいせき）

2025

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

序

奥三河地域は愛知県の北東部に位置し、天竜奥三河国定公園を擁する自然豊かなところで、そこを流れる寒狭川は県下でも屈指の清流として知られています。また、地域に占める山林の割合が９割を超える地形、年間雨量 2,300mm に達する多雨な環境は豊富な木材を産出することで知られ、奥三河を代表する鷹ノ巣山（通称：段戸山）は古くは御料林、現在は国有林として大切に管理され、地域は林業を中心とした産業で栄えてきました。

この奥三河地域の一角をなす設楽町では、豊川で幾度となく繰り返されている洪水氾濫と、頻発する渇水の被害から人々の暮らしを守るため、そして活力に満ちた東三河地域の発展に貢献するために設楽ダムの建設が計画され、現在も完成に向けて工事が進められています。

この設楽ダムによって水没する区域には多くの遺跡が存在しており、様々な工事の影響を受ける遺跡も少なくありません。こうした遺跡の記録保存を実施するために、愛知県埋蔵文化財センターでは平成 26 年度から本格的に発掘調査を進めてまいりました。

平成 27 年度に範囲確認調査が実施された大畑遺跡は平成 29 年度と令和４年度に、本発掘調査が行われました。

調査の結果、大畑遺跡では主に縄文時代前期から縄文時代中期にいたる遺構群が検出され、縄文時代草創期から弥生時代にいたる遺物が出土しました。

本書は、大畑遺跡の調査成果をまとめたものであり、かつて設楽町域で活動していた先人の確かな痕跡を後世に伝えることができるものと考えております。

最後になりましたが、発掘調査につきまして、地元住民の方々をはじめとする多くの方々にご協力をいただきました。また、関係各機関および関係者のご指導とご支援をいただきましたこと、厚くお礼申し上げます。

令和７年３月３１日
公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
理事長　岡本 範重

例言

1. 本書は、北設楽郡設楽町大字川向字大畑・東貝津に所在する大畑遺跡の発掘調査報告書である。
2. 令和４年度の発掘調査は、設楽ダムの事前調査として、国土交通省中部地方整備局から愛知県県民文化局を通 じて（平成 29 年度の発掘調査は愛知県教育委員会を通じて）、公益財団法人愛知県教育･スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが管理委託を受けて実施した。調査対象面積は令和４年度の発掘調査が 2,080㎡、平成 29 年度の発掘調査が 13,950㎡である。
3. 調査期間は以下の通りである。
   平成 29 年度：平成 29 年５月～平成 30 年１月、令和４年度：令和４年 10 月から 12 月
4. 調査担当者は以下の通りである。
   平成 29 年度：鈴木正貴（主任専門員）、永井宏幸（調査研究専門員）、松田訓（調査研究専門員）、早野浩二（調査研究専門員）、永井邦仁（調査研究専門員）、鈴木恵介（調査研究主事）
   令和４年度：永井宏幸（主任専門員）、社本有弥（調査研究主事）
5. 発掘調査は、各遺跡とも調査支援を受けて実施した。社名、主要なスタッフは以下の通りである。
   平成 29 年度調査：株式会社　二友組
   現場代理人：吉田哲也、現場代理人補：下島健弘、八神道義、後藤英樹、調査補助員：鷺坂有吾、高木祐志、岩瀬大輔、測量士：宮本亮太、東江康拡、舟橋哲郎、白木宏幸
   令和４年度調査：株式会社　アコード　名古屋営業所
   現場代理人：大倉崇、代理人補：前田哲典、調査補助員：坂口尚人、測量士：田畑徹也
6. 出土遺物の実測・トレースは株式会社アルカに、写真撮影は写真工房遊に、図版編集作業は国際文化財株式会社に、土壌選別作業と選別後の微細遺物の種実同定、顕微鏡写真撮影、炭化物の放射性炭素年代測定分析、土器付着炭化物の放射性炭素年代測定分析、黒曜石の産地同定分析は株式会社パレオ・ラボに、報告書の印刷製本刊行発送業務は西濃印刷株式会社にそれぞれ業務を委託した。
7. 縄文土器の図面校正は川添和暁が、石器の図面校正は田中良が行った。
8. 発掘調査および報告書作成に際しては、次の関係機関の指導・協力を受けた。愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室、愛知県県民文化局文化部文化芸術課文化財室、愛知県埋蔵文化財調査センター、国土交通省中部整備局、設楽町教育委員会（ 五十音順、敬称略 ）
9. 発掘調査および報告書作成にあたり、次の方々からご教示・ご協力をいただいた。
   大塚達朗、長田友也、城ケ谷和広、馬場保之、平野吾郎、増子康眞、綿田弘実（ 五十音順、敬称略）
10. 本書の執筆は、鈴木恵介・田中良・伊藤茂・加藤和浩、佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・小林克也・竹原弘展・バンダリ スダルジャンが担当した。詳細は下記の通りである。
    第１・２章：鈴木恵介
    第３章第１節：鈴木恵介、第２節：田中良
    第４章第１節：伊藤茂・加藤和浩・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・小林克也
    第２節：竹原弘展、第３節：バンダリ スダルジャン
    第５章：鈴木恵介
11. 本書の編集は樋上昇・鈴木恵介が行った。遺物写真の一部の撮影は鈴木恵介が行った。
12. 調査区の座標は、国土交通省告示に定められた平面直角座標第 VII 系に準拠する。ただし新基準で表記してある。
13. 発掘調査および整理については、多くの発掘作業員、整理補助員、関係各社の皆様の協力を得た。記して感謝する次第である。
14. 遺物の登録は、本書図版の掲載番号を元に行った。
15. 調査記録および写真記録は愛知県埋蔵文化財センター（愛知県弥富市前ケ須町野方 802-24　電話 0567-67-4161）で保管している。
16. 出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。

目次

挿図目次

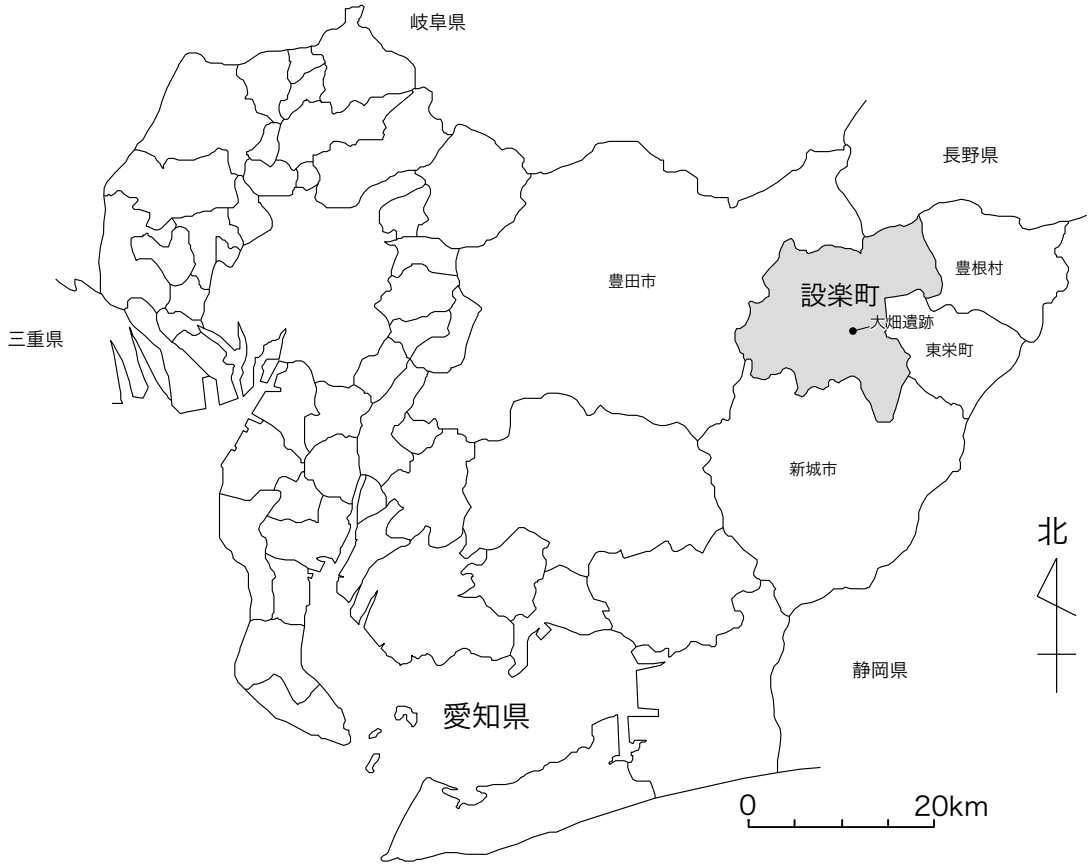
表目次

第１章　調査の概要

第１節　遺跡の位置

愛知県北設楽郡設楽町は愛知県北東の山間部に所在する。平成 17 年に旧津具村と合併し、現在は東西約 22.4km・南北 19.7km、面積 273.94㎢となった。旧三河国設楽郡に属する。隣接市町村は北から時計回りに豊田市稲武地区、長野県根羽村、豊根村、東栄町、新城市鳳来地区、新城市作手地区、豊田市下山地区、豊田市足助地区となっている。

大畑遺跡は、愛知県北設楽郡設楽町川向字大畑・東貝津に所在する。設楽町の役場が置かれている田口地区の北東方向約 1.5km の距離にあり、設楽町内のランドマークのひとつである設楽大橋の西側丘陵上に位置している。周辺の道路は、町域北西部の名倉地区から下ってきた国道 247 号が大畑遺跡の北側を通り、設楽大橋を経て田口へ抜ける。町道小松田口線は概ね境川と並行し、大畑遺跡の北側で国道 257 号と並走し、東側から設楽大橋をくぐって、南側を周り西に抜ける。周辺の河川は、設楽大橋付近では豊川支流の境川が大畑遺跡の立地する丘陵裾を南側に蛇行し、急峻な斜面や崖に囲まれた狭隘な谷間を抜けて行く。周囲の急峻な地形の中に大規模な平地はほとんど存在せず、遺跡の多くは境川に近い河岸段丘あるいは丘陵上に確認されている。前者の河岸段丘に立地する遺跡は、本遺跡の北側の大栗遺跡、万瀬遺跡、東側の笹平遺跡、南側の川向東貝津遺跡がある。大畑遺跡は後者の丘陵上の遺跡であり、この地域で発掘調査が行われた遺跡としては少数派に属する。



第１図　設楽町の位置（S=1/800000）

第２節　調査の経緯

大畑遺跡の発掘調査は、設楽ダム事業に伴う事前調査として国土交通省中部地方整備局から、平成29年度の発掘調査は愛知県教育委員会（令和４年度の発掘調査は愛知県県民文化局）を通じて、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが管理委託を受けて実施した。調査対象面積は平成29年度の発掘調査が13,950㎡、令和４年度の発掘調査が2,080㎡である。

大畑遺跡は、「北三河の遺跡（一）」（夏目一平1926）『考古学雑誌第十六巻第十号』、『北設楽郡誌』（北設楽郡誌編纂員会1968）にも掲載され、古くから遺跡と認識されていた。

平成27年度には、国土交通省中部地方整備局から愛知県教育委員会を通じて範囲確認調査（現在の本調査Ａに相当）の委託を受け、平成27年８月から９月にかけて実施。テストトレンチは182カ所（446㎡）を配置して調査を実施した（第３図）。

平成29年には、平成27年度の範囲確認調査の結果を踏まえて本発掘調査（現在の本発掘調査Ｂに相当）を国土交通省中部地方整備局から愛知県教育委員会を通じて委託を受け、平成29年５月から平成30年１月に実施した。調査面積は13,950㎡である。調査区を４つの区に分割し、着手した順に、南東部を17A区、北東部を17B区、北西部を17C区、南西部を17D区とした（第２図）。発掘調査終了後の平成30年２月～３月に遺構図面を中心とした二次整理作業を実施した。

令和４年度には、国土交通省中部地方整備局から愛知県県民文化局を通じて委託を受け、令和４年10月から12月に本発掘調査Ｂを実施した。調査面積は2,080㎡である。17C・Ｄ区の間に位置した中部電力電線鉄塔の撤去に伴い、調査が可能となった鉄塔跡地を22B区とし、17B・Ｃ区の北側で未調査であった部分を22A区として設定した。発掘調査終了後の令和５年２月～３月に遺構図面を中心とした二次整理作業を実施した。

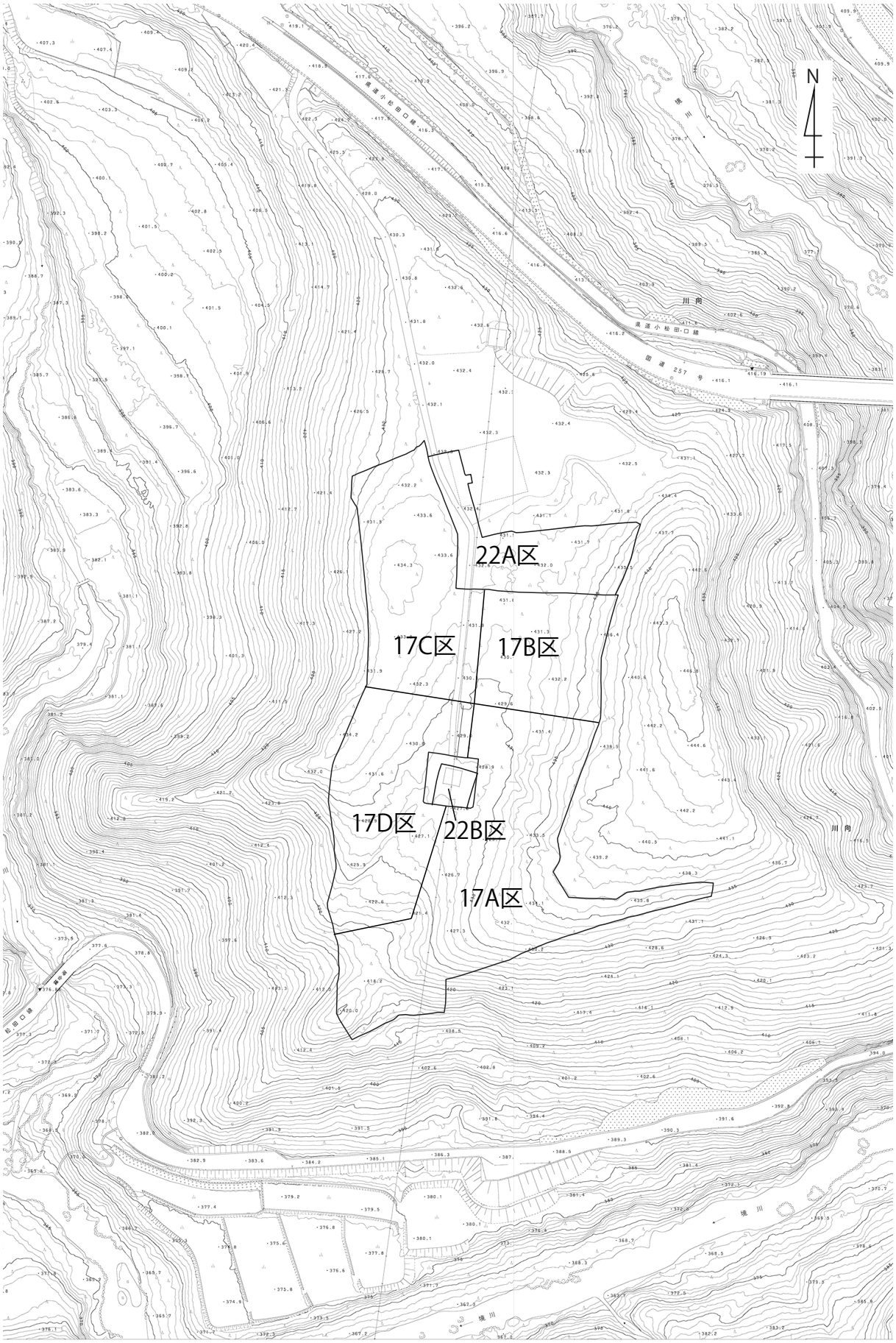
令和５年度には、平成29年度調査と令和４年度調査の図面の整理および出土遺物の分析・記録などの整理報告書作成業務を実施した。

第３節　遺跡周辺の地理的環境

設楽町は、町域の約９割を森林が占める山間地域である。町域の北西部の名倉地区、北部の津具地区では比較的まとまった平坦地がある。町域北東部で最も標高の高い茶臼山高原付近で1,320m。最も低い田峯地区の寒狭川と当貝津川の合流地点で約190mである。

設楽町内には豊川、矢作川、天竜川の３つの水系がある。矢作川水系は町域の北側から名倉川が北に流れ、岐阜県恵那市上矢作町で矢作川に合流する。天竜川水系は津具川・大入川、神田川が町域の東部から東に流れ、豊根村や東栄町を経て天竜川に合流する。豊川水系は寒狭川（豊川本流）、当貝津川、境川が町域の中央から南部にかけて合流し豊川となる。

豊川の支流である境川は、設楽町八橋地区から始まり、松戸地区で寒狭川（豊川）に合流する。設楽町内の中央付近を北東から南西方向に流れ、川向地区での境川は大きく蛇行を繰り返す。設楽大橋の西側では、大畑遺跡の立地する丘陵が南方向に向かって半島状に突出し、丘陵の裾を北東側から南西側に向かって、南に回り込んで境川が蛇行する。大畑遺跡の南東付近では、小松地区より北西に流れてきた小松川と合流した後に西に向きを変える。大畑遺跡の南西付近では、川向地区北部から南下してきた戸神川と合流した後に再び南に向きを変える。松戸地区に入って寒狭川に合流する。



第２図　大畑遺跡周辺の地形図と調査範囲（S=1/2000）

寒狭川は宇連川と合流する長篠城跡付近より北側での豊川の名称であり、設楽町の段戸山に始まり、新城市、豊川市、豊橋市を通り三河湾に注ぐ。流域面積は724㎢、幹川流路延長は77km、流域内人口は約22万人。利水市町村人口は約81万人を数える。設楽町は豊川の最上流域にあたり、江戸時代には伐採した材木を川によって下流域に、さらには遠く江戸まで木材を供給していたことが知られている。

大畑遺跡は豊川水系に属し、豊川の支流である境川の右岸丘陵上に位置する。大畑遺跡の属する丘陵の東・南側は境川に、東側は戸神川によって急峻な崖が形成されている。東側の境川との比高差は約64m、南側は約50m。西側の戸神川との比高差は約56mである。北側は細い尾根状の地形で万瀬遺跡の北東側後背の丘陵と接続する。大畑遺跡の北西側は急激に標高が上がる。戸神川の上流方向に約5km進むと標高は690mに達し、豊川水系の戸神川最上流部となるが、これを超えると矢作川水系となり、名倉川最上流部となっている。

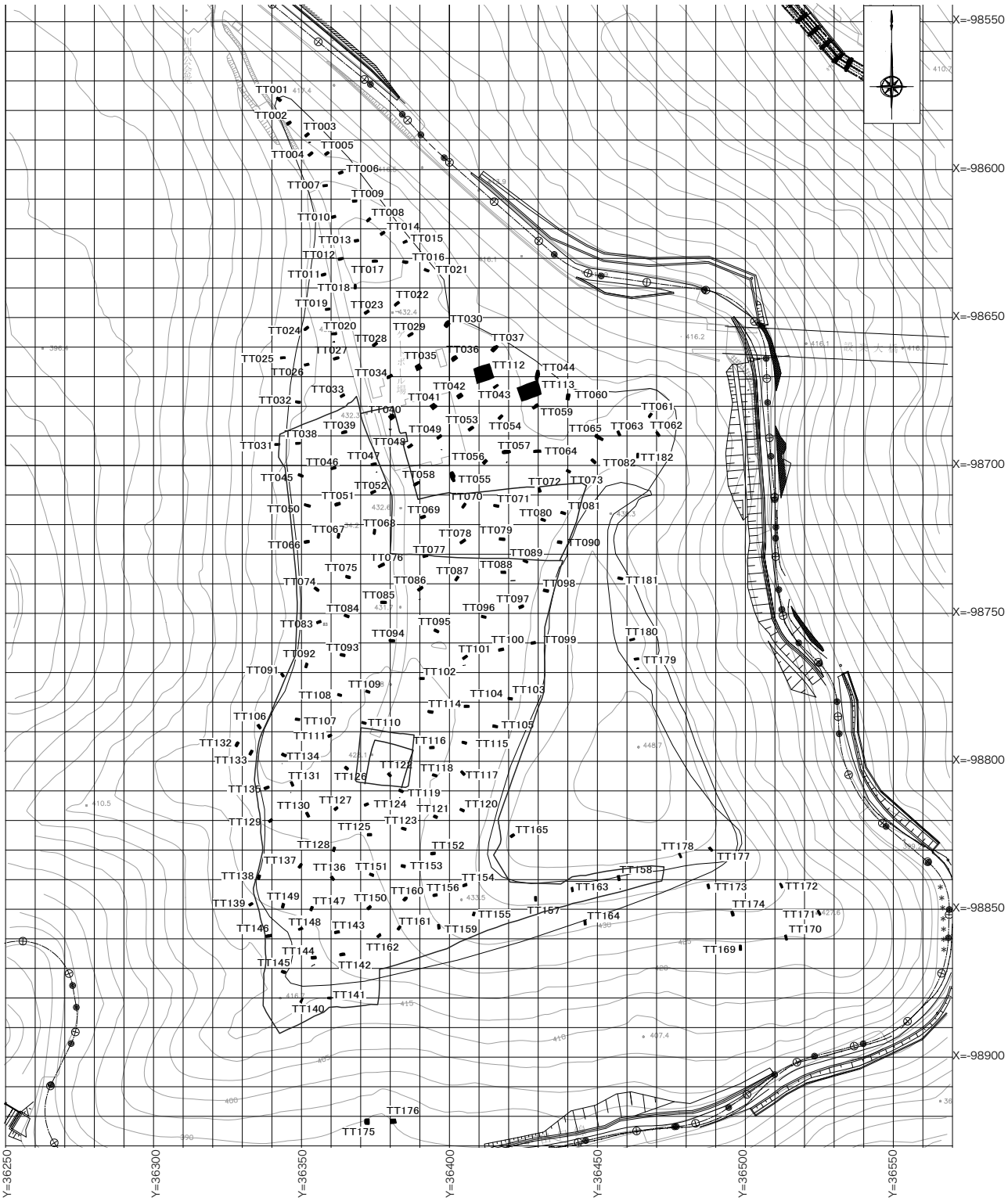
大畑遺跡の調査対象地の現況は山林であった。調査範囲内の東西に南北方向に伸びる丘陵が存在し、その間が谷状の地形となる。西側の丘陵は調査区の南西付近で西側に突出し調査区外へ続く。東側の丘陵は、西側斜面までが調査区の範囲内で、東側丘陵頂部付近はダムの湛水域外のため調査範囲外となる。17区内の谷状地形内では少量の湧水があり、調査区内を南に流下し川向東貝津遺跡の北西で境川に注ぐ。17区の北側の22A区では、谷状地形の谷頭付近がほぼ平坦となり、この谷頭付近では竪穴建物跡をはじめとする遺構が多く検出された。

調査区内の標高は、17区調査区東辺の最も高いところで436m、17区調査区南端の最も低いところでは412mである。17区東側の丘陵頂部は、調査範囲外ではあるが標高446.8mである。22A区の調査区北西側は現況では平坦な地形となっているが、範囲確認調査の結果、近現代に削平されていることが判明している。元は西側の尾根から北に延びる尾根状の地形が続いていたと考えられる。

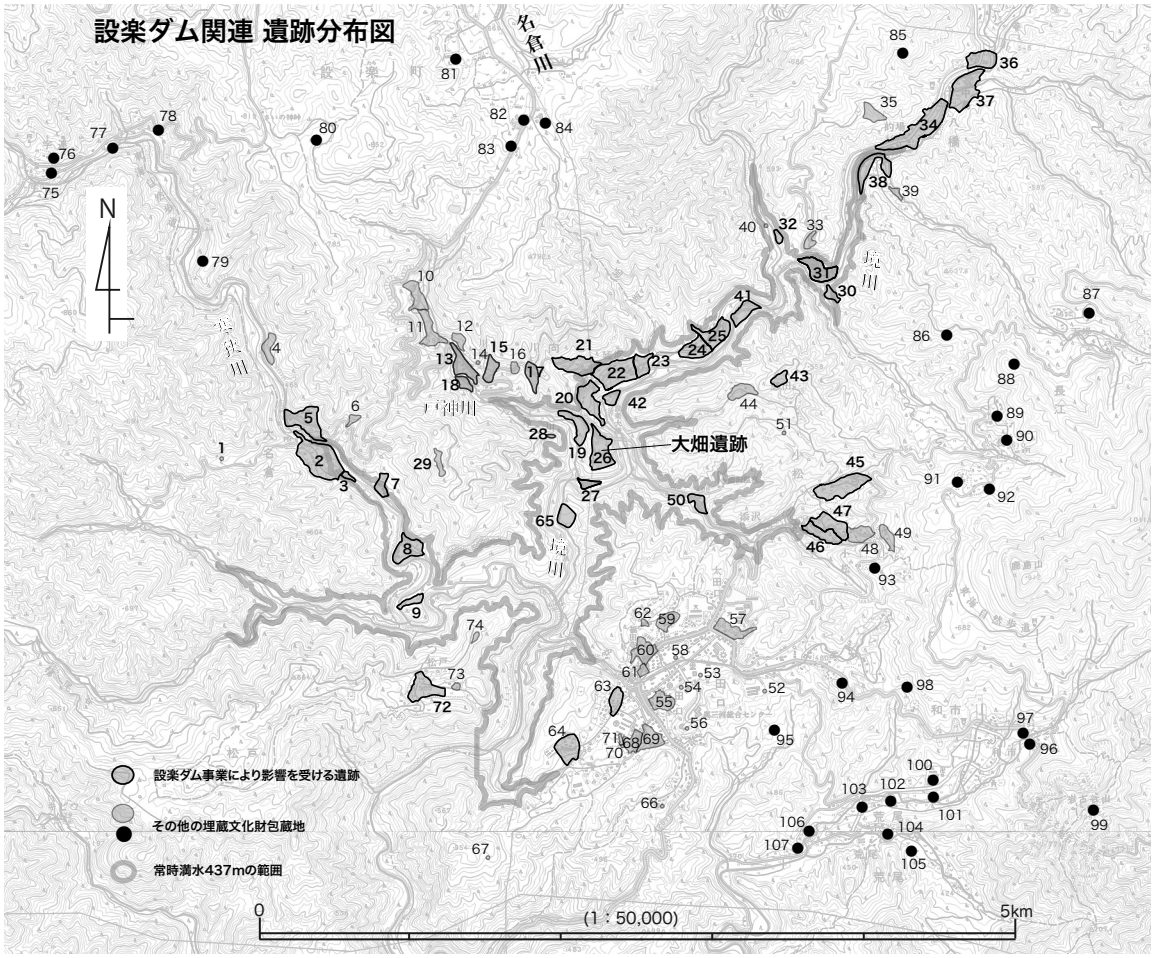
大畑遺跡の地形的な特徴は、周囲と河川によって隔てられていること、北側丘陵との接続部分も細いことから、遺跡の属する丘陵上には周辺からの土砂の流入がない。この条件は大畑遺跡の遺構・遺物の残存状況にも大きな影響を及ぼしており、遺跡内の丘陵上では土砂が流出するのみで、遺構の残存状況が非常に浅い場合があった。例えば17区の西側丘陵上の竪穴建物跡300SIなどはこの一例である。遺跡内の谷状地形内は、東西の丘陵から土砂が流れ込みやすい状況にはあるが、谷状地形内でも湧水や雨水によって土砂が継続して流出しやすい状況にあり、地山層の上の堆積も厚くはなく、遺構の残存状況も浅いものがある。22B区の2004SKはこの一例である。以上の状況から検出された遺構は、丘陵部では竪穴建物跡や土坑、斜面を含む谷状地形内では陥し穴等と、本来は深く掘削を受けたものが残存していたと推定される。

第４節　遺跡周辺の歴史的環境

大畑遺跡周辺の遺跡は、北側の細い尾根状地形西側、戸神川左岸の標高405m付近の河岸段丘には、縄文時代早期の煙道付炉穴や縄文時代中期の竪穴建物跡が検出された大栗遺跡がある。尾根筋を挟んで反対側の北、境川右岸の標高400mから425m付近の河岸段丘から後背斜面にかけて、縄文時代早期前半の竪穴建物跡や、中近世の大型掘立柱建物跡が検出された万瀬遺跡がある。境川を挟んで万瀬遺跡の対岸、大畑遺跡の東方には、縄文時代中期から後期の竪穴建物跡が検出された笹平遺跡がある。南側には、境川に面した丘陵中腹の標高374m付近の段丘上に、後期旧石器時代の石器集中地点や縄文時代中期から後期の竪穴建物跡が検出された川向東貝津遺跡が立地する。



第３図　大畑遺跡平成 27 年度範囲確認調査テストトレンチ配置図（S=1/2000）



第４図　設楽ダム関連遺跡と周辺の遺跡（S=1/50,000）

地区（旧大字）	番号	遺跡名	読み	県遺跡番号	所在地	時代
大名倉	1	沢入り遺跡	さわいり	700155	大名倉字沢入り	縄文/弥生?
大名倉	2	大名倉遺跡	おおなぐら	700297	大名倉字滝ノ上・滝ノ下・下谷・南貝津	縄文/弥生/平安/鎌倉/室町/戦国～近世
大名倉	3	日掛遺跡	ひかげ	700328	大名倉字日掛	
大名倉	4	栢の久保遺跡	かやのくぼ	700151	大名倉字新蔵	縄文
大名倉	5	西地・東地遺跡	にじじ・ひがしじ	700152	大名倉字西地・東地	縄文/平安/鎌倉/室町/戦国～近世
大名倉	6	後沢遺跡	うしろざわ	700154	大名倉字後沢	縄文
大名倉	7	ハラビ平遺跡	はらびだいら	700157	大名倉字ハラビ平	縄文/平安/鎌倉/戦国～近世
大名倉	8	胡桃窪遺跡	くるみくぼ	700158	大名倉字胡桃窪・丸山	縄文/平安/鎌倉/室町/戦国～近世
大名倉	9	大名倉丸山遺跡	おおなぐらまるやま	700347	大名倉字丸山	戦国～近世
川向	10	川向田ノ入遺跡	かわむききたのいり	700351	川向字田ノ入	平安
川向	11	三軒屋遺跡	さんげんや	700159	川向字三ゲンヤ	縄文/鎌倉
川向	12	梨子谷下遺跡	なしやげ	700329	川向字梨子谷下	平安/鎌倉
川向	13	上戸神遺跡	かみとがみ	700160	川向字上戸神・下戸神	縄文/平安/鎌倉/室町/戦国～近世
川向	14	道合遺跡	みちあい	700161	川向字道合	縄文
川向	15	川向萩ノ平沢遺跡	かわむきはぎのひらさわ	700352	川向字萩ノ平沢・小万	縄文/平安
川向	16	道上遺跡	みちあげ	700345	川向字萩ノ平沢・小万	縄文/平安
川向	17	川向力石遺跡	かわむきちからいし	700353	川向字萩ノ平沢・小万	平安/鎌倉
川向	18	川向向山遺跡	かわむきむかいやま	700354	川向字向山	戦国～近世
川向	19	大栗遺跡	おおぐり	700163	川向字大栗	縄文/弥生/平安/室町/戦国～近世
川向	20	万瀬遺跡	まんぜ	700165	川向字マンゼ	縄文/平安/鎌倉/室町/戦国～近世
川向	21	大空前遺跡	おおぞらまえ	700166	川向字大空前・新直	縄文/平安/鎌倉/室町/戦国～近世
川向	22	上ヲロウ・下ヲロウ遺跡	かみをろう・しもをろう	700167	川向字上ヲロウ・下ヲロウ	縄文/平安/鎌倉/室町/戦国～近世
川向	23	川向近沢遺跡	かわむきちかざわ	700355	川向字近沢・馬道	縄文/平安/鎌倉/室町/戦国～近世
川向	24	石原遺跡	いしはら	700170	川向字石原・ヒチコ	縄文
川向	25	下延坂遺跡	しものべさか	700171	川向字下延坂・上延坂	縄文/弥生/平安/鎌倉
川向	26	大畑遺跡	おおはた	700164	川向字大畑・東貝津	縄文
川向	27	川向東貝津遺跡	かわむきひがしがいつ	700348	川向字東貝津	旧石器/縄文/平安/鎌倉
川向	28	南ヶ岳遺跡	みなみがたけ	700162	川向字南ヶ岳	縄文?/平安
川向	29	光石山候補地	みつ（ひかり）いしやま	城館関連地089-003	川向字向山	戦国～近世?
八橋	30	八橋大平遺跡	やつはしおおびら	700349	八橋字大平	縄文/平安
八橋	31	滝瀬遺跡	たきせ	700174	八橋字タキセ	縄文/弥生/室町/戦国～近世
八橋	32	根道外遺跡	ねみちそと	700173	八橋字根道外	縄文
八橋	33	長久保遺跡	ながくぼ	700331	八橋字長久保	縄文
八橋	34	中村遺跡	なかむら	700176	八橋字道上・道下・西路	縄文/平安/鎌倉/室町
八橋	35	八橋アテ遺跡	やつはしあて	700356	八橋字アテ	縄文/平安/戦国～近世
八橋	36	八橋谷合遺跡	やつはしやわせ	700350	八橋字谷合	平安

第 1-1 表　設楽ダム関連遺跡と周辺の遺跡（愛知県埋蔵文化財センター 2020『川向東貝津遺跡』を元に作成）

地区（旧大字）	番号	遺跡名	読み	県遺跡番号	所在地	時代
八橋	37	向橋遺跡	むこうばし	700178	八橋字向橋	平安/鎌倉
八橋	38	永江沢遺跡	ながえさわ	700175	八橋字崩沢	縄文/鎌倉/室町
八橋	39	八橋崩沢遺跡	やつはしなぎさわ	700357	八橋字崩沢	縄文
八橋	40	境川林道遺跡	さかいがわりんどう	700330	八橋字コハツカ	縄文（黒曜石の原石のみ採取）
小松	41	マサノ沢遺跡	まさのさわ	700172	八橋字マサノサワ	縄文/弥生（2020年度ハート形土偶出土）
小松	42	笹平遺跡	ささだいら	700169	小松字笹平	縄文/弥生/平安
小松	43	丸瀬遺跡	まるせ	700184	小松字丸瀬	縄文
小松	44	小松沢上ゲ遺跡	こまつさやげ	700358	小松字沢上ゲ	平安/室町/戦国～近世
小松	45	柿平遺跡	かきだいら	700189	小松字波根・東沢	平安/鎌倉/室町/戦国～近世
小松	46	中屋地遺跡	なかやじ	700190	小松字中屋地	平安/鎌倉/室町/戦国～近世
小松	47	下り道遺跡	くだりみち	700191	小松字下り道・中貝津・下中熊	縄文/平安/鎌倉/室町/戦国～近世
小松	48	下中熊遺跡	しもなかぐま	700192	小松字下中熊・中貝津	平安/鎌倉/室町/戦国～近世
小松	49	上中熊遺跡	かみなかぐま	700193	小松字上中熊	平安/鎌倉/室町/戦国～近世
田口	50	添沢遺跡	そえざわ	700188	田口字添沢	縄文/平安/鎌倉
田口	51	添津遺跡	そえづ	700187	田口字添津	縄文/弥生?
田口	52	一ノ橋遺跡	いちのはし	700197	田口字杉平向	縄文
田口	53	向木屋遺跡	むかいぎや	700201	田口字向木屋	弥生
田口	54	城下遺跡	しろした	700202	田口字小木山	鎌倉?
田口	55	天白遺跡	てんぱく	700203	田口字広貝津	縄文/弥生/鎌倉
田口	56	向木屋城跡	むかいぎやじょうあと	700206	田口字向木屋	戦国～近世?
田口	57	東遺跡	ひがし	700198	田口字谷下・白根土	鎌倉/室町/戦国～近世
田口	58	稲場遺跡	いなば	700333	田口字辻前	縄文
田口	59	中島遺跡	なかじま	700199	田口字中島	縄文/平安/室町/戦国～近世
田口	60	居立遺跡	いだて	700200	田口字居立	弥生/古墳
田口	61	半兵衛屋敷（田口村古屋敷）	はんべえやしき（たぐちむらふるやしき）	703001	田口字小貝津	戦国～近世
田口	62	田口大久保遺跡	たぐちおおくぼ	700359	田口字大久保	縄文
田口	63	田口西貝津遺跡	たぐちにしがいつ	700360	田口字西貝津	平安/鎌倉/室町/戦国～近世
田口	64	田口シウキ遺跡	たぐちしうき	700361	田口字シウキ	平安/鎌倉/室町
田口	65	大崎遺跡	おおさき	700195	田口字大崎	縄文/平安
清崎	66	根ノ後遺跡	ねのご	700344	清崎字根ノ後	縄文
清崎	67	大峯遺跡	おおみね	700226	清崎字大峯	縄文/弥生?/平安/鎌倉
清崎	68	広畑遺跡	ひろはた	700204	清崎字広畑・狐洞	平安/鎌倉/室町/戦国～近世
清崎	69	萩平遺跡	はぎだいら	700205	清崎字山本・水口	戦国～近世
清崎	70	萩平村古屋敷	はぎだいらむらふるやしき	703005	清崎字狐洞	戦国～近世?
清崎	71	重原藩代官所	しげはらはんだいかんしょ	703002	清崎字狐洞	近代
清崎	72	松戸遺跡	まつど	700334	松戸字家廻・向畑	平安/鎌倉/室町/戦国～近世
清崎	73	松戸下畑遺跡	まつどしたばた	700362	松戸字下畑	鎌倉/室町
清崎	74	松戸城跡	まつどじょうあと	703004	松戸字イサケトチ	戦国～近世?
東納庫	75	大家下遺跡	おおやした	700147	東納庫字岩クラ	鎌倉/室町
東納庫	76	澄川口遺跡	すみかわぐち	700146	東納庫字澄川口	室町
東納庫	77	岩クラ遺跡	いわくら	700148	東納庫字岩クラ	縄文
東納庫	78	長根遺跡	ながね	700149	東納庫字長根	縄文
東納庫	79	長尾遺跡	ながお	700150	東納庫字長尾	縄文
東納庫	80	菅沢山遺跡	すげさわやま	700143	東納庫字菅沢山	弥生（水神平式）
川向	81	モロ田遺跡	もろだ	700137	川向字モロ田	古墳/飛鳥・奈良/平安
川向	82	市場口遺跡	いちばぐち	700138	川向字市場口	旧石器
川向	83	西長沢遺跡	にしながさわ	700139	川向字市場口	縄文
川向	84	庄之子呂遺跡	しょうのころ	700140	川向字庄之子呂	縄文
八橋	85	八橋杉平遺跡	やつはしすぎたいら	700177	八橋字杉平	縄文
長江	86	御堂山遺跡	みどうやま	700181	長江字御堂山	平安/鎌倉
長江	87	天堤遺跡	あまづつみ	700180	長江字天堤	弥生（水神平式）
長江	88	長江城跡	ながえじょうあと	700296	長江字松ヶ根	鎌倉/室町
長江	89	尊手平遺跡	そんでびら	700182	長江字尊手平	縄文
長江	90	本江遺跡	ほんえ	700183	長江字本江	平安/鎌倉
長江	91	寺トコ遺跡	てらとこ	700185	長江字田平	鎌倉
長江	92	田平遺跡	ただいら	700184	長江字田平	鎌倉/室町
小松	93	下湯分沢遺跡	しもゆぶんざわ	700197	小松字下湯分沢	縄文/鎌倉
小松	94	小松杉平遺跡	こまつすぎだいら	700196	小松字杉平	縄文/平安/鎌倉/室町
田口	95	オリジ遺跡	おりじ	700207	田口字オリジ	縄文
和市	96	清水遺跡	しみず	700209	和市字清水	縄文/鎌倉/室町
和市	97	和市場遺跡	わいちば	700210	和市字和市場	縄文/室町
荒尾	98	寒相遺跡	かんぞう	700208	荒尾字寒相	弥生（水神平式含む）
荒尾	99	岩古谷城址	いわごやじょうし	700211	荒尾字岩古谷	戦国～近世
荒尾	100	宝ノ久保遺跡	ほうのくぼ	700212	荒尾字宝ノ久保	縄文/鎌倉
荒尾	101	鐘鋳場跡	かねいばあと	700298	荒尾字欠田	近世
荒尾	102	欠田遺跡	かけだ	700213	荒尾字欠田	縄文/室町
荒尾	103	上杉沢遺跡	かみすぎのさわ	700214	荒尾字上杉沢	縄文
荒尾	104	中村遺跡	なかむら	700215	荒尾字下貝津	縄文/平安/室町
荒尾	105	上万場遺跡	かみまんば	700216	荒尾字上万場	縄文
荒尾	106	野々瀬遺跡	ののせ	700217	荒尾字野々瀬	縄文
荒尾	107	川角遺跡	かわかど	700218	荒尾字川角	縄文/室町

第 1-2 表　設楽ダム関連遺跡と周辺の遺跡（愛知県埋蔵文化財センター 2020『川向東貝津遺跡』を元に作成）

次に設楽町内で知られている遺跡について時代毎に記す（番号は第４図・第 1-1 表・第 1-2 表に対応）。

後期旧石器時代では、設楽町津具地区に隣接する豊根村に茶臼山遺跡が所在し、ナイフ形石器・掻器・剥片石核が良好な状態で出土した。川向地区の市場口遺跡（82）では、ナイフ形石器の他、剥片・石核が出土している。

縄文時代草創期では、川向地区の川向東貝津遺跡（27）で木葉形尖頭器や、その制作に関わる剥

片石核類など多量の石器群が出土した。後期旧石器時代末の細石器(細石刃･細石核)が出土しており、石器群の一部は後期旧石器時代に遡る可能性がある。八橋地区の滝瀬遺跡（31）では縄文時代草創期末から早期初頭まで遡る可能性のある竪穴建物跡 10 基以上が検出された。

縄文時代早期では、名倉地区の星野神田遺跡で押型文土器の出土が古くから知られ、川向東貝津遺跡・滝瀬遺跡では縄文時代早期に遡る可能性のある集石炉が検出されている。滝瀬遺跡や大名倉遺跡では早期前半に属するトロトロ石器も出土している。川向地区の大栗遺跡（19）では早期前半の煙道付炉穴が 3 基検出されている。同じく川向地区の万瀬遺跡（20）では早期前半の竪穴建物跡と炉穴群が検出されている。

縄文時代前期では、津具地区の鞍船遺跡や、大名倉地区の胡桃窪遺跡で前期後半の竪穴建物跡が検出されている。これ以外には各遺跡では土器片など遺物は散在的に検出されており、今後の調査でも検出例が増加するものと見込まれている。

縄文時代中期では、川向地区の石原遺跡（24）で山田平式期頃を主体とする中期前半の竪穴建物群が検出された。笹平遺跡（42)、滝瀬遺跡、川向東貝津遺跡、大畑遺跡（26)、胡桃窪遺跡では中期後半の竪穴建物跡が検出された。同じ中期後半に属する特徴的な遺構は、川向東貝津遺跡の蓋石のある埋甕、大畑遺跡の副炉をもつ竪穴建物跡が検出されている。

縄文時代後期では、大名倉遺跡（2)、マサノ沢遺跡（41)、笹平遺跡、小松杉平遺跡（94)、豊邦地区の神谷沢遺跡などで古くから遺物が多く採集されてきた。マサノ沢遺跡では後期前葉から中葉にかけての埋葬遺構群と遺物集積が検出された。笹平遺跡では後期初頭から中葉にかけての多数の竪穴建物跡が検出された。

縄文時代晩期では、大名倉遺跡、笹平遺跡、滝瀬遺跡、田口地区の大崎遺跡（65）などで遺物が散在的に確認されている。滝瀬遺跡では橿原文様を有する石刀が出土している。マサノ沢遺跡では晩期後葉の良好な遺物包含層が確認されている。川向地区の上ヲロウ・下ヲロウ遺跡（22）では竪穴建物跡と考えられる遺構が検出され、石原遺跡では自然流路内に形成された土器集積が検出されている。

弥生時代では、前期の条痕文土器が各遺跡で散在的に確認されている。笹平遺跡やマサノ沢遺跡では土器棺墓が検出されている。中期の遺構は、上ヲロウ・下ヲロウ遺跡と大崎遺跡で竪穴建物跡が良好な状態で検出されている。遺物は川向地区の下延坂遺跡（25）で中期の土器が採集されている。

古墳時代では、名倉地区の丸根古墳や屋木下古墳は戦前から知られており、調査も実施されている。設楽ダム関連の調査範囲内では古墳は確認されていない。

古代では、南ヶ岳遺跡（28）で平安時代の清郷甕が出土し、滝瀬遺跡では灰釉陶器が出土し、同時期と考えられる土坑・柱穴やカマドを伴う竪穴建物跡が検出された。胡桃窪遺跡では鍛治遺構を伴う竪穴状遺構（100SI）から灰釉陶器椀や皿、鍛治関連遺物が出土した。胡桃窪遺跡の北側に位置するハラビ平遺跡（7）でも古代～中世の陶器類が検出され、八橋地区の中村遺跡（34）でも古代～中世の遺物が検出されており、遺構の存在も見込まれている。

中世以降では、大崎遺跡で水田耕作など活動の場が、西地・東地遺跡では鉄関連の作業場と見られる竪穴状遺構が、万瀬遺跡で 16 ～ 18 世紀の大型の倉庫と思われる掘立柱建物跡などの遺構や遺物が検出されており、中近世の様相が次第に明らかになりつつある。

第２章　遺　構

第１節　遺構の概要（第５・６図）

大畑遺跡では、合計 1111 基の遺構が検出された。内訳は 17 区で 1016 基、22 区で 95 基である。基本層序（第 7-1 ～ 7-6 図）は , 表土以下には風成堆積土や腐食土が多く見られる。調査前の現況は植林されたスギやヒノキの山林である。それ以前には、昭和から平成にかけては 22 区北西部付近はゲートボール場として利用されていた時期があり、さらに以前は、地元の方の話では昭和期前半には桑畑や畑として利用されていた。22 区北西部付近では基盤層が削平された状況が確認できており、前述のような近現代の土地利用による結果と考えられている。

調査範囲内の地形は、近現代に利用され削平を受けた部分以外は、あらゆる方向へ傾斜のある複雑な地形となっている。大きくは、調査区の東西両端に南北方向に伸びる尾根状の地形に挟まれた、谷状の地形が遺跡の中心となり、この谷状の地形は 17 区・22B 区では南に下っている。

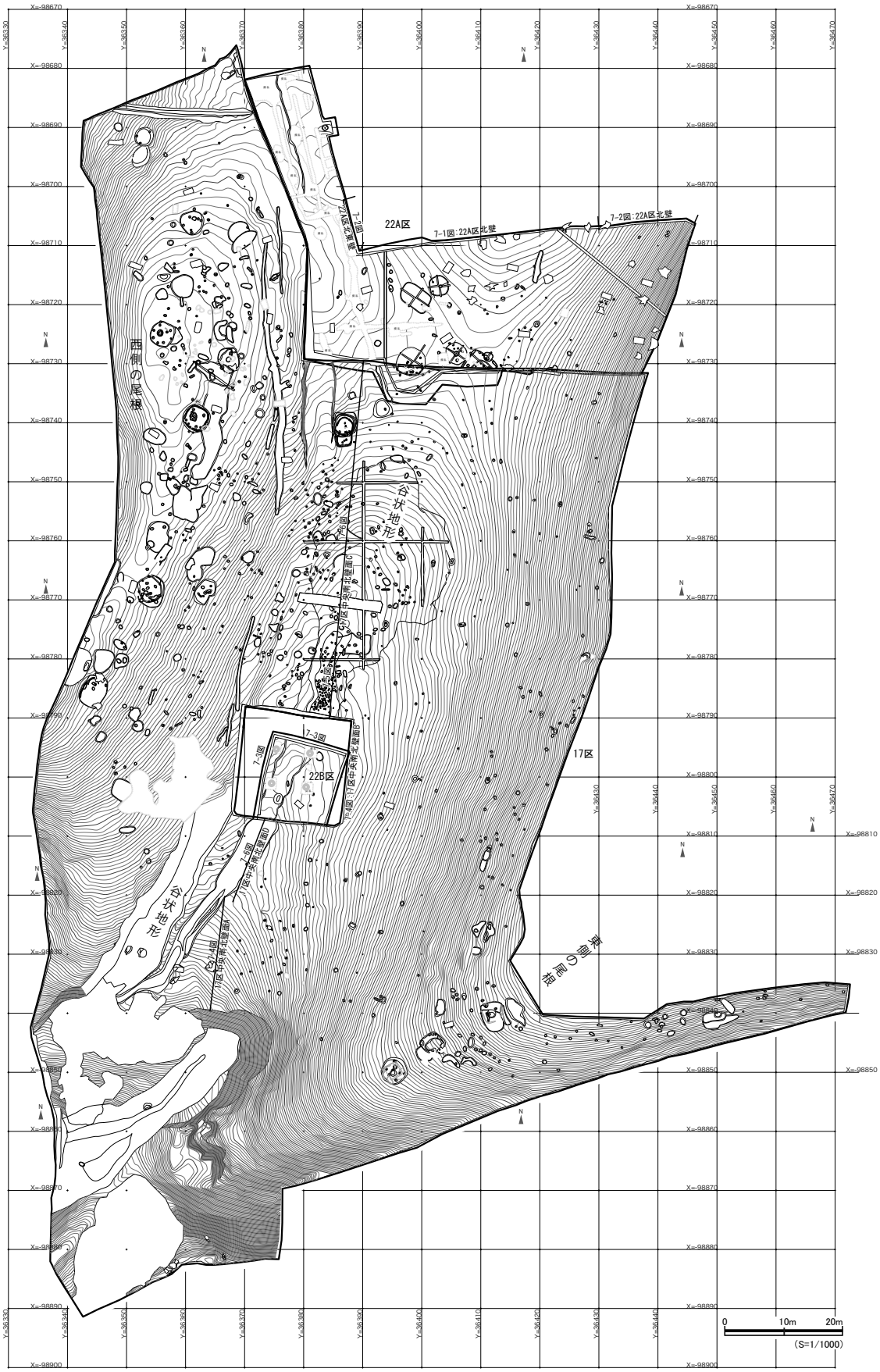
調査範囲内の堆積状況は、西側の尾根上など、他から土砂の流入が無い所では黄色粘質シルトの基盤層上には腐食土のみが堆積する状態であり、遺構の深さからも風化が進行している状態である。反対に、谷状地形の中には周辺の斜面から流入した土砂が堆積している。しかし谷状地形内の堆積も雨水や湧水により侵食を受け続け、地表近くに堆積している土は、全てが古い時期のものとは考えられない。土坑・陥し穴など基盤層に掘り込まれた遺構の内部に残存する土に限って古い時期のものが残存した可能性が高い。

調査範囲内の標高は、最も高い所は調査区東端部で 436m、これはダム湛水時上限の標高となっている。谷状地形の最低標高は調査区南端付近の約 412m。同じ谷状地形の最高所である谷頭部分は、431m で約 18m の比高差がある。300SI 等の竪穴建物跡が検出されている西側の尾根上の標高は 430m ～ 433m。東側の尾根上先端部付近の 065SI 等の竪穴建物跡や土坑は 431m ～ 435m 付近に位置している。

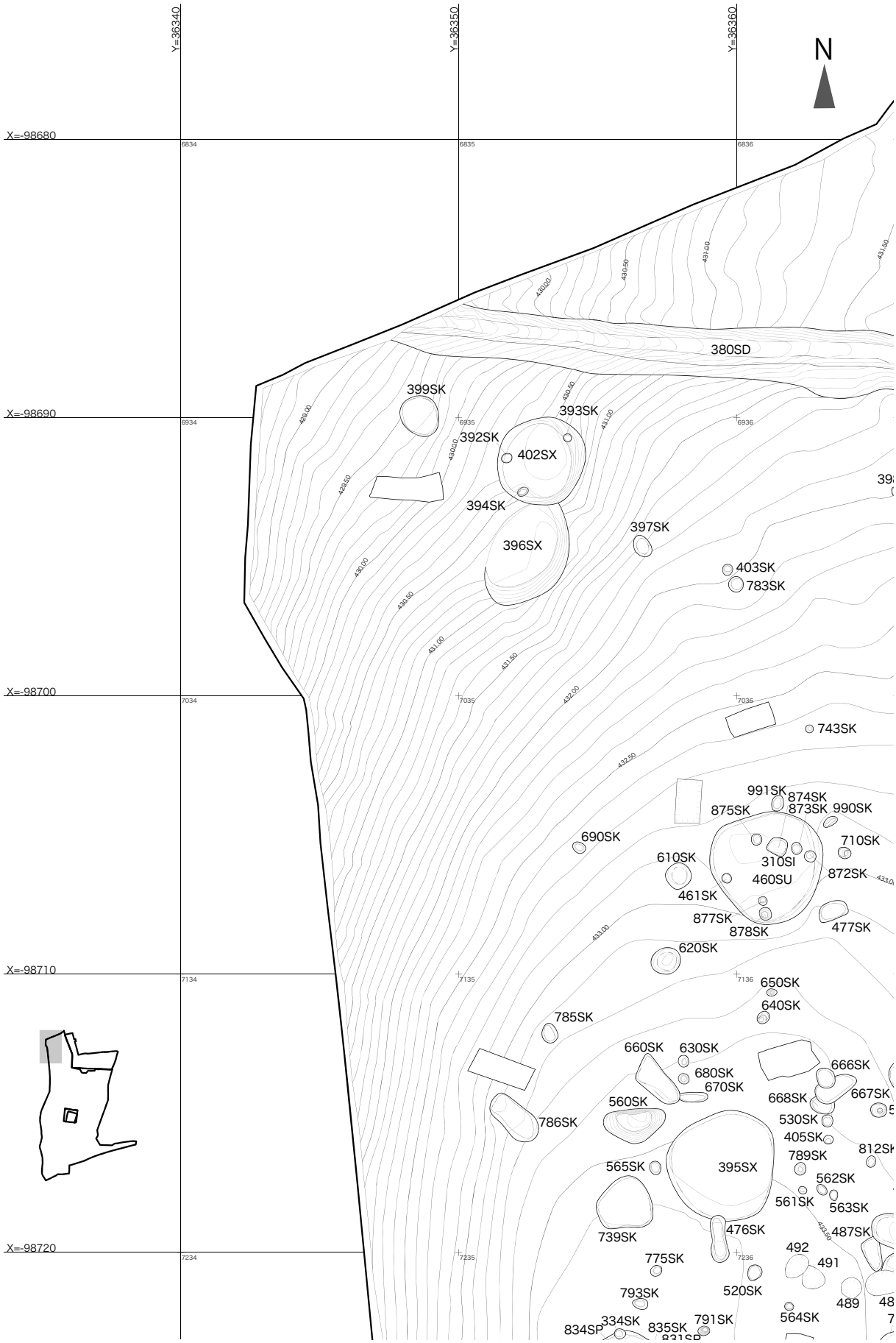
調査範囲内の遺構分布状況は 17 区、22 区を通じて、竪穴建物跡は丘陵の頂部とその周囲、さらに、谷状地形の北端 17 区と 22A 区の境界付近の谷頭付近を中心としても検出されている。また陥し穴は谷状地形の低い部分から東側の斜面部にかけて多く検出された。標高の例として 175SK は 435.2m。230SK は 428.7m。235SK は 429.5m となっている。22B 区では土器や石器がまとまって出土した 2004SK・2005SK など、谷状地形の底面に位置する土坑が検出されている。前述の通り谷状地形の内部は湧水や雨水によって削平を受け続けたことにより遺構の深さとしては浅い。しかし谷状地形の内部にも遺構が造成されていたことを示している。

第２節　基本層序（第 7-1 ～ 7-6 図）

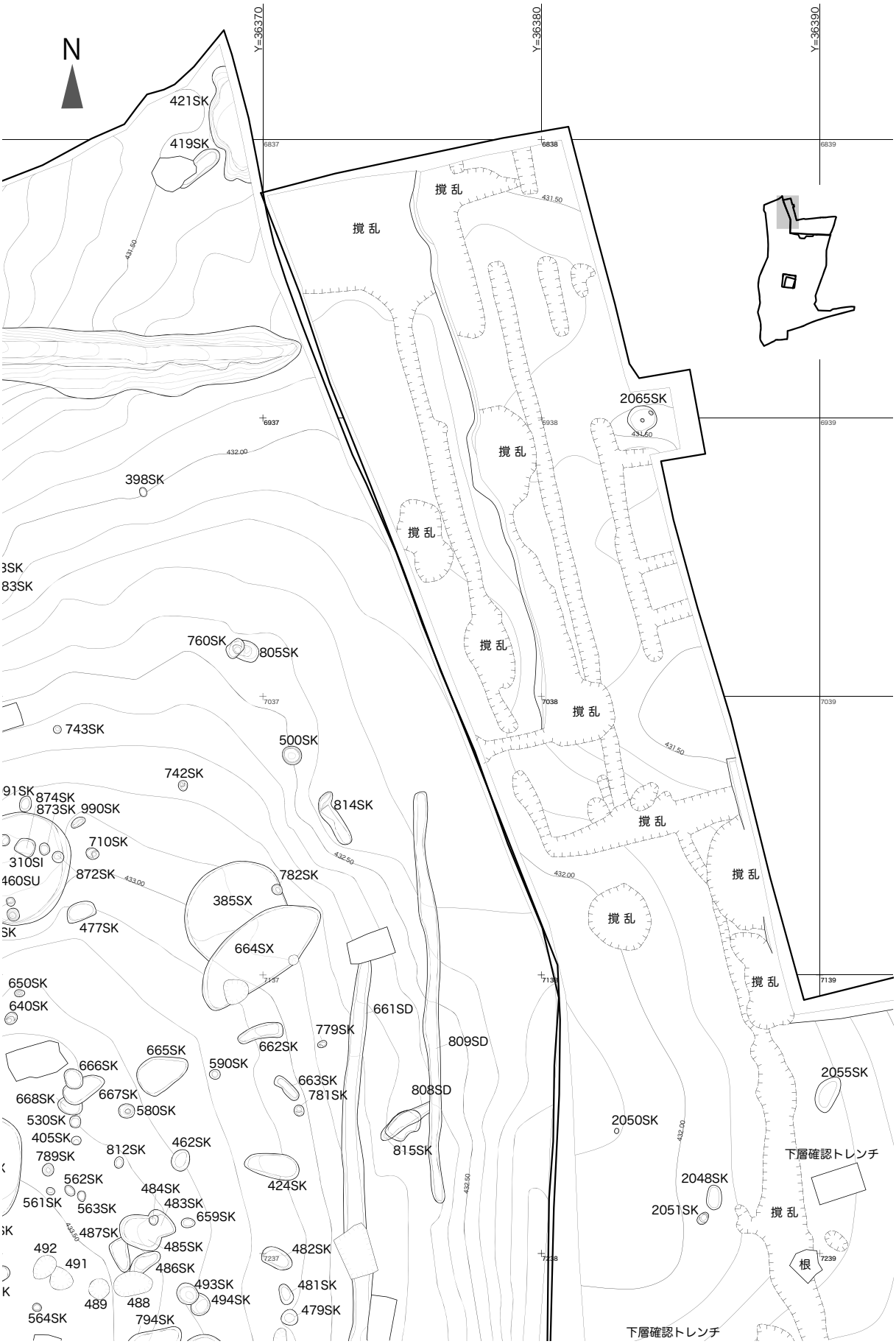
基本層序として、第 7-1 ～ 7-6 図を示した。22A 区北壁断面図（第 7-1・7-2 図）は 17 区から北に続く谷状地形の谷頭部から東側斜面に至る部分である。断面西端付近は削平を受けた後に盛土され、現代の平坦面が造成される。中央付近で一旦標高が下がり、東側では傾斜角約 13 度以上の斜面となる。断面中央～東端部分は、谷状地形の谷頭部～東側斜面の断面となるが、堆積そのものが薄く、土砂の流出が継続してきた状況がわかる。



第５図　大畑遺跡全体平面図（S=1/1000）

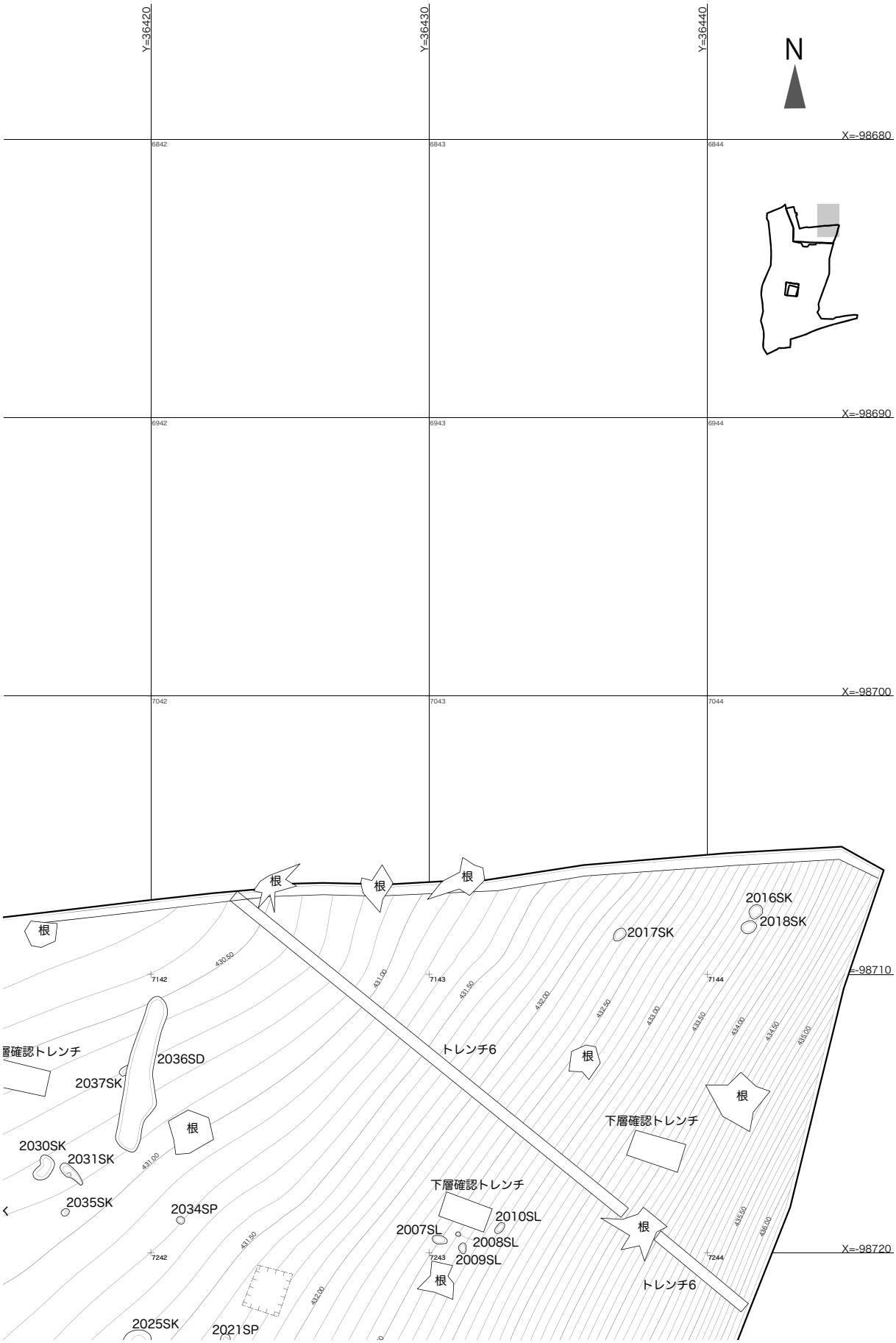


第 6-1 図　大畑遺跡平面図 1（S=1/200）

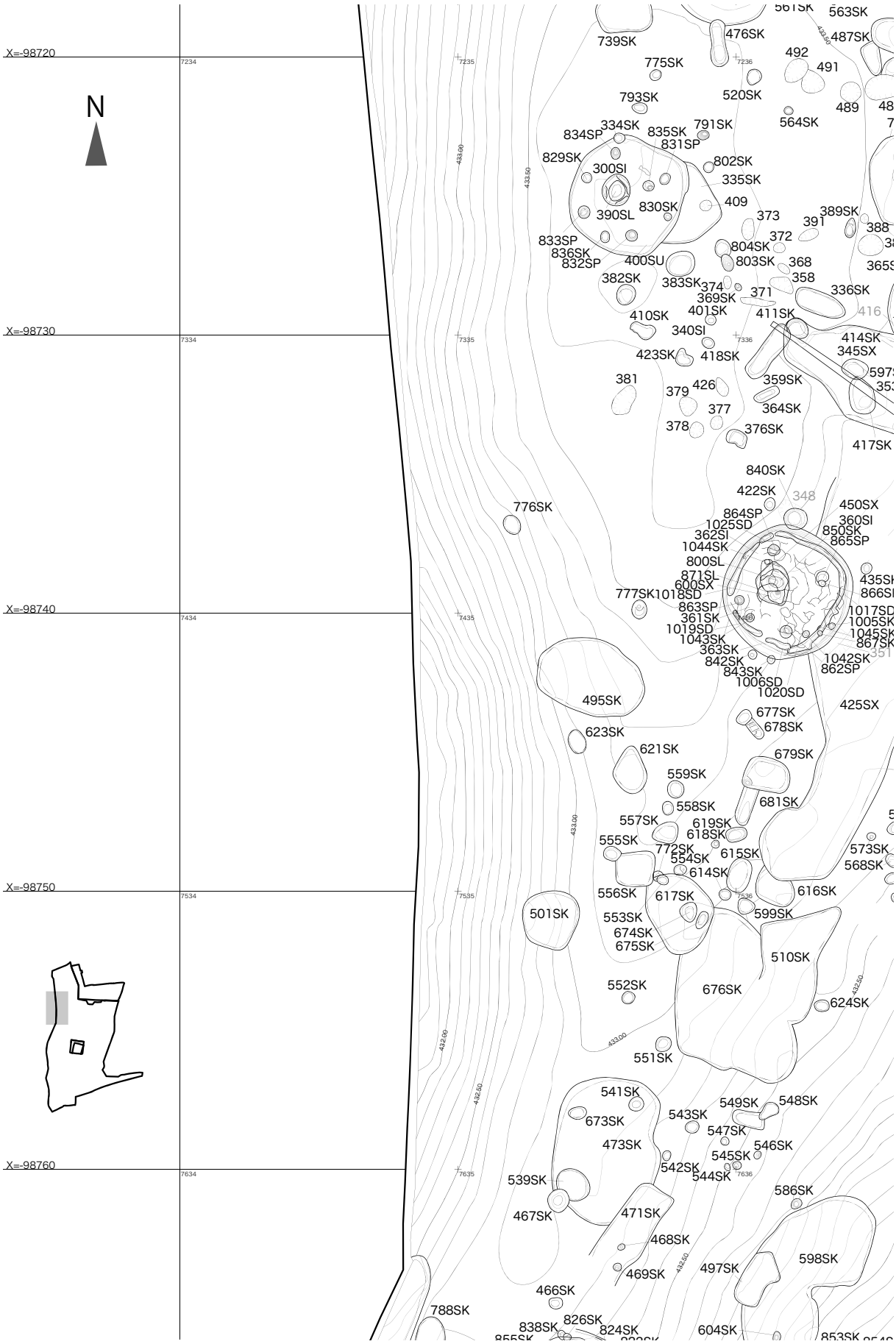


第 6-2 図　大畑遺跡平面図 2（S=1/200）

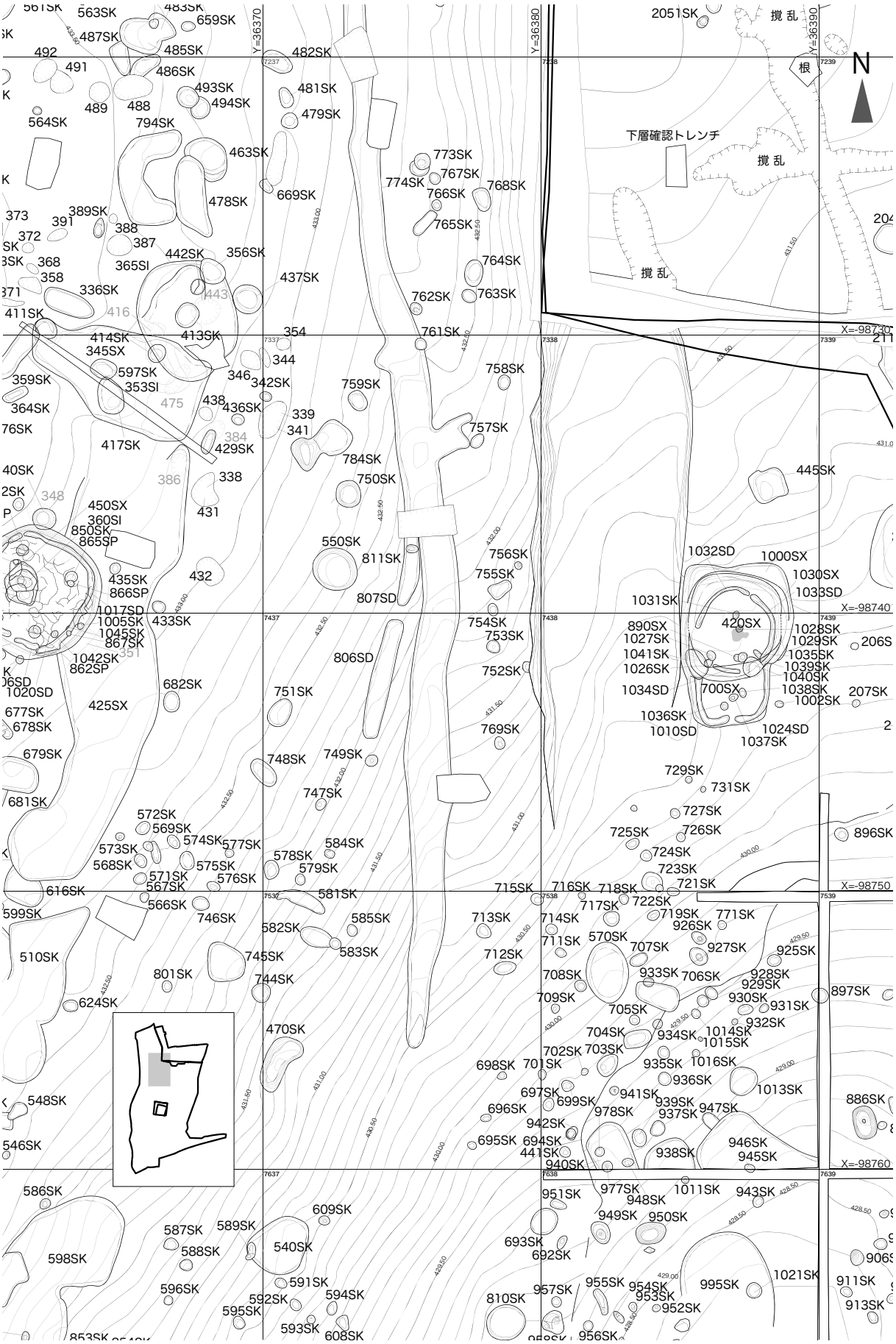
第 6-3 図　大畑遺跡平面図 3（S=1/200）



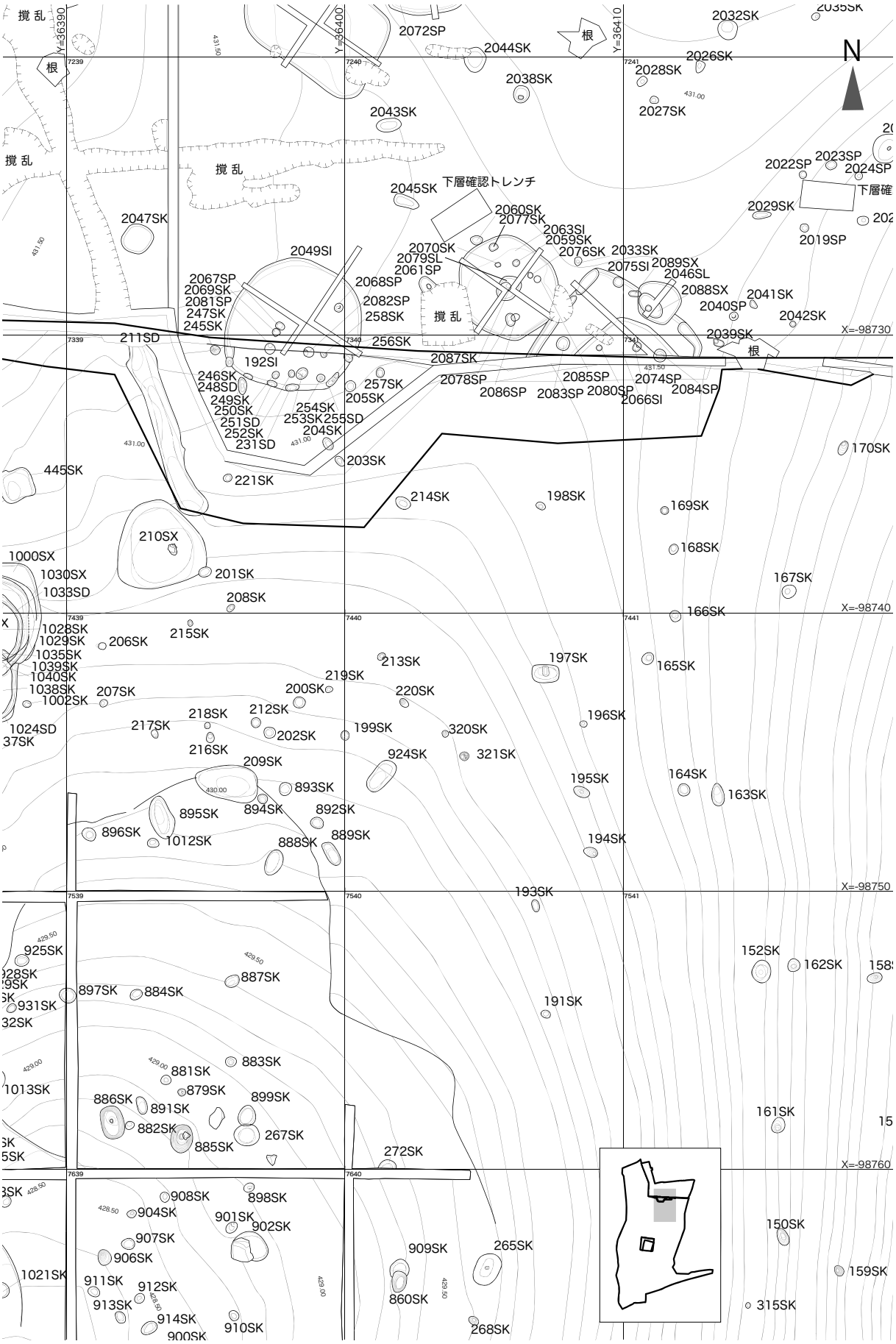
第 6-4 図　大畑遺跡平面図 4（S=1/200）



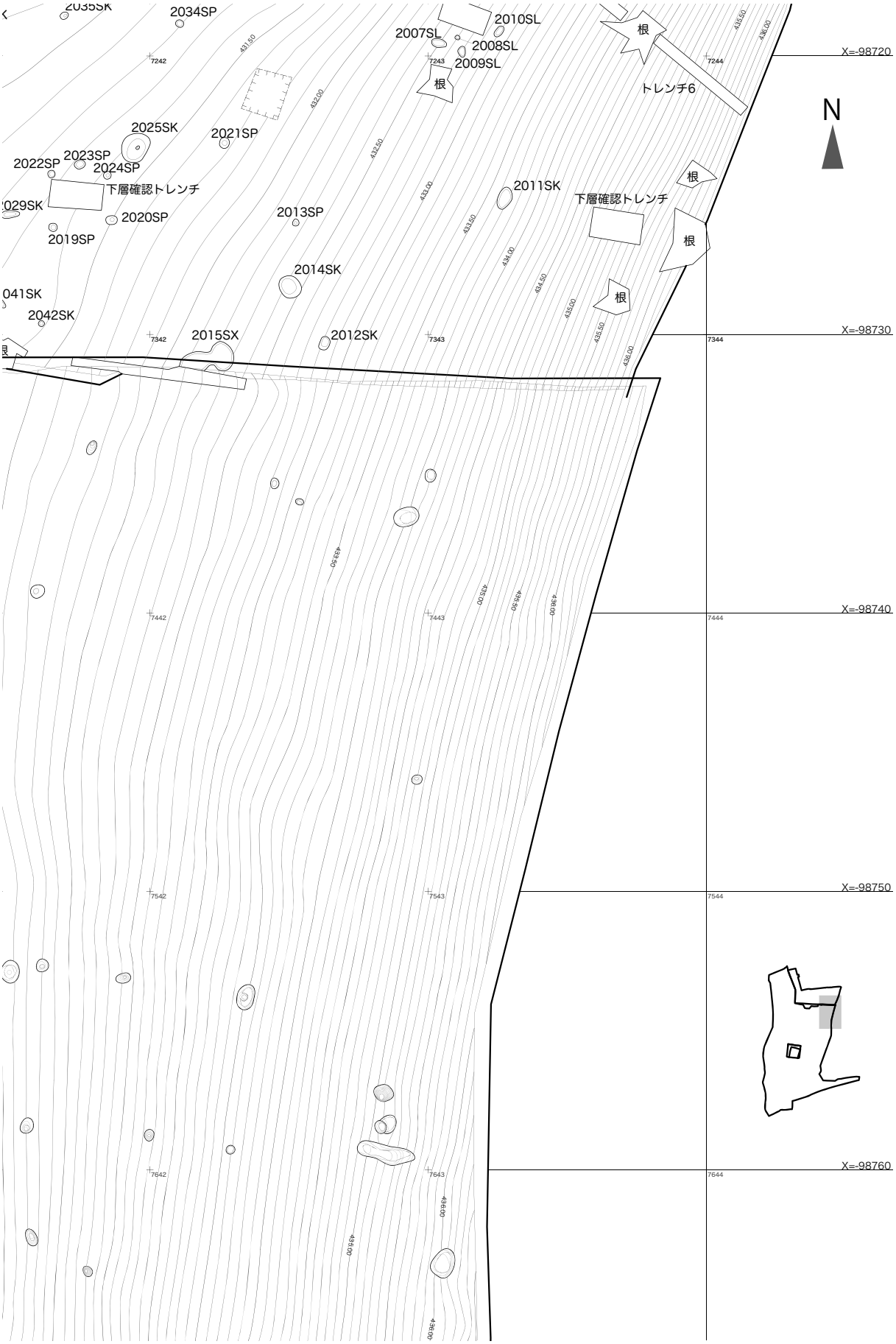
第 6-5 図　大畑遺跡平面図 5（S=1/200）



第 6-6 図　大畑遺跡平面図 6（S=1/200）

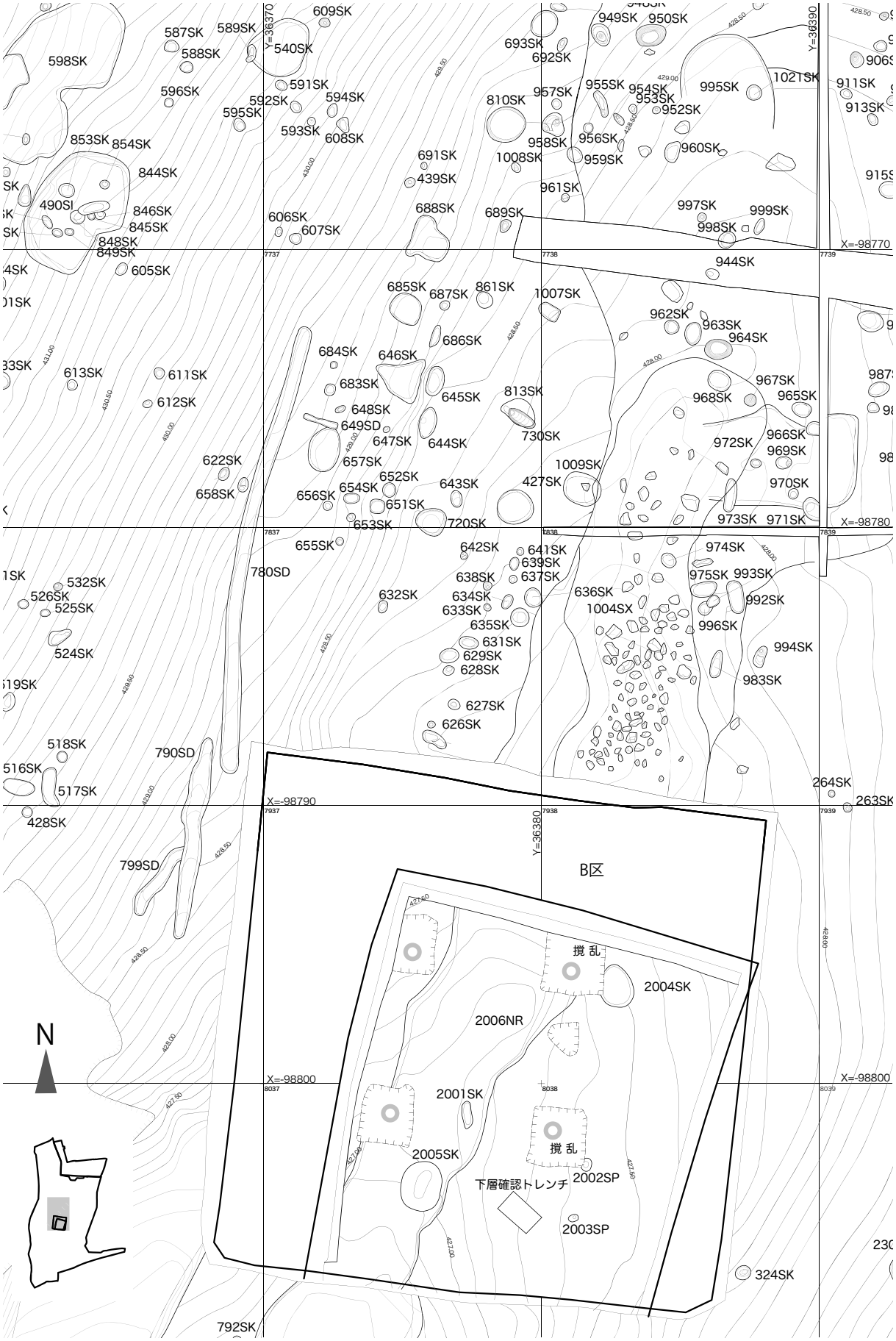


第 6-7 図　大畑遺跡平面図 7（S=1/200）

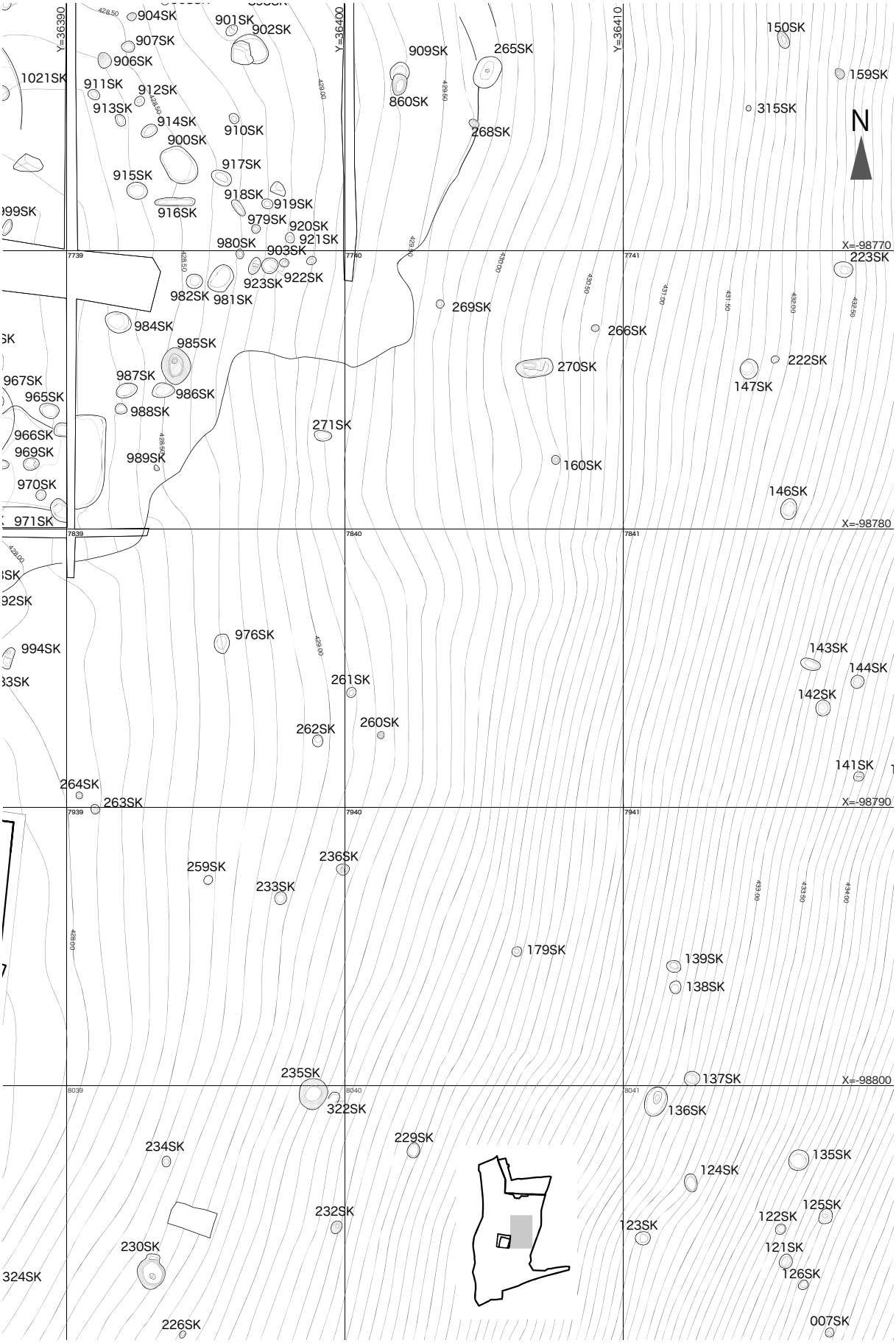


第 6-8 図　大畑遺跡平面図 8（S=1/200）

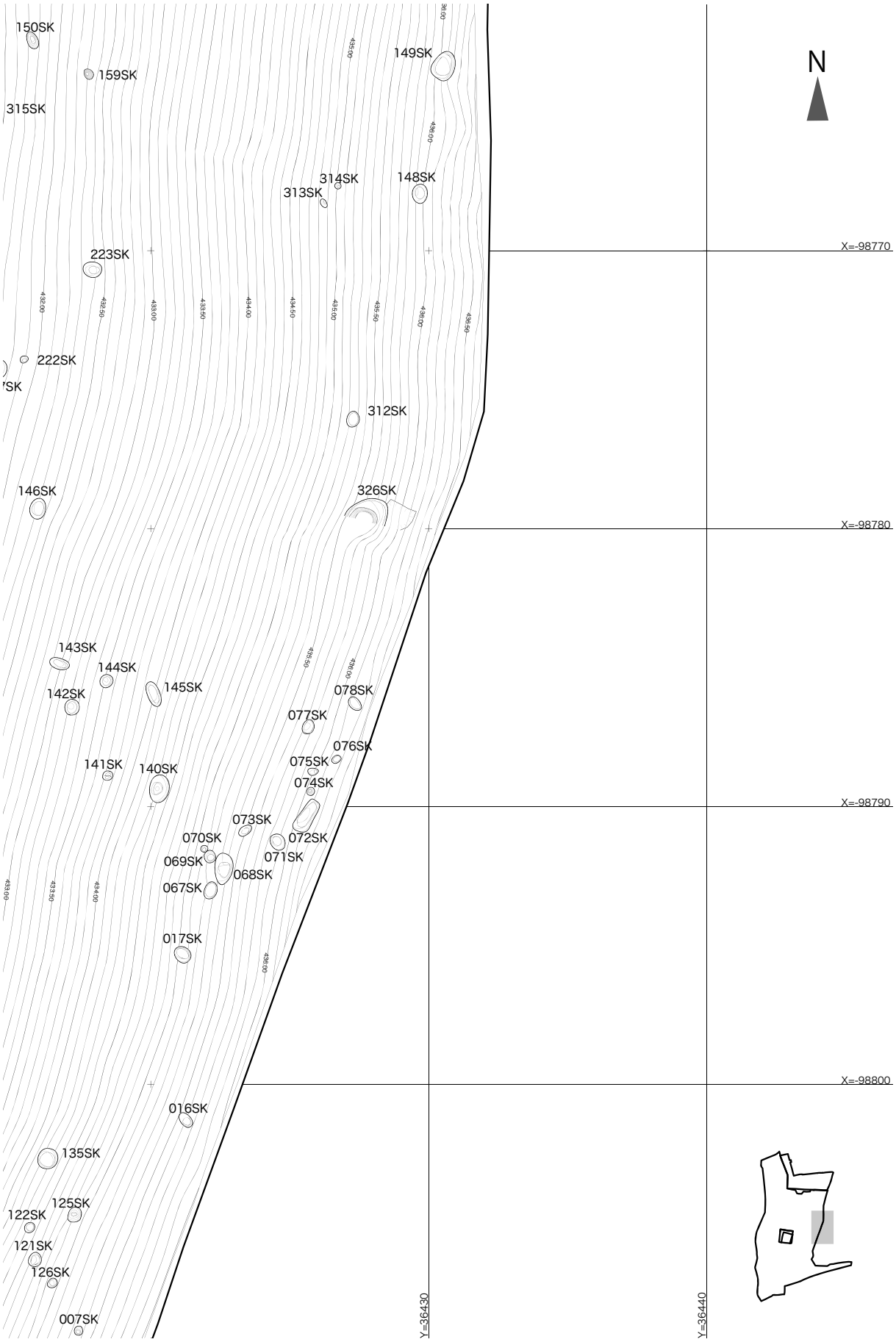
第 6-9 図　大畑遺跡平面図 9（S=1/200）



第 6-10 図　大畑遺跡平面図 10（S=1/200）

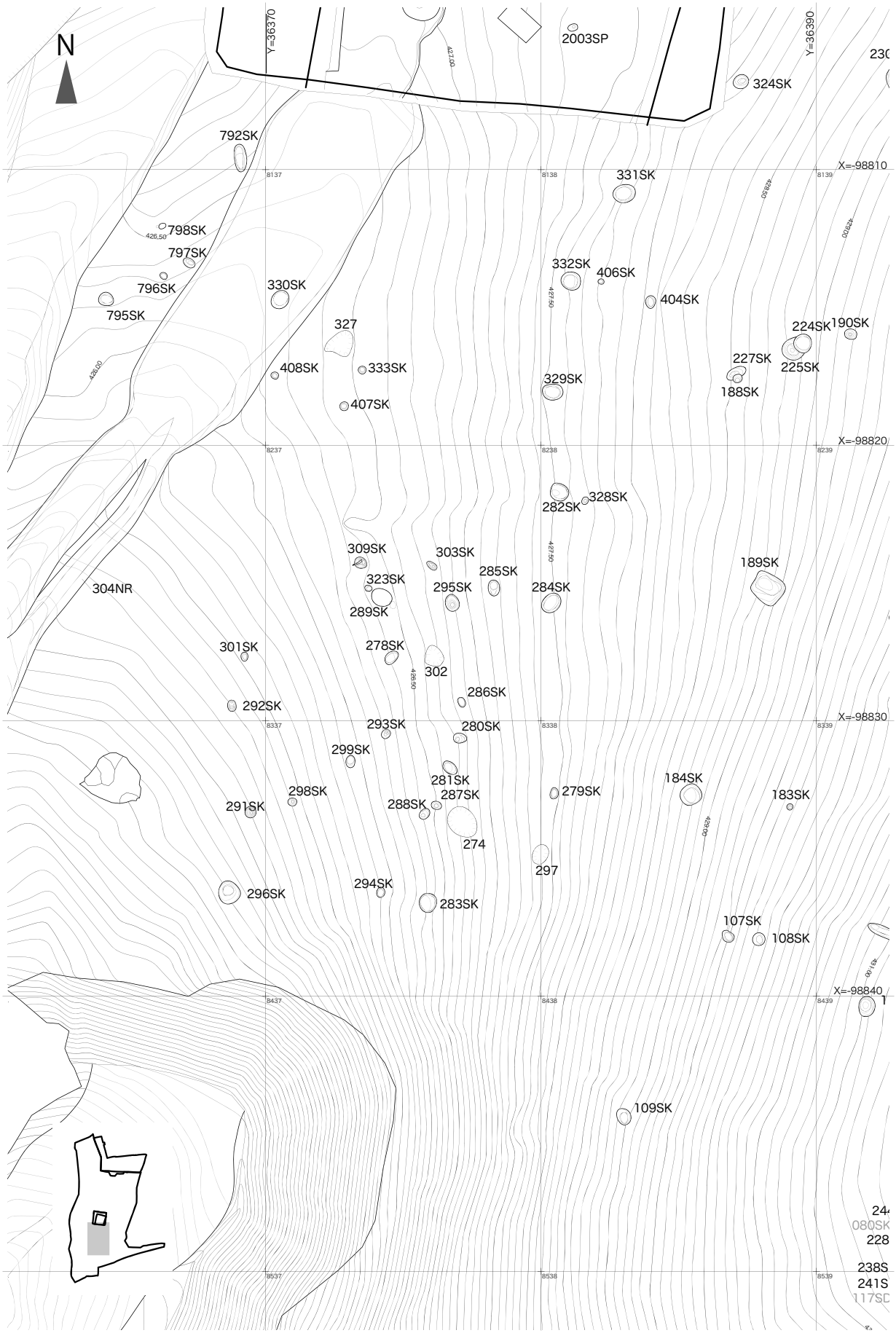


第 6-11 図　大畑遺跡平面図 11（S=1/200）

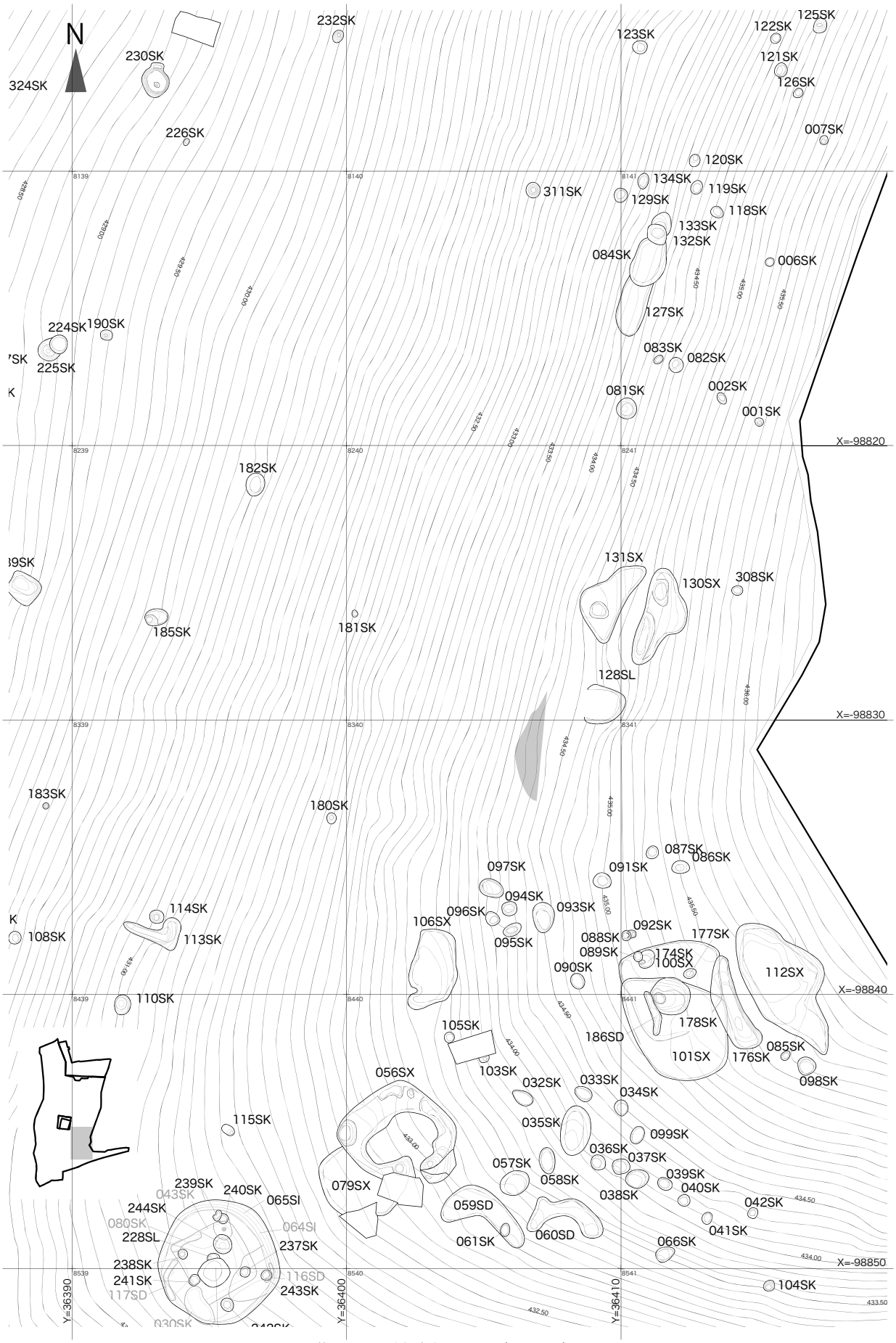


第 6-12 図　大畑遺跡平面図 12（S=1/200）

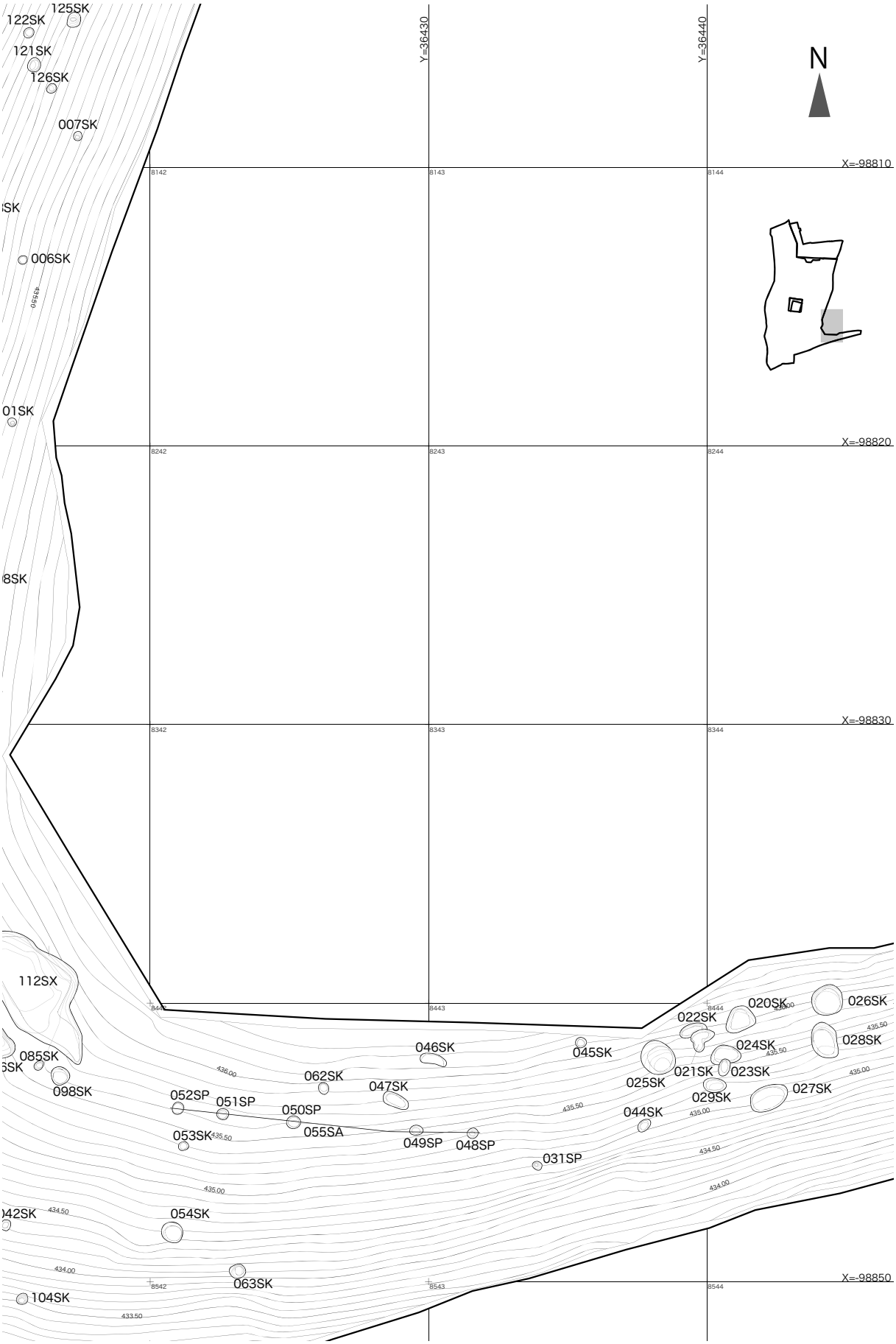
第 6-13 図　大畑遺跡平面図 13（S=1/200）



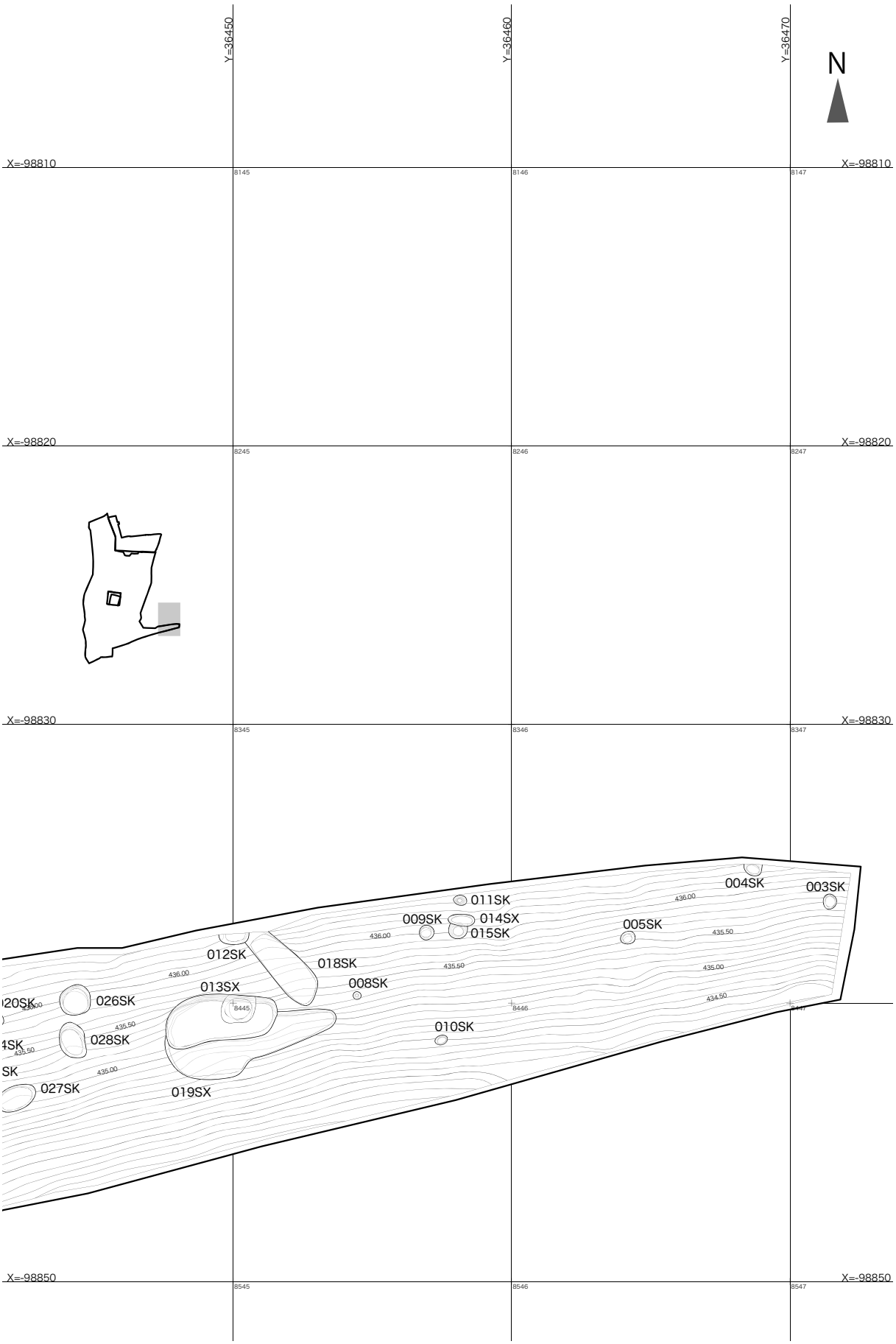
第 6-14 図　大畑遺跡平面図 14（S=1/200）



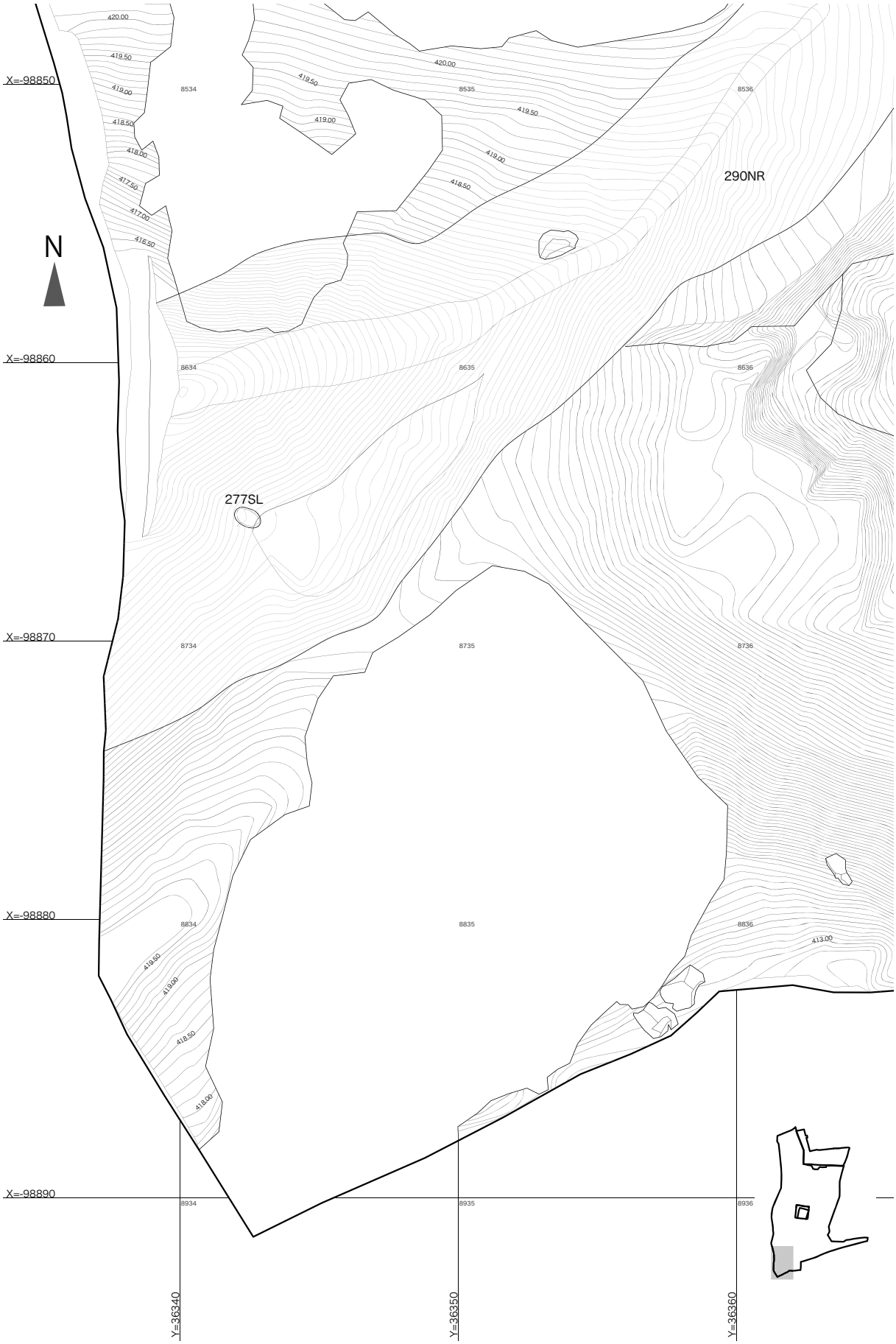
第 6-15 図　大畑遺跡平面図 15（S=1/200）



第 6-16 図　大畑遺跡平面図 16（S=1/200）



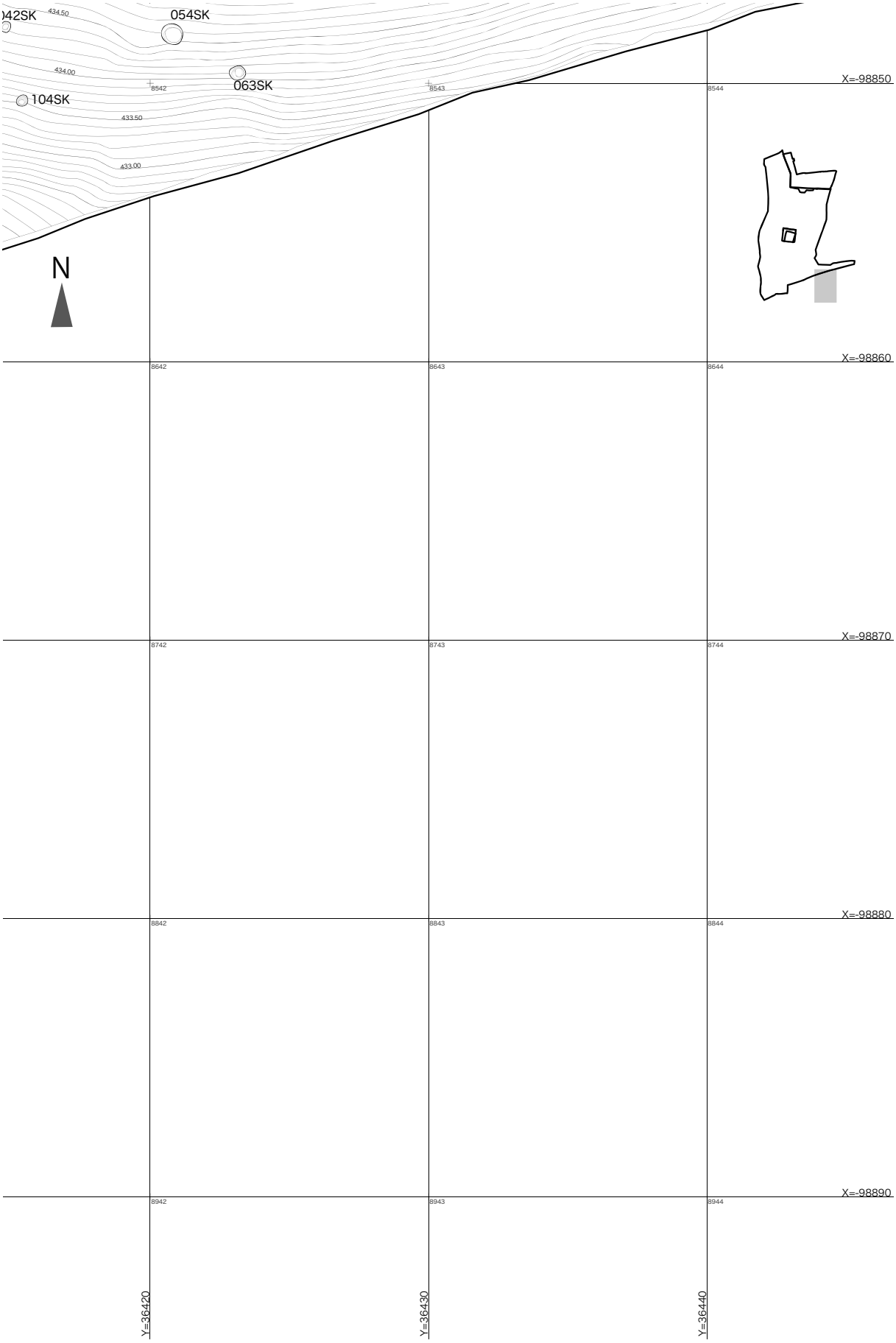
第 6-17 図　大畑遺跡平面図 17（S=1/200）



第 6-18 図　大畑遺跡平面図 18（S=1/200）

第 6-19 図　大畑遺跡平面図 19（S=1/200）

第 6-20 図　大畑遺跡平面図 20（S=1/200）



第 6-21 図　大畑遺跡平面図 21（S=1/200）

22A 区東壁断面図（第 7-2 図）は、22A 区北壁断面図西端の北に連続する断面である。大きく盛土されているが、基盤層は北側に向けて下がっている状況を示す。

22B 区北壁および西壁（第 7-3 図）では、比較的厚い表土下に複数の堆積が確認できるが、この部分においても堆積は流水や雨水によって削平を受けており、断面中に確認できる遺構も底面部分のみ見える状況である。

17 区中央南北壁面 A（第 7-4 図）は 17 区南端付近の谷状地形内の堆積を示す。礫を多く含む地山の上には複数の黒色シルトが堆積する。周囲の高所から谷状地形内に流入し、下流にむかって流出するため堆積は継続していない。

17 区中央南北壁面 B（第 7-4 図）は、この場所に 2017 年時点で存在した中部電力送電鉄塔（2022 年度に 22B 区として調査を実施）の東側の堆積状況を示す。谷状地形の外部東肩部分にあたり谷状地形の南北方向の傾斜は含まれていない。堆積状況は比較的安定しており黒色シルトが主となっているが、断面中に見える遺構も浅いことから、この断面付近でも土砂の流出は継続していたと考えられる。

17 区中央南北壁面 C（第 7-5・7-6 図）は、22B 区北側の谷状地形中央付近南北方向の堆積を示す。断面上位には、近代以降の搬入された土砂による盛土が堆積する。断面下位には黒色シルトを主とした堆積がある。断面中で見える南側に向かって下がる傾斜は約 4 度である。断面北端付近（第 7-6 図）では黒色シルト等の堆積はわずかで、谷頭付近の西側丘陵より部分では堆積する土砂の供給量が少ないことがわかる。

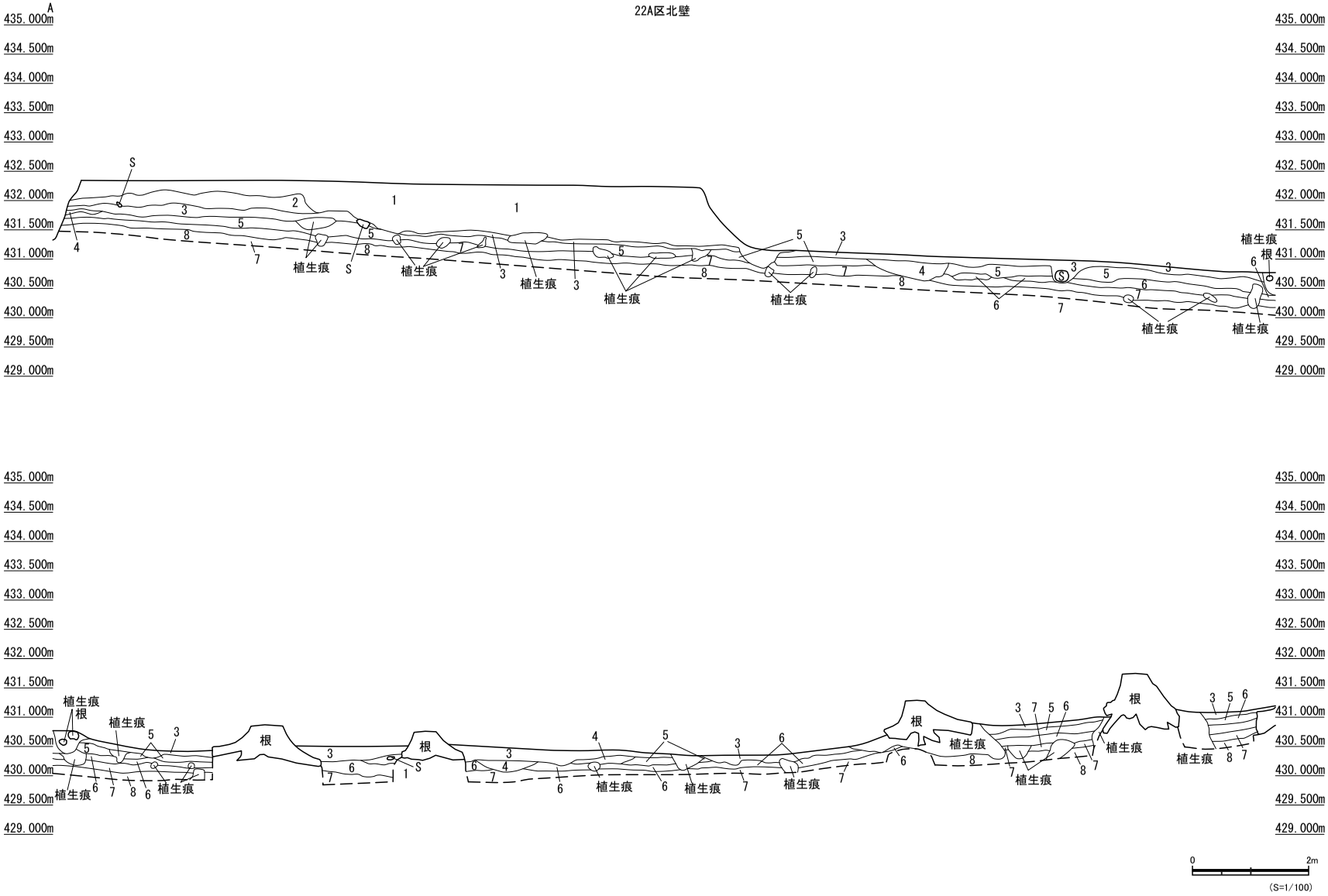
17 区中央南北壁面 D（第 7-6 図）は、17 区中央南北壁面 A の北側と 22B 区南端の間の堆積を示す。断面の一部は谷状地形からはずれるものの、南側への傾斜は継続している。堆積は薄く、他の南北方向の断面でみられる黒色シルトの堆積は減少することから、谷状地形の中心部はこの位置より西側にあると考えられる。

第 3 節　個別遺構

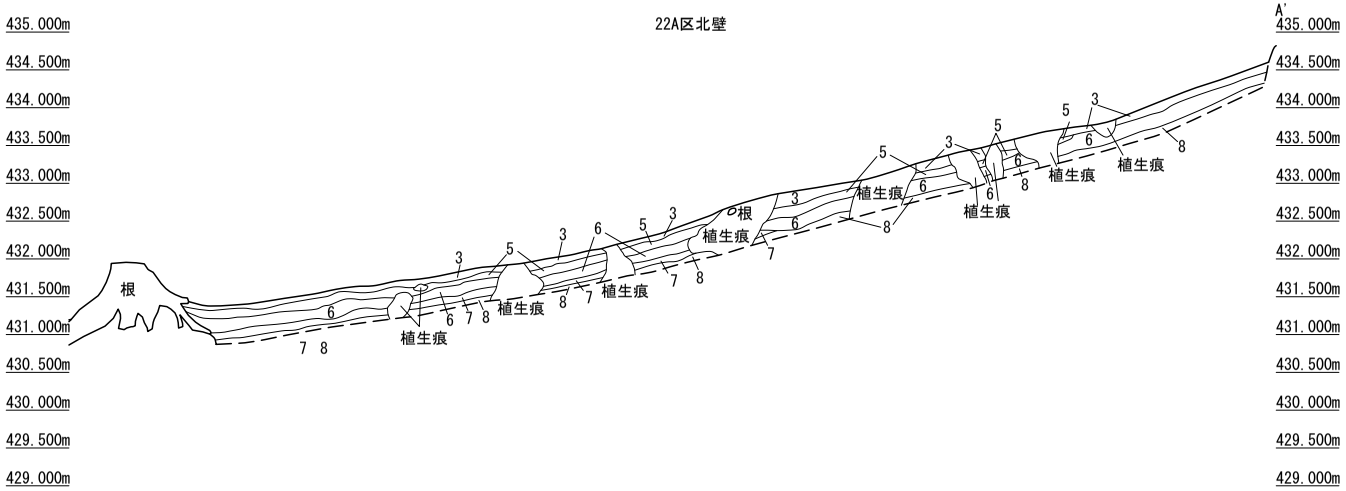
065SI（第 8-1・2 図）

竪穴建物跡 065SI は尾根筋頂部の緩斜面（標高約 432m）に単独で立地する。平面形は若干いびつな円形もしくは多角形を呈し、長径 4.4m を測る。緩斜面を掘り込んでいるため遺構検出面からの深さは北端で 0.48m であるのに対して南端では数 cm しかない。壁溝はなく柱穴 4 基（238・240・242・243SK）と底面中央部やや北寄りに一辺 0.9 ～ 1.0m の方形石囲炉（187SL）がある。187SL は板状の片麻岩を組み合わせたもので北東隅に立石、北西隅に副炉（228SL）がそれぞれ設置されている。228SL は石囲炉の外側に板状の礫 3 点を組み合わせたものであるが、その内部には顕著な焼土や炭化物はみられず、その脇で石鏃 1 点が出土した。なお、187SL 本体においても多量の炭化物はなく、底部の礫が一部赤変しているのが確認されたのみである。竪穴建物跡の埋土は多量の炭化物や炭化材を含んでいるが、出土土器はごくわずかである。検出当初は 065SI の内側に方形の堆積を認識し、043SX として掘削を試みたが最終的には 065SI の上層部分と判断した。土器 E-1 はこの際に取り上げを行ったものである。この土器は島崎Ⅲ式期に比定され縄文時代中期と考えられる。この年代は他の遺跡の副炉の付属した石囲炉をもつ竪穴建物跡の年代と比較しても矛盾しない。石囲炉が 1 基で柱穴も 1 棟分が検出されたことを踏まえると、064SI についても 043SX と同様に 065SI の堆積の一部と考えられる。石器等の出土遺物は 034SX、064SI と 065SI を同一遺構として扱っている。

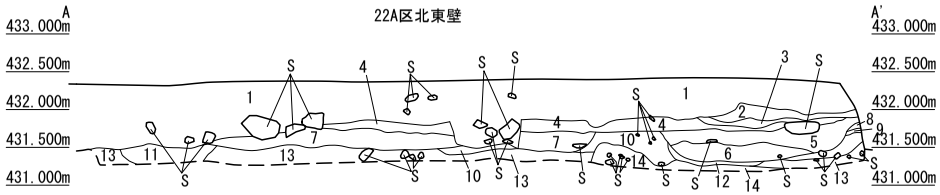
065SI 南東部に、人為的に板石を立てた状況で設置したと思われる遺構がある。065SI の構造の一



第7-1図　大畑遺跡基本土層断面図1（S=1/100）



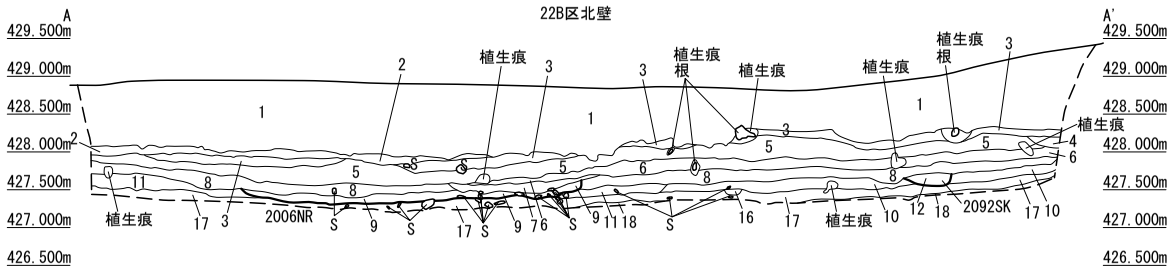
1. 盛土（路盤）
2. 盛土（路床）
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色　シルト　粘性あり
4. 10YR3/3 暗褐色　シルト　粘性あり
5. 10YR3/2 黒褐色　シルト　粘性あり
6. 7.5YR3/2 黒褐色　シルト　粘性あり
7. 10YR3/4 暗褐色　シルト　粘性あり
8. 10YR4/6 褐色　粘土質シルト



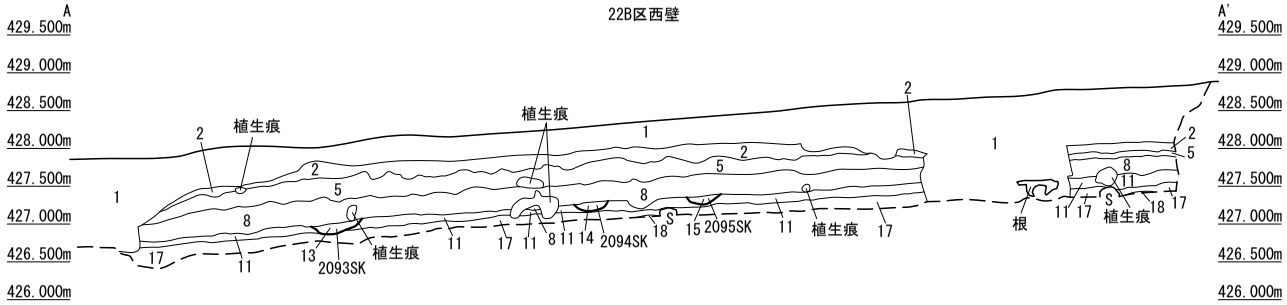
1. 盛土（路盤）
2. 盛土（路床）
3. 10YR3/2 黒褐色　シルト　粘性あり
4. 10YR6/6 明黄褐色　シルトと10YR5/1 褐灰色シルトの班土　粘性あり
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色　シルト　粘性あり
6. 10YR6/2 にぶい黄橙色　シルト　粘性あり　中礫、炭化物含む
7. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粘性あり
8. 10YR3/3 暗褐色　シルト　粘性あり
9. 10YR3/2 黒褐色　シルト　粘性あり
10. 10YR3/4 暗褐色　シルト　粘性あり
11. 7.5YR6/4 にぶい橙色　シルトと10YR4/6 褐色　シルトの班土　粘性あり
12. 10YR4/1 褐灰色　シルト　粘性あり　炭化物含む
13. 10YR4/6 褐色　粘土質シルト
14. 10YR6/4 にぶい黄橙色　粘土質シルト　中礫含む

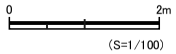
0　2m
（S=1/100）

第 7-2 図　大畑遺跡基本土層断面図２（S=1/100　断面位置は第９図参照）



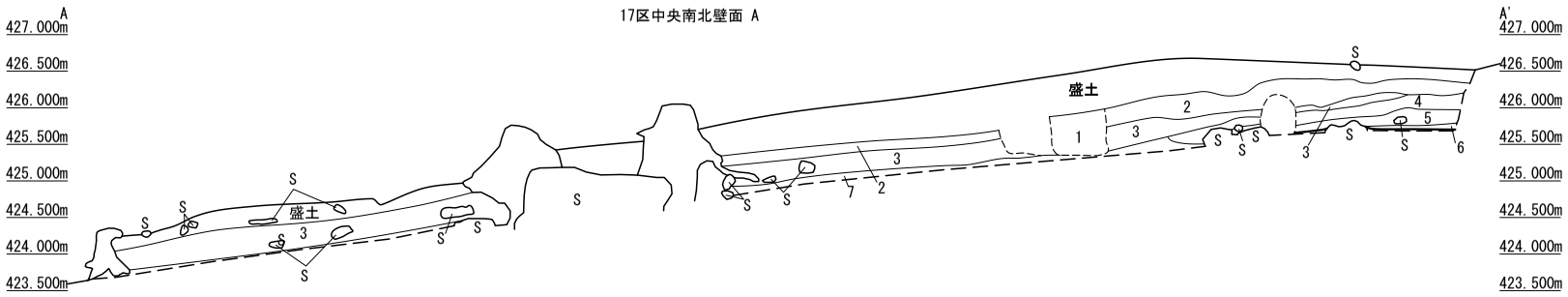
1. 盛土
2. 2.5Y3/1 黒褐色シルト　粘性あり　細礫含む
3. 7.5YR4/1 褐灰色シルト　粘性あり　極粗粒砂含む
4. 10YR4/1 褐灰色シルト　粘性あり　極粗粒砂含む
5. 7.5YR2/1 黒色シルト　粘性あり　中粒砂含む
6. 10YR2/1 黒色シルト　粘性あり　極粗粒砂含む
7. 2.5Y3/1 黒褐色シルト　粘性あり　極粗粒砂含む
8. 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト　粗粒砂含む
9. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　粘性あり　細礫、中礫含む（2006NR）
10. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　粘性あり　細礫含む
11. 7.5YR4/3 褐色シルト　粘性あり　細礫、中礫含む
12. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　粘性あり　極粗粒砂含む（2092SK）
13. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　粘性あり　極粗粒砂含む（2093SK）
14. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　粘性あり　極粗粒砂含む（2094SK）
15. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　粘性あり　極粗粒砂含む（2095SK）
16. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　粘性あり　極粗粒砂含む
17. 10YR7/6 明黄褐色粘土質シルト　極粗粒砂含む
18. 10YR7/8 黄橙色粘土質シルト　中粒砂含む



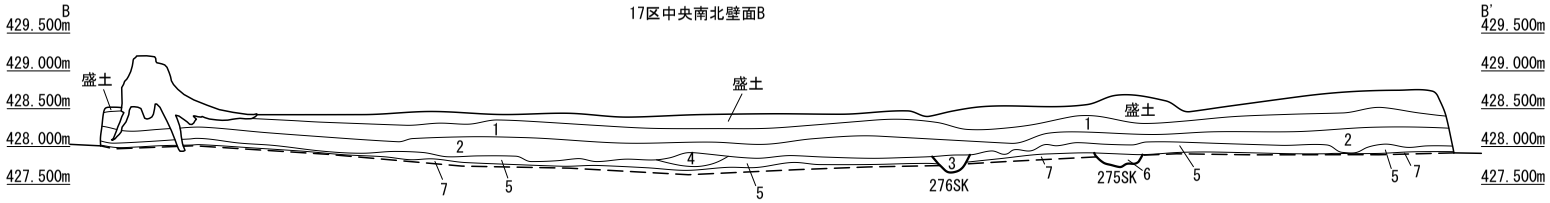


1. 盛土
2. 2.5Y3/1 黒褐色シルト　粘性あり　細礫含む
3. 7.5YR4/1 褐灰色シルト　粘性あり　極粗粒砂含む
4. 10YR4/1 褐灰色シルト　粘性あり　極粗粒砂含む
5. 7.5YR2/1 黒色シルト　粘性あり　中粒砂含む
6. 10YR2/1 黒色シルト　粘性あり　極粗粒砂含む
7. 2.5Y3/1 黒褐色シルト　粘性あり　極粗粒砂含む
8. 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト　粗粒砂含む
9. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　粘性あり　細礫、中礫含む（2006NR）
10. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　粘性あり　細礫含む
11. 7.5YR4/3 褐色シルト　粘性あり　細礫、中礫含む
12. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　粘性あり　極粗粒砂含む（2092SK）
13. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　粘性あり　極粗粒砂含む（2093SK）
14. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　粘性あり　極粗粒砂含む（2094SK）
15. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　粘性あり　極粗粒砂含む（2095SK）
16. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　粘性あり　極粗粒砂含む
17. 10YR7/6 明黄褐色粘土質シルト　極粗粒砂含む
18. 10YR7/8 黄橙色粘土質シルト　中粒砂含む

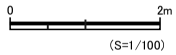
第7-3図　大畑遺跡基本土層断面図３（S=1/100）



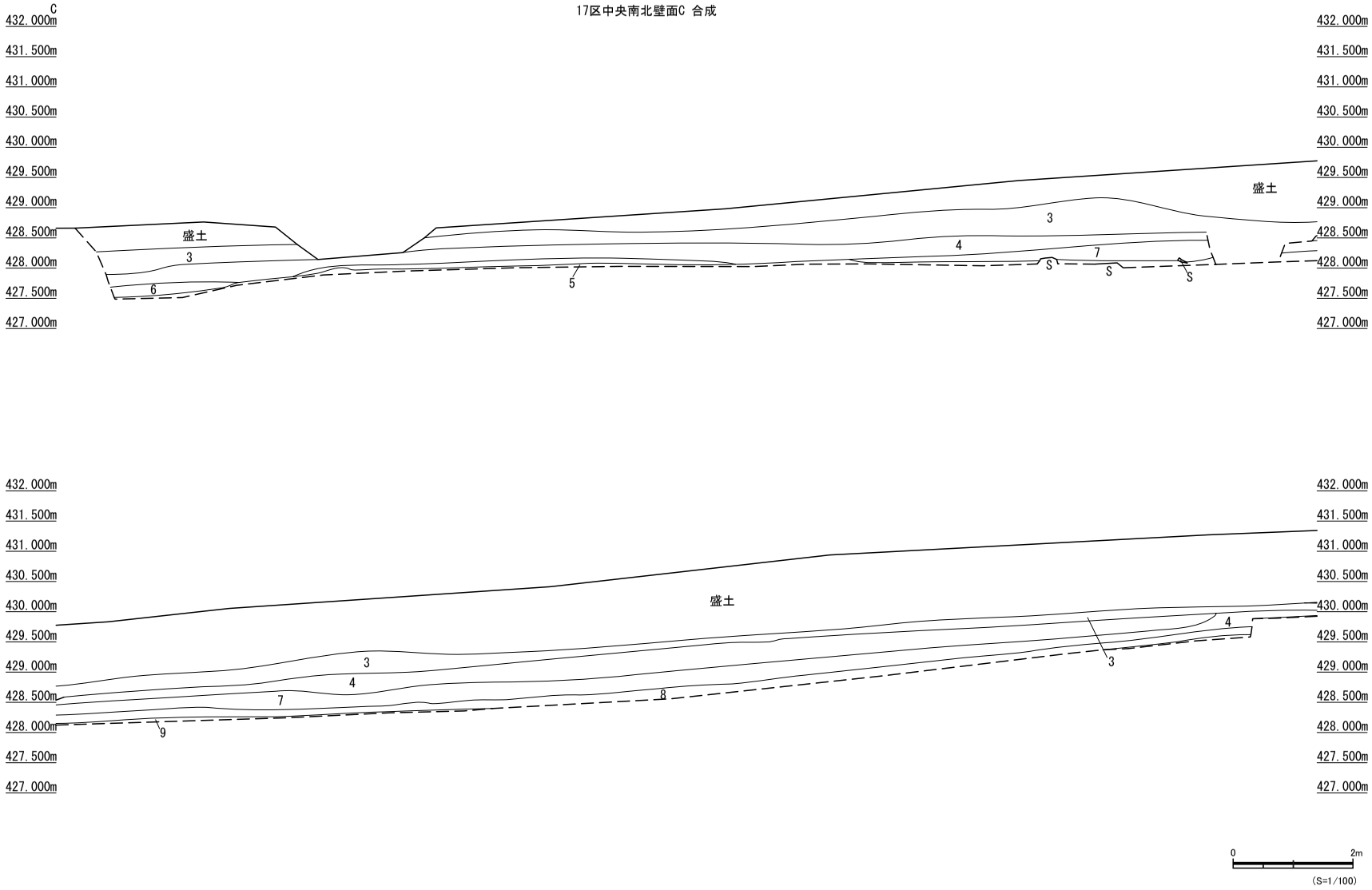
1. 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含む。撹乱。
2. 10YR2/1～2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含む。
3. 10YR1.7/1 黒色 極細粒砂質シルト層 黒褐色シルトブロックを含む。炭化物を極少量含む。
4. 10YR3/1 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルト小ブロックを含む。炭化物を極少量含む。
5. 10YR1.7/1 黒色 極細粒砂質シルト層 黒褐色シルトブロックを含む。炭化物を含む。304NR。
6. 10YR1.7/1 黒色 極細粒砂質シルト層 炭化物を少量含む。304NR。
7. 10YR4/6 褐色 極細粒砂質シルト層 壁の北半は大礫・巨礫の亜円礫を多く含み、南半は中礫の亜円礫を非常に多く含む。地山。



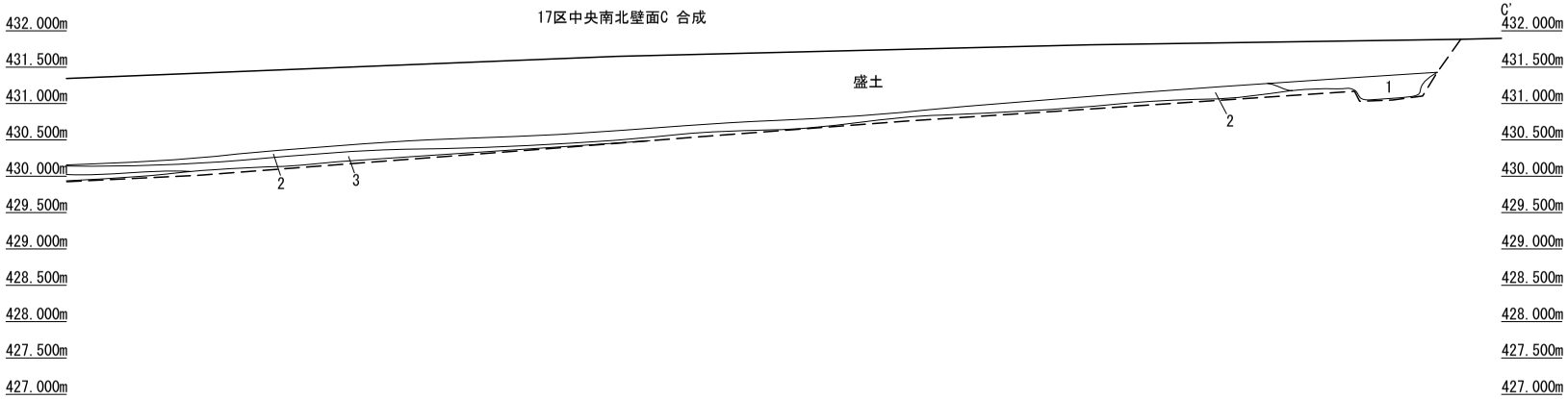
1. 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。
3. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含み、暗褐色シルトブロックを少量含む。276SK。
4. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。
5. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含み、暗褐色シルトブロックを含む。
6. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含む。275SK。
7. 10YR5/6 黄褐色 極細粒砂質シルト層 細礫を含み、中礫の亜円礫を少量含む。地山。



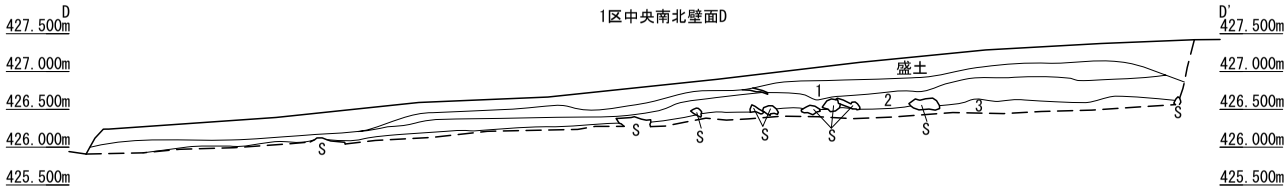
第 7-4 図　大畑遺跡基本土層断面図４（S=1/100）



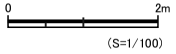
第 7-5 図　大畑遺跡基本土層断面図 5（S=1/100）



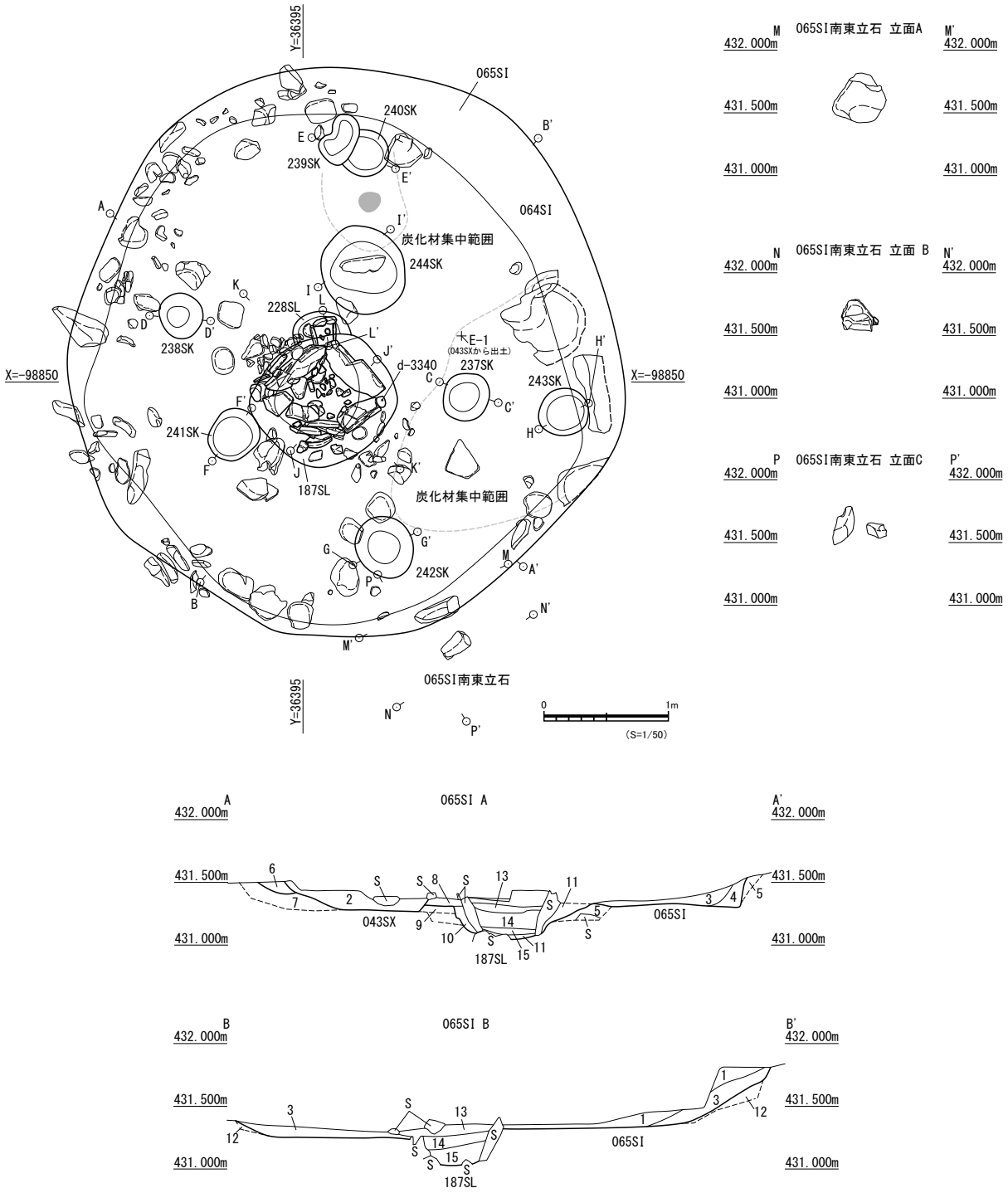
1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含み、中礫の亜円礫を少量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色 極細砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含む。
3. 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。
5. 10YR1.7/1 黒色 極細粒砂質シルト層 中礫の亜円礫を少量含む。
6. 10YR1.7/1 黒色 極細粒砂質シルト層 黒褐色シルトとの混土層。
7. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層
8. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトとの混土層。
9. 10YR5/6 黄褐色 極細粒砂質シルト層 細礫を少量含む。地山。



1. 10YR2/1～2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含む。
2. 10YR3/1 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルト小ブロックを含む。炭化物を極少量含む。
3. 10YR4/6 褐色 極細粒砂質シルト層 壁の北半は大礫・巨礫の亜円礫を多く含み、南半は中礫の亜円礫を非常に多く含む。地山。

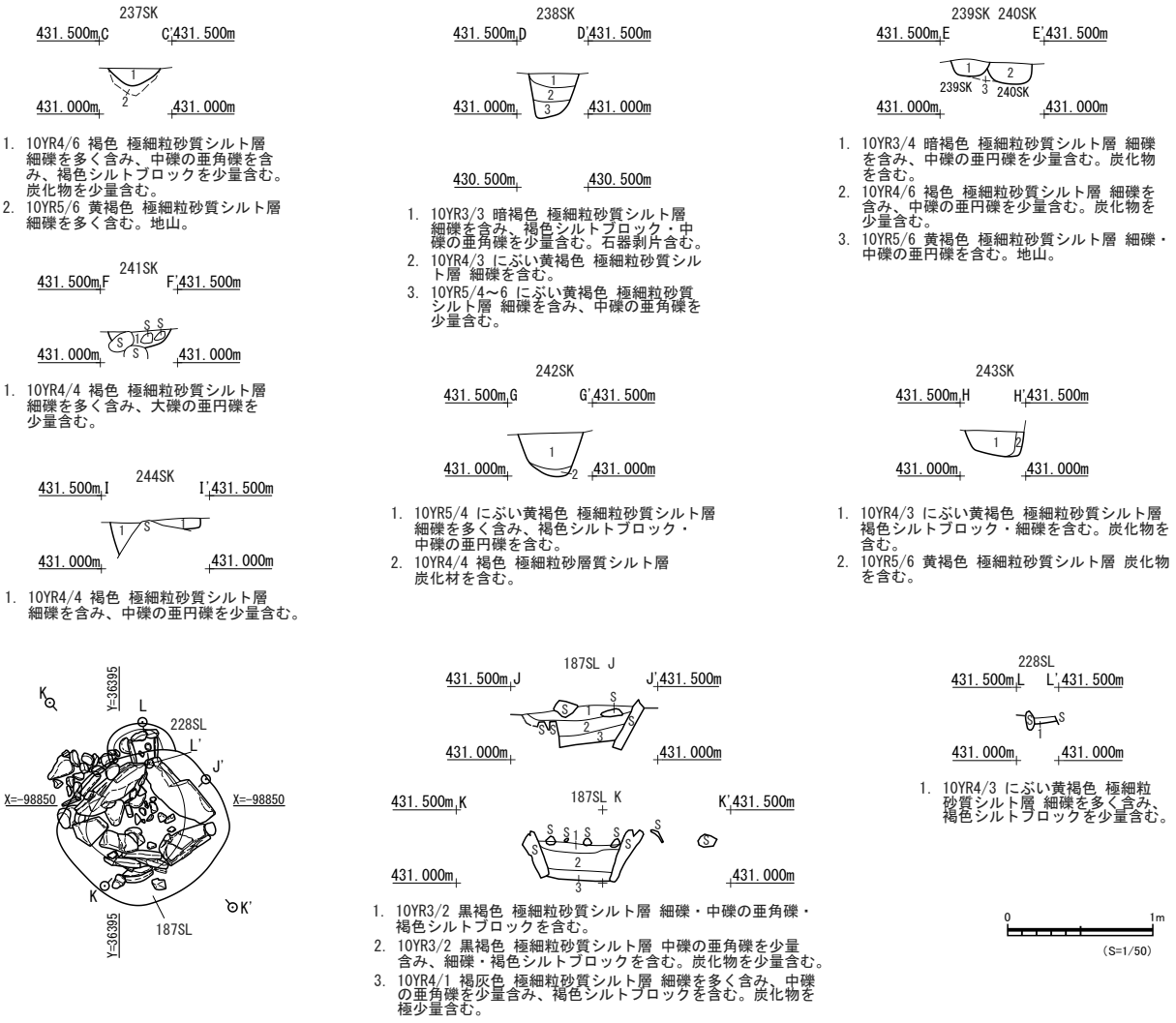


第 7-6 図　大畑遺跡基本土層断面図６（S=1/100）



1. 8.75YR4/4 褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを少量含み、細礫を含み、中礫の亜角礫を少量含む。
2. 10YR3～4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを少量含み、細礫を多く含み、中礫の円礫を少量含む。炭化物を少量含む。
3. 10YR3～4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを少量含み、細礫を多く含み、中礫の円礫を少量含む。炭化物を多く含む。
4. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 細礫を多く含み、褐色シルトブロックを含み、中礫の亜円礫を少量含む。
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを少量含み、細礫を含み、中礫の亜円礫を少量含む。地山。
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 中礫の亜円礫を含み、褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。
7. 8.75YR5/6 黄褐色 極細粒砂質シルト層 細礫のを多く含み、中礫・大礫の亜円礫を含み、褐色シルトブロックを少量含む。地山。
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含み、中礫の亜円礫を含む。
9. 10YR4/6 褐色 極細粒砂質シルト層 黄褐色シルトブロックを含む。地山か。
10. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含み、中礫の亜円礫を含み、細礫を少量含む。炉掘り方。
11. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含み、中礫の亜円礫を少量含む。炉掘り方。
12. 10YR5/6 黄褐色 極細粒砂質シルト層 中礫の亜角礫を多く含み、大礫の亜円礫を少量含む。地山。
13. 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 細礫・中礫の亜角礫・褐色シルトブロックを含む。
14. 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 中礫の亜角礫を少量含み、細礫・褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。
15. 10YR4/1 褐灰色 極細粒砂質シルト層 細礫を多く含み、中礫の亜角礫を少量含み、褐色シルトブロックを含む。炭化物を極少量含む。

第8-1図　大畑遺跡065SI遺構図1（S=1/50）



第 8-2 図　大畑遺跡 065SI 遺構図 2（S=1/50）

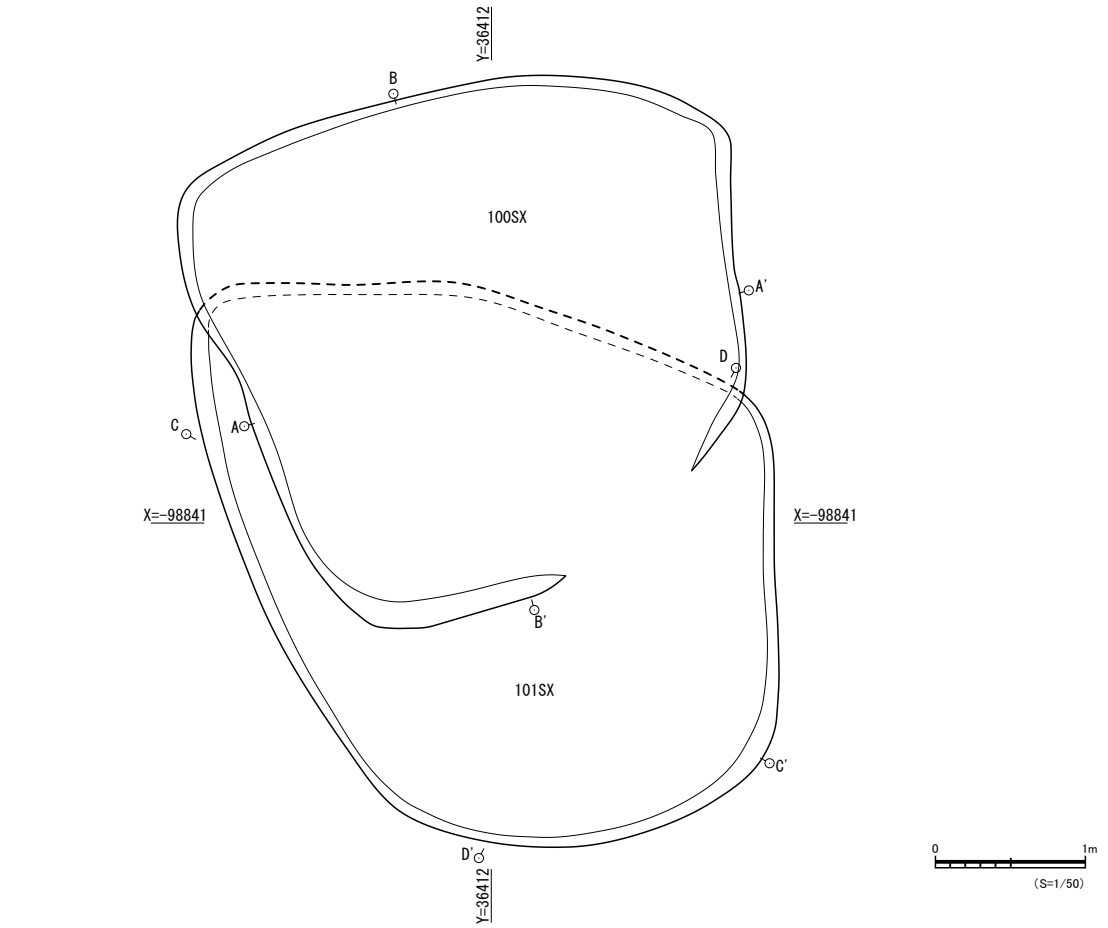
部と考え、065SI 南東立石とした。南北 2 石が配置され、いずれも炉 187SL に平らな面を向けている。北側の石は縦約 0.4m、横約 0.43m。南側の石は縦約 0.14m、横約 0.24m を測る。北側の石は 065SI の竪穴建物跡の範囲内に含まれ、南側の石は竪穴建物跡の外部に位置する。立石の用途は不明。

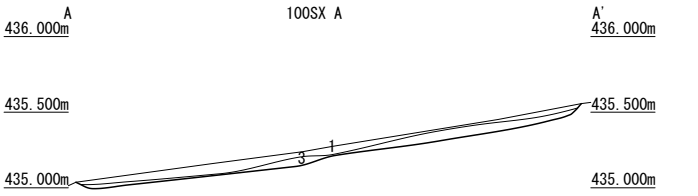
100・101SX（第 9 図）

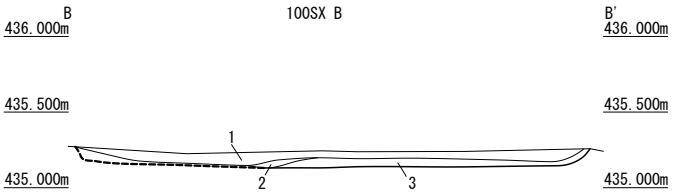
100SX・101SX は東側丘陵先端上、065SI の東側に立地する。丘陵頂部に浅く堆積した状況を示し、柱穴・炉跡等も見られないことから、竪穴建物跡とは考えがたい。作業場所等としての利用を目的として平坦面を造り出したものか。切り合い関係にあるが 100SX も同様。遺物は凝灰岩製石鏃 1 点(S-9)が 101SX より出土した。

176SK（第 10 図）

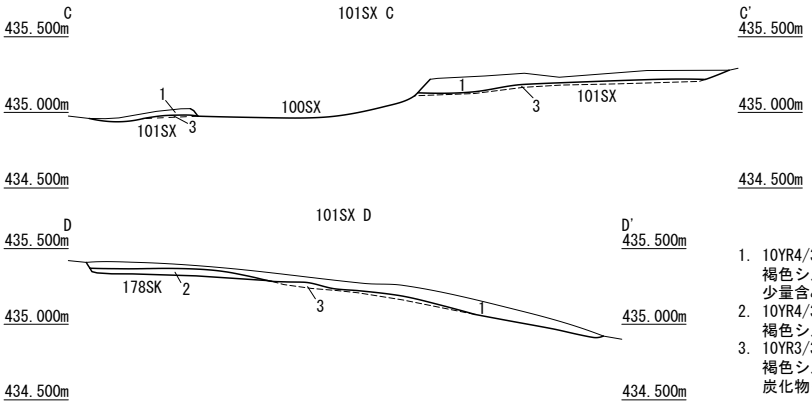
176SK は長径 3.58m、短径 1.10m、深さ 0.65m を測る。平面形状と堆積の状況から、176SK そのものは植生痕と考えられるが、出土遺物には土器が含まれており、周囲に存在した遺構や遺物を巻き込む形で埋没したと想定される。土器は弥生時代中期に比定され、当調査区では数少ない出土例である。ただし 176SK の周辺には弥生時代と確定できる遺構は検出されていない。





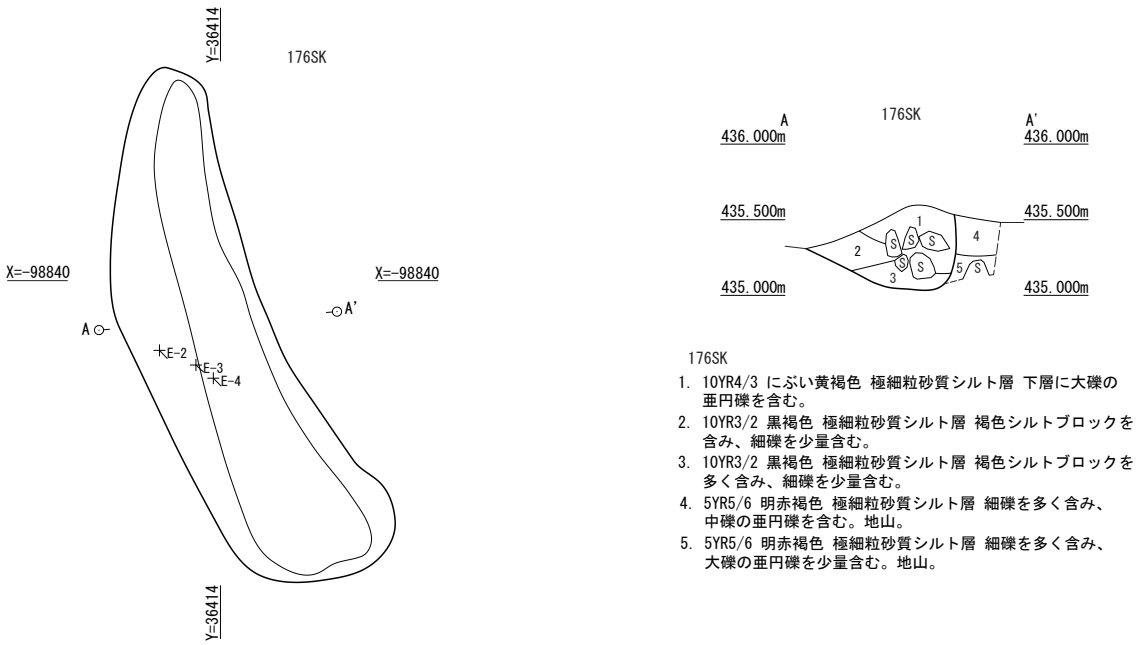


1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層
   褐色シルトブロックを多く含み、
   黒褐色シルトブロック・中礫の亜角礫を少量含む。101SX
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層
   黒褐色シルトブロックを多く含み、
   褐色シルトブロックを含む。178SK。
3. 10YR5/6 黄褐色 極細粒砂質シルト層
   中礫の亜角礫を少量含む。地山。



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層
   褐色シルトブロックを多く含み、黒褐色シルトブロックを
   少量含み、中礫の亜角礫を含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層
   褐色シルトブロックを多く含み、中礫の亜角礫を含む。
3. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層
   褐色シルト・黄褐色シルト小ブロックを少量含む。
   炭化物を少量含む。

第９図　大畑遺跡 100SX 101SX 遺構図（S=1/50）



第 10 図　大畑遺跡 176SK 遺構図（S=1/50）

300SI（第 12-1・2 図）

300SI は平面形が長辺 4.1m、短辺 4.0m の隅丸方形もしくは多角形の形状を為し、内部の石囲炉 390SL は円形もしくは多角形となっている。遺構検出面からの深さは、西端で 0.1m、東端で 0.2m と底面が緩やかに東へ傾斜している。埋土には焼土、炭化物、炭化材、黒曜石、溶結凝灰岩の破片や剥片が多数検出された。柱穴は 831SP、832SP、833SP、834SP の 4 基が検出され、深さはいずれも 0.4m 以上を測る。石囲炉 390SL は、28 点の礫によって上端が囲まれ、竪穴建物跡床面からの深さは最も深い部分で 28cm を測り、内部は側面から底面にかけて非常に強く被熱している。礫の設置に伴う掘方は礫の後背部に確認できず、炉の上端側面に貼り付けるような方法で構築されたようである。竪穴内では周溝は検出されていない。また、西側の丘陵頂部付近の竪穴建物跡の内、遺構検出面の標高が最も高いのが 300SI で、433.7m 付近に位置している。

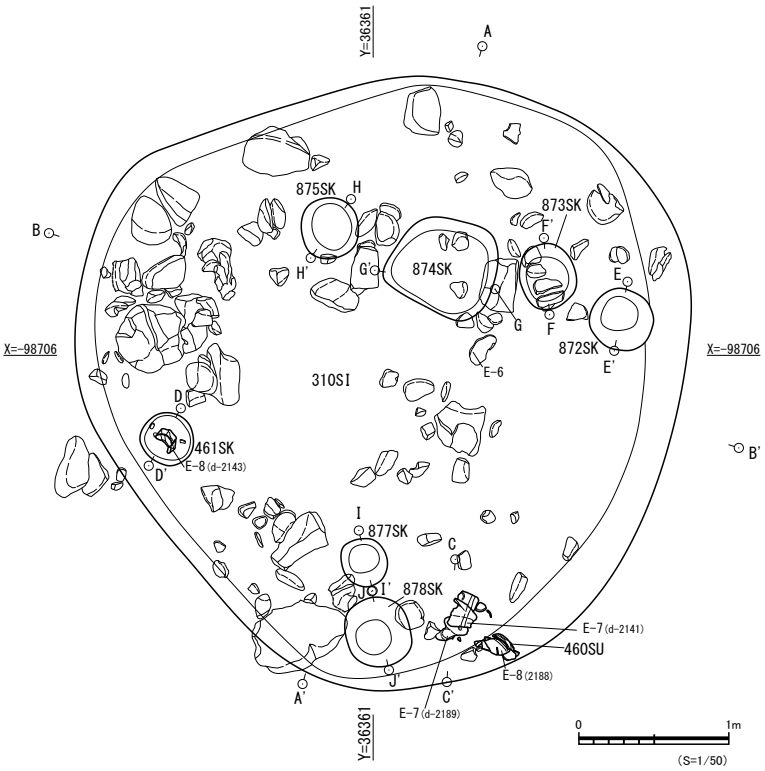
300SI 検出時に称名寺式期の縄文土器破片が検出されていることから、300SI に重複する他の遺構の存在も想定されたが、炉と同一の底面南東隅部では島崎Ⅲ式期の深鉢（E18・19）が口縁部を北側に向けて倒れた状態で検出されている。炭化材の多さから 300SI は火災住居である可能性も指摘されているが、出土した深鉢には二次被熱が見られないことから、300SI 廃絶後に設置された可能性も伴う。石囲炉や柱穴を伴う竪穴建物跡 300SI はこれに基づいた縄文時代中期後半の遺構と推定される。

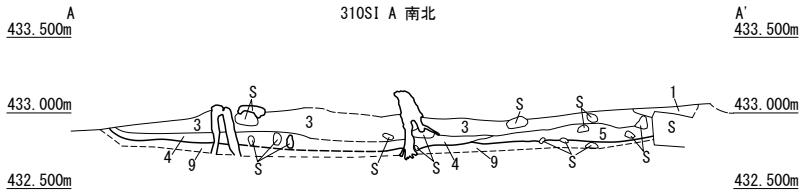
310SI（第 11 図）

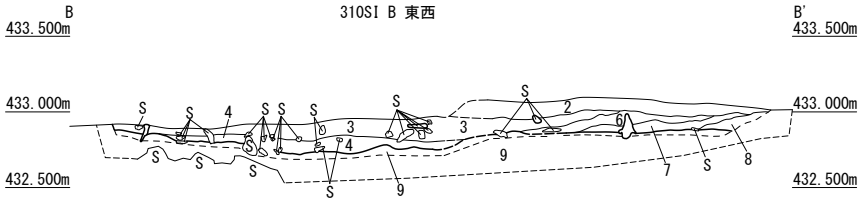
310SI は C 区丘陵頂部付近の竪穴群では最北に位置する。平面形は角の丸い五角形状で、長辺 4.1m、短辺 4.0m を測る。竪穴建物跡の底面は北西方向に向かって傾斜し、遺構検出面からの深さは 0.2m ～ 0.3m を測る。

竪穴内南東隅部では深鉢（E-6）が口縁を西に向けて倒れた状態で検出された。土器の外形は形状を保っておらず、扁平な状態となっていた。この土器については、大麦田Ⅱ式併行と比定されている。

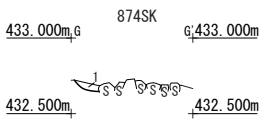
炉は検出されなかった。柱穴は明確なものが 875SK と 877SK の 2 基確認され、それとは別に竪穴内南端付近に土坑 878SK が検出された。878SK は竪穴底面からの深さ 0.3m を測り、埋土からは土器



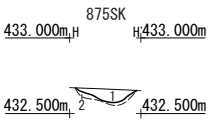




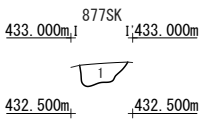
1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色・にぶい黄褐色シルトブロックを含み、中礫の亜円礫を少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを含む。
3. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを含む。
4. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを少量含む。
5. 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを非常に多く含み、細礫を含む。焼土を少量含む。
6. 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを非常に多く含む。焼土を少量含む。
7. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを含む。炭化物を極少量含む。焼土を極少量含む。
8. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 黒褐色シルトブロックを多く含み、にぶい黄褐色シルトブロックを含む。
9. 10YR5/6 黄褐色 粘質シルト層 細礫・中礫の亜円礫を含む。地山。



1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 中礫の亜円礫を多く含み、にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。

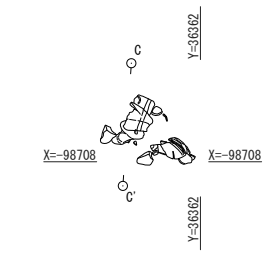


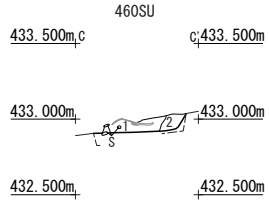
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを多く含み、褐色シルトブロックを少量含む。
2. 10YR5/6 黄褐色 粘質シルト層 中礫の亜円礫を含む。地山。



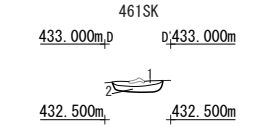
1. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層暗褐色シルト小ブロックを含む。

第 11 図　大畑遺跡 310SI 遺構図（S=1/50）

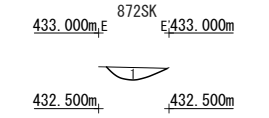




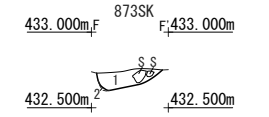
1. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 中礫の亜円礫を含む。
2. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含み、黒褐色シルトブロックを少量含み、細礫を少量含む。



1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 細礫を含み、褐色シルトブロックを少量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 細礫を含み、にぶい黄褐色・褐色シルトブロックを含む。

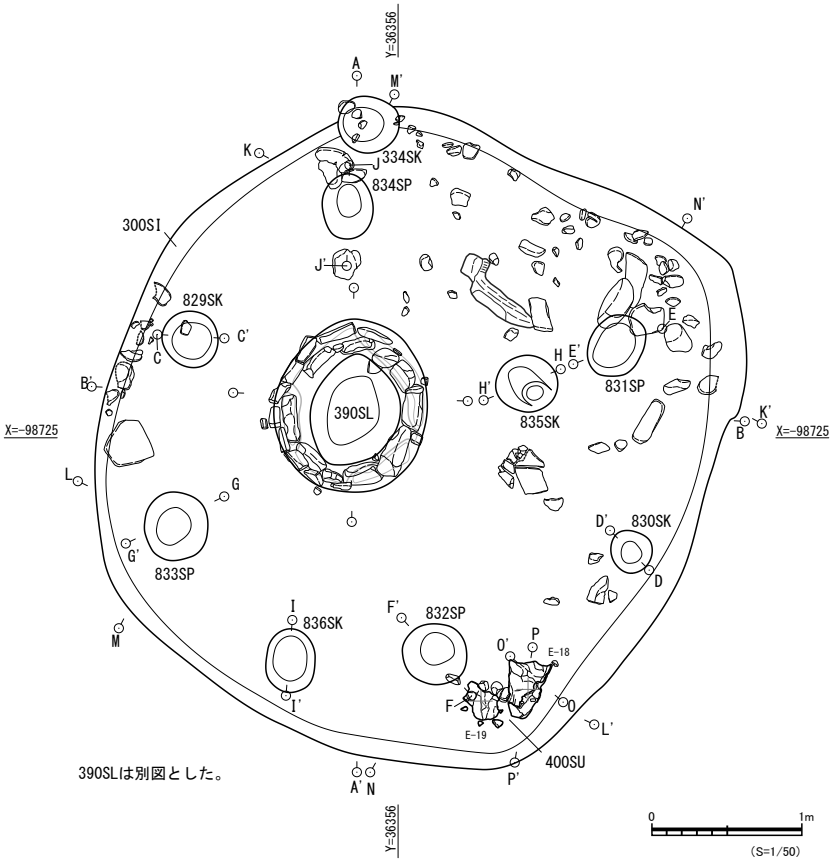


1. 10YR3/1 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む。

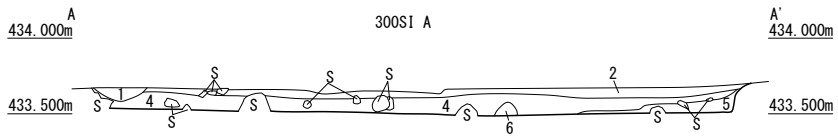


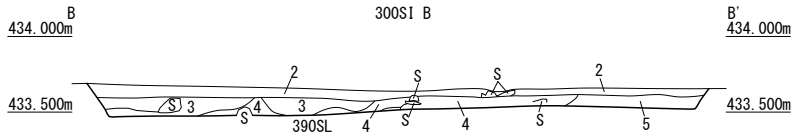
1. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを多く含み、にぶい黄褐色シルトブロック・中礫の亜円礫を少量含む。
2. 10YR5/6 黄褐色 粘質シルト層 中礫の亜円礫を含む。地山。

1. 10YR3/1 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルト小ブロックを少量含み、中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を少量含む。
2. 10YR3/1 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを非常に多く含み、にぶい黄褐色シルトブロック、大礫の亜円礫を少量含む。
3. 10YR5/6 黄褐色 粘質シルト層 中礫の亜円礫を含む。地山。

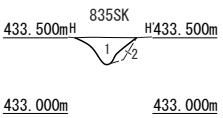


390SLは別図とした。

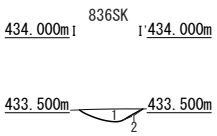




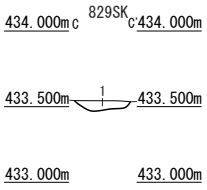
1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを少量含み、細礫含む。334SK。
2. 10YR3/1 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含み、中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を少量含む。
3. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含み、中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を少量含む。
4. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含み、細礫含み、中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を含む。
5. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含み、細礫・中礫の亜円礫を少量含む。
6. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を少量含む。



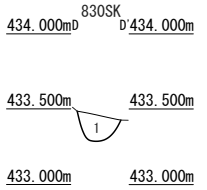
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを少量含み、中礫の亜円礫を含む。炭化物を多く含む。
2. 10YR5/6 黄褐色 粘質シルト層 中礫の亜円礫を少量含む。地山。



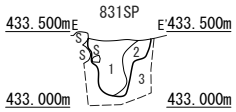
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 細礫を多く含み、暗褐色シルトブロックを含み、褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を少量含む。
2. 10YR5/6 黄褐色 極細砂質シルト層 細礫・風化した礫を含む。地山。



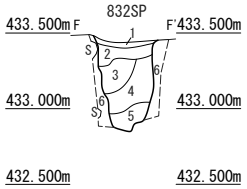
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 細礫を含み、褐色シルトブロックを少量含む。



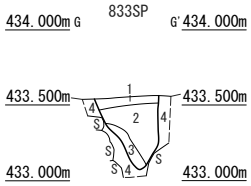
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 細礫を含み、褐色シルトブロック、風化した中礫の亜円礫を少量含む。



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含み、細礫を含み、黒褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を含む。抜取。
2. 10YR4/6 褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを非常に多く含み、細礫を少量含む。炭化物を少量含む。
3. 7.5YR4/6 褐色 粘土質シルト層 細礫を含む。地山。

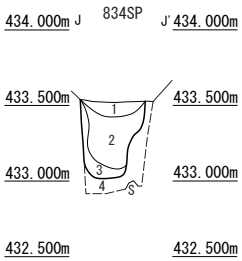


1. 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を少量含む。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを多く含み、褐色シルトブロックを含む。炭化物を含む。
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを非常に多く含み、中礫の亜円礫・細礫・暗褐色シルトブロックを少量含む。
5. 7.5YR4/4 褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含む。
6. 7.5YR5/8 明褐色 粘土質シルト層 細礫を含む。地山。

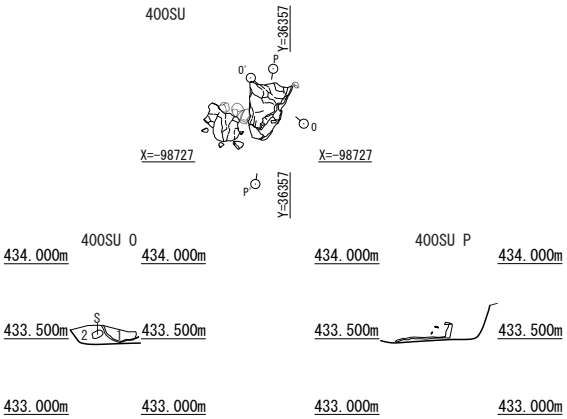


1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロック・細礫を含む。炭化物を少量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含み、にぶい黄褐色シルトブロックを含み、中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を含む。
3. 7.5YR4/6 褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。
4. 7.5YR5/8 明褐色 粘土質シルト層 細礫を含み中礫の亜円礫を少量含む。地山。

第 12-1 図　大畑遺跡 300SI 遺構図 1（S=1/50）

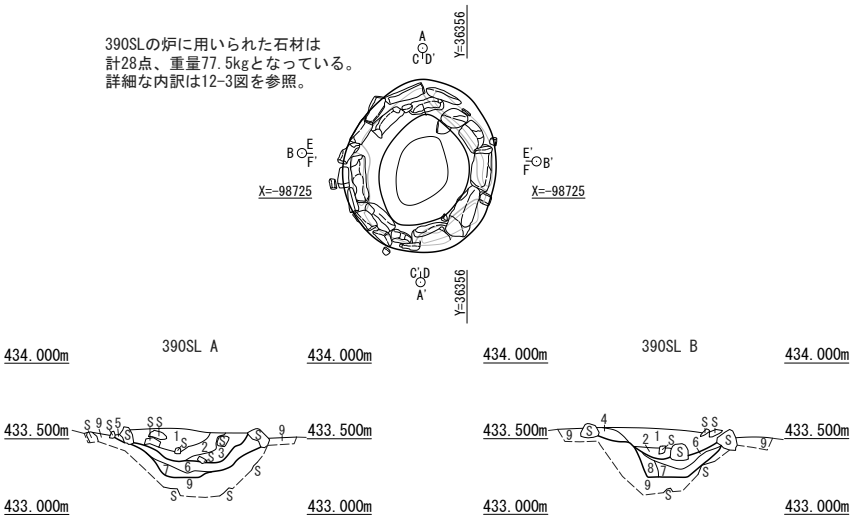


1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層にぶい黄褐色シルトブロックを含み、中礫の亜円礫・細礫を少量含む。炭化物を少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト層 褐色シルトブロックを多く含み、細礫を含み、中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を極少量含む。
3. 7.5YR4/6 褐色 極細粒砂質シルト層にぶい黄褐色シルトブロックを含む。
4. 7.5YR5/6 明褐色 粘土質シルト層 細礫を含み、中礫の亜円礫を含む。地山。

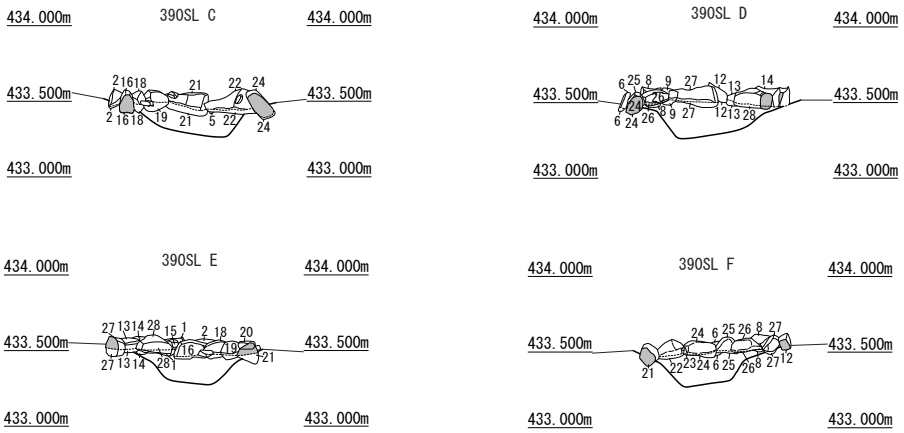


1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 細礫含み、にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含み、細礫少量・中礫の亜円礫を少量含む。

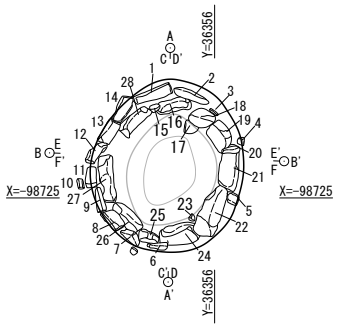
390SLの炉に用いられた石材は
計28点、重量77.5kgとなっている。
詳細な内訳は12-3図を参照。



1. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロック・中礫の亜円礫を含み、細礫少量含む。炭化物を含む。焼土を極少量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を少量含む。焼土を少量含む。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を極少量含む。焼土を含む。
4. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 中礫の亜円礫を含む。炭化物を多く含む。焼土粒を含む。
5. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層
6. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を多く含む。焼土を含む。
7. 7.5YR4/6 褐色 極細粒砂質シルト層 炭化物を少量含む。
8. 5YR4/8 赤褐色 極細粒砂質シルト層 中礫の亜円礫を少量含む。
9. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト層 細礫を少量含み、中礫の亜円礫を含む。



第 12-2 図　大畑遺跡 300SI 遺構図 2（S=1/50）

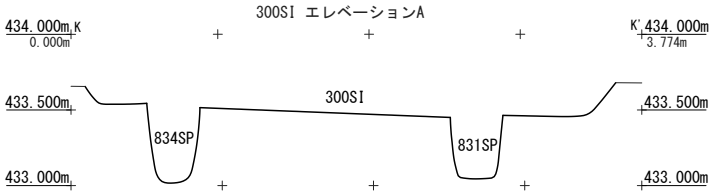


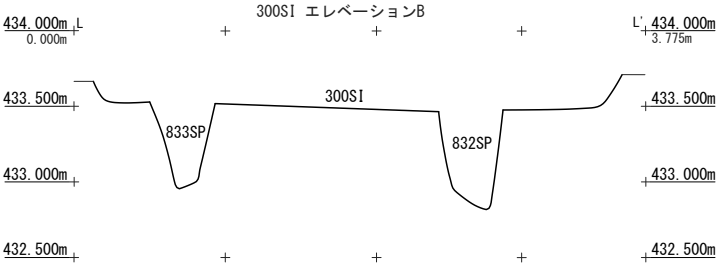
遺構名	長軸（cm）	重量（kg）
390SL 1	26.0	3.3
390SL 2	24.0	1.9
390SL 3	7.0	0.1
390SL 4	5.0	0.1
390SL 5	12.0	1.1
390SL 6	15.0	0.7
390SL 7	16.0	1.0
390SL 8	17.0	2.6
390SL 9	16.0	1.4
390SL 10	6.0	0.1

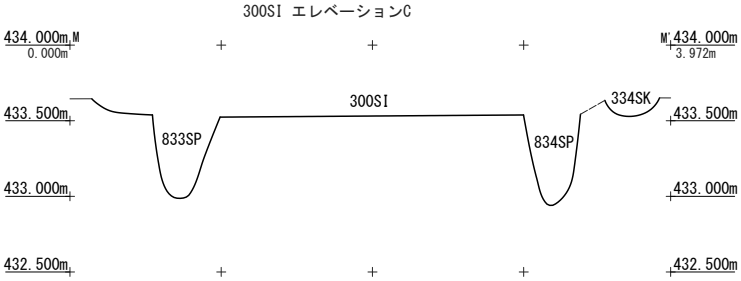
390SLの炉に用いられた石材は
計28点、重量77.5kgとなっている。

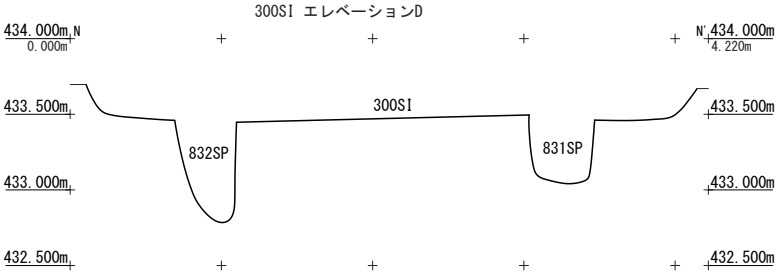
遺構名	長軸（cm）	重量（kg）
390SL 11	18.0	1.9
390SL 12	19.0	1.5
390SL 13	19.0	2.0
390SL 14	20.0	2.4
390SL 15	6.0	0.1
390SL 16	24.0	3.6
390SL 17	9.0	0.2
390SL 18	20.0	3.8
390SL 19	19.0	5.0
390SL 20	12.0	0.2

遺構名	長軸（cm）	重量（kg）
390SL 21	32.0	8.4
390SL 22	33.0	9.8
390SL 23	6.0	0.1
390SL 24	26.0	6.0
390SL 25	21.0	2.9
390SL 26	24.0	3.9
390SL 27	37.0	9.0
390SL 28	27.0	4.4

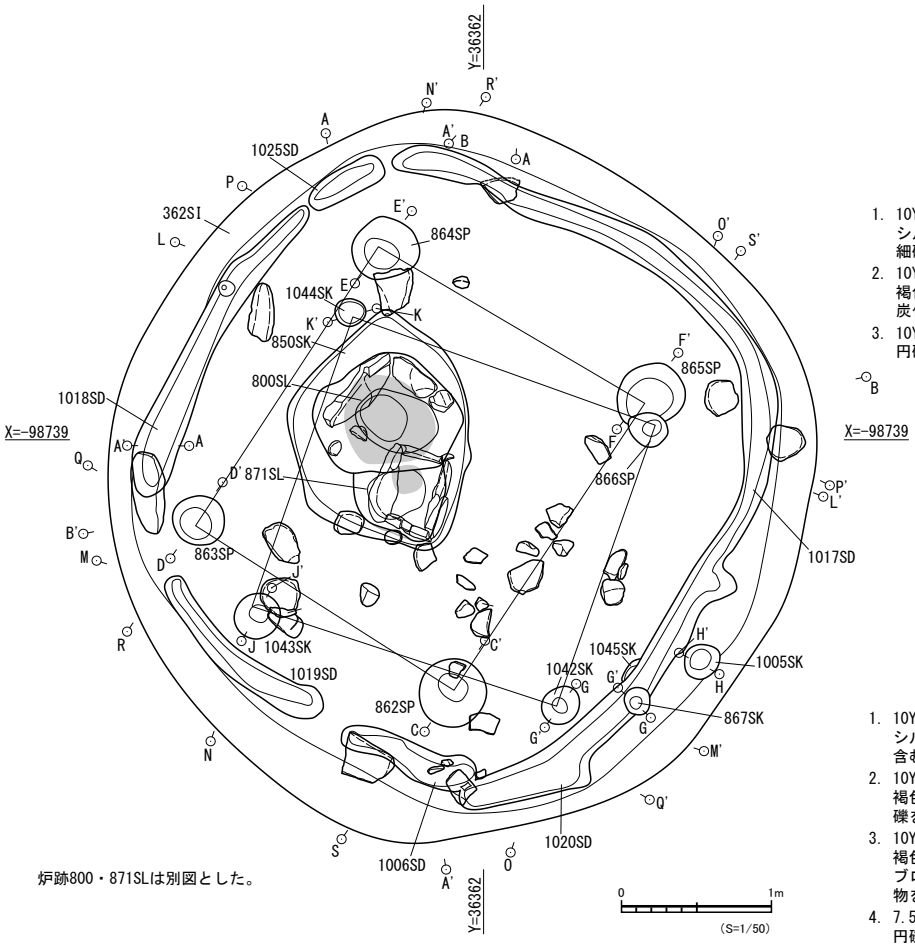




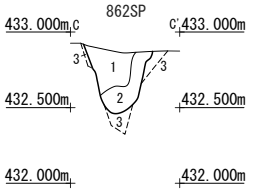




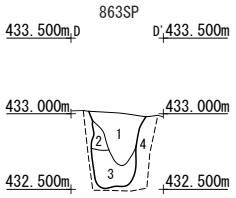
第 12-3 図　大畑遺跡 300SI 遺構図 3（S=1/50）



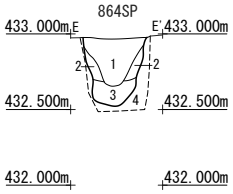
炉跡800・871SLは別図とした。



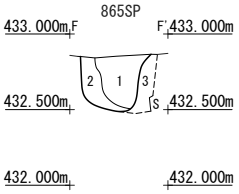
1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層褐色シルトブロックを含み、中礫の亜円礫・細礫を少量含む。炭化物を多く含む。抜取。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層褐色シルトブロックを含み、細礫を含む。炭化物を少量含む。
3. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト層 中礫の亜円礫を含む。風化礫を含む。地山。



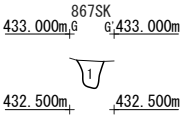
1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を多く含む。焼土を少量含む。抜取。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層褐色シルトブロックを非常に多く含み、細礫を少量含む。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層褐色シルトブロックを含み、暗褐色シルトブロック・中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を少量含む。
4. 7.5YR5/6 明褐色 粘土質シルト層 中礫の亜円礫を少量含む。地山。



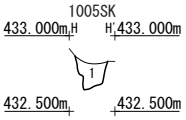
1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を含む。焼土を少量含む。抜取。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを含み、褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。
4. 7.5YR5/6 明褐色 粘土質シルト層 細礫を少量含む。風化礫を含む。地山。



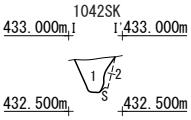
1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層にぶい黄褐色シルトブロックを多く含み、中礫の亜円礫を含む。炭化物を含む。抜取。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層細礫を含み、中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を極少量含む。
3. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト層 中礫の亜円礫を多く含む。地山。



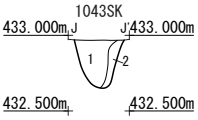
1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層にぶい黄褐色シルトブロックを含み、褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。



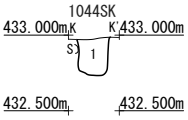
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを含み、細礫を少量含む。



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。抜取。
2. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト層 細礫を少量含む。地山。

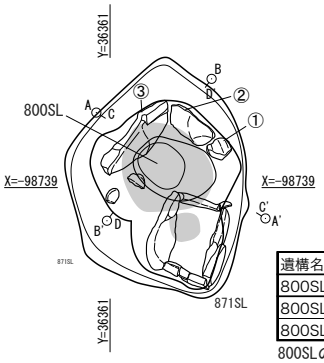


1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を少量含む。焼土を極少量含む。抜取。
2. 10YR4/6 褐色 極細粒砂質シルト層黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含み、細礫を少量含む。炭化物を少量含む。焼土を極少量含む。

第 13-1 図　大畑遺跡 362SI 遺構図 1（S=1/50）

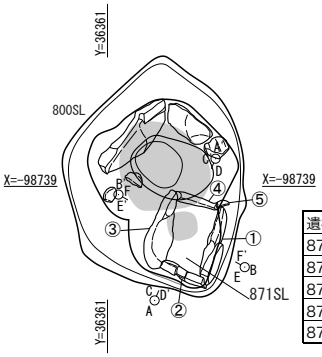


被熱（赤変）部分

遺構名	長軸（cm）	重量（kg）
800SL ①	18.0	3.7
800SL ②	42.0	8.1
800SL ③	71.0	24.4

800SLの石材は①安山岩、他は片麻岩

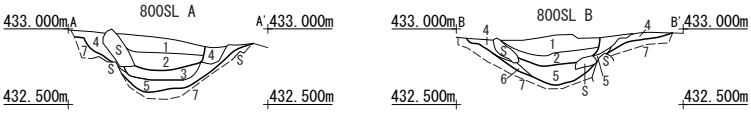
800SL 断面・見通図ポイント位置



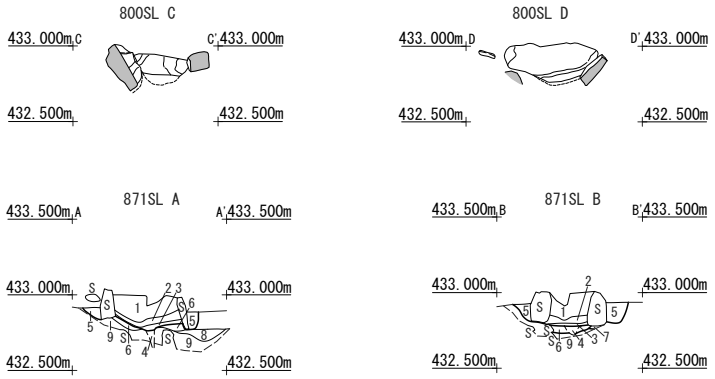
遺構名	長軸（cm）	重量（kg）
871SL ①	31.0	13.5
871SL ②	30.0	5.6
871SL ③	58.0	22.1
871SL ④	31.0	5.3
871SL ⑤	10.0	0.1

871SLの石材は全て片麻岩

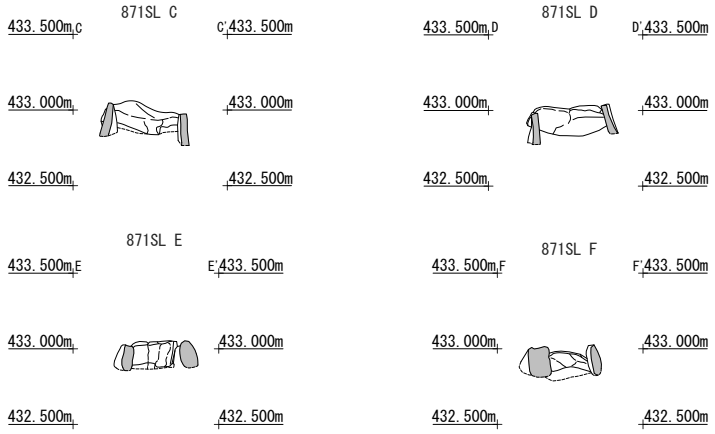
871SL 断面・見通図ポイント位置

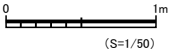


1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含み、細礫を少量含む。炭化物を含む。
2. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含み、褐色シルト小ブロックを含み、細礫を少量含む。炭化物を多く含む。
3. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルト小ブロックを多く含み、褐色シルト小ブロックを少量含む。炭化物を多く含む。
4. 7.5YR5/6 明褐色 粘土質シルト層 細礫を少量含み、中礫の亜円礫を少量含む。
5. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含み、中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を多く含む。焼土を含む。
6. 7.5YR4/6 褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを非常に多く含む。
7. 5YR4/8 赤褐色 極細粒砂質シルト層 細礫を少量含む(地山)。



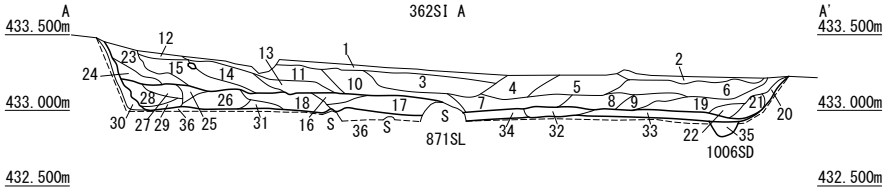
1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を含む。焼土を極少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。
3. 5YR4/6 赤褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを非常に多く含み、褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含み、細礫を少量含む。炭化物を少量含む。焼土を極少量含む。
5. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含む。
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を少量含む。焼土を極少量含む。
7. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 中礫の亜円礫を少量含み、にぶい黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を多く含む。焼土を含む。800SL。
8. 7.5YR4/6 褐色 極細粒砂質シルト層 炭化物を少量含む。
9. 10YR5/6 黄褐色 粘質シルト層 細礫を少量含む。地山。



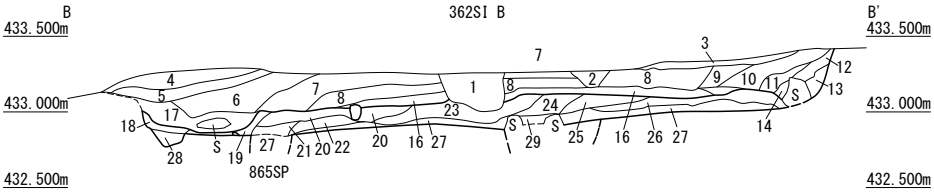


(S=1/50)

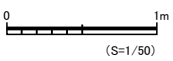
第 13-2 図　大畑遺跡 362SI 遺構図 2（S=1/50）



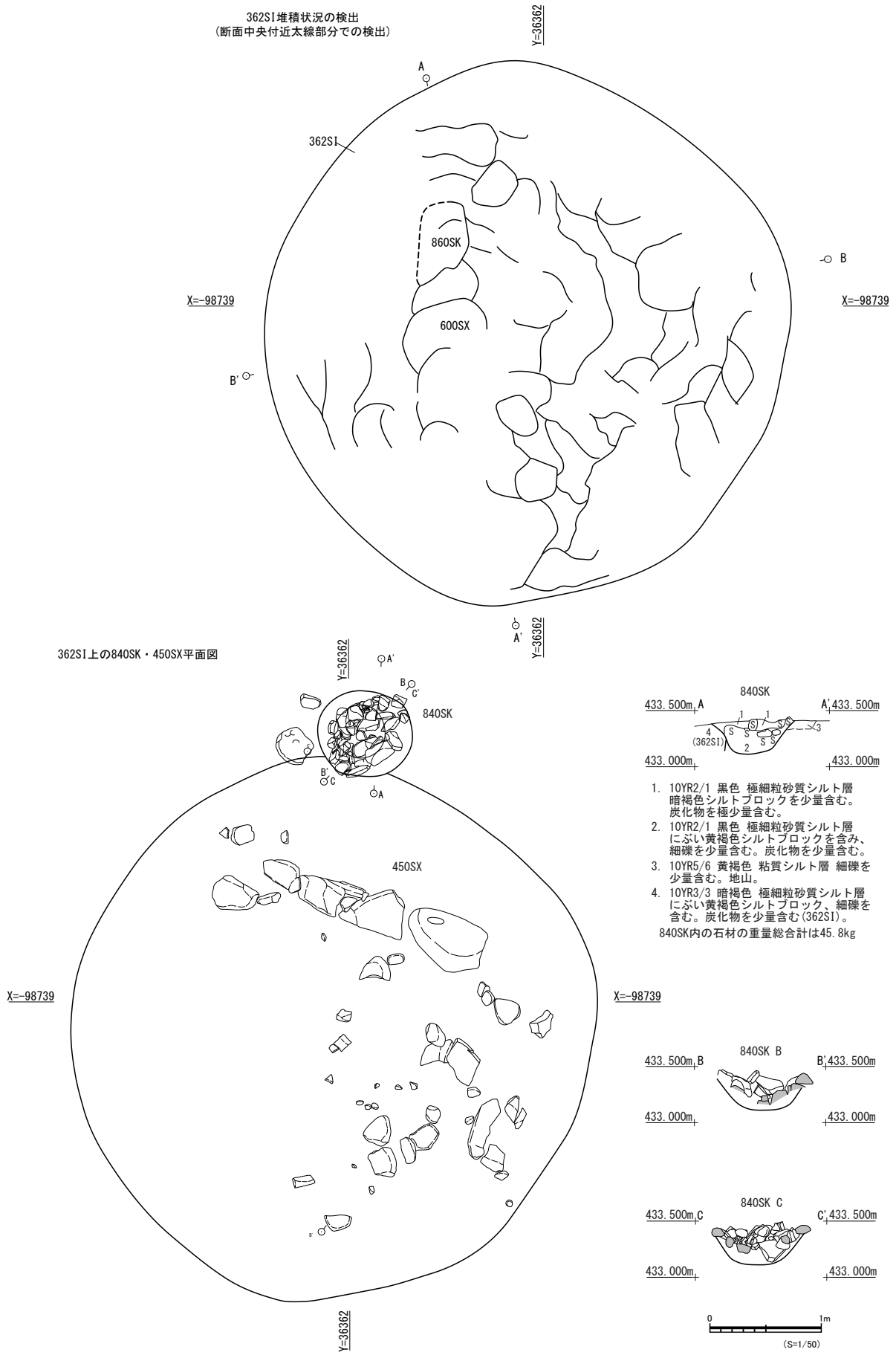
1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。
2. 10YR3/4 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含み、細礫を少量含む。炭化物を含む。
3. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含み、細礫を少量含む。炭化物を極少量含む。
4. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含み、細礫を少量含む。炭化物を含む。
5. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を含む。焼土を少量含む。
6. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を含む。焼土を極少量含む。
7. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを含み、にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を少量含む。焼土を極少量含む。
8. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含み、暗褐色シルトブロック、中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を含む。
焼土を極少量含む。
9. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含み、暗褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を多く含む。焼土を極少量含む。
10. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを非常に多く含み、細礫を含む。炭化物を多く含む。
11. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を少量含む。焼土を極少量含む。上面に450SX（石列）。
12. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を含む。
13. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを含む。炭化物を含む。焼土を極少量含む。
14. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。
15. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含み、暗褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を少量含む。
16. 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を少量含む。焼土を極少量含む。
17. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を少量含む。焼土を多量含む。871SLよりかき出した焼土層。600SX。
18. 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を多く含む。焼土を含む。860SK。
600SLより古く362SI最下層の871SL（石囲い炉）に対応する炭の層。
19. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含み、褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を含む。
20. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを含む。
21. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む。
22. 10YR3/2 黒褐色 にぶい黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。
23. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロック、細礫を含む。炭化物を少量含む。
24. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含み、中礫の亜円礫を少量含む。
25. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを非常に多く含み、にぶい黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を極少量含む。
26. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を少量含む。焼土を極少量含む。
27. 10YR3/4 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む。
28. 10YR3/4 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含み、細礫を少量含む。炭化物を少量含む。
29. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含み、細礫を含み、暗褐色シルトブロックを少量含む。
30. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを非常に多く含み、細礫を含む。炭化物を極少量含む。
31. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロック、細礫を含む。炭化物を極少量含む。
32. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を含む。
33. 10YR3/4 暗褐色 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含み、褐色シルトブロック、中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を含む。
34. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。
35. 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂質シルト層　褐色シルトブロックを含む。1006SD。
36. 10YR5/6 黄褐色粘質シルト層　細礫を含む。地山。



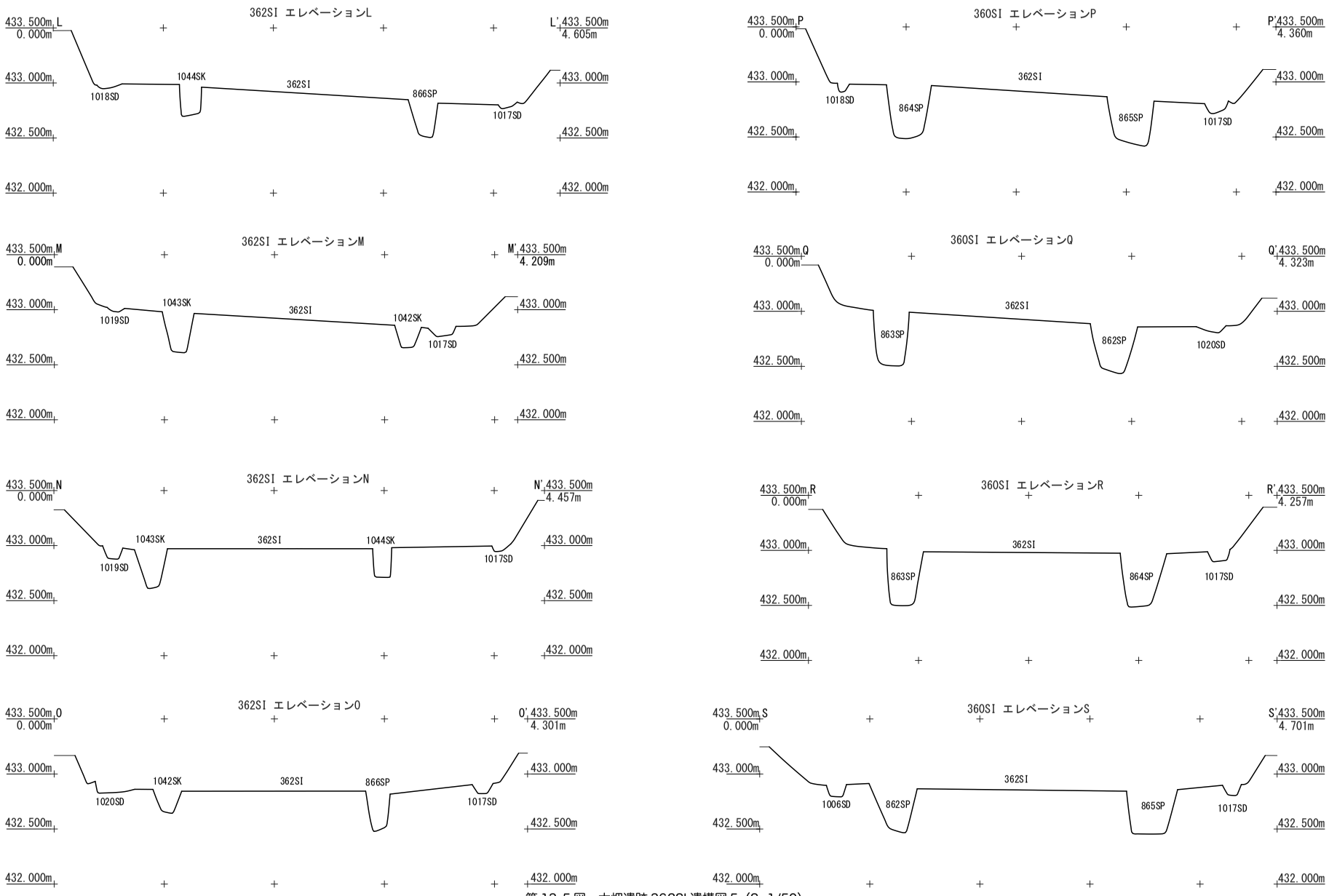
1. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを含み、中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを少量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを多く含み、にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。
4. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色・にぶい黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を極少量含む。425SX埋土。
5. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを含み、にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。
6. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を少量含む。焼土を極少量含む。
7. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。
8. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含み、細礫を少量含む。炭化物を極少量含む。
9. 10YR3/4 暗褐色 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含み、細礫を少量含む。炭化物を少量含む。
10. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロック、細礫を少量含む。炭化物を極少量含む。
11. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを少量含む。
12. 10YR3/4 暗褐色 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。
13. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 中礫の亜円礫を含み、細礫、にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。
14. 10YR3/4 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含み、細礫を少量含む。炭化物を少量含む。
15. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含み、細礫を少量含む。焼土を極少量含む。
16. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを含み、にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を少量含む。焼土を極少量含む。
17. 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 黒色シルトブロックを多く含み、細礫を含み、暗褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を含む。
18. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを多く含む。
19. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。
20. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含み、暗褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。焼土を極少量含む。
21. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含む。
22. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含み、細礫を少量含む。炭化物を少量含む。
23. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含み、中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を少量含む。
24. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを多く含み、にぶい黄褐色シルトブロック、中礫の亜円礫を少量含む。
25. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 炭化物を極少量含む。焼土を多量含む。600SL。
26. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロック、細礫を含む。炭化物を少量含む。焼土を極少量含む。
27. 10YR3/4 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含み、細礫を含み、風化した中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を少量含む。865SP
28. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含み、細礫を少量含む。1017SD。
29. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を含む。焼土を極少量含む。871SL。



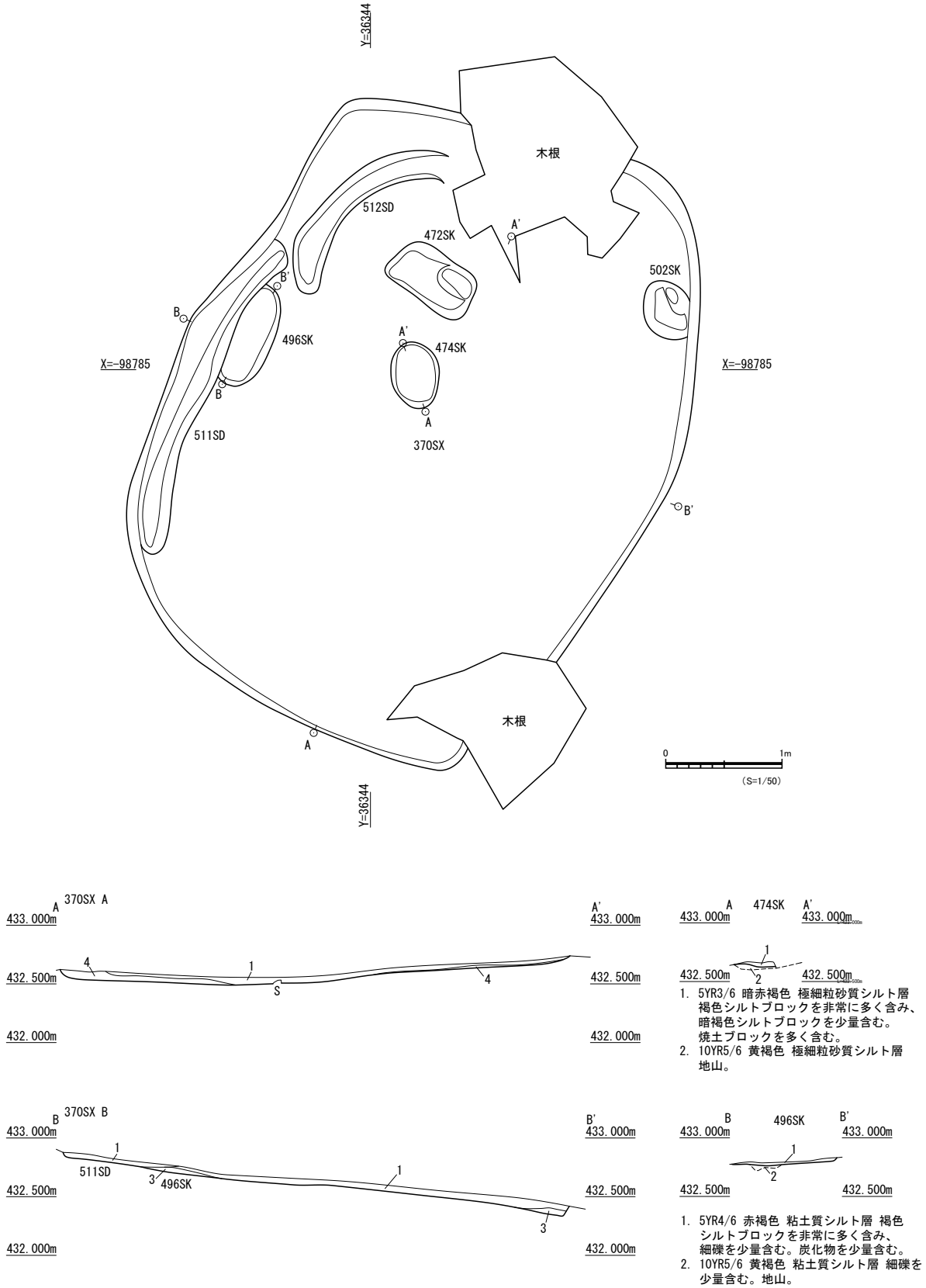
第 13-3 図　大畑遺跡 362SI 遺構図 3（S=1/50）



第 13-4 図　大畑遺跡 362SI 遺構図４（S=1/50）

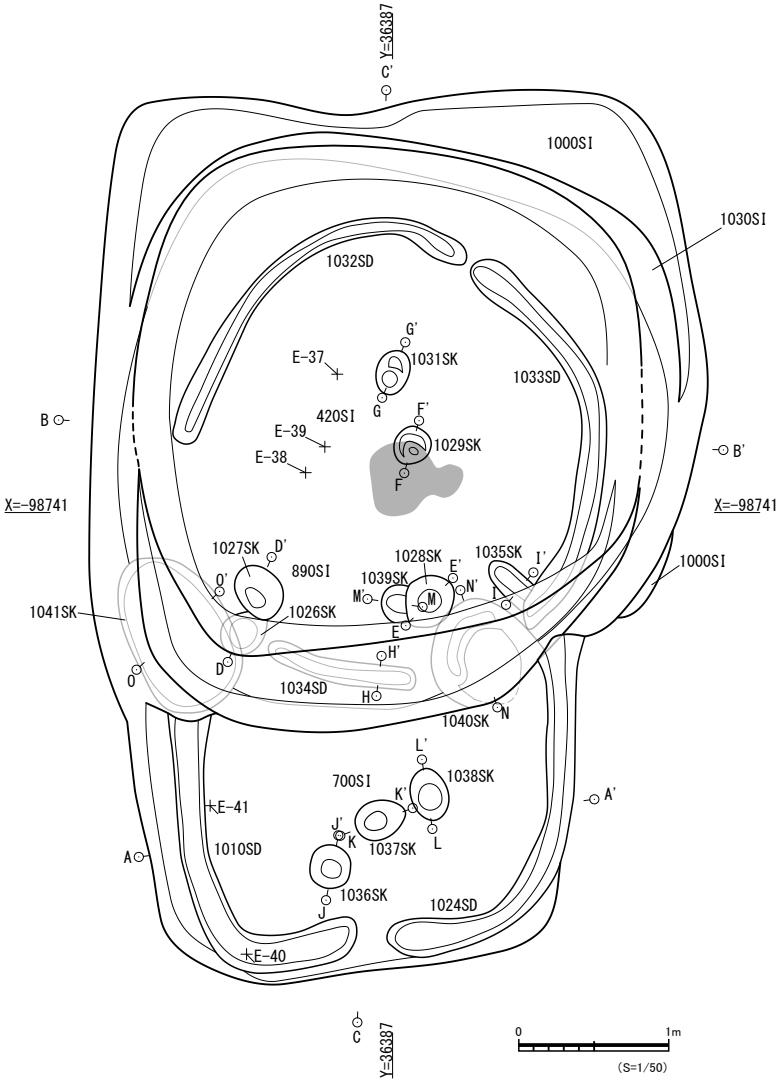


第 13-5 図　大畑遺跡 362SI 遺構図 5（S=1/50）

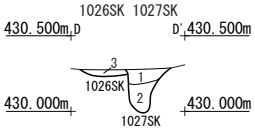


1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを非常に多く含む。炭化物を含む。511SD。370SX 2時期目の壁溝。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを非常に多く含み、黒褐色シルトブロックを含む。炭化物を含む。焼土を極少量含む。370SX。
3. 5YR4/8 赤褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを含む。炭化物を極少量含む。496SK。
4. 10YR5/6 黄褐色 粘土質 。

第14図　大畑遺跡370SX遺構図（S=1/50）

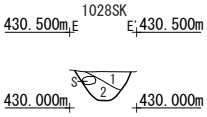


1026SK 1027SK



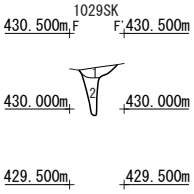
1. 10YR3/1 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を少量含む。1027SK
2. 10YR3/1 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含み、暗褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を含む。1027SK
3. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを多く含み、褐色シルトブロックを少量含む。1026SK

1028SK



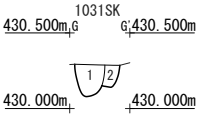
1. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含み、褐色シルトブロックを含む。
2. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを多く含み、にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。

1029SK

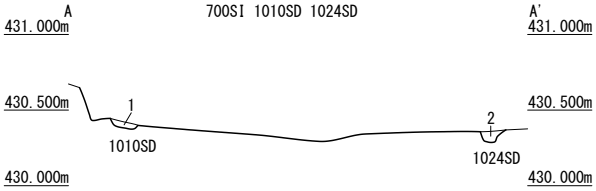


1. 10YR3/1 黒褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含む。炭化物を含む。焼土を含む。
2. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含む。

1031SK

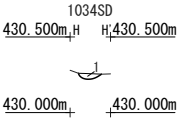


1. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 褐色シルト小ブロックを多く含み、暗褐色シルトブロックを少量含む。
2. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 褐色シルト小ブロックを含む。



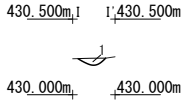
700SI 1010SD 1024SD
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含み、黒褐色シルトブロックを少量含む。

1034SD



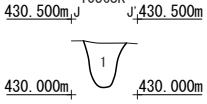
1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含む。

1035SD



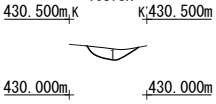
1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含む。

1036SK



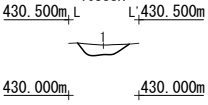
1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含み、褐色シルトブロックを少量含む。

1037SK



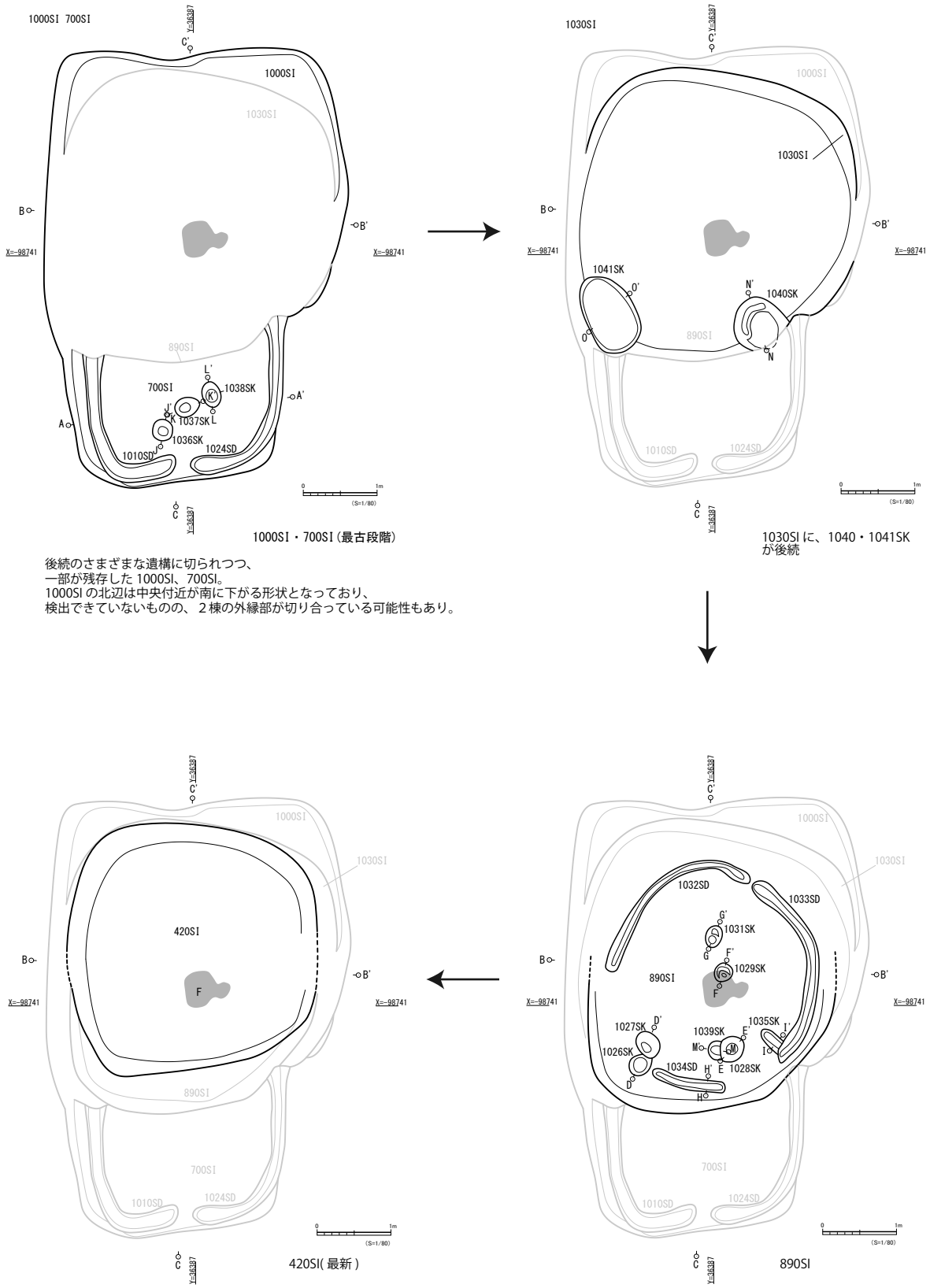
1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルト小ブロックを含み、にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。

1038SK



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含む。

第 15-1 図　大畑遺跡 420SI 700SI 890SI 1000SI 1030SI 遺構図 1（S=1/50）



1000SI・700SI（最古段階）

後続のさまざまな遺構に切られつつ、
一部が残存した 1000SI、700SI。
1000SI の北辺は中央付近が南に下がる形状となっており、
検出できていないものの、２棟の外縁部が切り合っている可能性もあり。

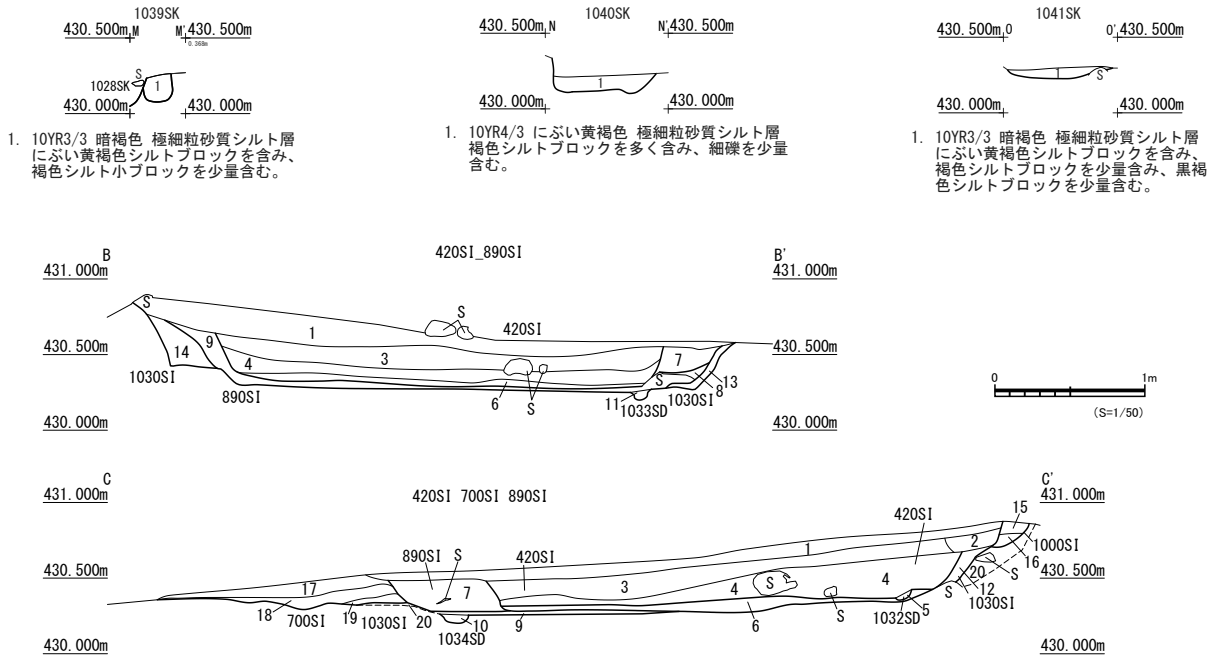
1030SI に、1040・1041SK
が後続

420SI(最新)

890SI

竪穴建物跡 1000SI・700SI・1030SI・890SI・420SI(左上から時計回りに古い順で配置)

第 15-2 図　大畑遺跡 420SI 700SI 890SI 1000SI 1030SI 遺構図２（S=1/50）



1. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 中礫の亜円礫を少量含み、細礫、暗褐色シルトブロックを含む。
2. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 細礫、暗褐色シルトブロックを含み、中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を極少量含む。880SX。
3. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を少量含む。420SI。
4. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 中礫の亜円礫、にぶい黄褐色シルトブロック、暗褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。420SI。
5. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを含む。
6. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 炭化物を少量含む。焼土を極少量含む。420SI。
7. 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルト小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。890SI。
8. 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含み、細礫を少量含む。890SI。
9. 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを非常に多く含み、にぶい黄褐色シルトブロックを含み、褐色シルトブロックを少量含み、炭化物を少量含む。890SI。
10. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含む。
11. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含む。
12. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含む。1030SI
13. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを非常に多く含み、暗褐色シルトブロックを含む。
14. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 黒褐色シルトブロックを含み、褐色シルトブロックを含む。
15. 10YR3/1 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含み、中礫の亜円礫を少量含む。1000SI。
16. 10YR3/1 黒褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含み、にぶい黄褐色シルト小ブロックを含む。1000SI。
17. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 暗褐色・にぶい黄褐色シルトブロックを含む。700SI。
18. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含み、褐色シルトブロックを少量含む。焼土を極少量含む。700SI。
19. 10YR4/4 褐色 極細粒砂質シルト層 黒褐色シルトブロックを多く含む。焼土を極少量含む。700SI。
20. 10YR5/6 黄褐色 粘質シルト層 細礫を少量含む。地山。

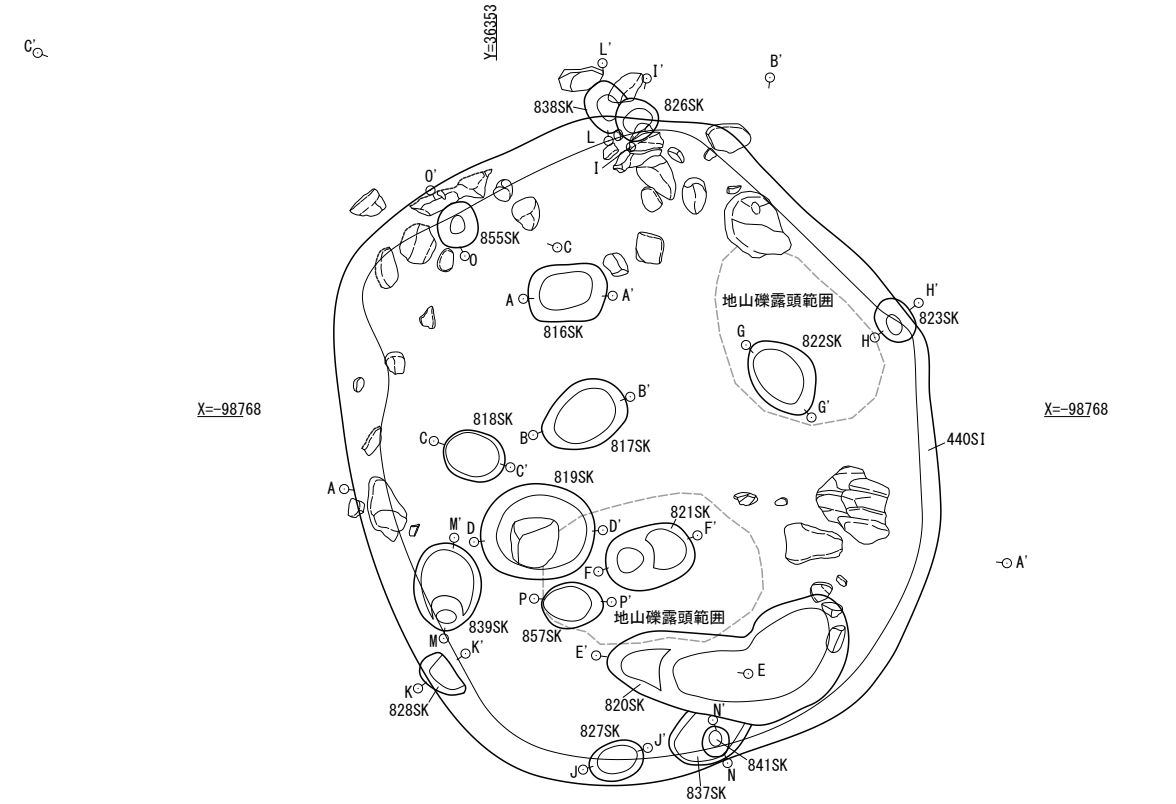
第 15-3 図　大畑遺跡 420SI 700SI 890SI 1000SI 1030SI 遺構図 3（S=1/50）

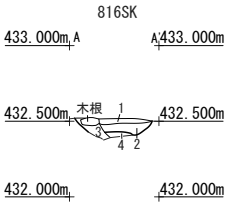
破片も検出されている。竪穴に付属する遺構と考えられるが性格は不明。また、竪穴内の中央より北西側に偏在する大小多くの礫が検出され、これらについては屋根固定材の一部との指摘もある。

362SI（第 13-1 ～ 5 図）

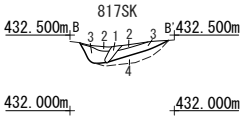
362SI は遺跡西側の丘陵頂部中央付近に位置する竪穴建物跡である。数回の建て替えが行われているが、最初期の形状は平面形が長辺 4.68m、短辺 4.57m を測る隅丸方形。遺構検出面からの深さは 0.4m。検出段階で 362SI 上には石列 450SX、北側に接する石敷炉 840SL が確認された。炉内部の下位は礫を組み合わせ、被熱した状態が確認できる。平面の切り合いから 840SL は 362SI 埋没後の構築であることがわかる。362SI との切り合い関係から縄文時代中期後半以降の時期を想定する。また、450SX は 362SI が完全に埋没した後に北半部分の縁辺部に沿うように組み合わせて据えられており、これらの石の配置は 362SI の廃絶に伴う儀礼行為の可能性がある。同様に 840SL についても 362SI に近接した位置に構築されたことと合わせて、362SI 廃絶に関連する遺構と推定している。

362SI は建て替えが行われている。廃絶時の竪穴建物を 362SI とし、建て替え前の竪穴建物を 360SI とした。2 棟合わせて炉が 2 基、柱穴 8 基が検出された。360SI の炉 800SL が最初期の炉であり、これに伴う柱穴は 862SP、863SP、864SP、865SP である。800SL の南東側の炉石を外し、新たに設

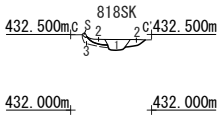




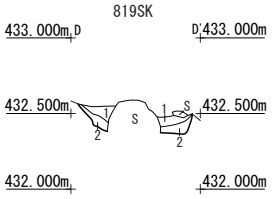
1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。
3. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルト大ブロックを含む。植生痕。
4. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト層 細礫を少量含む。



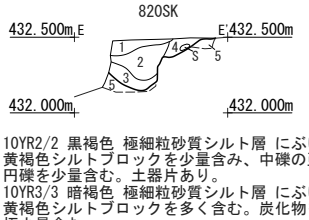
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。植生痕。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含む。炭化物を極少量含む。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを非常に多く含む。炭化物を極少量含む。
4. 10YR5/6 黄褐色 粘質シルト層 細礫を少量含む。地山。



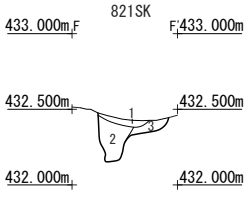
1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを少量含み、中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を多く含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含む。炭化物を極少量含む。
3. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト層 細礫を少量含む。地山。



1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含む。炭化物を極少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含み、中礫の亜円礫を少量含む。

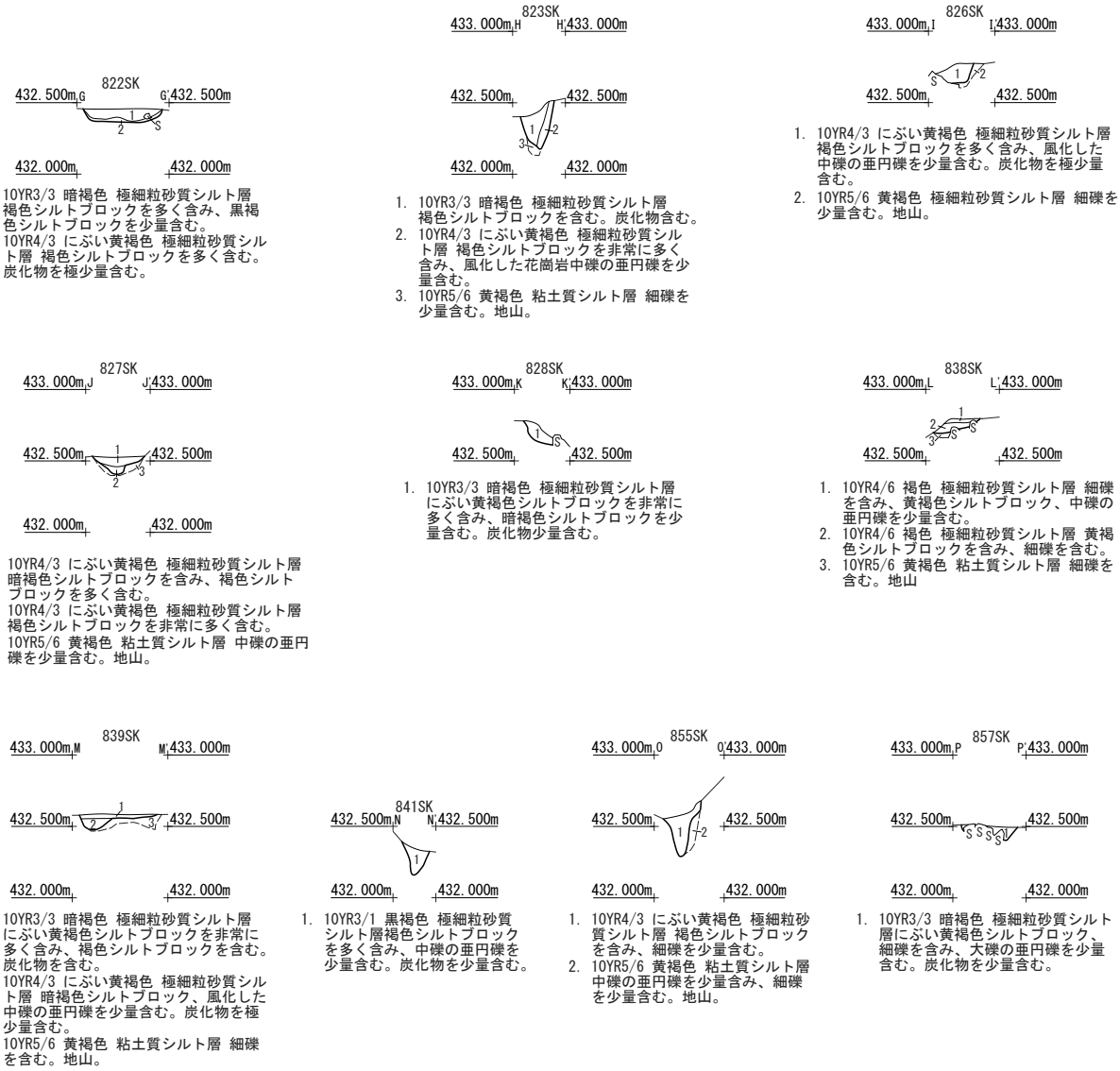


1. 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを少量含み、中礫の亜円礫を少量含む。土器片あり。
2. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを非常に多く含み、風化した中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を極少量含む。
4. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含む。炭化物を極少量含む。
5. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト層 細礫を少量含む。地山。



1. 10YR3/1 黒褐色 極細粒砂質シルト層 褐色・にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを少量含む。柱抜きとり痕か。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。

第 16-1 図　大畑遺跡 440SI 遺構図 1（S=1/50）



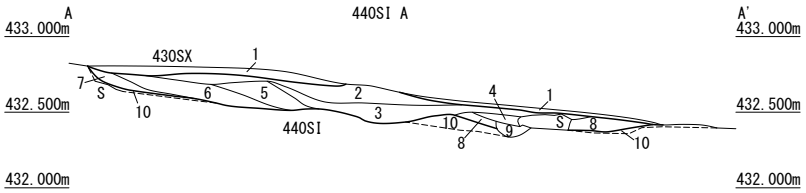
第 16-2 図　大畑遺跡 440SI 遺構図 2（S=1/50）

けられたのが 871SL である。871SL は 362SI に属する。これに伴う柱穴は 800SL に伴う柱穴よりも径が小さな 866SP、1042SP、1043SP、1044SP である。それぞれの石囲炉に伴う柱穴が存在することから、800SL 段階の建物 360SI は一旦廃絶し、871SL と共に新たな柱穴を用いた建物が再度構築されたことが想定される。362SI 掘削中に断面において確認された焼土層 600SL は当初炉跡と推定したが、結果的には 871SL の焼土を西側に掻き出したものと考えられる。この焼土層が 800SL の上位に堆積していることからも 800SL が 871SL よりも先行した炉跡であることが確認できる。

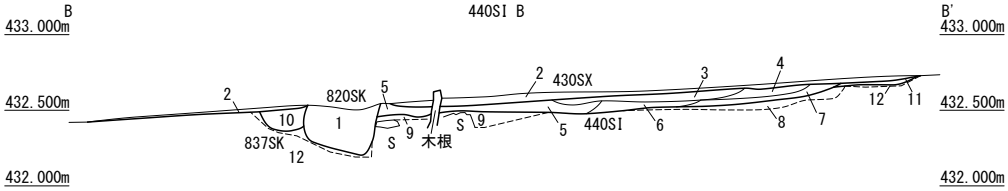
周溝 1017SD、1018SD、1019SD、1020SD、1025SD はほぼ底面全周に巡り、南西と北西で一部途切れる。362SI の断面で確認された埋没状況から、これらの周溝は 360SI に属す 800SL 使用時の初期段階のものと考えられ、前述の 600SL の焼土堆積状況と合わせて 871SL 段階では底面が数 cm 高い位置で使用され、周溝は掘削されていなかったと考えられる。

370SX（第 14 図）

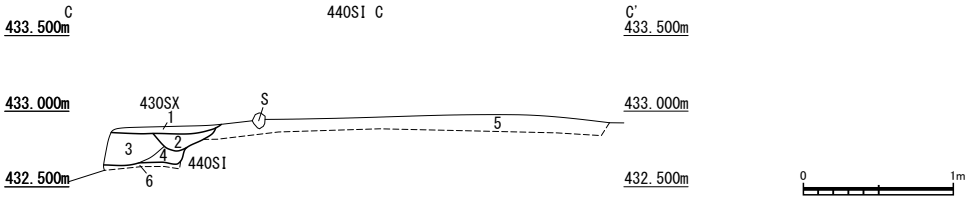
竪穴状遺構 370SX。平面形は隅丸長方形で長径 5.4m、短径 4.2m を測る。壁溝に相当する小溝が一部にみられ、底面の一部で焼土塊が検出されている。遺物は石鏃 1 点（S-97）、剥片 1 点（S-98）



1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む。430SX
2. 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色 暗褐色シルトブロックを含み、にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。
4. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを非常に多く含む。
5. 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含み、細礫を少量含む。炭化物を少量含む。
6. 10YR3/1 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを非常に多く含み、褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を含む。
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を少量含む。
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。
9. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む。
10. 10YR5/6 黄褐色 粘質シルト層 細礫・中礫の亜円礫を含む。地山。



1. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含み、にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。820SK
2. 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。430SX
3. 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。
4. 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含み、暗褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。
5. 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを含み、にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。
6. 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。
7. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含み、褐色シルトブロックを含む。
8. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含み、黒褐色シルトブロックを少量含む。
9. 10YR3/4 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを非常に多く含む。
10. 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを多く含む。837SK
11. 10YR4/6 褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。
12. 10YR5/6 黄褐色 粘質シルト層 細礫・中礫の亜円礫を含む。地山。



1. 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。430SX
2. 10YR4/6 褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。
3. 10YR3/1 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを非常に多く含み、褐色シルトブロックを少量含む。
炭化物を含む。セクションAの6層に相当。
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を少量含む。セクションAの7層に相当。
5. 10YR6/6 褐色 粘質シルト層 黒褐色シルトブロックを少量含む。地山上層。
6. 10YR5/6 黄褐色 粘質シルト層 細礫・中礫の亜円礫を含む。地山。

第 16-3 図　大畑遺跡 440SI 遺構図 3（S=1/50）

を図化した。 明確な時期は確定できないが縄文時代の竪穴建物跡の可能性もある。

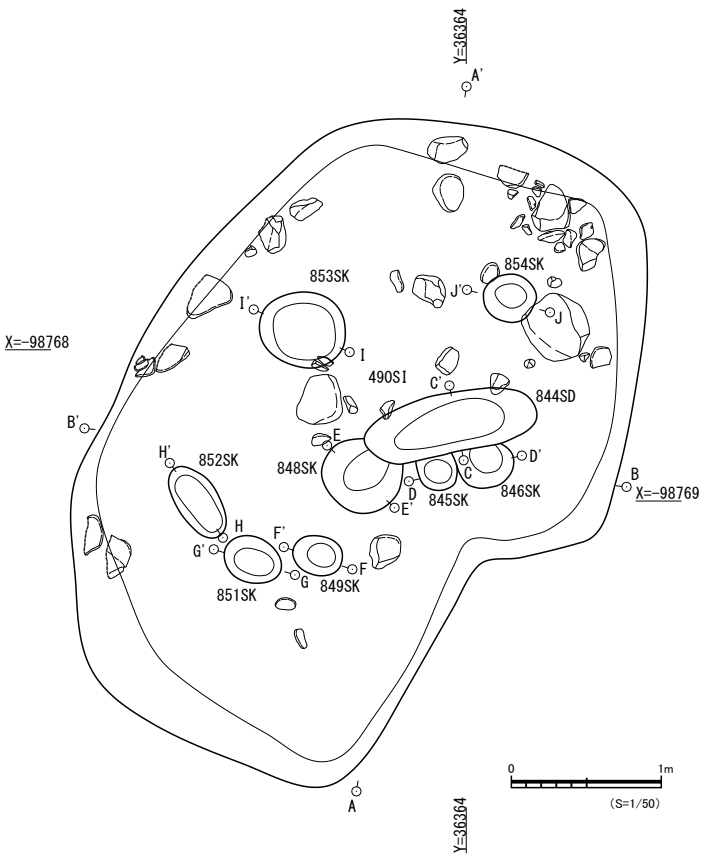
420SI・700SI・890SI・1000SI・1030SI（第 15-1 ～ 3 図）

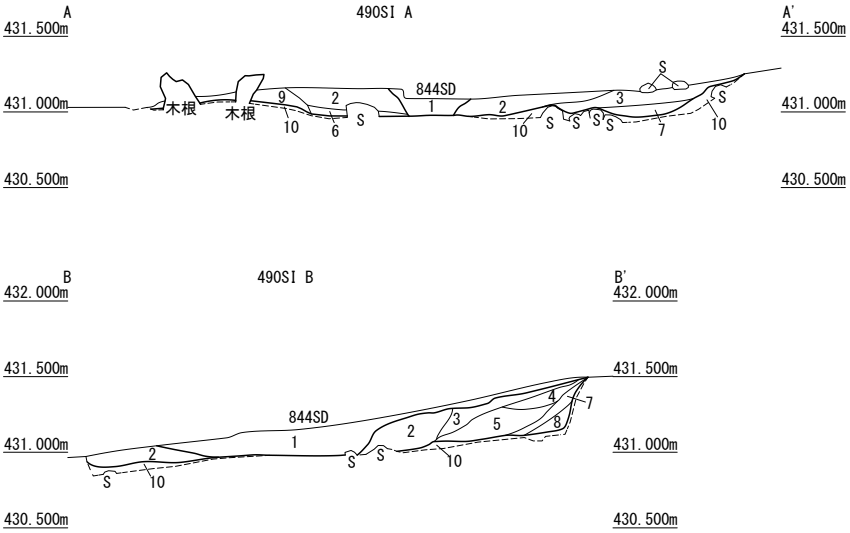
420SI は一辺約 3.3m、方形の掘方をもつ竪穴建物跡である。遺構検出面からの深さは 0.3m。壁溝等、この遺構に伴う底面の遺構は見られない。断面観察から 890SI や 1030SI の埋没後に再掘削し、構築された可能性が高い。

700SI は残存長 3.0m を測る、南北方向に楕円形もしくは隅丸方形を呈する竪穴建物跡である。深さは浅く、遺構面より 0.1m 程度である。

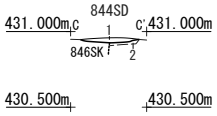
1000SI との直接的な切り合いは確認できず、420SI、890SI、1030SI によって北半部を欠損し、これらに先行する時期の遺構と考えられる。

890SI は推定直径 3.3m の円形の掘方をもつ竪穴建物跡である。遺構検出面からの深さは 0.35m。

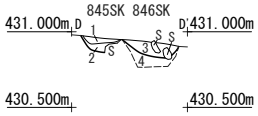




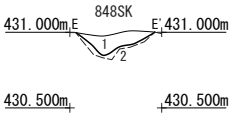
1. 10YR3/4 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含み、風化した中礫の亜円礫・細礫を少量含む。炭化物含む。844SD
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含み、細礫を少量含む。径15cm以下円礫含む。石器剥片(溶結凝灰岩)含む。
3. 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロック、細礫を含む。炭化物を極少量含む。
4. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含む。炭化物を極少量含む。
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 細礫を含み、褐色シルトブロックを少量含む。下半部で炭化物多く含む。
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを少量含み、細礫を少量含む。
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 細礫を少量含む。炭化物含む。
8. 10YR4/4 褐色 極細粒砂質シルト層 黄褐色シルト小ブロック、細礫を少量含む。
9. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 細礫を含み、中礫の亜円礫、褐色シルトブロックを少量含む。
10. 10YR5/6 黄褐色 極細粒砂質シルト層 細礫を多く含み、大礫の亜円礫を含む。地山。



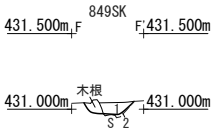
1. 10YR4/6 褐色 極細粒砂質シルト層 黄褐色シルトブロック、細礫を含む。
2. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト層 細礫を少量含み、中礫の亜円礫を含む。地山。



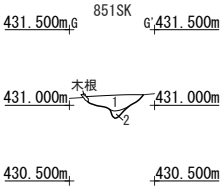
1. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含み、細礫を含む。845SK。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 細礫を多く含み、にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。845SK。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロック、細礫を含み、大礫の円礫を少量含む。846SK。
4. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト層 細礫を少量含み、中礫の亜円礫を含む。地山。



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 中礫の亜円礫・細礫を少量含む。炭化物を極少量含む。
2. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト層 細礫を少量含み、中礫の亜円礫を含む。地山。

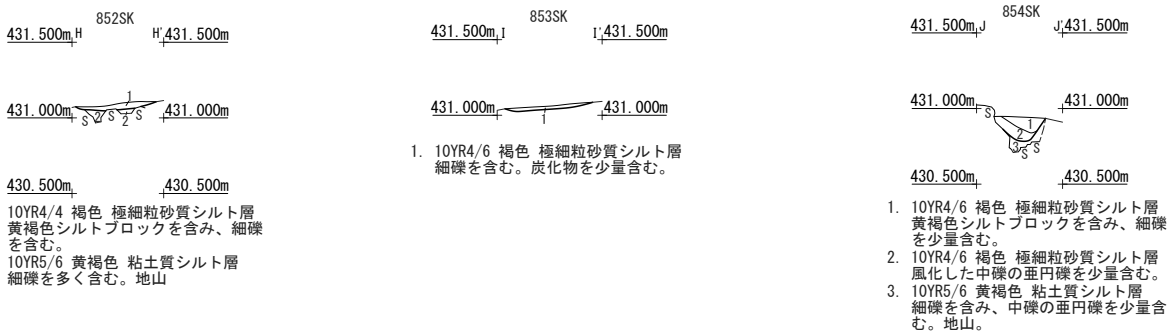


1. 10YR4/6 褐色 極細粒砂質シルト層 黄褐色シルトブロックを少量含み、細礫を少量含む。炭化物を極少量含む。
2. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト層 細礫を少量含み、中礫の亜円礫を含む。地山。



1. 10YR4/6 褐色 極細粒砂質シルト層 細礫を含み、黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を極少量含む。石器剥片(凝灰岩)含む。
2. 10YR4/6 褐色 極細粒砂質シルト層 細礫を多く含む。

第 17-1 図　大畑遺跡 490SI 遺構図 1 (S=1/50)



第 17-2 図　大畑遺跡 490SI 遺構図 2（S=1/50）

掘方の北側は 420SI による掘削にて欠損し、南側の掘方を残存する。底面には円形に巡る壁溝が存在する。小規模な土坑も周溝内に位置することから、底面で検出されている遺構は 890SI に帰属する可能性がある。時期は 420SI に先行する。

1000SI は一辺約 3.6m の方形の掘方をもつ竪穴建物跡である。420SI 他の重複する竪穴建物跡の中では最も北に位置する。遺構面からの深さは深い部分でも 0.1m 程度である。南端部は直接的には 890SI によって欠損している。北辺で検出されている底面は他より浅く、1030SI によって切られる。他の遺構に先行して構築されていたと考えられる。

1030SI は一辺約 3.6m の推定隅丸方形の掘方をもつ竪穴建物跡である。遺構内の多くは 420SI や 890SI によって欠損、北側と東西の掘方が残存し、南側の掘方は 890SI によって欠損する。

440SI（第 16-1 ～ 3 図）

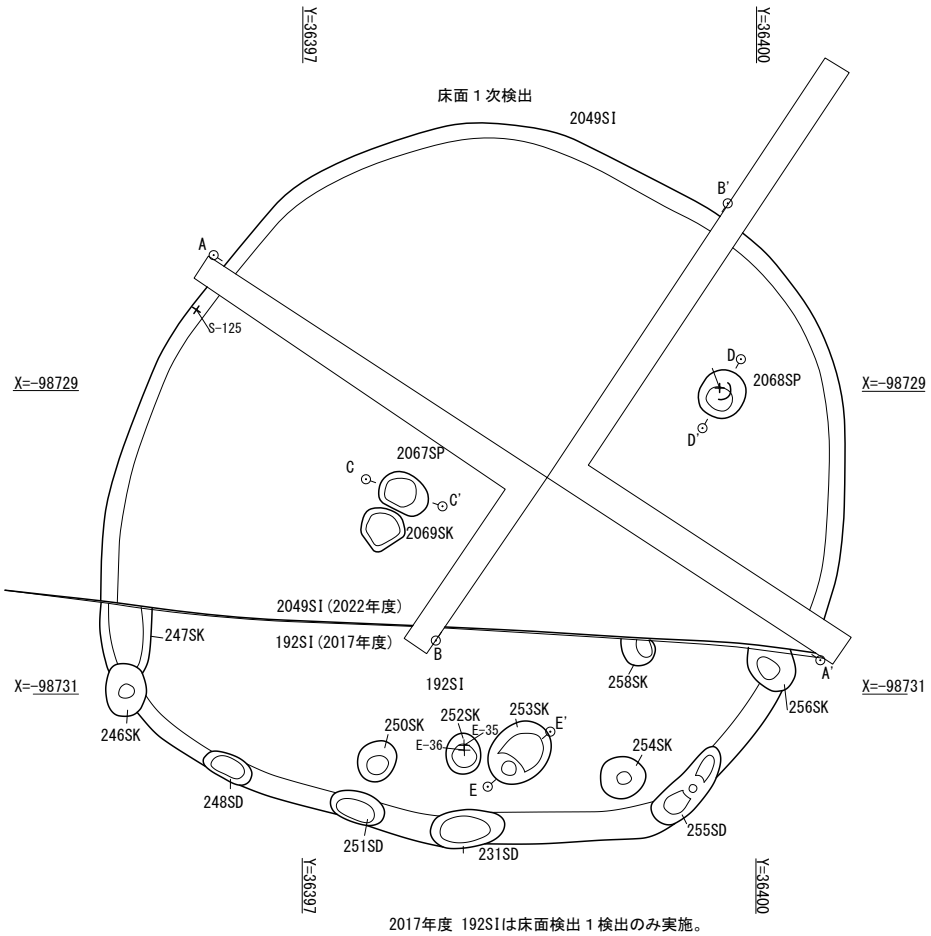
竪穴建物跡 440SI は、谷地形西側の尾根上平坦面（標高約 433m）に位置する。平面形はやや歪な六角形であり、長径 3.8m を測る。遺構検出面からの深さは最大で約 0.3m である。壁溝はなく、主柱穴を特定しにくいが、壁に沿って 8 基のピットが検出されており、これが関係しているものと考えられる。また当該遺構では炉も検出されず、焼土や炭化物の出土も少ない点が特筆される。遺物は埋土中から縄文土器が出土している。時期は諸磯 C 式に比定される。

490SI（第 17-1 ～ 2 図）

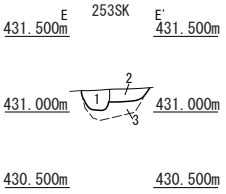
竪穴建物跡 490SI は、440SI の東側斜面を下った標高約 432m に立地する。平面形は楕円形に近い隅丸長方形で長径 4.0m、短径 3.3m を測る。遺構検出面からの深さは最大で約 0.4m である。壁溝や炉はなく主柱穴は特定し難い。遺物は押型文のある縄文土器破片が 1 点のみ（E-34）検出されている。石器は 4 点（S93 ～ 96）を掲載した。内 1 点は細石刃の可能性も考えられるが、490SI の立地が斜面の下位に位置することを考慮すると、押型文土器と共に、埋没時に斜面上から混入した可能性があり、これらの遺物を 490SI の時期と断定することは難しい。

2049SI・192SI（第 18-1 ～ 3 図）

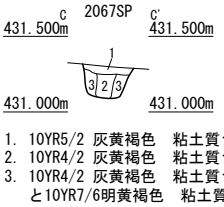
192SI は B 区北端で検出された竪穴建物跡である。調査区北へ残存部分が連続し、現状では南辺部分が検出された状態。遺構検出面からは非常に浅く、周溝の底部や小規模な土坑が検出された。断面では遺構の深さも 0.1m 程度が確認できるのみである。遺物は黒曜石や白色風化石材等の剥片が検出された。2017 年度の検出中に出土した土器破片（E-35・36）は山田平式に比定され、類例は岐阜県上矢作町門野遺跡に見られる。



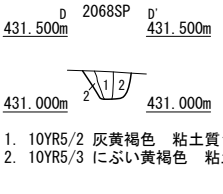
2017年度 192SIは床面検出１検出のみ実施。
(遺構番号2000番台は2022年度調査)



1. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層褐色シルトブロックを多く含み、にぶい黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層褐色シルトブロックを含み、暗褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。
3. 10YR5/6 粘土質シルト層 細礫を少量含む。地山。

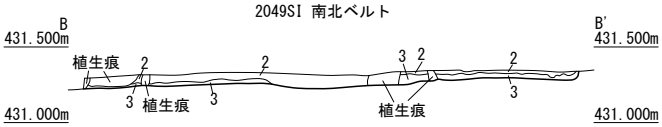


1. 10YR5/2 灰黄褐色　粘土質シルト
2. 10YR4/2 灰黄褐色　粘土質シルト
3. 10YR4/2 灰黄褐色　粘土質シルト
と10YR7/6明黄褐色　粘土質シルトの斑土

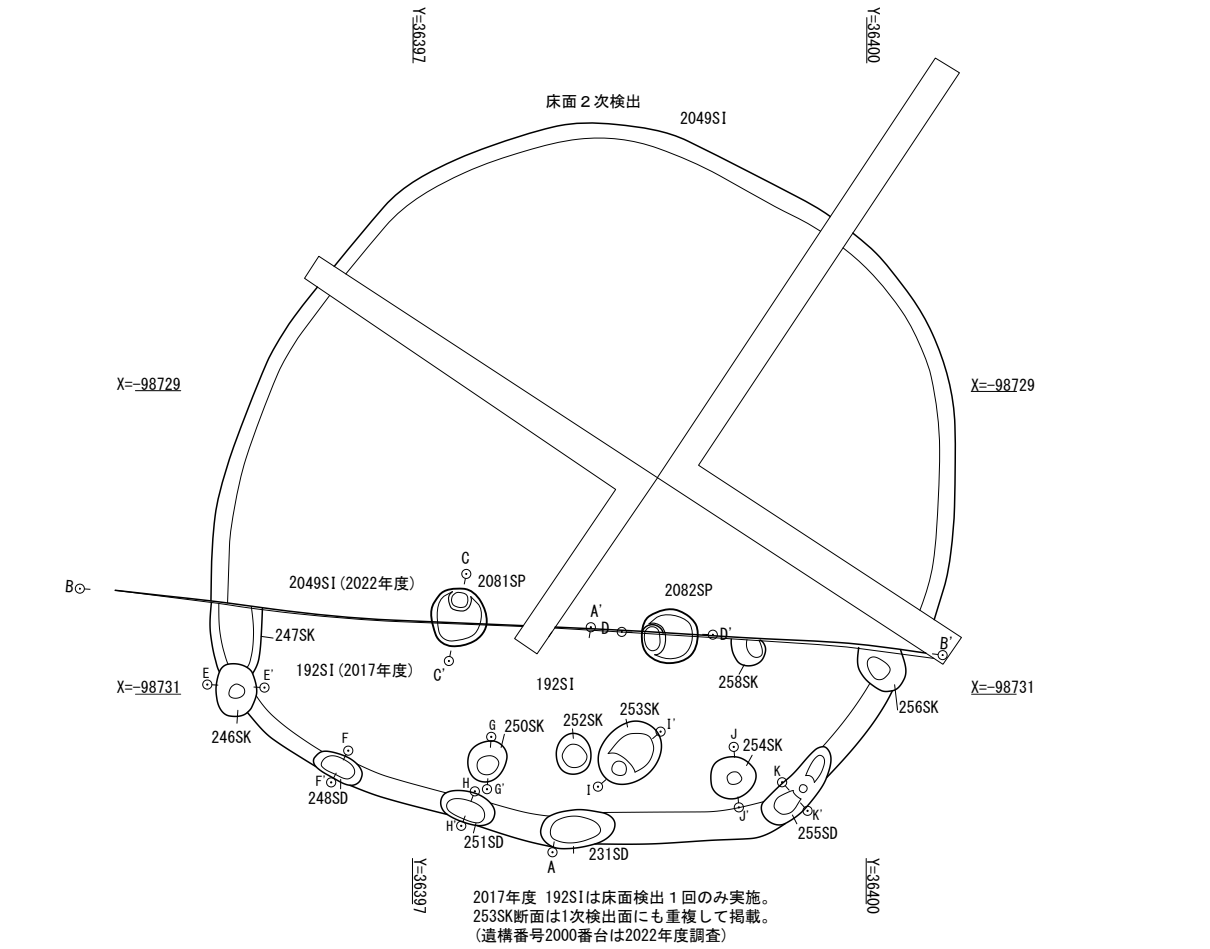


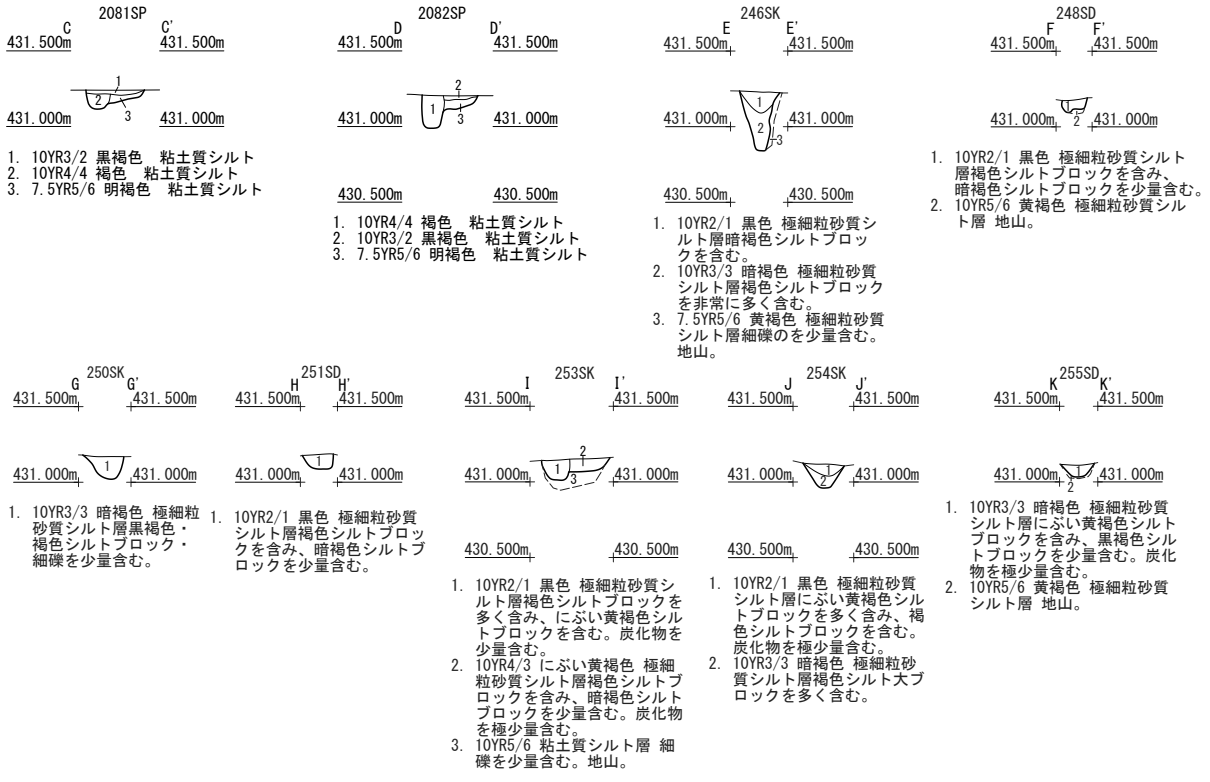
1. 10YR5/2 灰黄褐色　粘土質シルト
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色　粘土質シルト

1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　粘性あり
2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粘性あり
3. 10YR3/3 暗褐色シルト　粘性あり

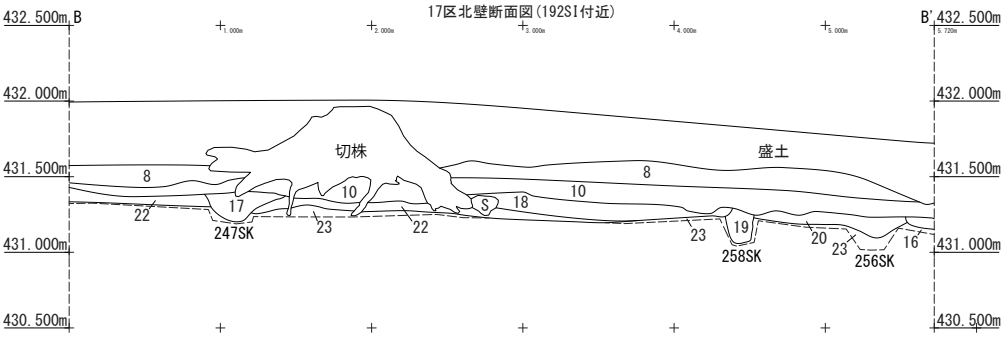


第 18-1 図　大畑遺跡 2049SI 192SI 遺構図１（S=1/50）

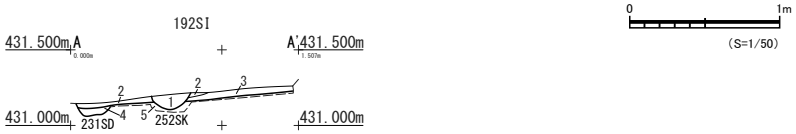




第 18-2 図　大畑遺跡 2049SI 192SI 遺構図２（S=1/50）



8. 10YR3/1 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルト小ブロックを少量含む。
9. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを少量含む。
10. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを少量含む。
16. 10YR1.7/1 黒色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルト層との混土。
17. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含み、褐色シルトブロックを含む。247SK。
18. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを少量含む。
19. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 黒褐色シルトブロックを含み、褐色シルトブロックを含む。258SK。
20. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含み、にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。256SK。
22. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 褐色シルト層との混土層。
23. 10YR5/6 黄褐色 極細粒砂質シルト層 細礫を含み、中礫の亜円礫を少量含む。地山。



1. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 褐色シルト小ブロックを含む。炭化物を少量含む。
2. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を極少量含む。
3. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含み、黒褐色シルトブロックを少量含む。
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを少量含み、褐色シルトブロックを少量含む。
5. 10YR5/6 黄褐色 極細粒砂質シルト層　地山。

第 18-3 図　大畑遺跡 2049SI 192SI 遺構図 3（S=1/50）

2057SI（第 20 図）

2057SI は 22A 区中央付近に位置する竪穴建物跡。長軸 3.43m、単軸 3.17m、深さ 0.11m を測る。

柱痕跡の確認された柱穴は 2071、2072SP の 2 基がある。中央の 2073SK は位置から炉跡が推定されるが、焼土や炭化物は検出されていない。出土遺物は図化できるものはなかった。

2062SX

2062SX は 22A 区の中央付近、2057SI の南側に位置する長方形を呈する遺構である。長軸 5.30m、単軸 3.49m、深さ 0.08m である。明確な柱穴や炉跡が検出されておらず、遺構、遺物の状況から竪穴建物跡等とは考えがたく、作業場等が想定される。

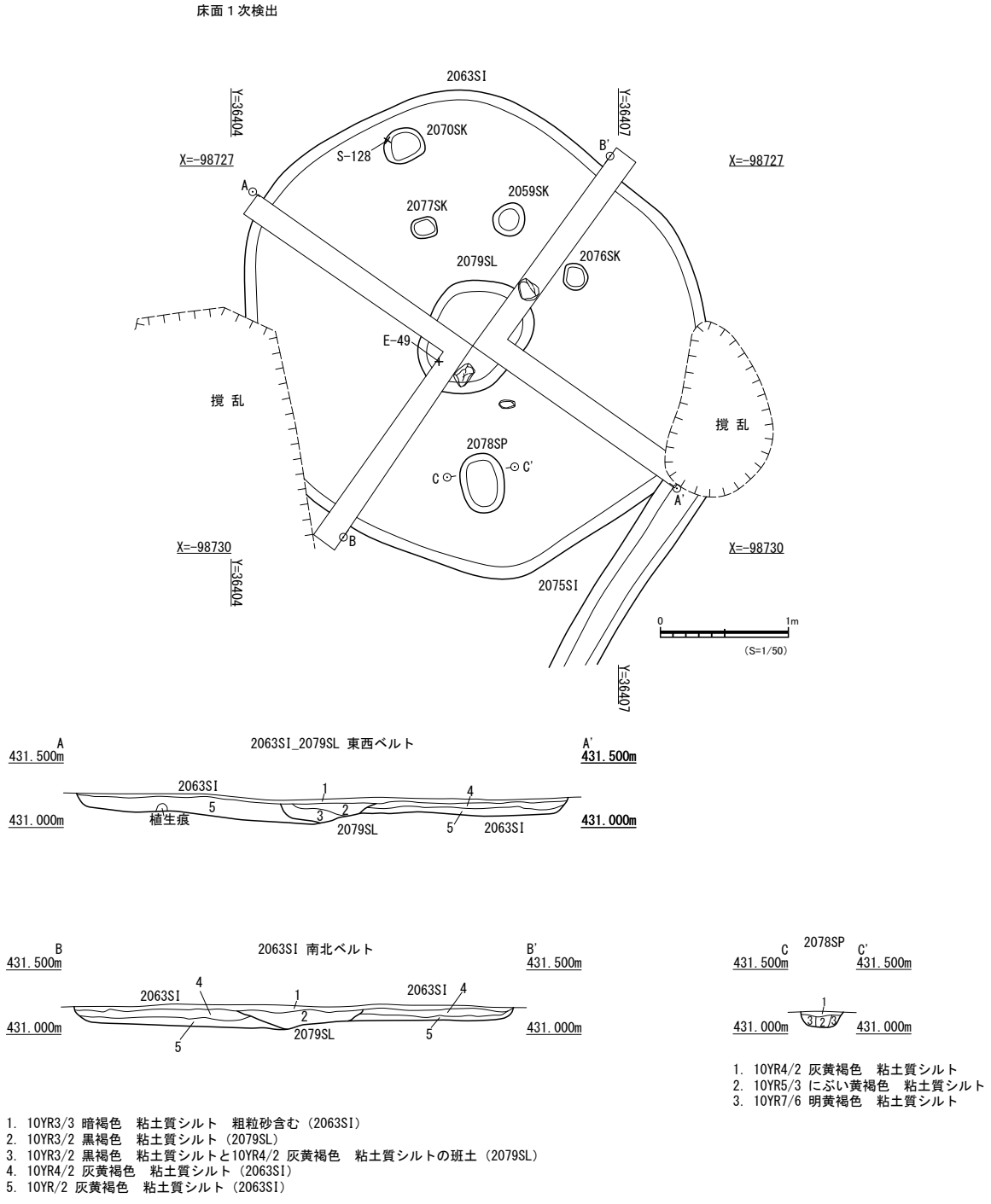
出土遺物は石器剥片 55 点、土器破片 4 点が検出された。土器の時期は不明。石鏃 1 点（S-127）を図化した。

2063SI（第 19-1・2 図）

22A 区中央南側に位置する、隅丸方形もしくは多角形を呈する竪穴建物跡。長軸 3.77m、単軸 3.42m 深さ 0.19m を測る。南東に 2075SI がわずかに重複して隣接する。切り合い関係は明確でないものの、2063SI が先行すると考えられる。

中央の 2079SL は床面 1 次検出により検出され、位置から炉跡と推定した。焼土や炭化物は検出できていない。柱穴は比較的柱痕跡の明瞭なものとして，床面 1 次検出では 2078SP、床面 2 次検出では 2085、2086SP がある。2078SP と 2086SP は検出面の標高差があるものの一部が重複するため、これを考慮すると 2063SI は複数回の改築が行われた可能性がある。

出土遺物は、土器 2 点（E-48・49）、石器 1 点（S-128）を図化した。土器は清水ノ上Ⅱ式期に比定され、縄文時代前期中葉と考えられる。



第 19-1 図　大畑遺跡 2063SI 遺構図１（S=1/50）

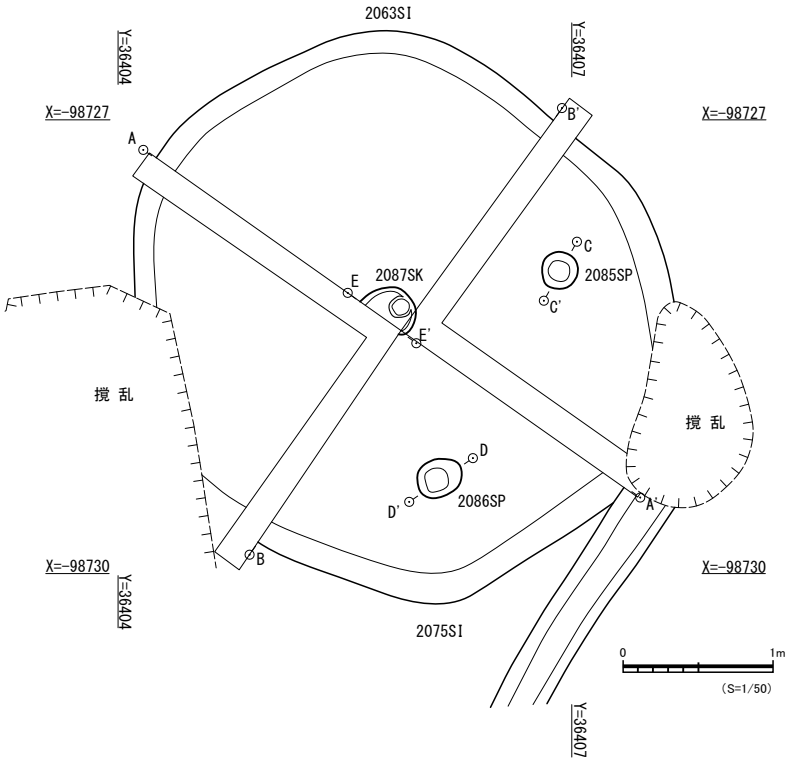
2075SI/2066SI（第 21-1 ～ 2 図）

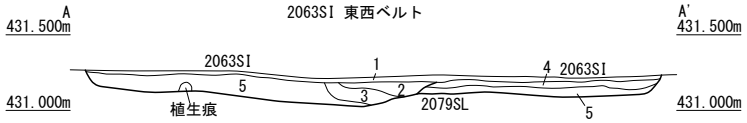
2075SI は 22A 区南端に位置する竪穴建物跡。2063SI と西辺を接する。切り合いは明確ではないものの、2075SI が後続すると考えられる。さらに 1 次床面検出時に検出された 2066SI が切り合い関係で後続する。2074SP も 2066SI に属する。

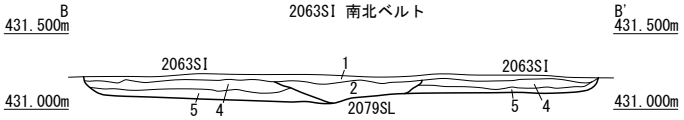
2075SI に属する明確な柱穴は 2 次床面検出次に検出された、2080、2083、2084SP がある。

1 次床面で検出された炉跡 2046SL は焼土・炭化物を包含し、切り合い関係で 2075SI に後続する。2066SI とも近接するため、いずれの竪穴建物跡にも属さない可能性がある。これら以外の未検出の竪穴建物跡、もしくは屋外炉を考慮すべきであろう。同様に 2088SX も埋土の一部に焼土を包含する

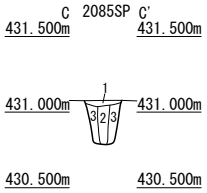
床面２次検出



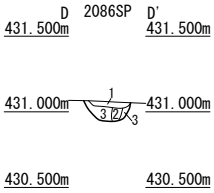




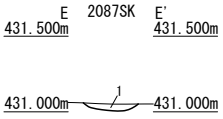
1. 10YR3/3 暗褐色　粘土質シルト　粗粒砂含む（2063SI）
2. 10YR3/2 黒褐色　粘土質シルト（2079SL）
3. 10YR3/2 黒褐色　粘土質シルトと10YR4/2 灰黄褐色　粘土質シルトの斑土（2079SL）
4. 10YR4/2 灰黄褐色　粘土質シルト（2063SI）
5. 10YR/2 灰黄褐色　粘土質シルト（2063SI）



1. 10YR4/1 褐灰色　粘土質シルト
2. 10YR4/2 灰黄褐色　粘土質シルト
3. 10YR7/8 黄橙色　粘土質シルト

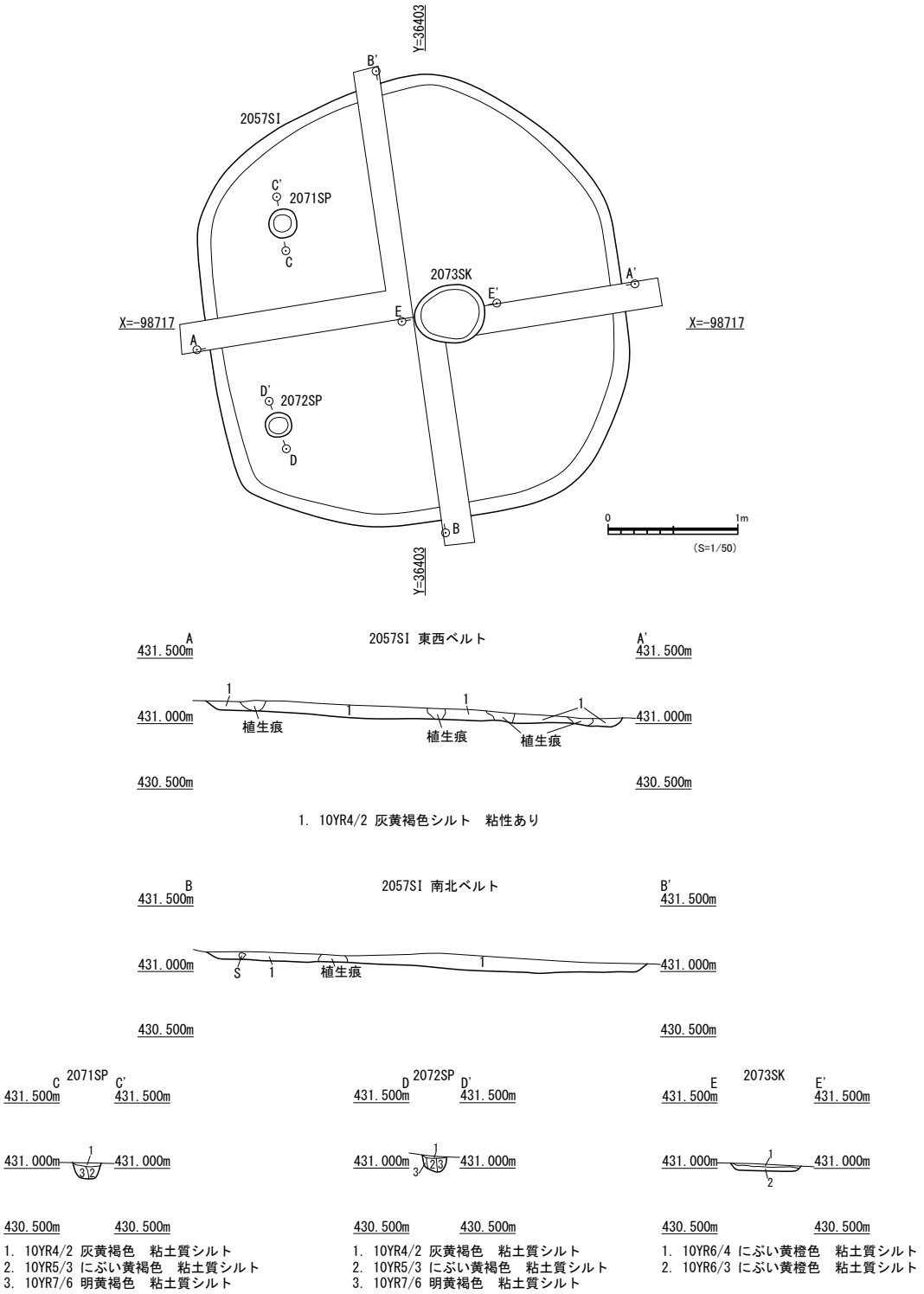


1. 10YR4/1 褐灰色　粘土質シルト
2. 10YR4/2 灰黄褐色　粘土質シルト
3. 10YR7/8 黄橙色　粘土質シルト



1. 10YR4/2 灰黄褐色　粘土質シルトと
10YR6/6 明黄褐色　粘土質シルトの斑土

第 19-2 図　大畑遺跡 2063SI 遺構図２（S=1/50）

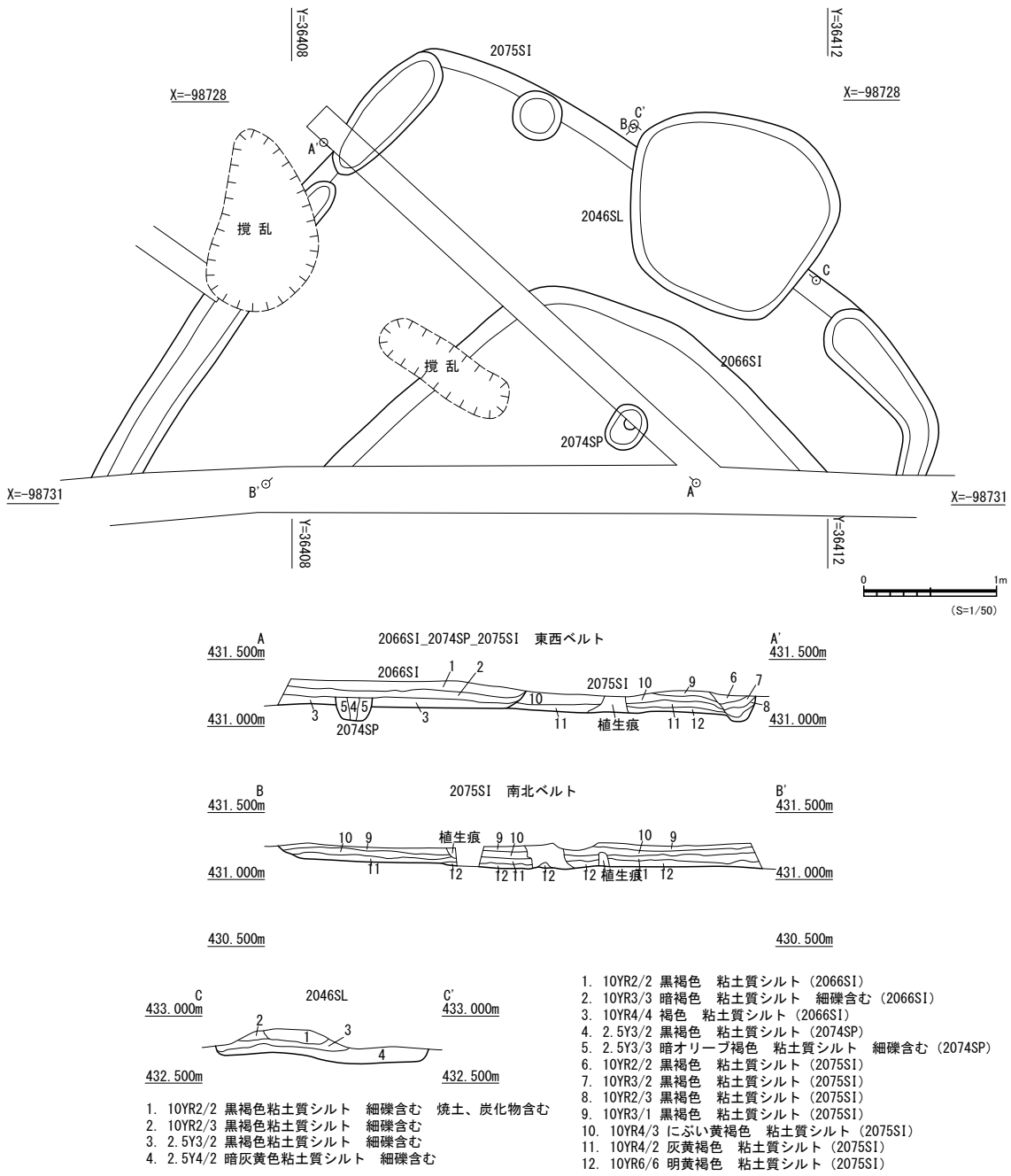


第 20 図　大畑遺跡 2057SI 遺構図（S=1/50）

ことから、2046SL に後続する可能性があり、これも他の竪穴建物跡に属する可能性がある。

これらの切り合い関係から、2066SI、2075SI 付近では最多で 4 基程度の竪穴建物等が重複した可能性もある。出土遺物は 2066SI から木島式土器の破片（E-50）が検出されており、縄文時代前期にあたる可能性があるが、前述の通り 2075SI とも重複することから、どちらかの遺構に属するものとしておきたい。

なお、2075SI、2066SI は 22A 区のみで検出された遺構であり、2017 年度に南側の隣接部分を調査



第 21-1 図 大畑遺跡 2075SI 遺構図 1 (S=1/50)

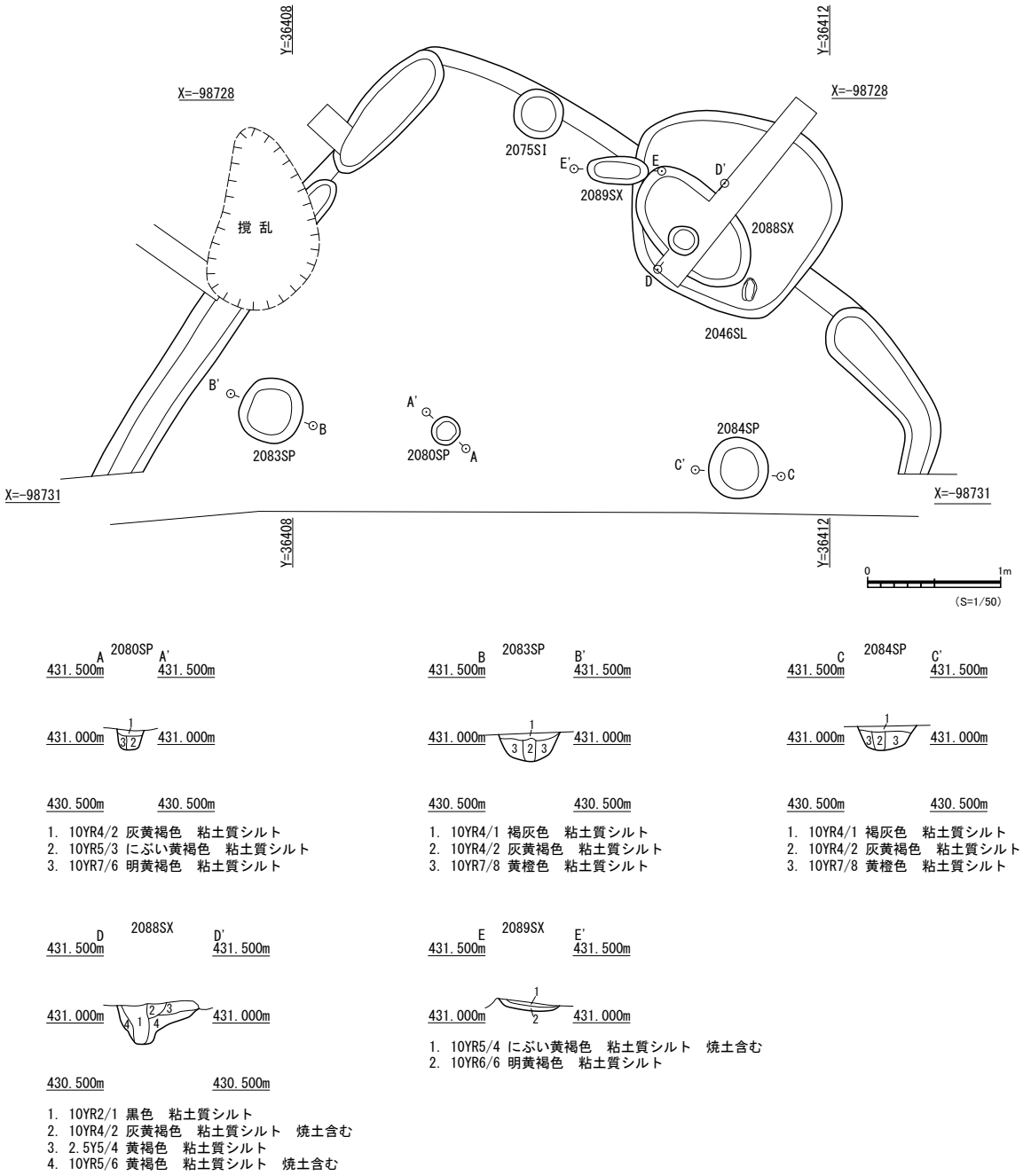
しているが、これらに連続する遺構は検出されていない。遺物の検出量から見ても遺構の存在は明らかであり、2017 年度の調査では検出できていなかった可能性がある。

2004SK（第 22 図）

2004SK は、22B 区で検出された土坑である。深さは浅く、上部は削平されていると考えられるが、土器片多数が検出された。その内 E-53 ～ 64 を図化した。破片から推定される土器は 3 個体程度で、これらの土器はすべて木島式 4 期に比定される。縄文時代前期とみられる。

2005SK（第 23 図）

2005SK は、22B 区で検出された土坑である。多数の礫や炭化物を包含していた。図化を行った遺



第 21-2 図　大畑遺跡 2075SI 遺構図 2（S=1/50）

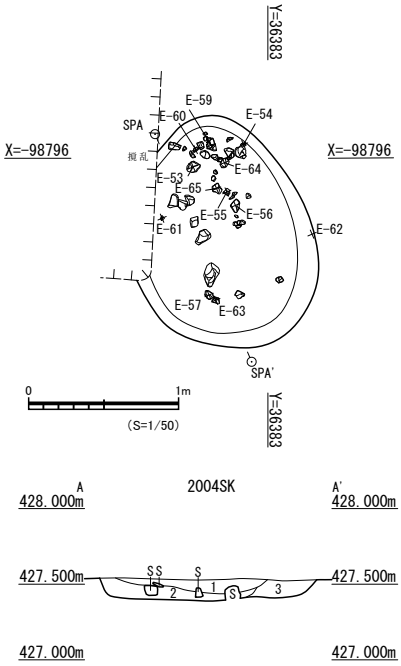
物は無いが、埋土 65 袋を土壌洗浄し、検出された炭化物 3 点の年代測定を実施した。縄文時代中期前半の遺構と考えられる。同じく土壌洗浄資料より炭化種実の分析も実施した。

175・230・365・885・886・950・964・985SK（17 区　第 24 ～ 31 図）

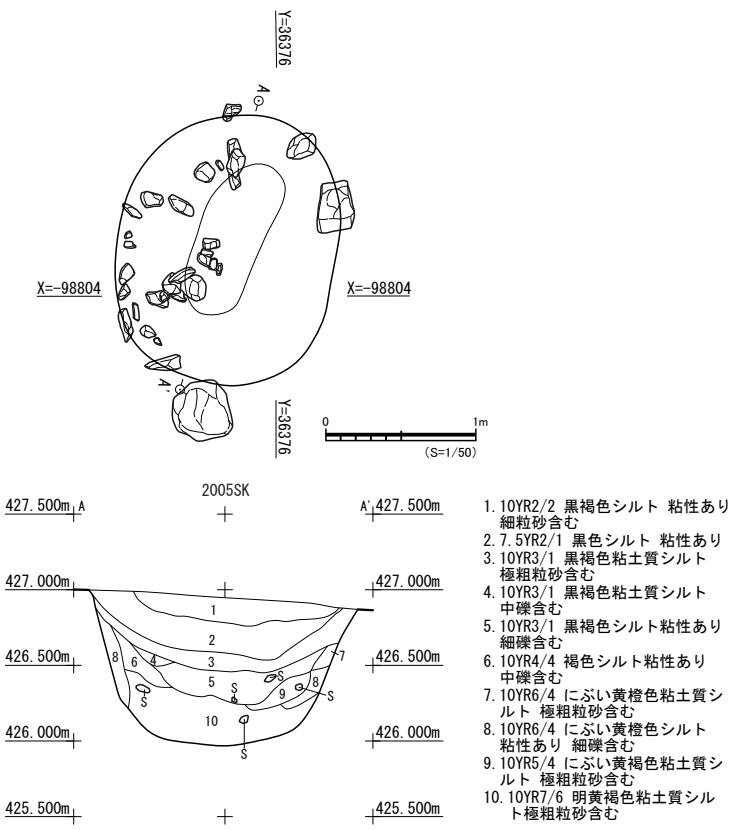
175・230・365・885・886・950・964・985SK は 17 区で検出された陥し穴と考えられる遺構。深さは最大で 1m を超えるものもある。遺物は出土しておらず、詳細な時期は不明。

2025・2065SK（22A 区　第 32・33 図）

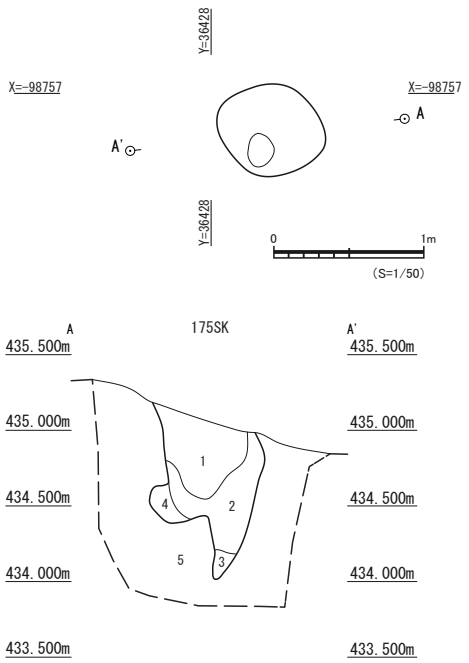
2025・2065SK も 22A 区で検出された陥し穴と考えられる遺構。時期の判別できる遺物の出土は無く、詳細な時期は不明。



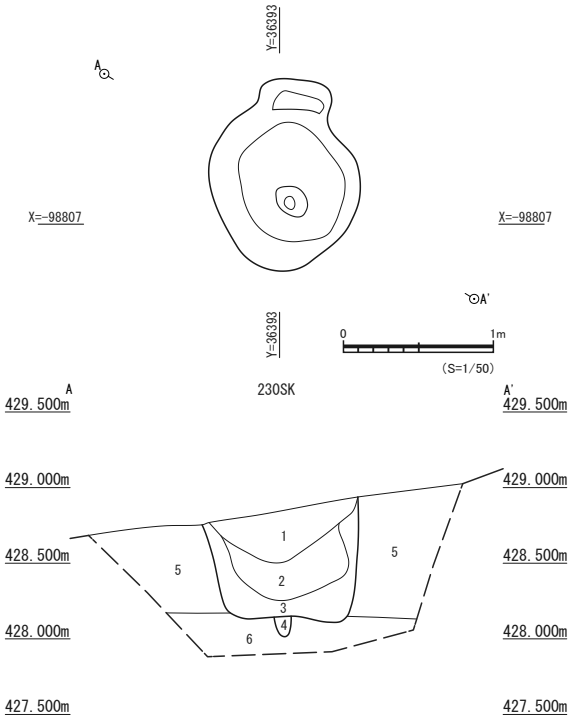
第 22 図　大畑遺跡 2004SK 遺構図（S=1/50）



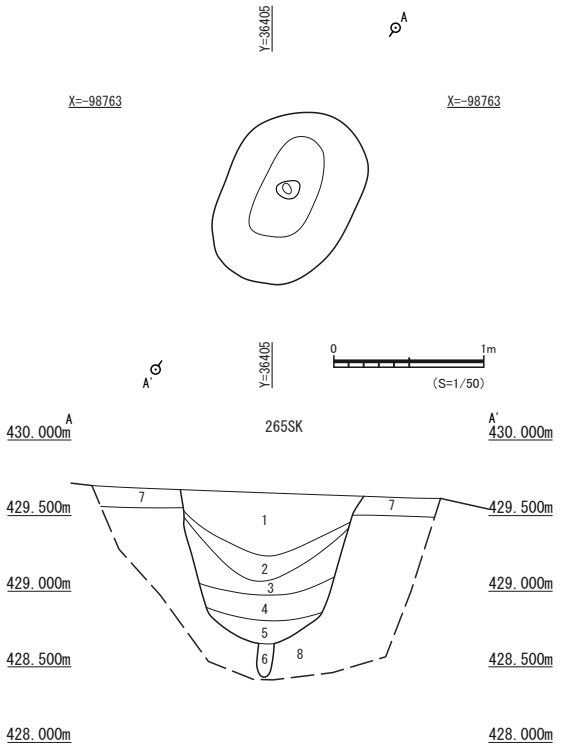
第 23 図　大畑遺跡 2005SK 遺構図（S=1/50）



第 24 図　大畑遺跡 175SK 遺構図（S=1/50）

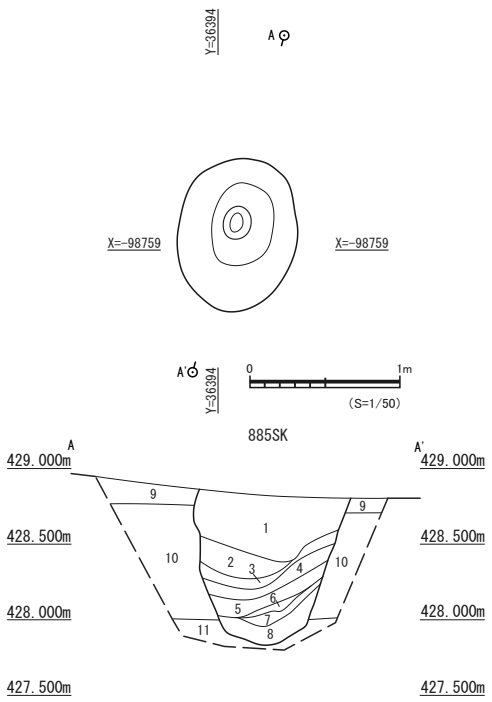


第 25 図　大畑遺跡 230SK 遺構図（S=1/50）



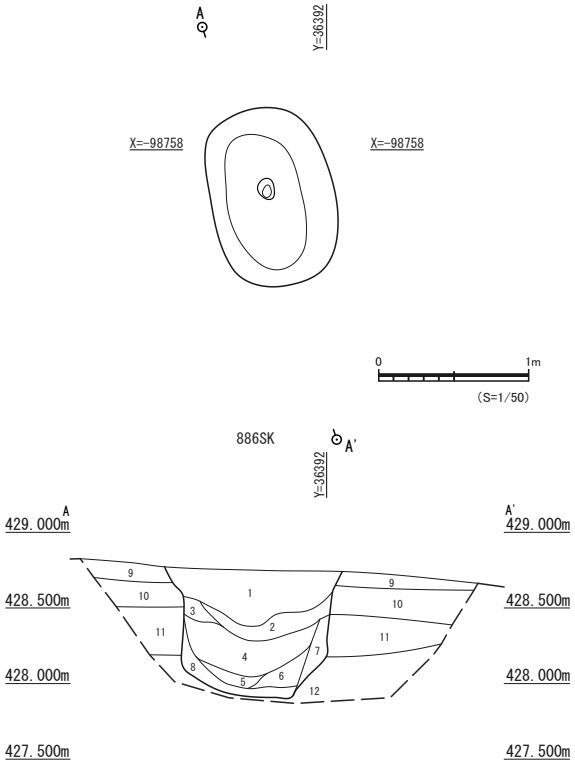
1. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを多く含み、にぶい黄褐色シルトブロックを含み、褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を含む。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含み、細礫を含む。炭化物を少量含む。
4. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含み、褐色シルトブロックを含み、にぶい黄褐色細粒砂ブロックを少量含む。炭化物を少量含む。
5. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを多く含み、にぶい黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色・褐色シルトブロックを含む。
7. 10YR4/4 褐色 粘土層 径20cm以下の円・角礫を含む。地山上層。
8. 10YR5/6 黄褐色 粘質シルト層 細礫を含む。下半部分は中礫の亜角礫を多く含む。地山。

第 26 図　大畑遺跡 265SK 遺構図（S=1/50）



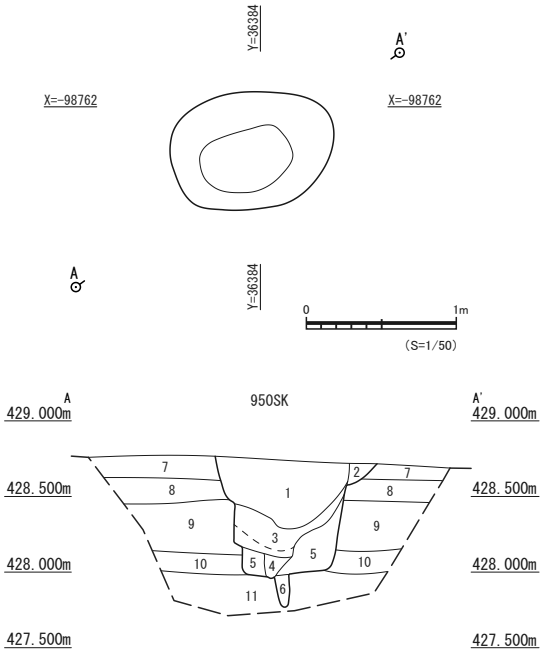
1. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを少量含み中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を含む。
2. 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含み、褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を少量含む。
3. 10YR3/4 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを非常に多く含み、暗褐色シルトブロックを少量含む。
4. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを含む。
5. 10YR3/4 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを非常に多く含み、暗褐色シルトブロックを少量含む。
6. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを含む。
7. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを含む。
8. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを非常に多く含み、にぶい黄褐色シルトブロック、中礫の亜円礫を少量含む。
9. 10YR4/4 褐色 粘土層 径20cm以下の円・角礫を含む。地山上層。
10. 10YR5/6 黄褐色 粘質シルト層 細礫を少量含む。地山。
11. 10YR8/3 浅黄橙色 粘土層 細礫を含む。地山。

第 27 図　大畑遺跡 885SK 遺構図（S=1/50）



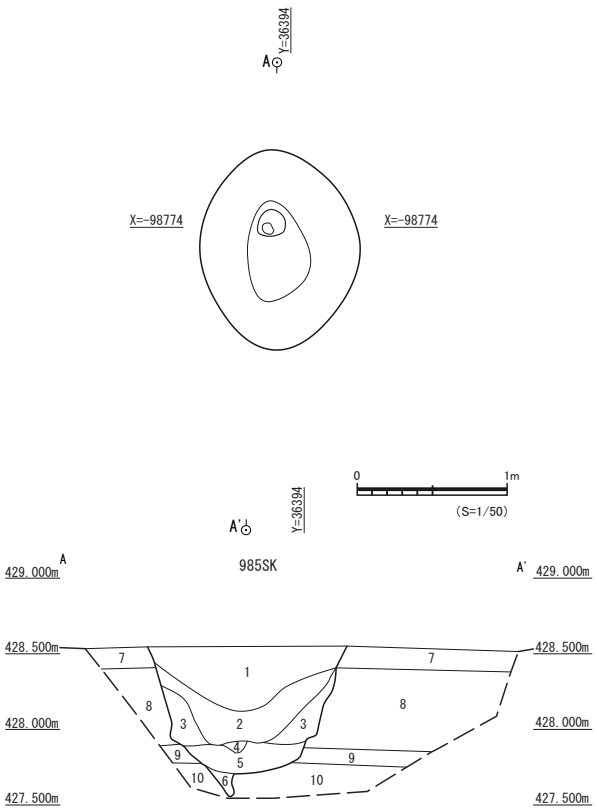
1. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 中礫のを少量含む。炭化物を少量含む。
2. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを多く含み、にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。
3. 10YR3/1 黒褐色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを多く含み、にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。
4. 10YR3/1 黒褐色 粘質シルト層 暗褐色・褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。
5. 10YR3/1 黒褐色 粘質シルト層 褐色シルトブロックを多く含む。炭化物を少量含む。
6. 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 細礫を含み、暗褐色・黄褐色シルトブロック・にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を少量含む。
7. 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロック、細礫を含み、暗褐色・黄褐色シルトブロックを少量含む。
8. 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロック、細礫を含み、黄褐色シルトブロック、中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を少量含む。
9. 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト層 細礫を少量含む。地山。
10. 10YR4/6 褐色 粘土質シルト層 細礫を少量含む。地山。
11. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト層 細礫を少量含む。地山。
12. 10YR5/6 黄褐色 中粒砂質細粒砂層 中礫の亜円礫を含み、細礫を少量含む。地山。

第 28 図　大畑遺跡 886SK 遺構図（S=1/50）



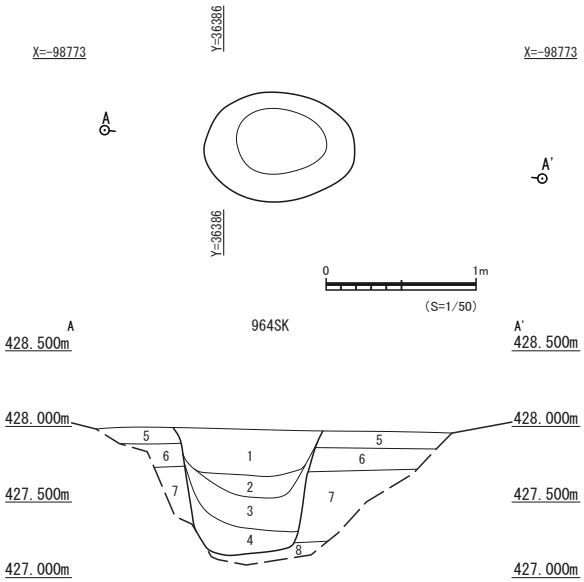
1. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 暗褐色シルトブロックを少量含み、中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を少量含む。
2. 10YR3/1 黒褐色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む。
3. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 暗褐色・にぶい黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を多く含む。破線部分に炭化物が集中。
4. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含み、褐色シルトブロックを含む。下部に中礫の亜円礫を少量含む。
5. 10YR3/4 暗褐色 極細粒砂質シルト層 黒褐色シルトブロックを含む。
6. 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト層
7. 10YR4/4 褐色 粘土質シルト層 細礫を少量含む。
8. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト層 細礫・中礫の亜円礫を少量含む。地山。
9. 10YR6/4 にぶい黄燈色 粘土質シルト層 細礫を少量含む。
10. 10YR6/6 明黄褐色 極細粒砂質細粒砂層 細礫を含み、中礫の亜円礫を含む。地山。
11. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含み、にぶい黄褐色シルトブロックを含む。

第 29 図　大畑遺跡 950SK 遺構図（S=1/50）



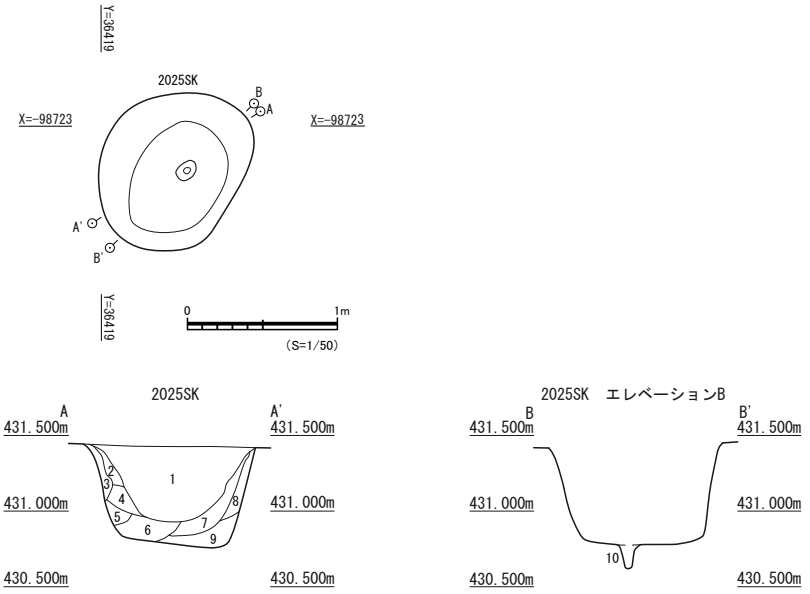
1. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 黒褐色シルトブロックを含み、中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を少量含む。
2. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 黒褐色シルトブロックを非常に多く含み、にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。炭化物を少量含む。
3. 10YR3/1 黒褐色 極細粒砂質シルト層 褐色シルトブロックを多く含み、黒色シルトブロックを含み、暗褐色シルトブロックを少量含む。
4. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含み、中礫の亜円礫を少量含む。
5. 10YR4/4 褐色 極細粒砂質シルト層 細礫を含み、大礫の亜円礫、褐色シルトブロックを少量含む。
6. 10YR5/4 にぶい黄褐色 極細粒砂質シルト層 細礫を含む。
7. 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト層 径20cm以下の円・角礫含む。地山。
8. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト層 細礫・中礫の亜円礫を少量含む。地山。
9. 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト層 径3cm以下の細礫含む。地山。
10. 10YR8/3 浅黄橙色 粘土層 細礫含む。地山。

第 30 図　大畑遺跡 985SK 遺構図（S=1/50）



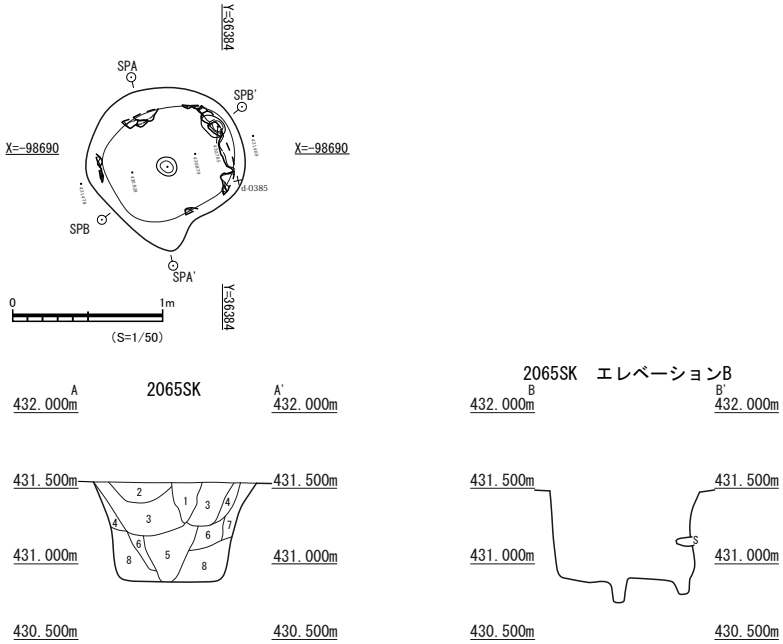
1. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 黒褐色シルトブロックを含み、中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を少量含む。
2. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 黒褐色シルトブロック、中礫の亜円礫を少量含む。
3. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 黒褐色シルトブロックを含み、にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。
4. 10YR2/1 黒色 極細粒砂質シルト層 黒褐色シルトブロックを含み、にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。
5. 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト層 細礫・大礫の亜円礫を少量含む。地山上層。
6. 10YR4/4 褐色 粘土質シルト層 地山。
7. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト層 細礫を少量含む。地山。
8. 10YR8/3 浅黄橙色 粘土層 細礫多く含む。湧水あり。地山。

第 31 図　大畑遺跡 964SK 遺構図（S=1/50）



1,10YR2/2 黒褐色シルト　粘性あり
2,10YR3/3 暗褐色シルト　粘性あり
3,7.5YR7/8 黄橙色シルト質粘土
4,10YR3/2 黒褐色シルト　粘性あり
5,10YR6/8 明黄褐色シルト　粘性あり
6,10YR3/3 暗褐色シルト　粘性ありと10YR6/6 明黄褐色シルトの班土
7,7.5YR2/2 黒褐色シルト　粘性あり
6,10YR2/3 黒褐色シルト　粘性あり
9,10YR3/4 暗褐色シルト　粘性あり
10,7.5YR1/4 褐灰色シルト質粘土

第 32 図　大畑遺跡 2025SK 遺構図（S=1/50）



1,10YR3/3 暗褐色　粘土質シルト
2,10YR4/3 にぶい黄褐色　粘土質シルト
3,10YR4/2 灰黄褐色　粘土質シルト　細礫含む
4,10YR5/6 黄褐色　粘土質シルト
5,10YR4/4 褐色　粘土質シルト　細礫含む
6,10YR6/6 明黄褐色　粘土質シルトと10YR5/4にぶい黄褐色　粘土質シルトの班土
7,10YR7/8 黄褐色　粘土質シルト　粗粒砂含む
8,10YR5/3 にぶい黄褐色　粘土質シルト

第 33 図　大畑遺跡 2065SK 遺構図（S=1/50）

第３章　遺　物

第１節　土器

（１）出土遺物の概要

大畑遺跡では 3341 点以上の土器・石器が出土した。このうち状態の良いものを図化した。出土遺物の時期は縄文時代前期・中期に該当するものが多くを占める。出土状況については、遺構やその周辺から出土したものが多数を占めるが、谷状地形内の堆積から出土した遺物量も一定の量が見られた。他方、急斜面や岩盤が露出した部分からの遺物出土量はごく少数であった。

これは大畑遺跡の堆積状況に関わるもので、遺跡が傾斜地に存在するため丘陵上位の土砂が流出し易く、特に丘陵上では他からの土砂流入が無く土砂が流出するのみであった。それにより遺構は削平され、遺構内部や遺構の近くの遺物のみが残存し、検出されたと考えられる。一方流出した土砂が谷状地形に滞留することで、一定の遺物出土量があったものと考えられる。

以下、遺構の順序に沿って出土土器を詳述する。

（２）遺構内出土の遺物

043SX 出土土器（E-1 第 34 図）

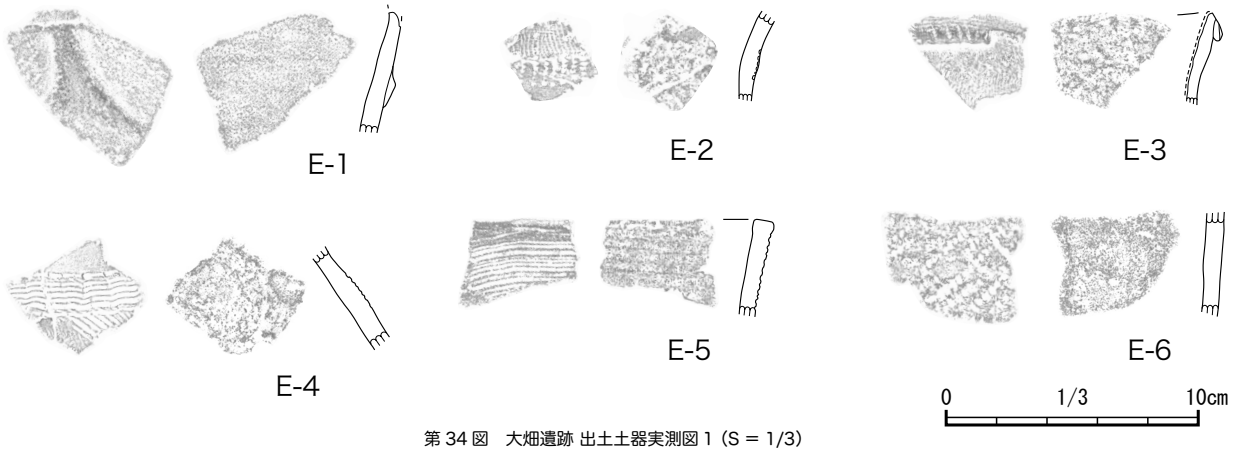
E-1 は 043SX より出土した土器である。平面的な貼付凸帯文の区画をもち、島崎Ⅲ式期に該当する。縄文時代中期後半にあたる。遺構については前述の通り、043SX は 065SI 内の堆積の一部と考えられ、副炉を持つ炉跡（187SL）との年代と矛盾しない。

176SK 出土土器（E-2 ～ 4 第 34 図）

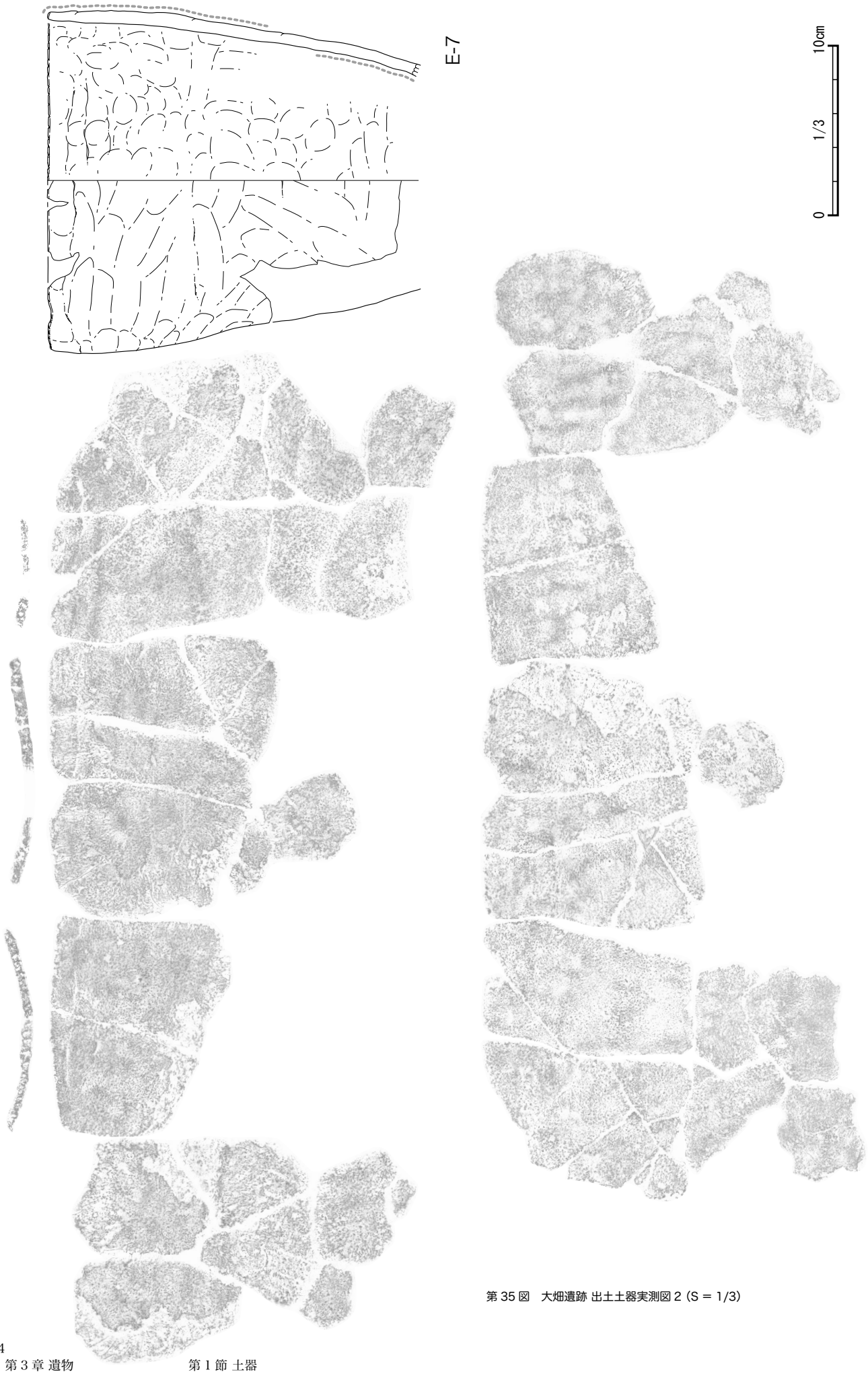
E-2 ～ E-4 は 176SK より出土した土器である。弥生時代中期に比定される。176SK は植生痕であったと推定されるが、100・101SX との切り合いでは新しい側に属するため、元は 100・101SX に包含されていた可能性もありうる。

056SX 出土土器（E-5 第 34 図）

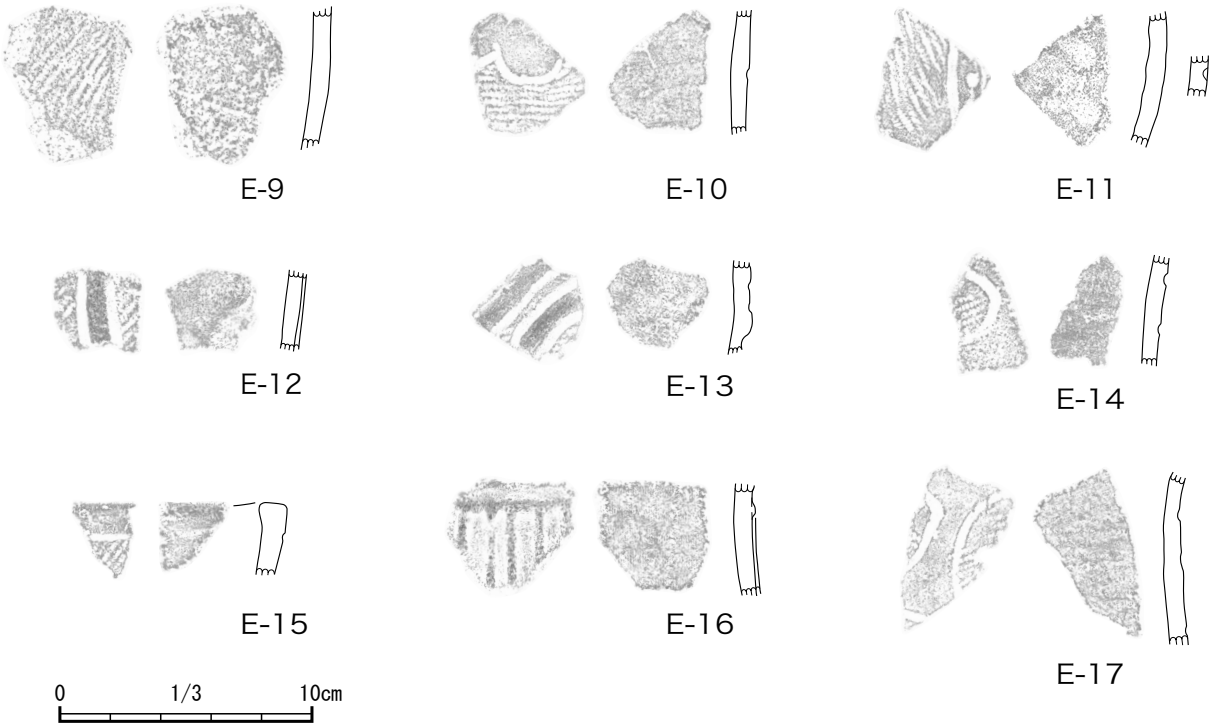
E-5 は 056SX より出土した伊川津ＩＢ式に属する。縄文時代晩期にあたる。056SX は 065SI の東北東、尾根筋の上位に近接する位置にあり、植生痕の可能性が高い遺構である。遺構の埋没時に混入した可能性も考慮したい。



第 34 図　大畑遺跡 出土土器実測図１（S ＝ 1/3）



第 35 図　大畑遺跡 出土土器実測図 2（S ＝ 1/3）



第 36 図　大畑遺跡 出土土器実測図 3（S ＝ 1/3）

310SI（460SU・461SK）出土土器（E-6 ～ 8 第 34・35・37・38 図）

E-6 は 310SI の埋土中から出土した鉢型土器破片。E7 ～ 8 は 310SI 内の遺物集積 460SU で 2 個体分の土器が重なるように検出されたものである。また E-8 の一部は 310SI 内の 461SK から出土したが 460SU 出土破片と接合した。E-7 は外面は無文の深鉢で内面に指頭痕が顕著に残る。E-8 は 4 単位の波状口縁に細めの隆帯が 2 条巡り、頂部で巻き込む外反口縁土器。内面の指頭痕が顕著に見られる点は E-7 と共通する。大麦田Ⅱ式に相当し、縄文時代前期後半に比定される。E-7 と E-8 が 460SU で共伴した出土状況であったことから、これらの時期決定、310SI の年代は E-8 に拠るものとしたい。

395SX 出土土器（E-9 第 36 図）

E-9 は 395SX より出土した。縄文土器であるが時期は不明。395SX は円状に浅く掘り窪められた遺構であるが、柱穴や炉跡は見られない。平坦に造成された痕跡に土器片や石器が混入したものか。

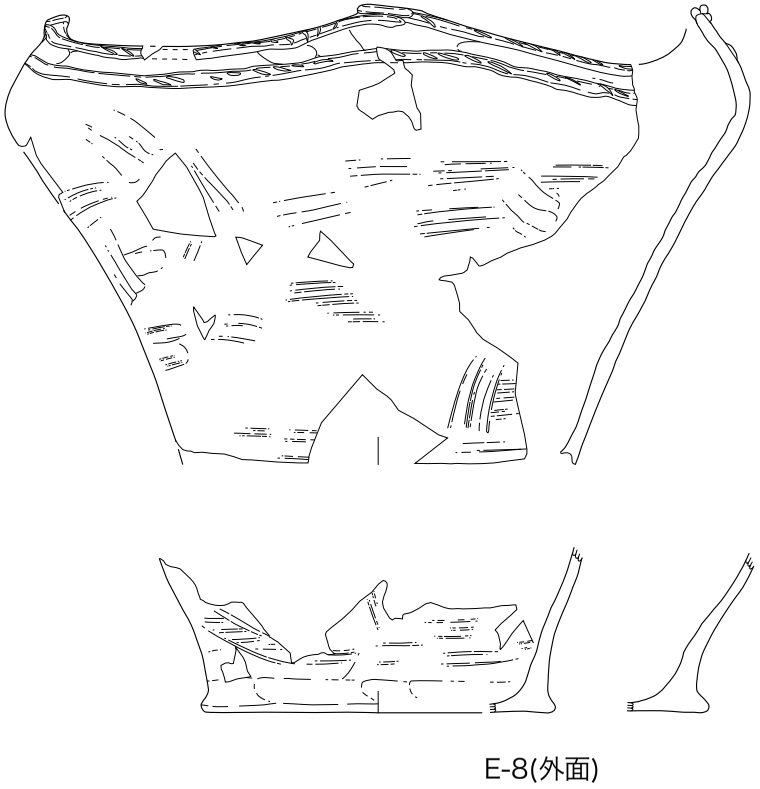
300SI（400SU）出土土器（E-10 ～ 19 第 36・39・41 図）

E-10 ～ E-17 は 300SI で、E-18・19 は 300SI 内の遺物集積 400SU で検出された。いずれも 300SI 出土土器として扱う。E-10 は外面に特徴的な J 字文が施される称名寺式に比定され、縄文時代後期初頭にあたる。E-11 ～ E15、E-17 も同様に称名寺式に比定される。E-16 は前田岩峅野式に比定され、時期は縄文時代中期後半にあたる。

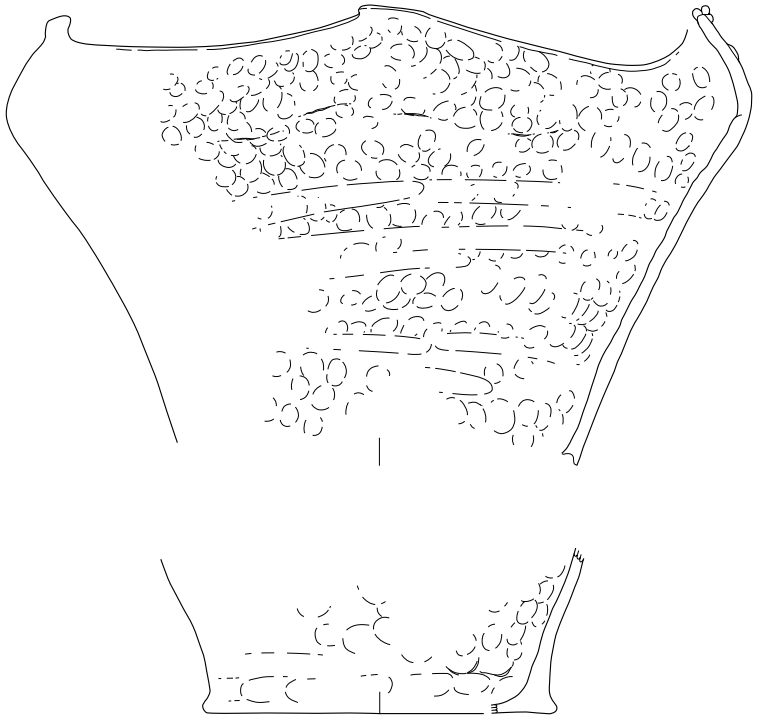
E-18、E-19 は同一個体と思われるが接合せず、残存状況の良い部分をそれぞれ図化した。E-19 は口縁部で接合するが、接合部分が少なく脆弱だったため、それぞれ分割した状態で写真を撮影した。頸部下に溝を掘り連続する爪型刺突文を施すのが特徴である。長野県飯田・下伊那方面に類例のある島崎Ⅲ式に比定され、縄文時代中期後半にあたる。

345SX 出土土器（E-20・21 第 40 図）

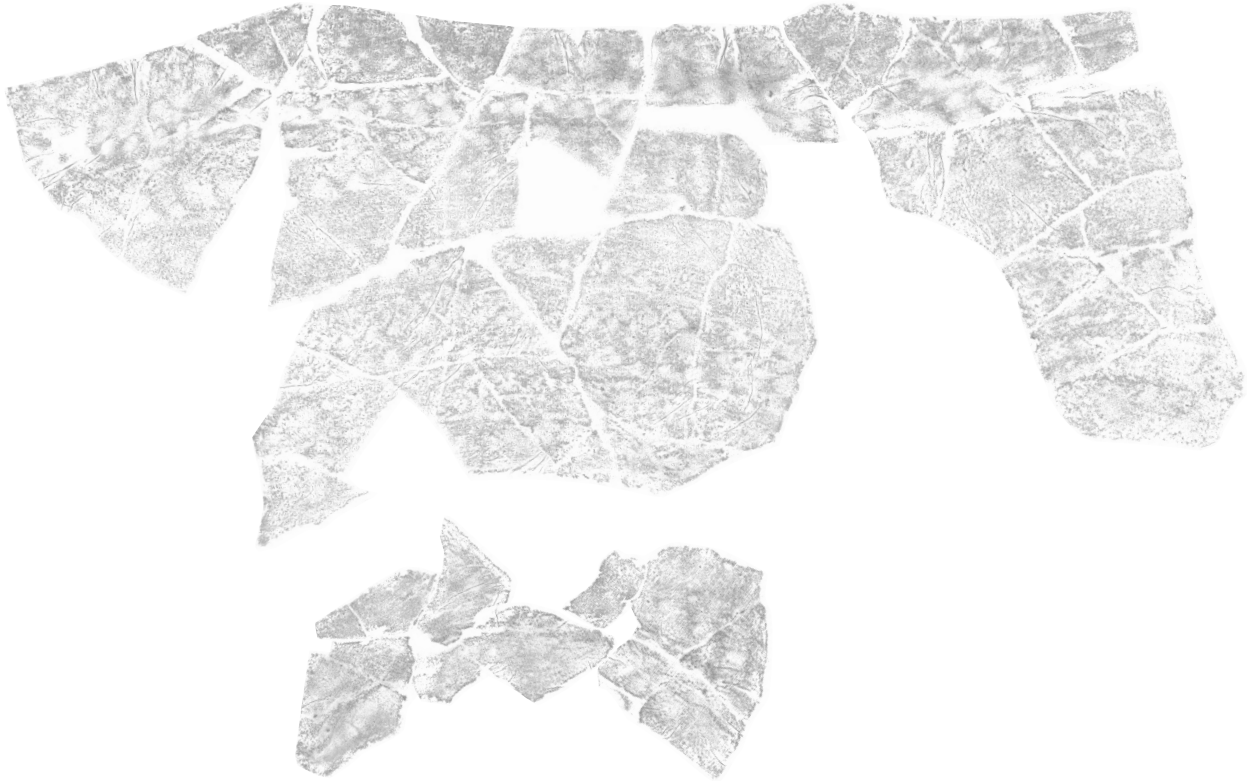
E-20・21 は 345SX より出土した。詳細な時期は不明だが、E-21 内面の顕著な指頭痕などから、大麦田Ⅱ式前後に比定され、縄文時代前期後半とみられる。345SX は、ごく小規模な谷状の地形に周囲の流出土が遺物を取り込んで堆積したもの。300SI の立地する西側尾根頂部から、調査区中央の黒色



第 37 図　大畑遺跡 出土土器実測図４（S ＝ 1/3）

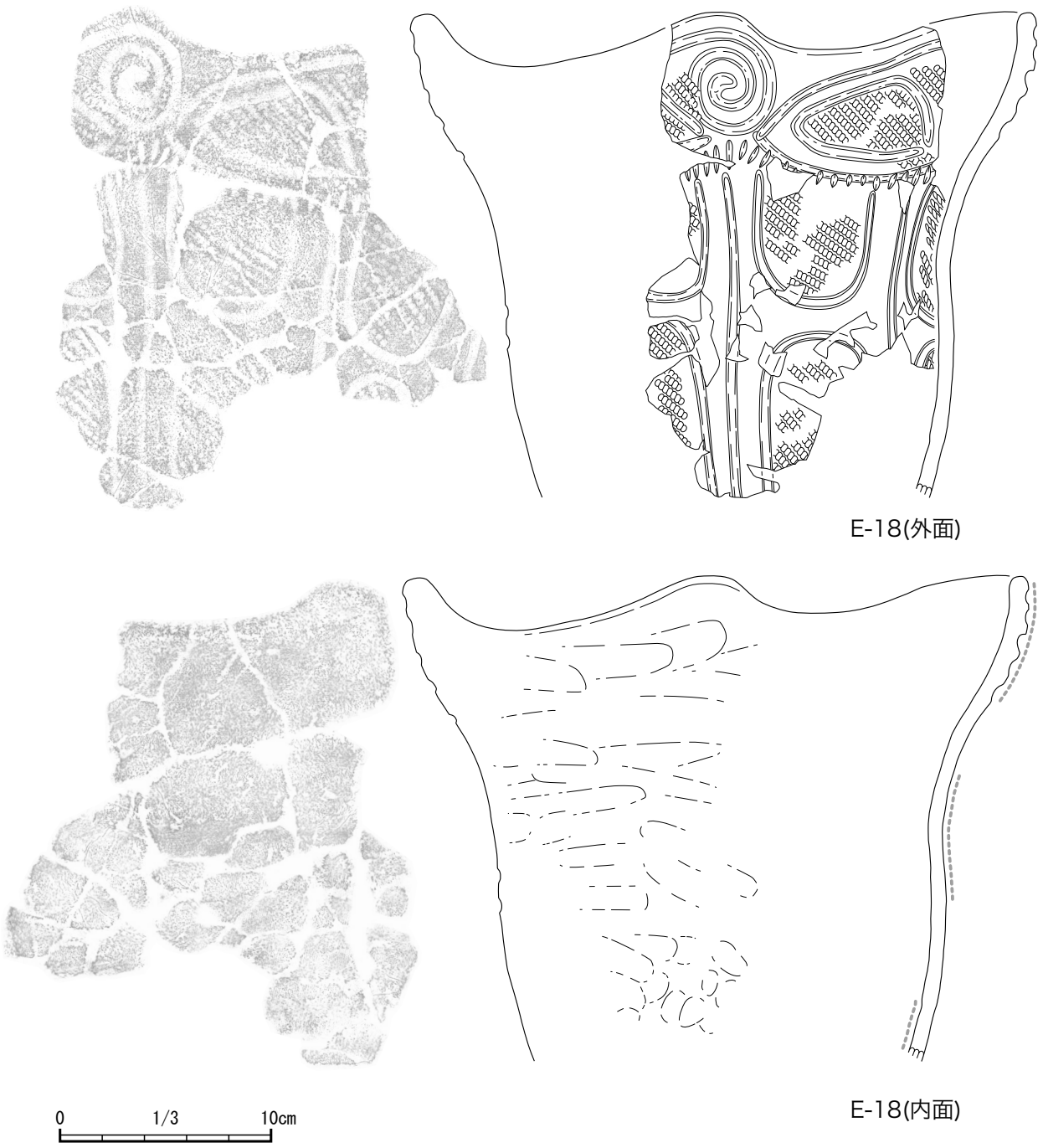


E-8(内面)



0　1/3　10cm

第 38 図　大畑遺跡 出土土器実測図 5（S ＝ 1/3）



第 39 図　大畑遺跡 出土土器実測図 6（S ＝ 1/3）

土に向かって堆積していた。300SI 等で検出された遺物には縄文時代前期の遺物は含まれていないことから、周辺では、すでに滅失した縄文時代前期の遺構の存在も伺わせる。

362SI（360SI）出土土器（E-22 ～ 25 第 40 図）

362SI は、中央に石囲炉を据えた竪穴建物跡。新旧 2 棟が石囲炉と柱の位置を変えて建て替えられている。検出面では旧竪穴建物が北辺縁辺部でわずかに検出され、これを 360SI とした。残りはほとんど重複する形で 362SI が掘り込んでおり、遺物のほとんどは 362SI として取り上げを実施した。ただし、362SI は 360SI 埋没後に再度掘削された可能性もあり、これらの遺構の時期差はわずかであっても、本来 360SI に属する遺物が 362SI 内の埋土に 2 次的に包含されていることも考慮が必要である。

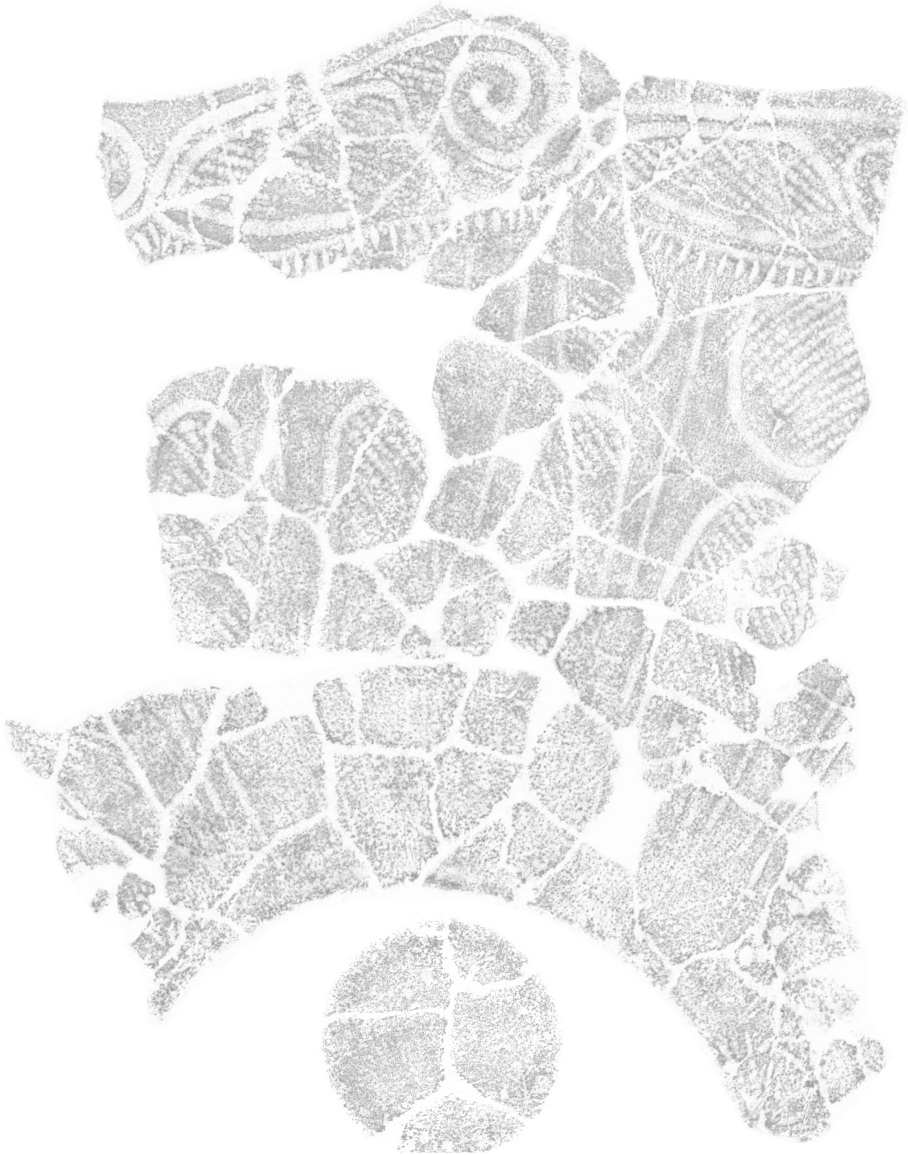
E-22 は 360SI、E-23 ～ 25 は 362SI より出土した。いずれも島崎Ⅲ式の範囲に納まり、362SI の年

第 40 図　大畑遺跡 出土土器実測図 7（S ＝ 1/3）

代もこれによって縄文時代中期後半と考えられる。E-25 は E-8 等と同様に大麦田 II 式前後に比定され、縄文時代前期後半にあたる。これは他の遺物や 362SI の石囲炉の時期とも対応せず、362SI 等の造成時に周囲の堆積から混入した可能性がある。

425SX 出土土器（E-26 ～ 28 第 40 図）

425SX は 362SI の東から南にかけて堆積する不定形の浅い落ち込みである。標高上位の 362SI や 300SI 等の周辺から、流出した表土とともに堆積したものであるが、縄文時代前期から中期にいたる



E-19(外面)

0　1/3　10cm

第 41 図　大畑遺跡 出土土器実測図８（S ＝ 1/3）

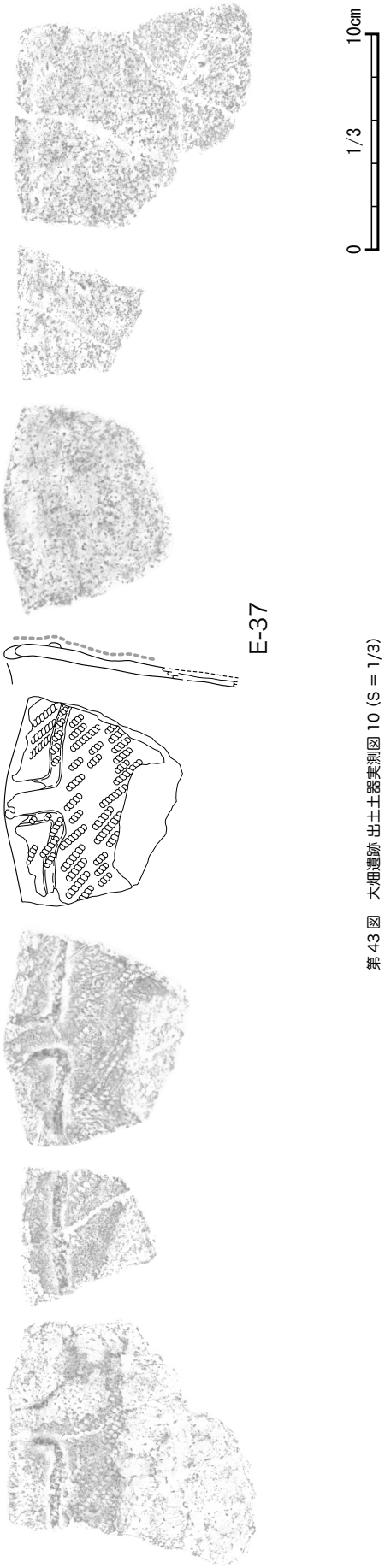
第 42 図　大畑遺跡 出土土器実測図 9（S ＝ 1/3）

幅広い時期の遺物を包含する。

E-26 は具体的な型式は判別し難いが縄文時代前期に含まれる。E-27 も具体的には判別し難いが縄文時代中期後半に属すものと考えられる。E-28 は山田平式に比定され縄文時代中期前半にあたる。

440SI 出土土器（E-29 ～ 33 第 40 図）

E-29 ～ E-32 は 440SI から出土した。E-29・30・32 は諸磯 C 式期に属する。縄文時代前期後半に



第43図　大畑遺跡 出土土器実測図10 (S = 1/3)

比定される。E-31は山田平式に比定され、縄文時代中期前半にあたる。E-33は440SI内からの出土ではないが、範囲確認調査時にすぐ西側で設定されたTT092より出土した土器である。諸磯C式期に比定され縄文時代前期後半にあたる。

490SI出土土器（E-34 第40図）

E-34は490SIから出土した押型文土器である。縄文時代早期にあたる。

192SI出土土器（E-35・36 第40図）

E-35・36は192SIより出土した。山田平式に比定され、縄文時代中期前半にあたる。

420SI出土土器（E-37 ～ 39 第43・44図）

E-37 ～ 39は420SIより出土した。指頭痕が顕著で器壁が薄い。大麦田Ⅱ式の前後に属する。縄文時代前期後半にあたる。

700SI（1010SD）出土土器（E-40・41 第44図）

E-40は700SIより出土した。詳細な様式は不明だが、おそらく縄文時代中期とみられる。E-41は700内の1010SDから出土した。山田平式に属し、縄文時代中期前半にあたる。

206SK出土土器（E-42 第44図）

E-42は、206SKから出土した。206SKは420SI等の東側に位置する小土坑である。称名寺式に属し、縄文時代後期初頭にあたる。

327SK出土土器（E-43 第40図）

E-43は327SKから出土した。伊川津IB式に属す。縄文時代晩期にあたる。327SKは17C区内、22B区の南側の谷筋内の底近くに位置する遺構で、最終的には植生痕もしくは石の抜けた痕の可能性が高いと考えた。E-5同様縄文時代晩期の土器だが、本来の遺構ではなく、327SKに混入したと考えられる。

357SK出土土器（E-44 第40図）

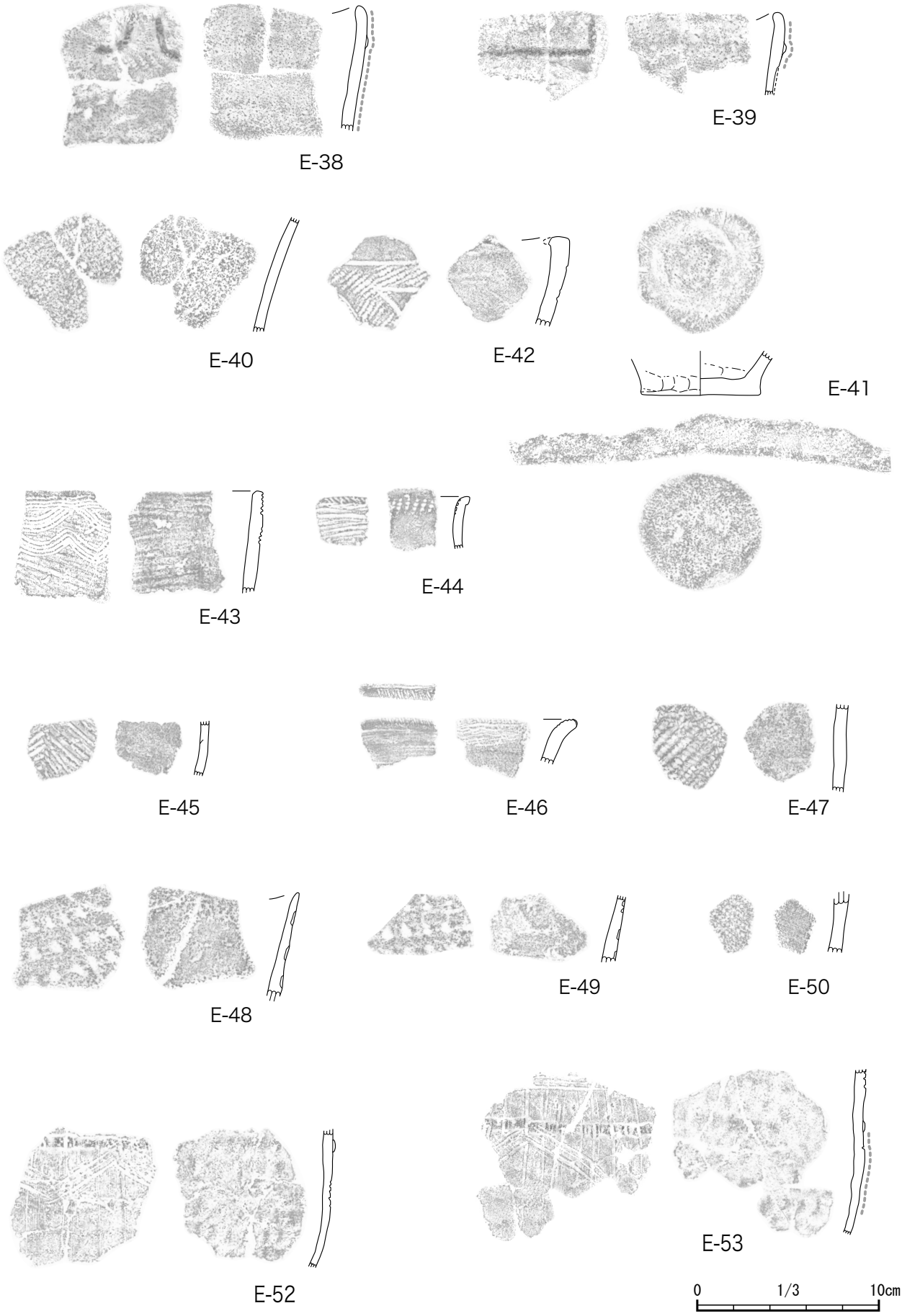
E-44は357SKより出土した。西之山式に比定される。縄文時代晩期後半にあたる。

2021SP出土土器（E-45 第40図）

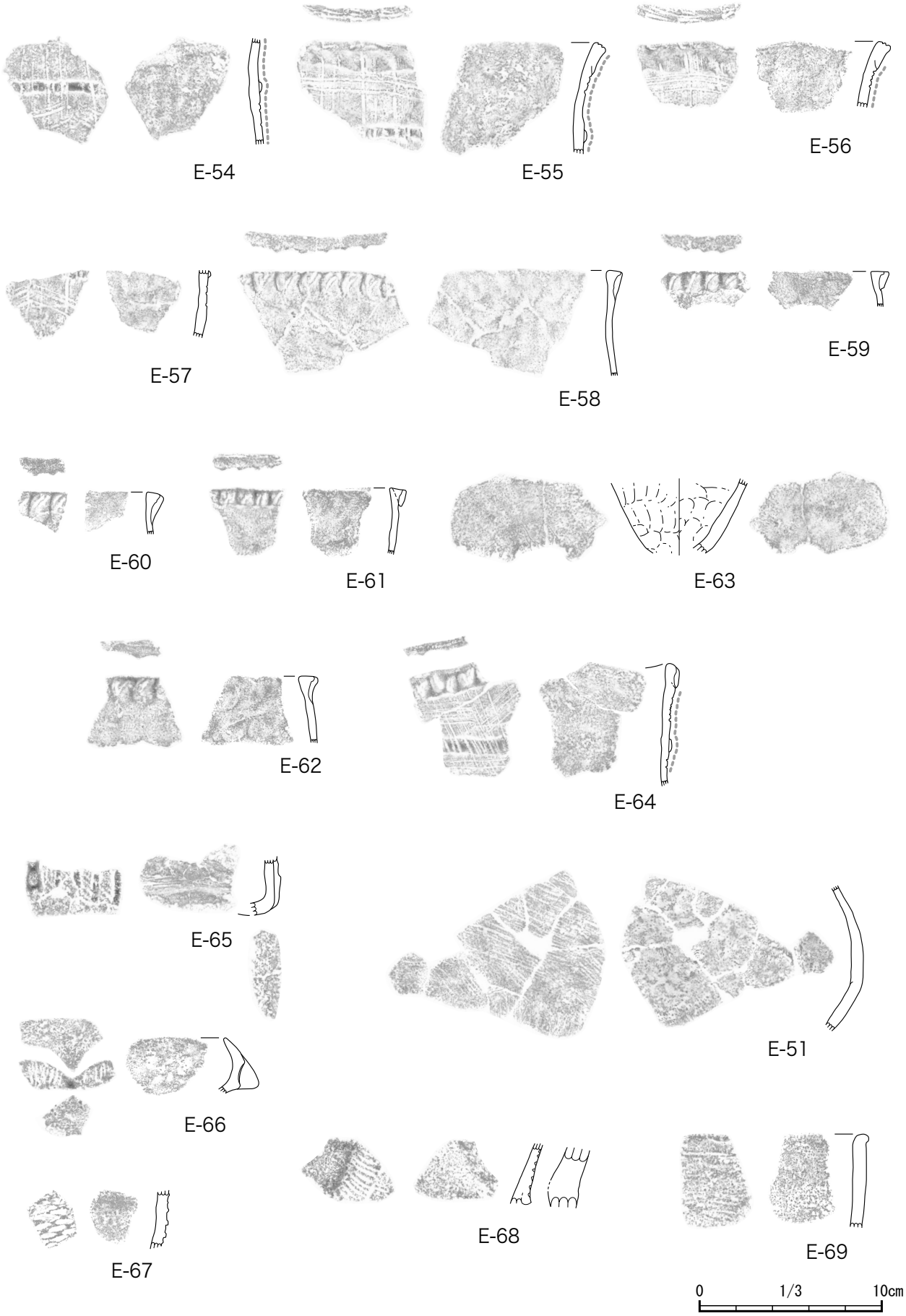
E-45は2021SPから出土した。2021SPは竪穴建物跡等に伴わず、22A区東半部に単独で存在する。外面に縦の羽状縄文が施される。

2030SK出土土器（E-46 第40図）

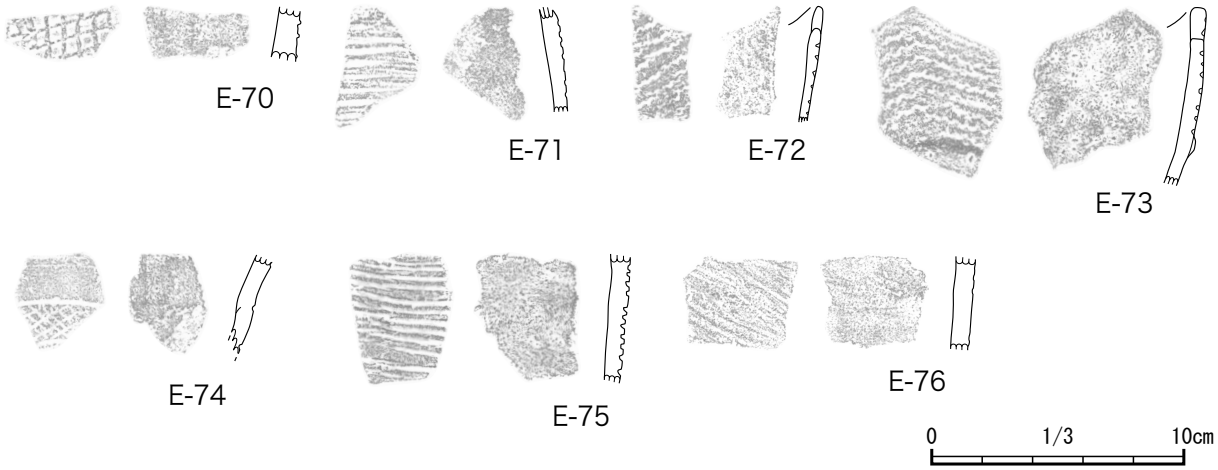
E-46は2030SKから出土した。2030SKは22A区東半部に単独で存在する。木島式4期に比定される。縄文時代前期にあたる。



第 44 図　大畑遺跡 出土土器実測図 11（S ＝ 1/3）



第 45 図　大畑遺跡 出土土器実測図 12（S ＝ 1/3）



第 46 図　大畑遺跡 出土土器実測図 13（S ＝ 1/3）

2060SK 出土土器（E-47 第 44 図）

E-47 は 2060SK から出土した。2060SK は 2063SI の北西辺に近接する小土坑である。縄文土器であるが、詳細な時期は不明。

2063SI（2070SK）出土土器（E-48・49 第 44 図）

E-48 は 2063SI 内の 2070SK から出土した。2063SI から出土した E-49 と同一個体である。刺突文が施され、清水ノ上Ⅱ式か上広覧式に比定される。縄文時代前期前半にあたる。

2066SI 出土土器（E-50 第 44 図）

E-50 は 2066SI から出土した。確定的ではないが、木島式 4 期に比定される可能性がある。

2004SK 出土土器（E-52 ～ 64 第 44・45 図）

E-52 ～ E-64 は 2004SK から一括出土した土器群である。おおよそ 3 個体程度と推定される。すべて木島式 4 期に比定される。

（3）遺構外出土の土器

包含層・検出面出土土器（E-51・65 ～ 73 第 45・46 図）

E-51 は 22A 区東端付近での遺構検出面で出土した。遺構には伴わないが、東側の尾根上から転落してきた可能性を考慮したい。弥生時代に比定される。E-65 は 362SI の東側、345SX に近い部分で出土した。十三菩提式に比定される。E-66 は 365SI の検出中に出土した。北屋敷式に比定される。365SI は柱穴や炉跡を持たず、斜面を平坦に造成した後に周囲の土砂で埋没した考えられる。埋没の状況は 345・425SX と近い。E-67 ～ 70 は調査区中央の谷状地形の堆積、黒色土中から出土した。黒色土には幅広い時期の遺物が包含されており、周囲の斜面から流入している。E-67 は押型文が施される。E-68 は北屋敷式に比定される。E-69 は縄文時代晩期に比定される。E-70 は格子押型文が施される。E-71 は東側斜面で出土した。縄文時代晩期に比定される。E-72 は東側斜面、E-73 は調査区東端付近で出土した。いずれも上広覧式に比定される。これらは遺構に伴わず、丘陵上位には縄文時代前期の遺構の存在が推定される。

範囲確認調査出土土器（E-74・75・76 第 46 図）

E-74 は TT070 から出土した。この TT は 2057SI の北側に位置し関連が推定される。田戸下層式に比定される。E-75 は東側斜面中の TT123、E-76 は 22B 区南側谷内の TT124 から出土した。いずれも西之山式に比定される。

第２節　石器

（１）後期旧石器時代の石器

後期旧石器時代の石器としては、以下の器種を認識した。いずれの石器も後期旧石器時代の包含層から出土したものではなく、後述する縄文時代の遺物包含層中や遺構内から出土したものであるが、加工の方法が他の縄文時代の石器とは異なるため、後期旧石器時代の石器として以下にまとめる。器種名・【総点数】・登録番号の順に掲載する。【総点数】は抽出したが掲載していないものを含める。

本節の石材分類については、堀木（2019）に基づいて行った。

(1) ナイフ形石器【1】140

ナイフ形石器は17C区包含層出土の１点である。縦長の剥片を素材としており、左側縁にブランティングのような加工が認められる。裏面からの鋭角な加工は、他の石器にはない特徴であるため、後期旧石器時代の石器として抽出した。石材は黒曜石である。

(2) 掻器【1】154

掻器は17D区検出面出土の１点である。不定形剥片を素材としており、下端部から左側縁にかけて鋭角な加工が施される。円形掻器と考えられる。石材は黒曜石である。

(3) 削器【2】148・155

削器は17C区検出面出土（148）と17D区検出面出土（155）の２点である。どちらも縦長の剥片を素材としており、左側縁に鋭角な加工が施される。148は下端部にも一部加工が施される。155は右側縁にも加工が施される。どちらも側縁を重点的に加工が施されるため、掻器（154）とは区別できる。石材は148が溶結凝灰岩、155が黒曜石である。

(4) 剥片【5】27・49・94

剥片のうち細石刃の可能性があるものを５点抽出した（27・49・94）。これらはどれも、頭部調整がされており、押圧剥離によって剥がされた剥片である。石核の中にも細石刃核らしき石器があることから、頭部調整が施された剥片を細石刃として区別した。石材は27・49が黒曜石、94が溶結凝灰岩である。

(5) 石核【3】101・137・149

石核のうち石刃核の可能性があるものを２点(101･137)、細石刃核の可能性があるものを１点(149)抽出した。

石刃核とした２点（101・137）は、上下に打面をもつ両設打面である。どちらも縦長の剥片を連続的に剥離している。

細石刃核（149）は複剥離面打面で、表面に縦長の細石刃を剥離したと考えられる剥離痕が認められる。裏面には打面転移の痕跡が認められる。

石材は、101が凝灰岩で、137と149は溶結凝灰岩である。

（２）縄文時代の石器

縄文時代の石器は、以下の器種を確認した。以下、器種名・【総点数】・掲載番号の順に掲載する。

(1) 尖頭器【1】141

尖頭器は17C区包含層から１点出土している。先端部は両面から押圧剥離による加工が施され、下端部は折損している。石鏃の可能性も考えられるが、先端部の入念な加工を評価して小形の尖頭器とする。尖頭器の時期としては、縄文時代草創期の尖頭器とは加工の仕方が異なるため、縄文時代～

弥生時代と考えられる。石材は黒曜石である。

(2) 石 鏃【70】4・9・11・19・22・25・34・37 ～ 40・43・46・47・51・52・58 ～ 60・62・63・65 ～ 68・75 ～ 81・83 ～ 88・93・97・107 ～ 110・120・122・126・127・131・143 ～ 147・156・157・167・168

凹基無茎鏃【42】4・9・11・25・34・47・52・59・60・62・63・67・68・75・77・80・81・83・84・86 ～ 88・93・107・120 ～ 122・126・127・143 ～ 147・156・157

凹基無茎石鏃は遺跡全体で 41 点出土している。遺跡の状況から、これらの多くは縄文時代中期後半の石鏃と考えられるが、異なる時期のものも若干出土している。

25 は五角形鏃である。側縁は押圧剥離による打面を多く残し、両側縁とも歪んだ刃線となる。石材は黒曜石である。300SI 出土であり、時期は縄文時代後期以降と考えられる。

47・51・52・58 ～ 60・62・63・67・68・75・77・80・81・83・84・86 は、362SI から出土した。長身（47）や正三角形（52)、長脚（62・86）など多様な形態がある。また、石材も黒曜石（63・67・77)、サヌカイト（52)、下呂石（58)、溶結凝灰岩（47・51・59・60・62・80・81・83・86)、凝灰岩（68・84）など様々な石材が利用されている。

平基無茎鏃【9】38・43・66・76・79・109・131・167・168

基部が平坦なものを平基と分類する。

43 は、基部が折損したのちに再加工されているため、平基と分類した。石材は黒曜石である。

109 は、スクレイパーの可能性もあるが、刃線が整っていないため、石鏃として分類する。先端は折損しており、全体の形状は不明である。石材は溶結凝灰岩である。

円基鏃【4】19・78・79・97

基部が丸みを帯びるものを円基と分類した。

97 は、身部が長く出土石鏃の中でも珍しい形態である。石材はチャートである。

不明【15】65・108・110・127・131

形態不明としたものは、基部を大きく折損するものである。

127 の裏面には衝撃剥離痕と思われる剥離により、先端が折損している。

(3) 石錐【8】12・61・69・70・103・111・112

石錐は、全体を加工したもの（61・69・70）と軸部のみを加工したもの（12・103・111・112）に分類することができる。全体を加工したものは全て 362SI 出土であり、遺構の時期は縄文時代中期後半の島崎Ⅲ式期である。

石材は黒曜石（103)、溶結凝灰岩（12・69・70・111・112)、凝灰岩（61）である。

(4) 石匙【7】20・21・53・89・113・123・128

石匙は 7 点出土しており、全て横型である。摘み部と下端部に加工が施される。摘み部と刃部の加工が粗雑なもの（21・113）もある。石材は溶結凝灰岩（21・53・89・113・123・128）と安山岩 B（20）である。

(5) 楔形石器【10】35・57・114

楔形石器は、両極剥離法の痕跡を表裏に残す剥片ないし石核を分類する。石材は黒曜石（35）と溶結凝灰岩（57・114)、凝灰岩である。

(6) スクレイパー【8】129・136・151・164

スクレイパーは剥片の縁辺に連続した加工が施された剥片を分類する。

164 は 22A 区検出面出土である。スクレイパーというよりは両面加工体である。しかし、縄文時

代草創期の尖頭器のような形態とは異なり、両側縁がまっすぐ伸びる棒状となる。石材は溶結凝灰岩である。

(7) 加工痕のある剥片【63】1・64・71・82・115・119・165

加工痕のある剥片は、端部に一部加工が施される剥片を分類する。

119 は下端部に摘み部分の抉りが施されており、石匙とも考えられるが、刃部の加工がないことから加工痕のある剥片とした。石材は溶結凝灰岩である。

165 は大形の剥片の縁辺部に加工が施される。大きさや石材の類似点から打製石斧の未製品とも考えられるが、刃部や敲打による整形などの痕跡がないため、素材剥片の可能性があるが加工痕ある剥片として分類した。石材は安山岩 B である。

(8) 微細剥離痕のある剥片【10】

縁辺部に微細な剥離痕があるものを分類する。

(9) 剥片【1909】5・13・23・24・26・33・44・48・90・91・98・125・158・159・166・171・172

13・48・98・172 は剥片素材の石核または石核の調整剥片である。石材は黒曜石（48）と溶結凝灰岩（13・172)、凝灰岩（98）である。

159 は両極剥離法の痕跡を残す剥片である。石材は溶結凝灰岩である。

(10) 石核【282】2・3・14 ～ 16・28・29・36・45・56・72 ～ 74・95・99・104・116・117・124・132・16・36・56・104・124・132 は両極剥離法の石核である。石材は黒曜石（36・104）と溶結凝灰岩（16・56・124・132）である。

15・29・95・101 は打面を転移させながら剥片剥離をおこなう石核である。石材は溶結凝灰岩（15・29・95）と凝灰岩（101）である。

(11) 打製石斧【17】10・30・50・54・55・92・100・102・133・134・152・153・160・161・169・173

短冊形【11】10・50・55・92・100・134・152・153・160・169・173

撥形【5】30・54・102・133

不明【1】161 は両極打撃の痕跡が認められ、石材も類似するため未製品としたが、刃部などの形成は認められない。

石材は凝灰岩（152・160・169）と泥質凝灰岩（100)、安山岩 B（10・50・102・153)、安山岩 D（30・173)、安山岩 E（54・55・92・133・134）である。

(12) 磨製石斧【7】41・42・142・162・163

定角式【3】41・42・142

乳棒状【2】162

その他【2】163 は小型の磨製石斧で、両側面とも研磨によって直線状になる。刃部と思われる下端部は折損している。

石材は蛇紋岩（41）と塩基性凝灰岩（42・142・162)、緑色岩（163）である。

(13) 石錘【3】135

石錘は全て打欠である（135)。3 点中 1 点を図化したが、それ以外は明瞭な打欠を両端にもたない。石材は凝灰岩（135）と片麻岩、凝灰質砂岩である。

(14) 石棒【2】139

石棒としたもの（139）は、一部のみで判別し難いが、側面が摩耗しており、研磨の痕跡が僅かに確認できるため、石棒？とする。石材は花崗岩である。

(15) 石刀【1】

破片であるため判別困難であるが、石材が黒色片岩であり、石刀に使用される石材であるため、石刀？とする。

(16) スタンプ形石器【1】138

スタンプ形石器（138）は、側面が摩耗し、下面には摩耗と敲打痕が顕著に認められる。この石器は縄文時代早期に特徴的な石器なため、早期の遺構と関係する可能性がある。石材は安山岩である。

(17) 加工痕のある礫【1】

円礫の縁辺に一部加工が施される礫である。

(18) 磨石【103】17・96・105・106・150・170

磨石は 103 点出土しており、石器の中でもっとも多い。磨面のほか、敲打痕やわずかな凹み痕をもつものも磨石とする（17・96・105・106・150・170）。全体的に顕著な磨面と敲打痕をもち、使い込まれたものが多い。石材は凝灰質砂岩（150）と片麻岩（17・170）、花崗岩（96・105・106）である。

(19) 敲石【28】18・130

敲石は磨面をもたず、縁辺部に敲打痕をもつものとする。

18・130 は円礫の縁辺部に敲打痕が集中し、側面が敲打痕によって凹んでいる。130 は中央が一部摩耗している。石材は凝灰岩（18）と珪質岩（130）である。

(20) 凹石【12】

(21) 砥石【6】31

(22) 台石【27】6 ～ 8・32・118

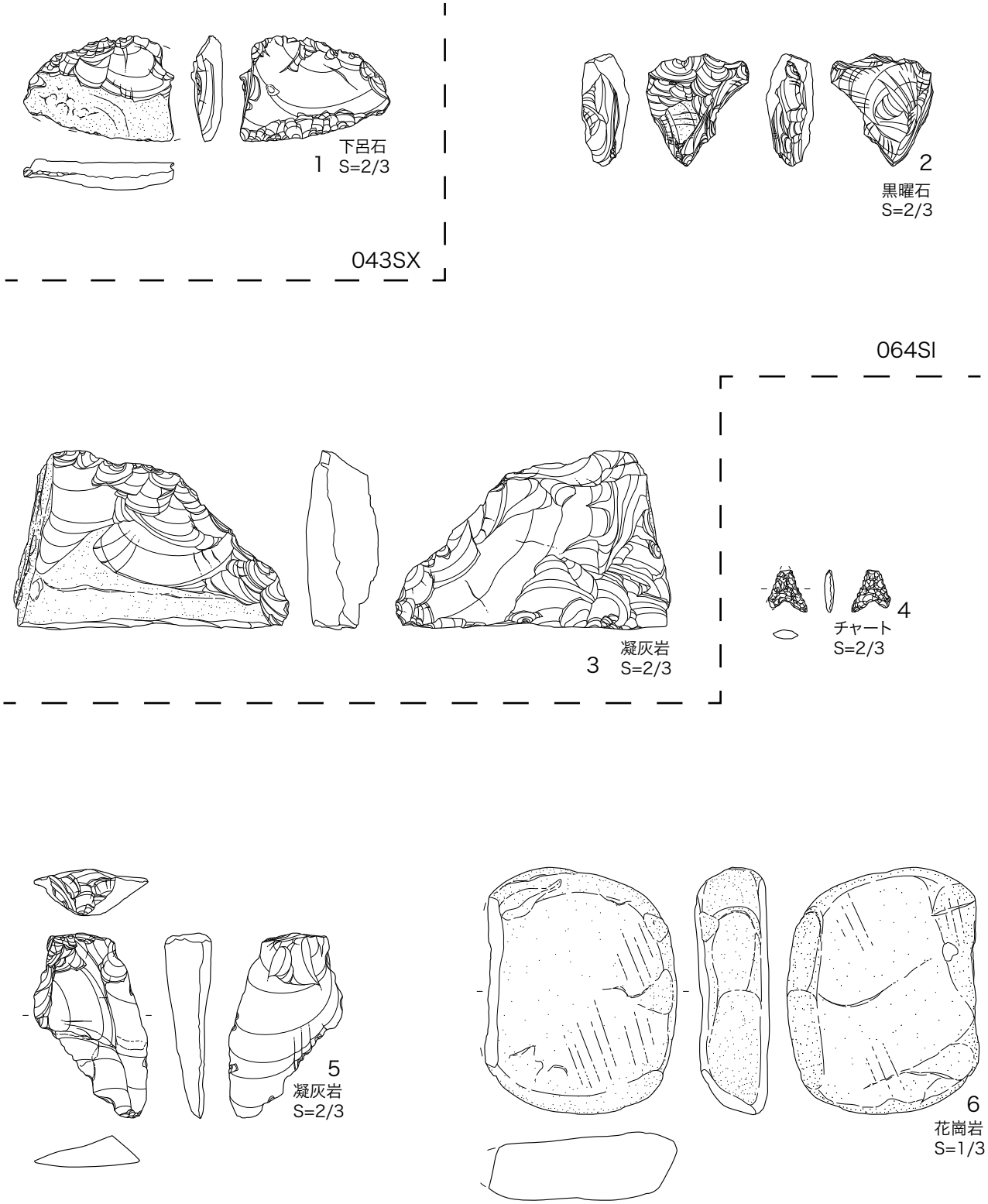
台石は、磨面や敲打痕をもつ下石としての使用が想定される石器とする（6 ～ 8・32・118）。8 は顕著な磨面を両面にもつ。6・32 は一部摩耗している。118 は表面に顕著な敲打痕が認められる。石材は安山岩と安山岩 E、凝灰質砂岩、花崗岩（6・8・118）、片麻岩（7・32）、閃緑岩、アプライトである。

(23) 石皿【1】

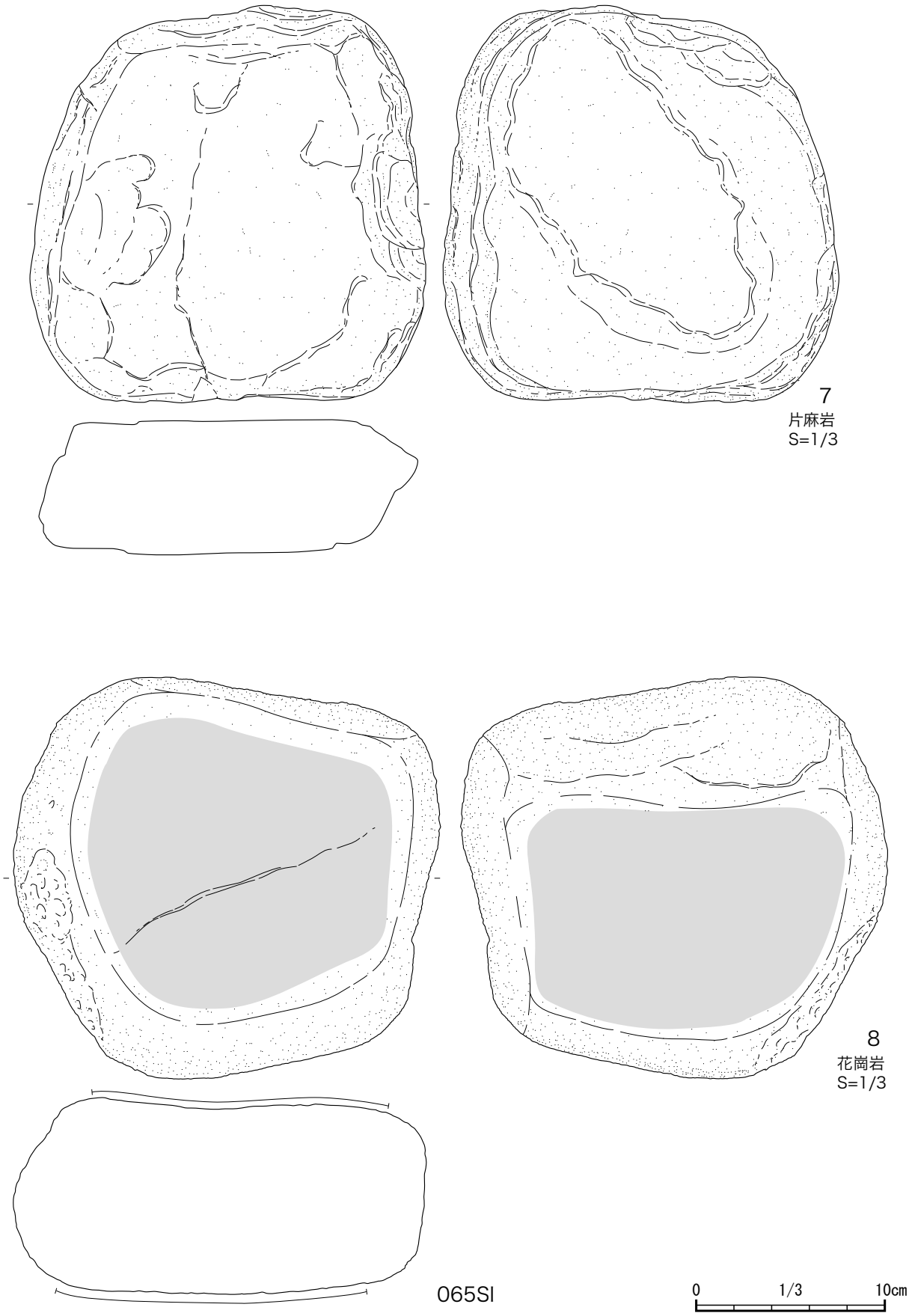
石皿としたものは、円礫の中央が大きく凹むものとするが、全体が摩耗しており自然面との区別が明瞭ではないため石皿？とする。石材は凝灰質砂岩である。

(引用・参考文献)

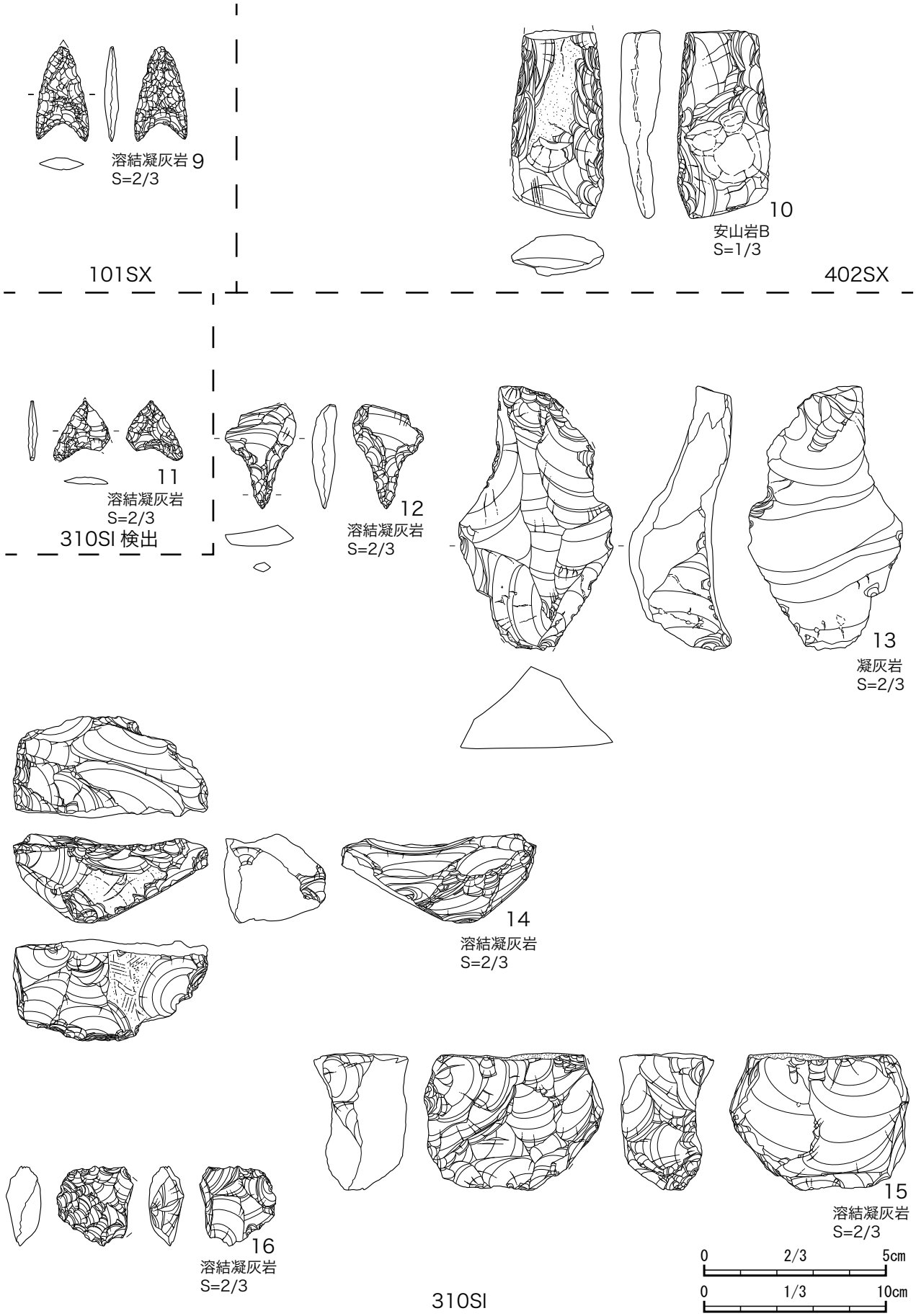
堀木真美子 2019「石材分類について」『西地・東地遺跡』公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター 調査報告書 第 211 集



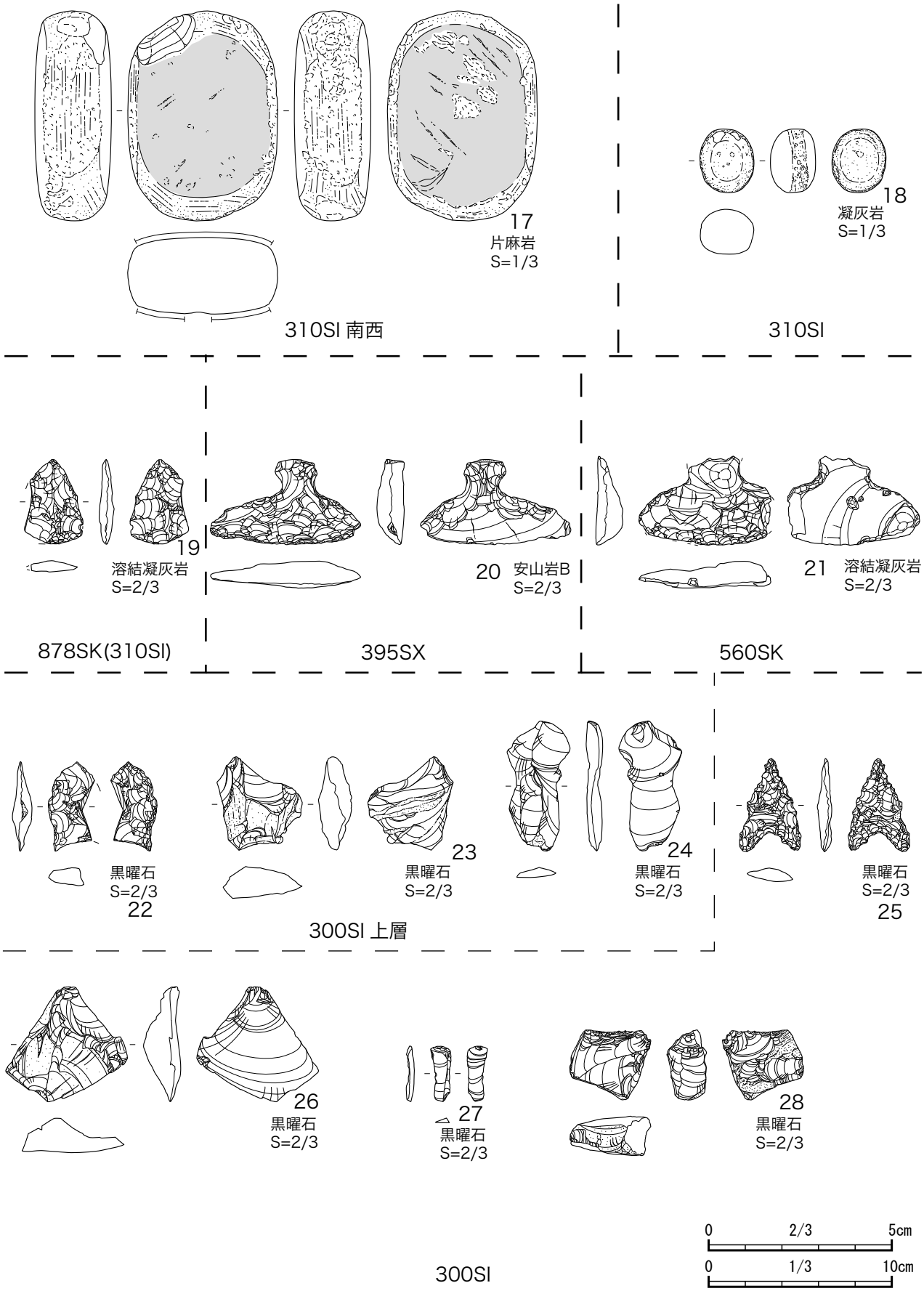
第 47 図　大畑遺跡出土石器実測図１（S=1:3・2:3）



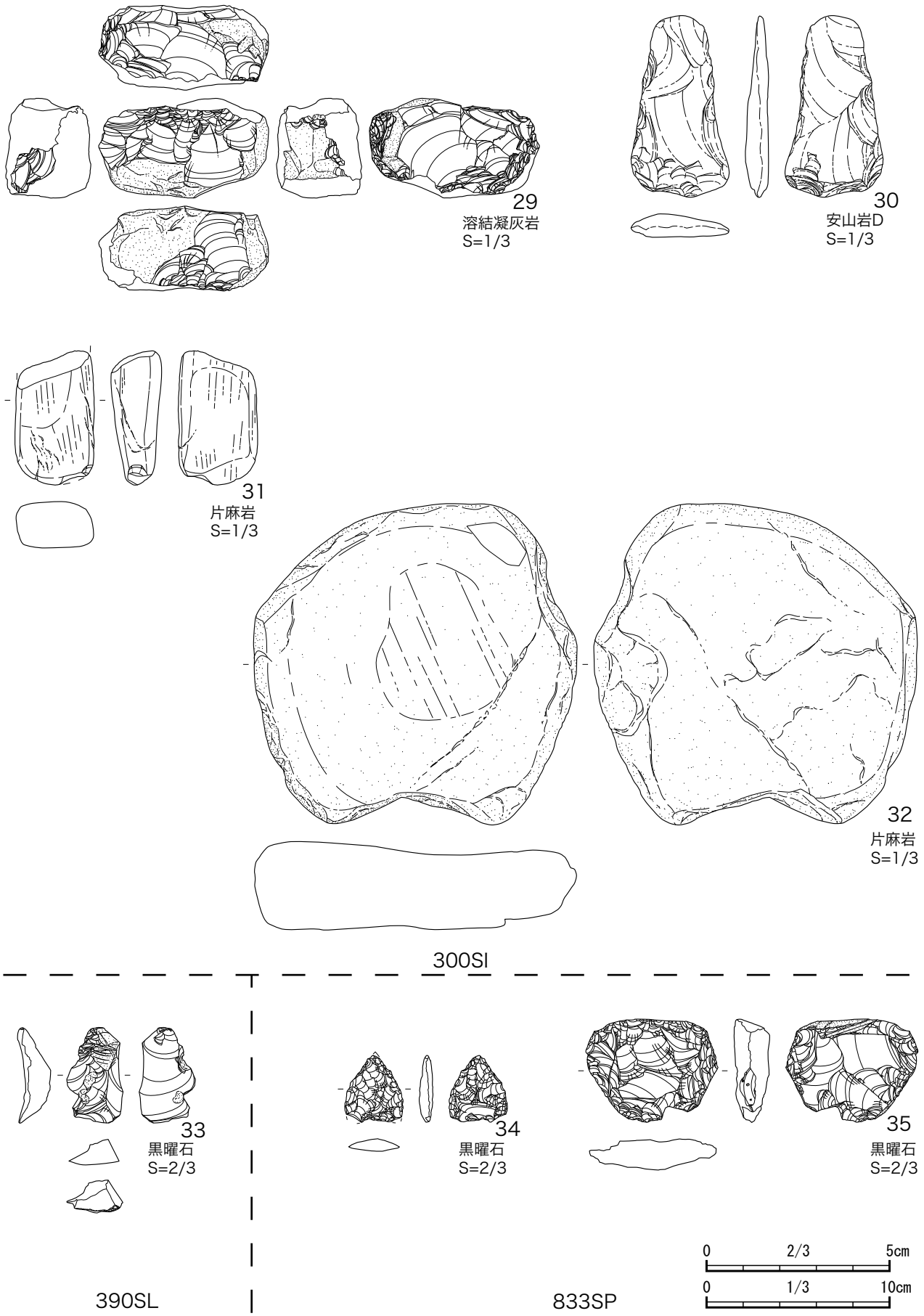
第 48 図　大畑遺跡出土石器実測図 2（S=1:3）



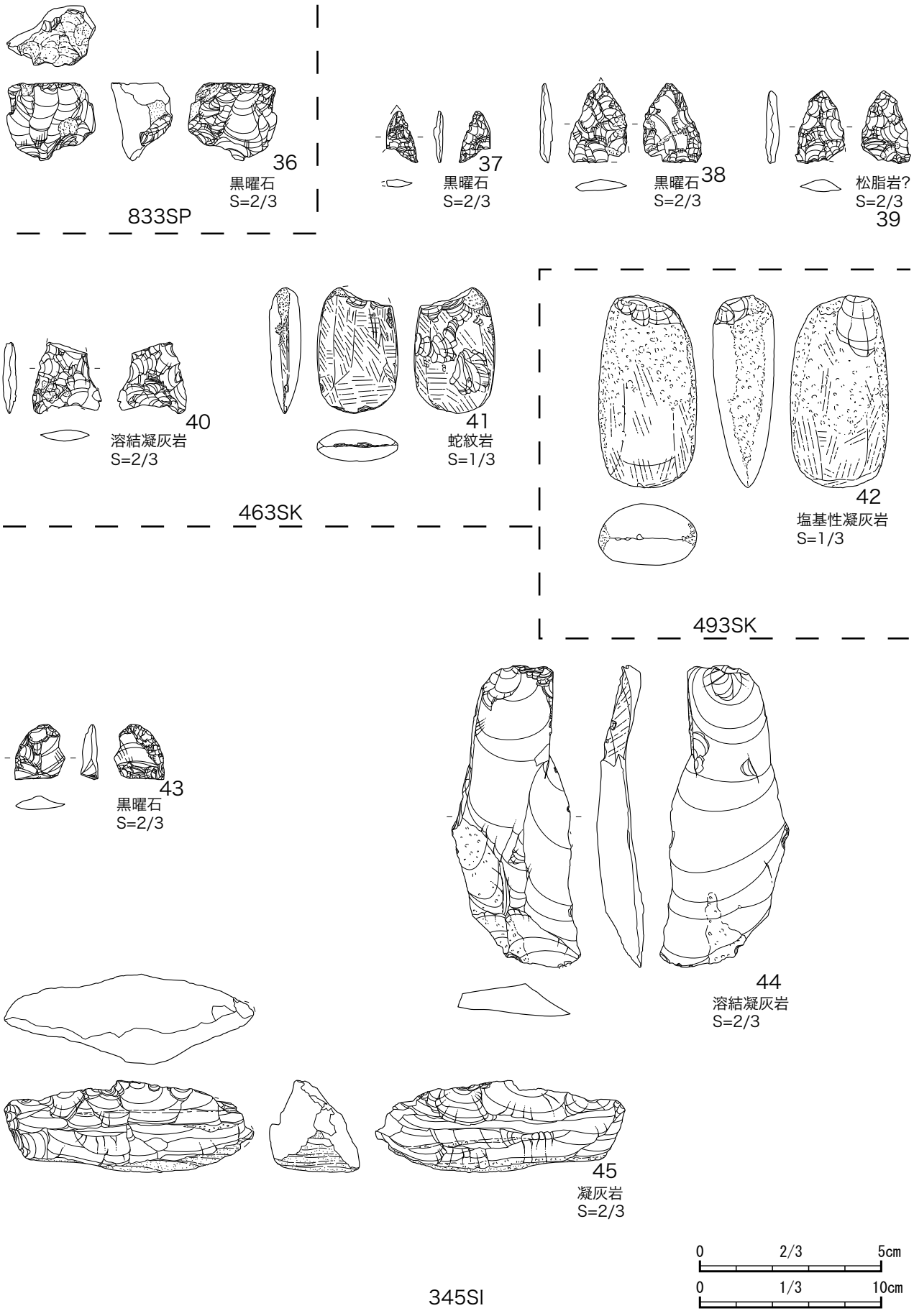
第 49 図　大畑遺跡出土石器実測図３（S=1:3・2:3）



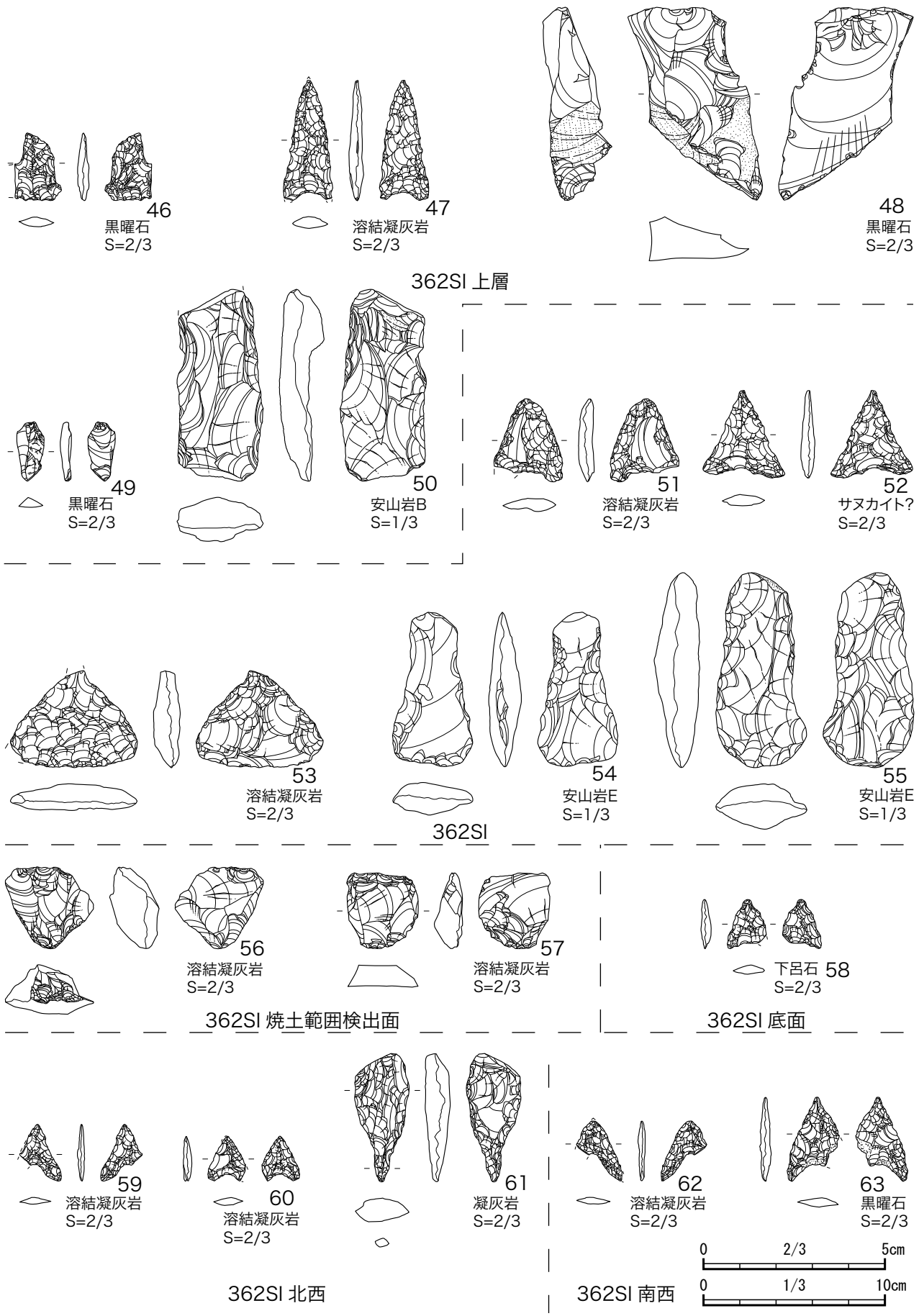
第 50 図　大畑遺跡出土石器実測図 4（S=1:3・2:3）



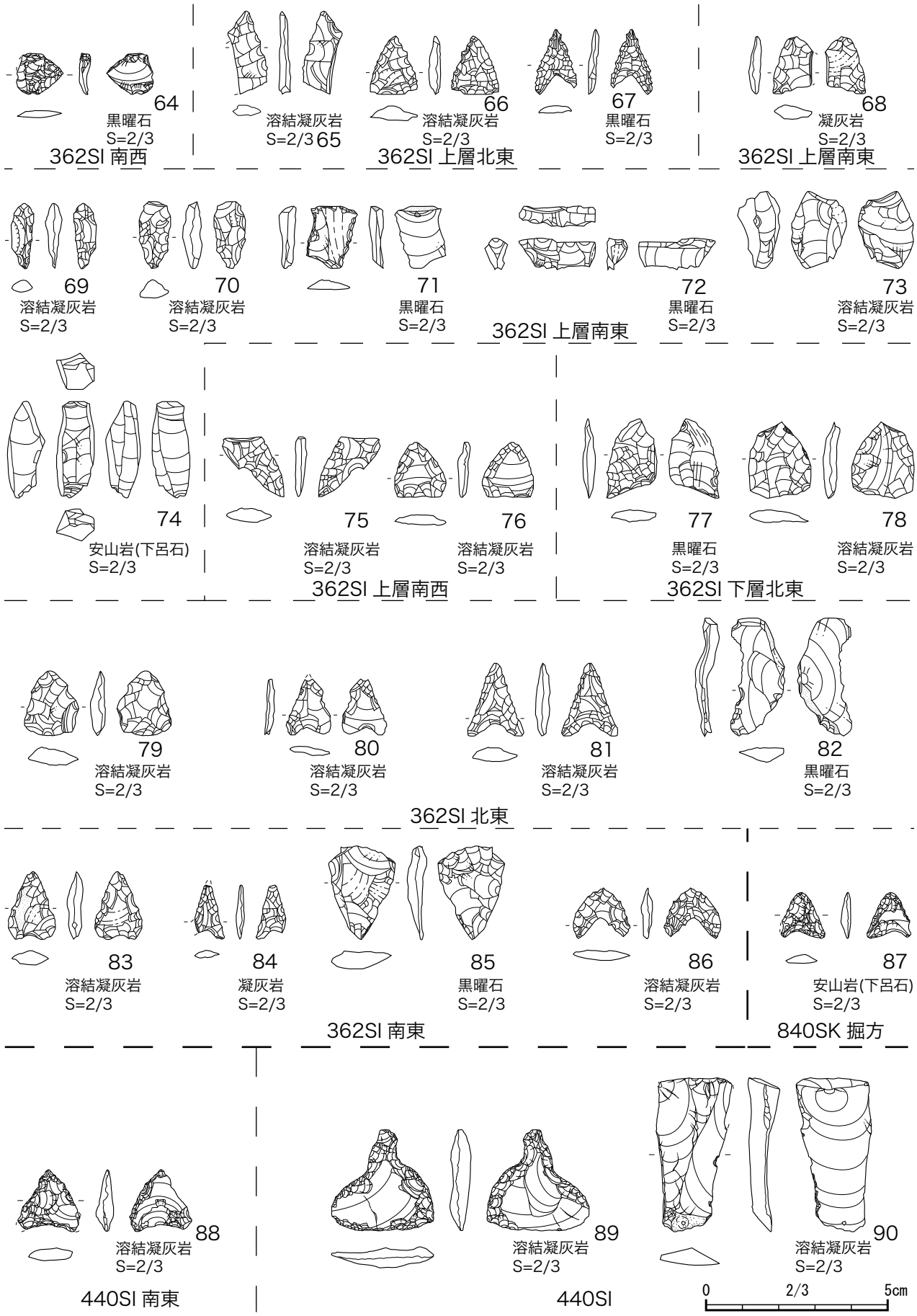
第 51 図　大畑遺跡出土石器実測図 5（S=1:3・2:3）



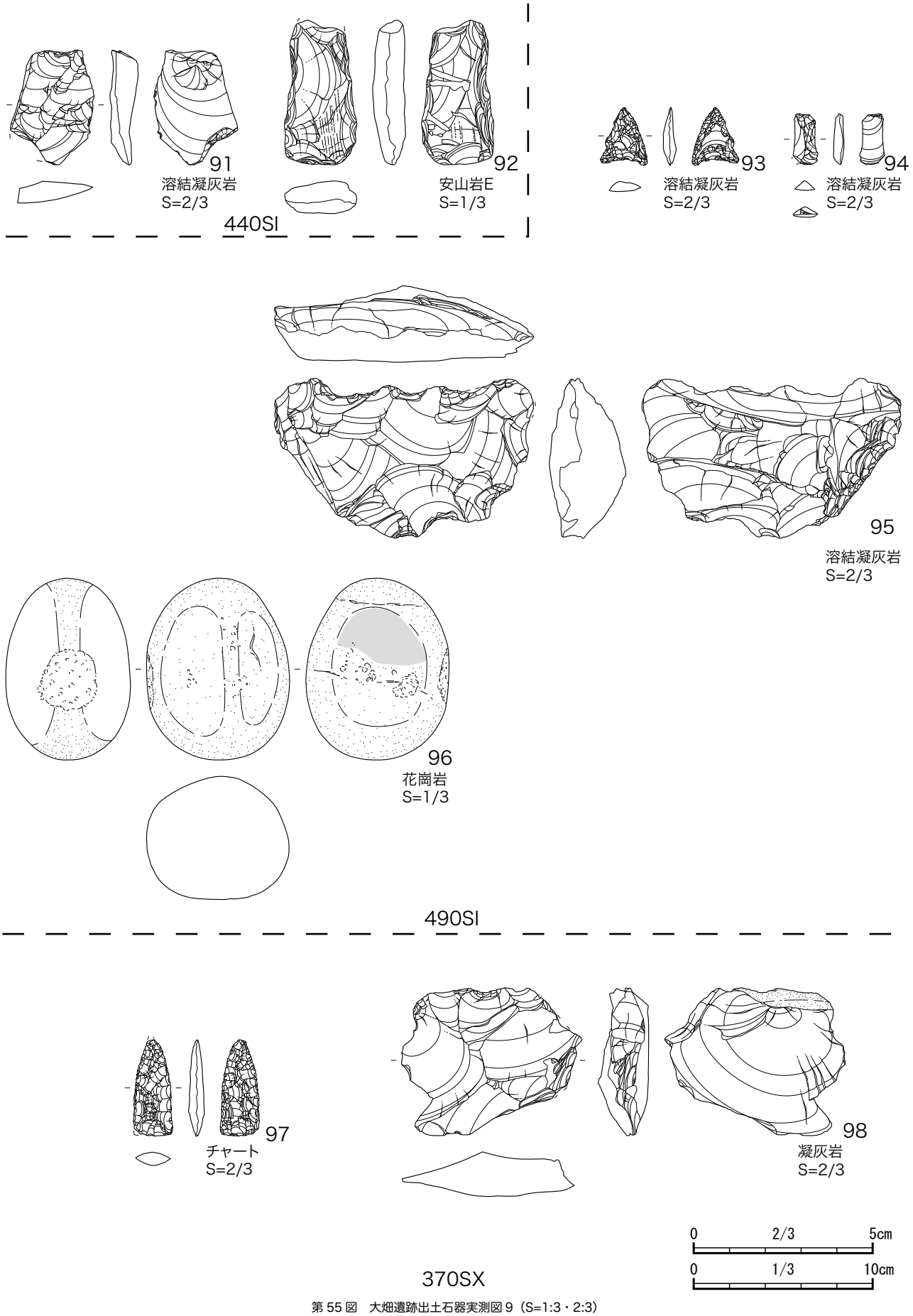
第 52 図　大畑遺跡出土石器実測図 6（S=1:3・2:3）



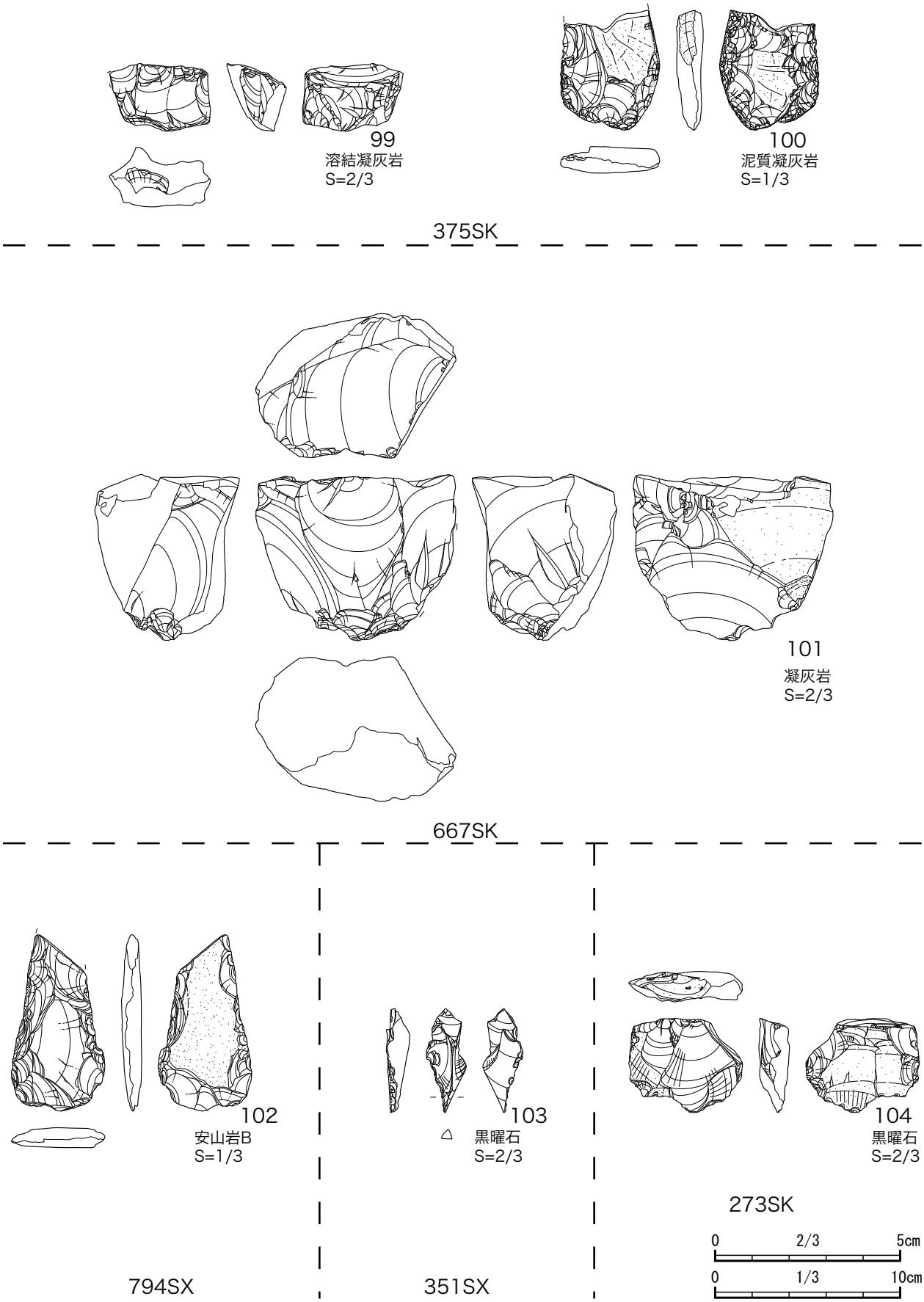
第 53 図　大畑遺跡出土石器実測図 7（S=1:3・2:3）



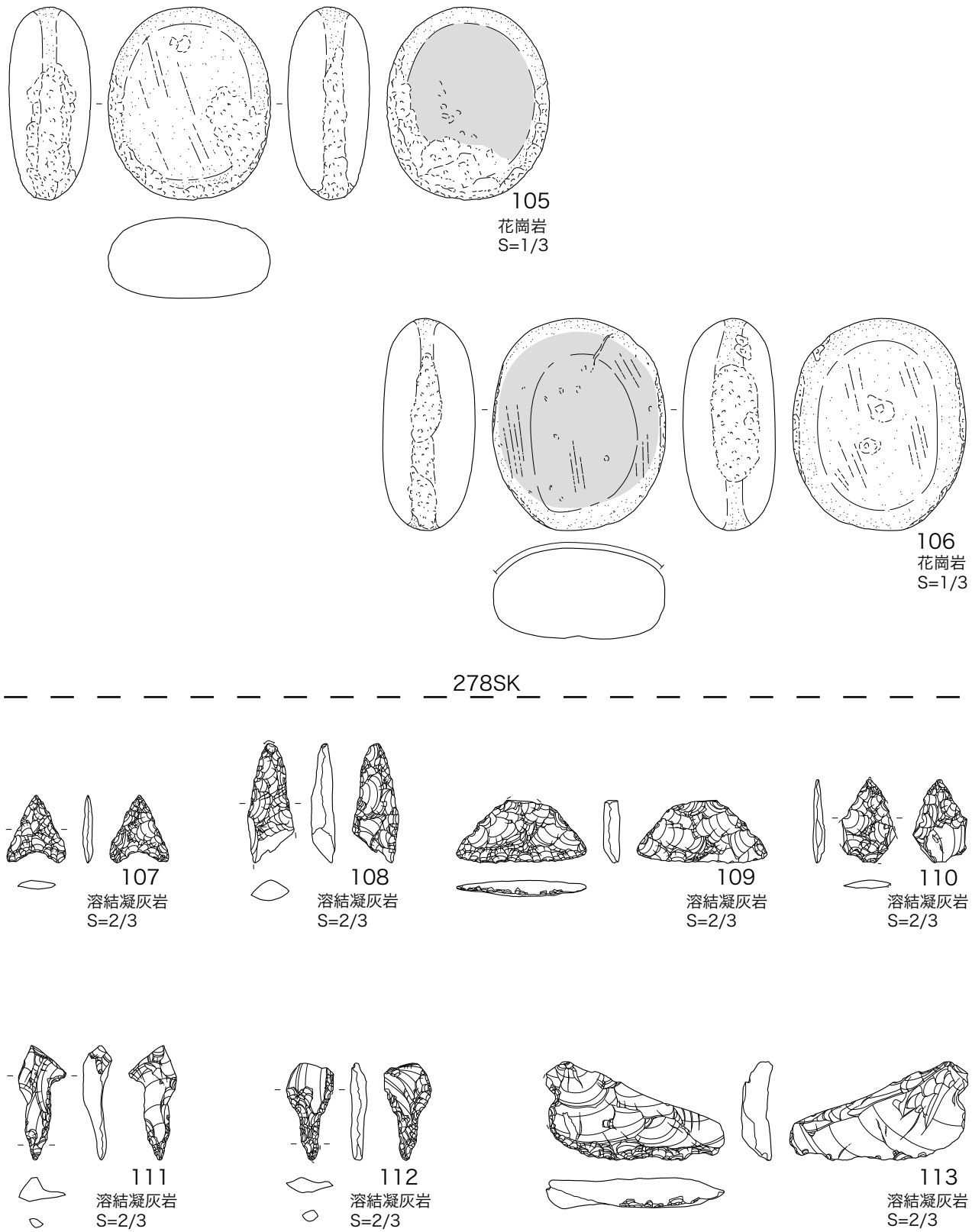
第 54 図　大畑遺跡出土石器実測図 8（S=2:3）



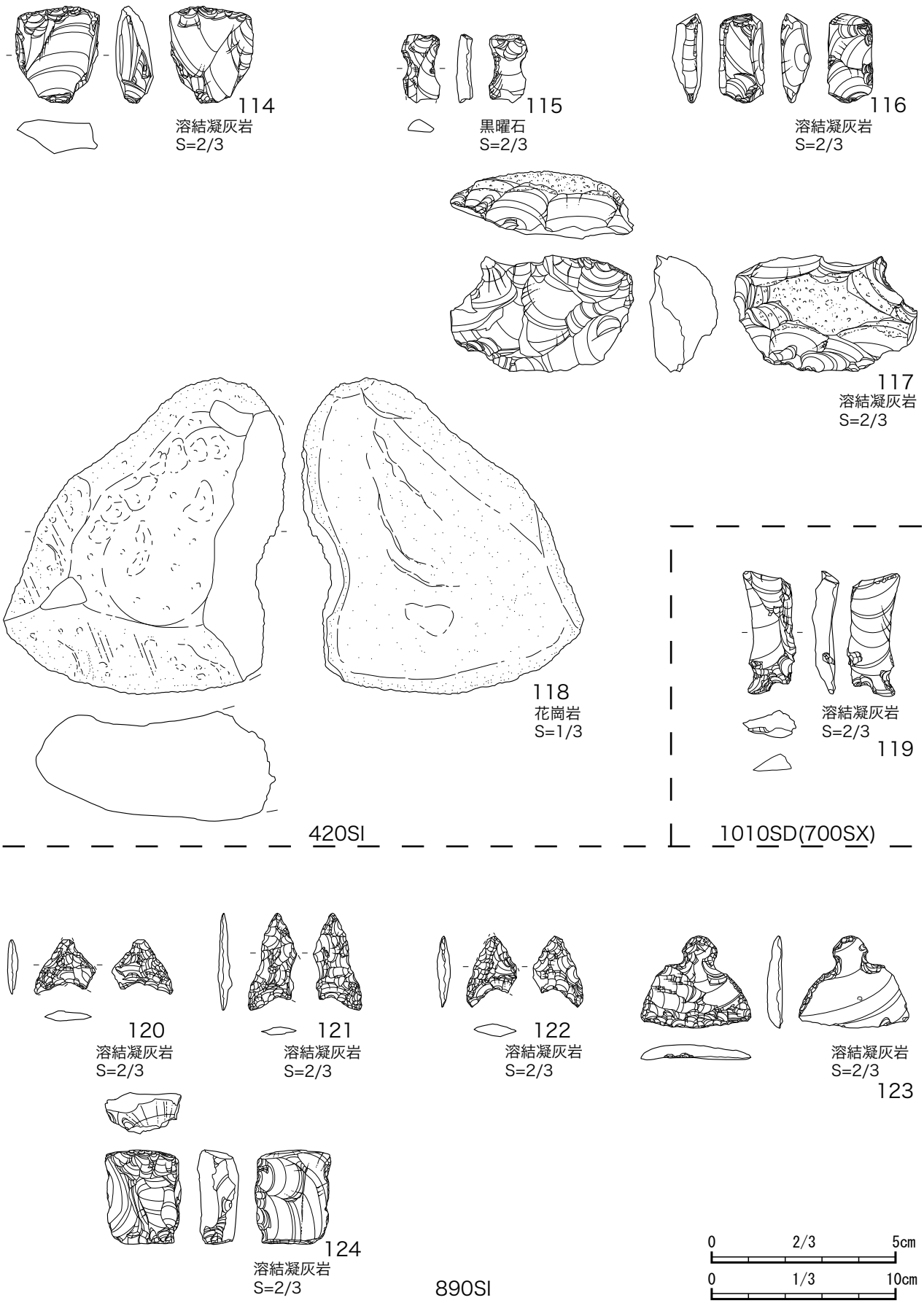
第 55 図　大畑遺跡出土石器実測図 9（S=1:3・2:3）



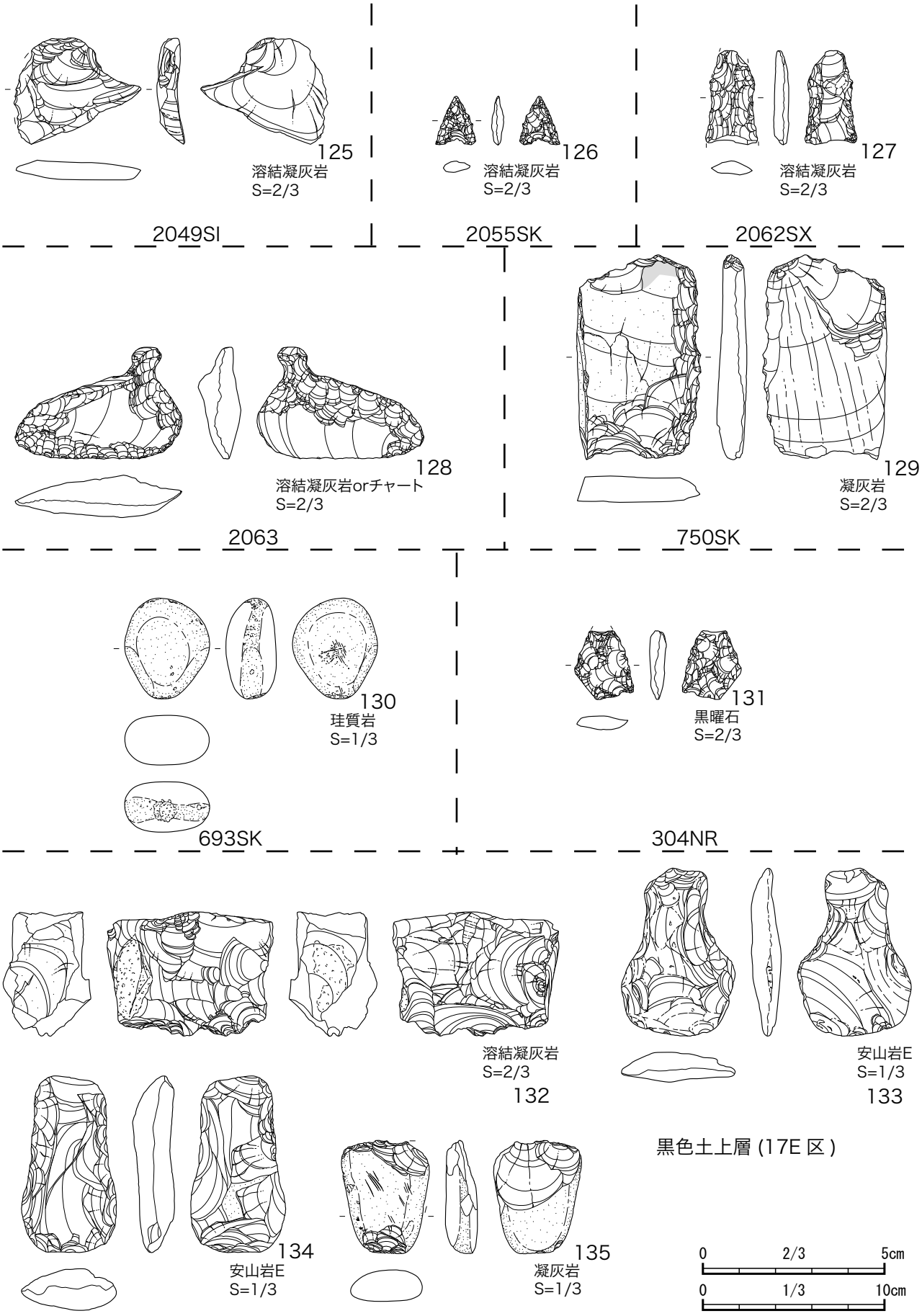
第 56 図　大畑遺跡出土石器実測図 10（S=1:3・2:3）



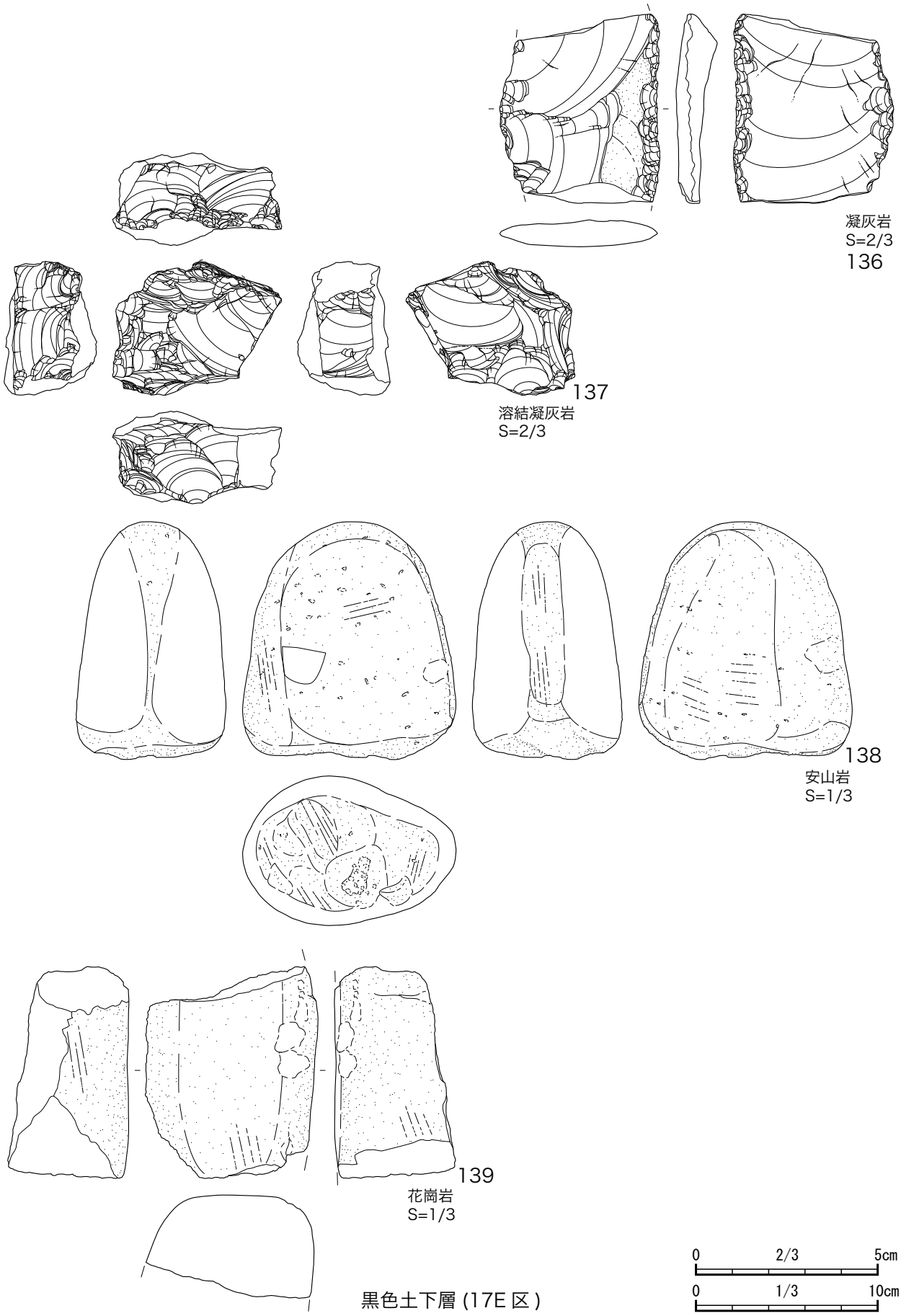
第 57 図　大畑遺跡出土石器実測図 11（S=1:3・2:3）



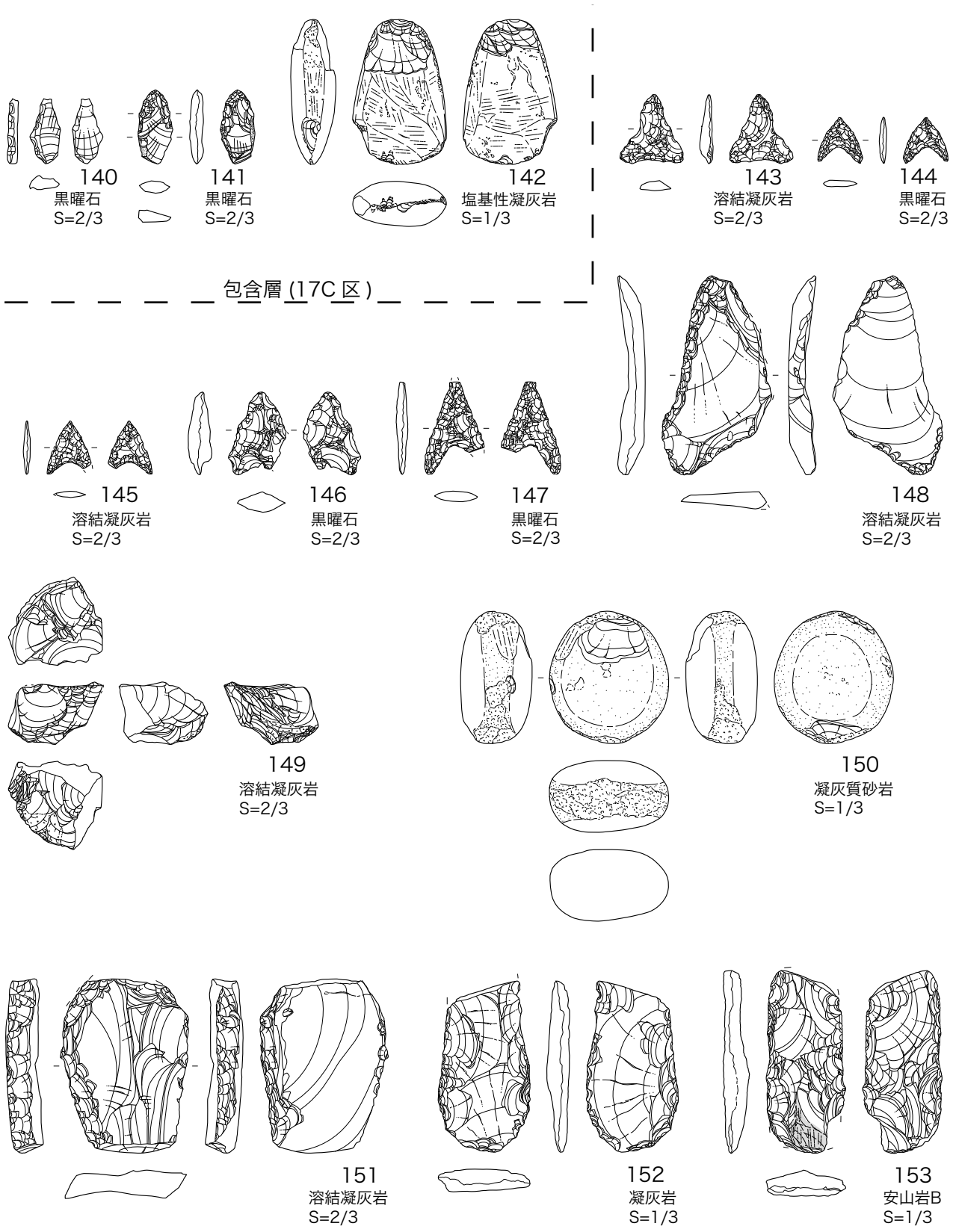
第 58 図　大畑遺跡出土石器実測図 12（S=1:3・2:3）



第 59 図　大畑遺跡出土石器実測図 13（S=1:3・2:3）



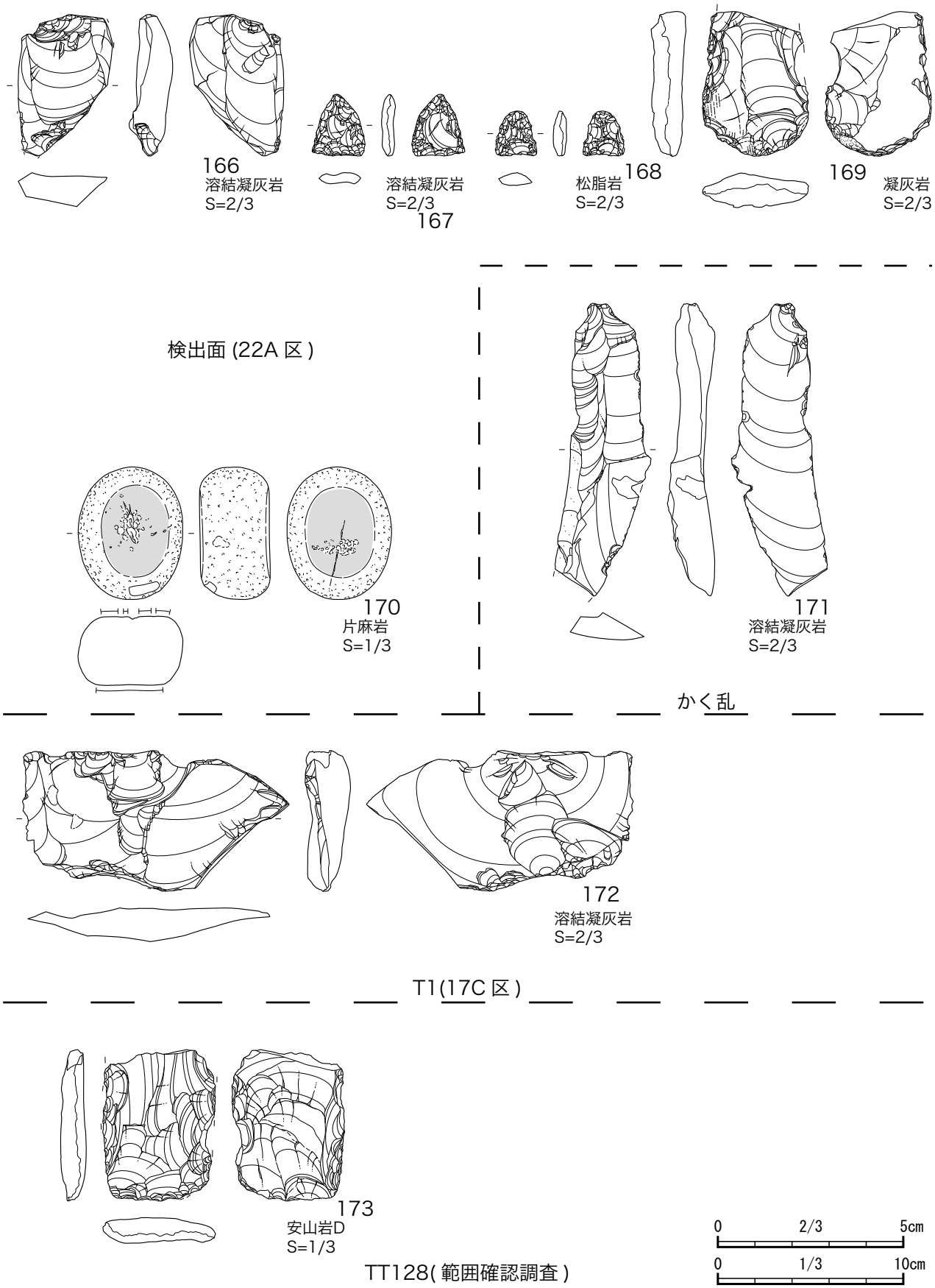
第 60 図　大畑遺跡出土石器実測図 14（S=1:3・2:3）



第 61 図　大畑遺跡出土石器実測図 15（S=1:3・2:3）

検出面 (17D 区、17A 区、22A 区)

第 62 図　大畑遺跡出土石器実測図 16（S=1:3・2:3）



第 63 図　大畑遺跡出土石器実測図 17（S=1:3・2:3）

第４章　自然科学分析

第１節　放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
伊藤　茂・加藤和浩・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・小林克也

1.　はじめに

愛知県設楽町の大畑遺跡から出土した試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

2.　試料と方法

17A 区の試料は、0651SI の炭化材（試料 No.1：PLD-52311）、228SL の炭化材（試料 No.12：PLD-52322）、17C 区の試料は、402SX の炭化材２点（試料 No.2、3：PLD-52312、52313）、390SL の炭化材（試料 No.4：PLD-52314）、300SI の炭化材（試料 No.6：PLD-52316）、390SL の炭化材（試料 No.8：PLD-52318）、800SL の炭化材（試料 No.9：PLD-52319）、871SL の炭化材（試料 No.10：PLD-52320）、17D 区の試料は、440SI の炭化材２点（試料 No.5、11:PLD-52315、52321）、17E 区の試料は、947SK の炭化材（試料 No.7：PLD-52317）、22B 区の 2005SK から出土した炭化材３点（試料 No.1 ～ 3：PLD-52455 ～ 52457）の、計 15 点である。試料 No.6 は最終形成年輪が残っていたが、他の試料はいずれも最終形成年輪が残っていなかった。ただし、試料 No.5 は辺材部が残っていた。測定試料の情報、調製データは第２・３表のとおりである。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3.　結果

第 4･5 表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、第 64・65 図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下１桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C 年代（yrBP）の算出には、^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（±1 σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.27％であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い（^{14}C の半減期 5730±40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.4（較正曲線データ:IntCal20）を使用した。なお、1 σ 暦年代範囲は、

第２表　測定試料及び処理（１）

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-52311	試料No.1 調査区：17A グリッド：8439 遺構：065SI 遺物No.d-435	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L）
PLD-52312	試料No.2 調査区：17C グリッド：6935 遺構：402SX 遺物No.d-1188	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L）
PLD-52313	試料No.3 調査区：17C グリッド：6935 遺構：402SX 遺物No.d-1189	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L）
PLD-52314	調査区：17C グリッド：7235 遺構：390SL南東	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L）
PLD-52315	試料No.5 調査区：17D グリッド：7635 遺構：440SI 遺物No.d-1889	種類：炭化材 試料の性状：辺材部 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L）
PLD-52316	試料No.6 調査区：17C グリッド：7235 遺構：300SI 遺物No.d-2410	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L）
PLD-52317	試料No.7 調査区：17E グリッド：7438 遺構：947SK 遺物No.d-3255	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L）
PLD-52318	試料No.8 調査区：17C グリッド：7235 遺構：390SL 遺物No.d-3327	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L）
PLD-52319	試料No.9 調査区：17C グリッド：7336 遺構：800SL	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L）
PLD-52320	試料No.10 調査区：17C グリッド：7336 遺構：871SL	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L）
PLD-52321	試料No.11 調査区：17D グリッド：7635 遺構：440SI	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L）
PLD-52322	試料No.12 調査区：17A グリッド：8439 遺構：228SL	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L）

第３表　測定試料及び処理（２）

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-52455	試料No.13 調査区：22B グリッド：8037 遺構：2005SK 遺物No.1	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2mol/L）
PLD-52456	試料No.14 調査区：22B グリッド：8037 遺構：2005SK 遺物No.18	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2mol/L）
PLD-52457	試料No.15 調査区：22B グリッド：8037 遺構：2005SK 遺物No.54	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2mol/L）

OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.27％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に２σ暦年代範囲は 95.45％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

4.　考察

以下、^{14}C 年代および２σ暦年代範囲（確率 95.45%）に着目して、暦年代の古い順に、遺構ごとに結果を整理する。なお､縄文時代の土器編年と暦年代の対応関係については小林（2017）を参照した。

また木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。今回の試料では、試料 No.6 は最終形成年輪を含めて測定が行われ、試料 No.5 は辺材部が残っていたが、他の試料はいずれも最終形成年輪が残っていなかった。試料 No.6 の測定結果は枯死もしくは伐採された年代を示すが、それ以外の試料はいずれも古木効果の影響を受けていると考えられ、実際に枯死もしくは伐採された年代は、測定結果よりも新しい年代であると考えられる。ただし、試料 No.5 の古木効果の影響は、わずかであると考えられる。

947SK の試料 No.7（PLD-52317）は、^{14}C 年代で 9555±30 ^{14}CBP、２σ暦年代範囲で 9129-8969 cal BC（49.79%）、8939-8767 cal BC（45.66%）となった。これは、縄文時代早期前葉に相当する。

440SI では、試料 No.5（PLD-52315）は、^{14}C 年代で 4955±20 ^{14}CBP、２σ暦年代範囲で 3777-3653 cal BC（95.45%）となった。また試料 No.11（PLD-52321）は、^{14}C 年代で 4915±25 ^{14}CBP、２σ暦年代範囲で 3763-3737 cal BC（6.03%）、3713-3641 cal BC（89.42%）となった。これらは、縄文時代前期後半に相当する。

065SI の試料 No.1（PLD-52311）は、^{14}C 年代で 4200±20 ^{14}CBP、２σ暦年代範囲で 2890-2849 cal BC（27.25%）、2810-2745 cal BC（51.25%）、2728-2695 cal BC（16.27%）、2684-2678 cal BC（0.67%）となった。これは、縄文時代中期後半に相当する。

390SL では、試料 No.8（PLD-52318）は、^{14}C 年代で 4200±20 ^{14}CBP、２σ暦年代範囲で 2892-2849 cal BC（28.29%）､2810-2745 cal BC（50.59%）､2728-2695 cal BC（15.89%）､2684-2678 cal BC（0.68%）となった。また 390SL 南東の試料 No.4（PLD-52314）は、^{14}C 年代で 4175±20 ^{14}CBP、２σ暦年代範

第４表　放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果（１）

測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-52311 065SI 試料No.1	-25.77±0.13	4199±21	4200±20	2883-2866 cal BC (19.11%) 2803-2765 cal BC (40.52%) 2717-2706 cal BC (8.64%)	2890-2849 cal BC (27.25%) 2810-2745 cal BC (51.25%) 2728-2695 cal BC (16.27%) 2684-2678 cal BC (0.67%)
PLD-52312 402SX 試料No.2	-24.70±0.16	1199±18	1200±20	775-776 cal AD (1.03%) 782-790 cal AD (8.24%) 822-880 cal AD (59.00%)	774-777 cal AD (1.93%) 779-884 cal AD (93.52%)
PLD-52313 402SX 試料No.3	-24.75±0.16	1329±18	1330±20	659-678 cal AD (49.18%) 750-758 cal AD (15.93%) 769-771 cal AD (3.16%)	654-688 cal AD (60.27%) 698-702 cal AD (1.12%) 742-773 cal AD (34.06%)
PLD-52314 390SL南東 試料No.4	-26.29±0.14	4173±21	4175±20	2875-2854 cal BC (14.01%) 2808-2792 cal BC (10.17%) 2789-2749 cal BC (27.26%) 2724-2699 cal BC (16.83%)	2881-2839 cal BC (20.24%) 2816-2668 cal BC (74.85%) 2643-2640 cal BC (0.36%)
PLD-52315 440SI 試料No.5	-25.58±0.14	4955±22	4955±20	3765-3727 cal BC (32.36%) 3714-3702 cal BC (10.92%) 3681-3656 cal BC (24.99%)	3777-3653 cal BC (95.45%)
PLD-52316 300SI 試料No.6	-27.14±0.20	4114±21	4115±20	2848-2811 cal BC (22.14%) 2744-2729 cal BC (7.39%) 2695-2685 cal BC (4.38%) 2677-2623 cal BC (31.88%) 2592-2586 cal BC (2.48%)	2861-2805 cal BC (26.94%) 2755-2719 cal BC (12.41%) 2703-2577 cal BC (56.10%)
PLD-52317 947SK 試料No.7	-25.56±0.14	9553±29	9555±30	9120-9072 cal BC (19.10%) 9063-9004 cal BC (21.78%) 8921-8898 cal BC (8.29%) 8860-8809 cal BC (19.10%)	9129-8969 cal BC (49.79%) 8939-8767 cal BC (45.66%)
PLD-52318 390SL 試料No.8	-27.04±0.16	4201±22	4200±20	2884-2866 cal BC (20.13%) 2803-2765 cal BC (39.88%) 2717-2706 cal BC (8.26%)	2892-2849 cal BC (28.29%) 2810-2745 cal BC (50.59%) 2728-2695 cal BC (15.89%) 2684-2678 cal BC (0.68%)
PLD-52319 800SL 試料No.9	-27.41±0.17	4165±24	4165±25	2874-2848 cal BC (14.49%) 2811-2796 cal BC (8.31%) 2785-2744 cal BC (23.26%) 2729-2695 cal BC (18.90%) 2685-2677 cal BC (3.31%)	2880-2833 cal BC (19.79%) 2820-2665 cal BC (72.57%) 2650-2633 cal BC (3.09%)
PLD-52320 871SL 試料No.10	-25.18±0.18	4176±20	4175±20	2875-2857 cal BC (13.12%) 2807-2751 cal BC (39.87%) 2722-2701 cal BC (15.28%)	2881-2843 cal BC (20.28%) 2814-2671 cal BC (75.17%)
PLD-52321 440SI 試料No.11	-28.58±0.16	4914±23	4915±25	3705-3674 cal BC (50.92%) 3658-3647 cal BC (17.35%)	3763-3737 cal BC (6.03%) 3713-3641 cal BC (89.42%)
PLD-52322 228SL 試料No.12	-26.35±0.19	4112±22	4110±20	2847-2811 cal BC (21.21%) 2744-2730 cal BC (6.63%) 2694-2686 cal BC (3.56%) 2676-2622 cal BC (31.49%) 2596-2584 cal BC (5.38%)	2861-2805 cal BC (26.27%) 2755-2719 cal BC (11.87%) 2703-2576 cal BC (57.31%)

第５表　放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果（２）

測定番号	δ13C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	14C 年代 (yrBP±1σ)	14C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-52455 試料No.13 遺物No.1	-26.06±0.22	4514±22	4515±20	3345-3323 cal BC (11.07%) 3235-3178 cal BC (29.43%) 3159-3107 cal BC (27.77%)	3354-3281 cal BC (24.65%) 3278-3265 cal BC (2.97%) 3244-3102 cal BC (67.83%)
PLD-52456 試料No.14 遺物No.18	-26.74±0.21	4552±23	4550±25	3365-3333 cal BC (38.51%) 3214-3189 cal BC (21.97%) 3149-3136 cal BC (7.79%)	3369-3320 cal BC (43.16%) 3237-3175 cal BC (30.92%) 3163-3105 cal BC (21.37%)
PLD-52457 試料No.15 遺物No.54	-26.07±0.20	4532±23	4530±25	3357-3328 cal BC (20.70%) 3220-3184 cal BC (25.36%) 3154-3116 cal BC (22.20%)	3363-3311 cal BC (26.38%) 3298-3285 cal BC (1.95%) 3273-3268 cal BC (0.78%) 3241-3103 cal BC (66.34%)

囲で 2881-2839 cal BC（20.24%）、2816-2668 cal BC（74.85%）、2643-2640 cal BC（0.36%）となった。これらは、縄文時代中期後半に相当する。

871SL の試料 No.10（PLD-52320）は、^{14}C 年代で 4175±20 ^{14}CBP、2 σ暦年代範囲で 2881-2843 cal BC（20.28%）、2814-2671 cal BC（75.17%）となった。これは、縄文時代中期後半に相当する。

800SL の試料 No.9（PLD-52319）は、^{14}C 年代で 4165±25 ^{14}CBP、2 σ暦年代範囲で 2880-2833 cal BC（19.79%）、2820-2665 cal BC（72.57%）、2650-2633 cal BC（3.09%）となった。これは、縄文時代中期後半に相当する。

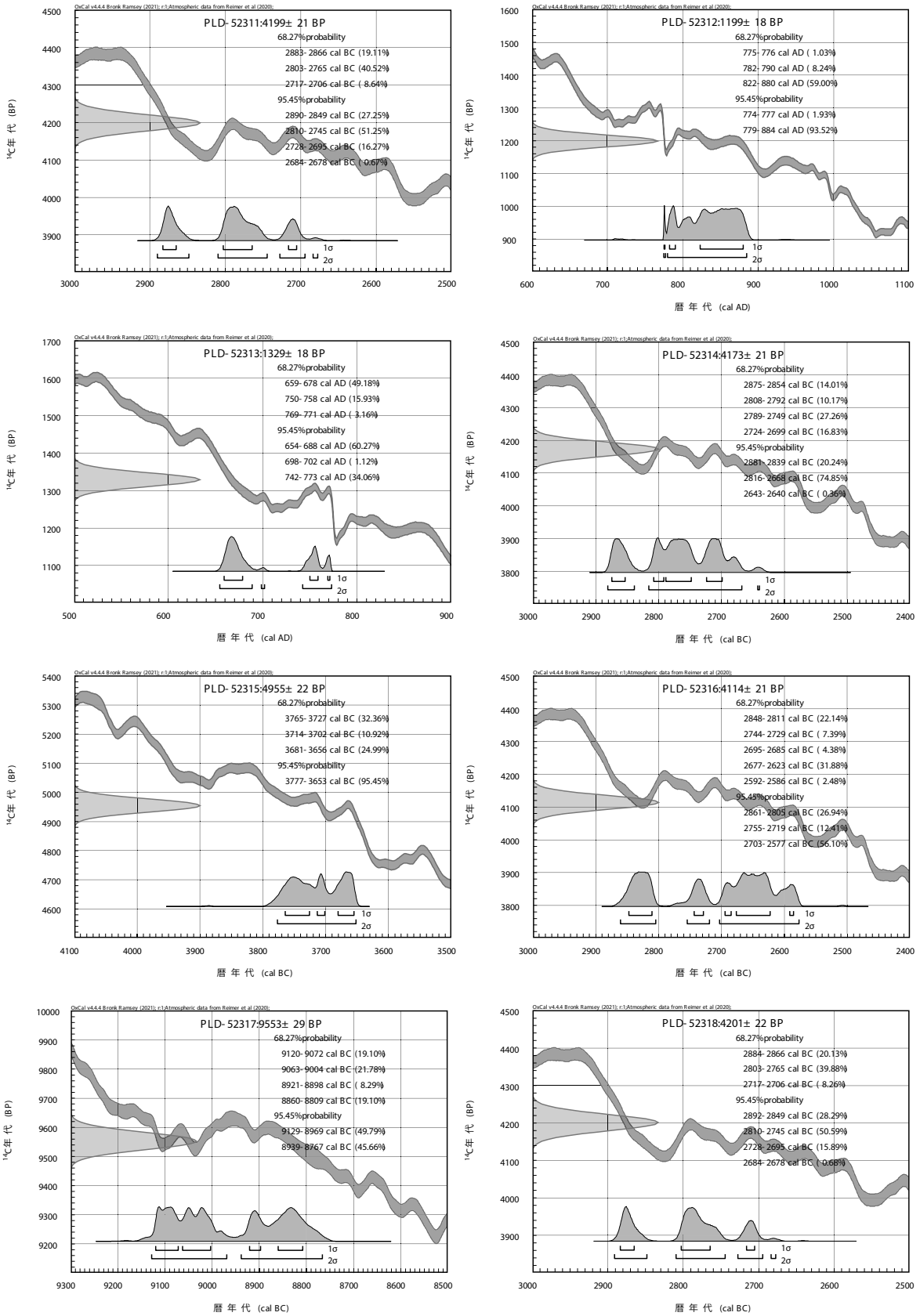
300SI の試料 No.6（PLD-52316）は、^{14}C 年代で 4115±20 ^{14}CBP、2 σ暦年代範囲で 2861-2805 cal BC（26.94%）、2755-2719 cal BC（12.41%）、2703-2577 cal BC（56.10%）となった。これは、縄文時代中期後半に相当する。

228SL の試料 No.12（PLD-52322）は、^{14}C 年代で 4110±20 ^{14}CBP、2 σ暦年代範囲で 2861-2805 cal BC（26.27%）、2755-2719 cal BC（11.87%）、2703-2576 cal BC（57.31%）となった。これは、縄文時代中期後半に相当する。

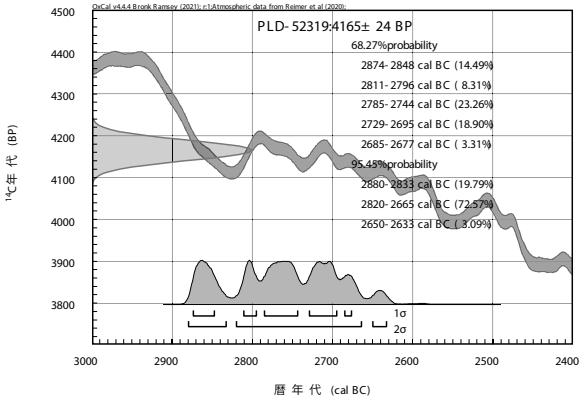
402SX では、試料 No.3（PLD-52313）は、2 σ暦年代範囲で 654-688 cal AD（60.27%）、698-702 cal AD（1.12%）、742-773 cal AD（34.06%）で、7 世紀中頃～ 8 世紀後半の暦年代を示した。これは、飛鳥時代～奈良時代に相当する。また試料 No.2（PLD-52312）は、2 σ暦年代範囲で 774-777 cal AD（1.93%）、779-884 cal AD（93.52%）で、8 世紀後半～ 9 世紀後半の暦年代を示した。これは、奈良時代～平安時代前期に相当する。

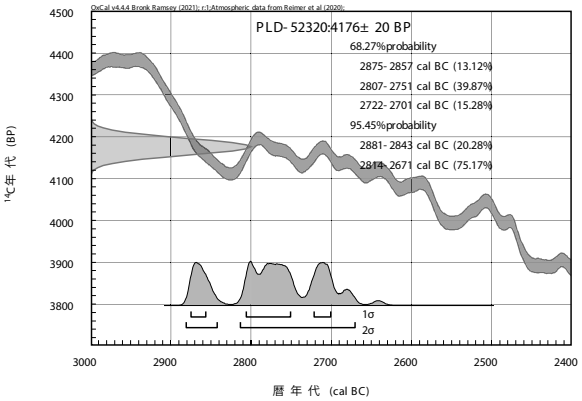
2005SK の試料 No.13（PLD-52455）は ^{14}C 年代が 4515±20 ^{14}C BP、2 σ暦年代範囲（確率 95.45％）が 3354-3281 cal BC（24.65%）、3278-3265 cal BC（2.97%）、3244-3102 cal BC（67.83%）、試料 No.14（PLD-52456）は ^{14}C 年代が 4550±25 ^{14}C BP、2 σ暦年代範囲が 3369-3320 cal BC（43.16%）、3237-3175 cal BC（30.92%）、3163-3105 cal BC（21.37%）、試料 No.15（PLD-52457）は ^{14}C 年代が 4530±25 ^{14}C BP、2 σ暦年代範囲が 3363-3311 cal BC（26.38%）、3298-3285 cal BC（1.95%）、3273-3268 cal BC（0.78%）、3241-3103 cal BC（66.34%）であった。いずれも、縄文時代中期前半に相当する。

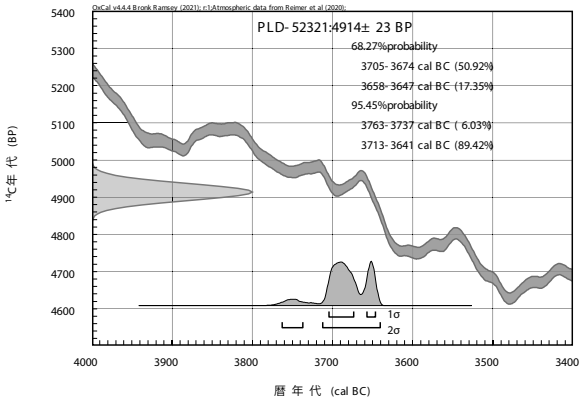
【引用・参考文献】
Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.
中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の 14C 年代編集委員会編「日本先史時代の 14C 年代」:3-20，日本第四紀学会．
Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R.,

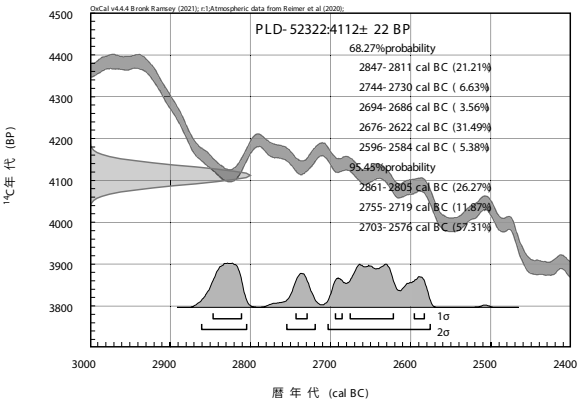


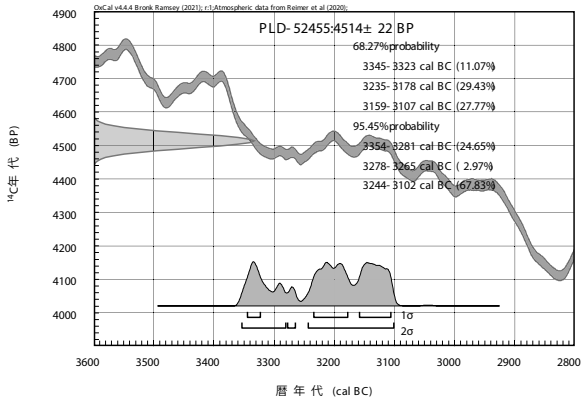
第 64 図　暦年較正結果（1）

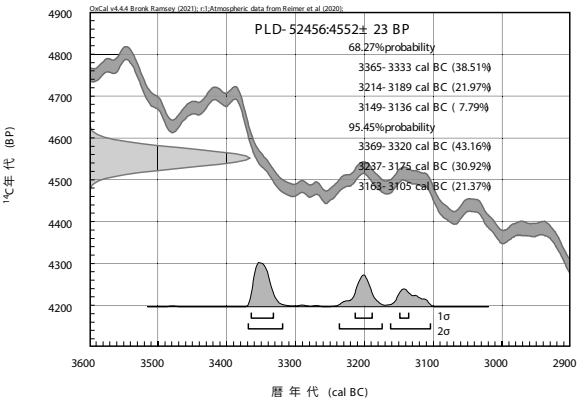


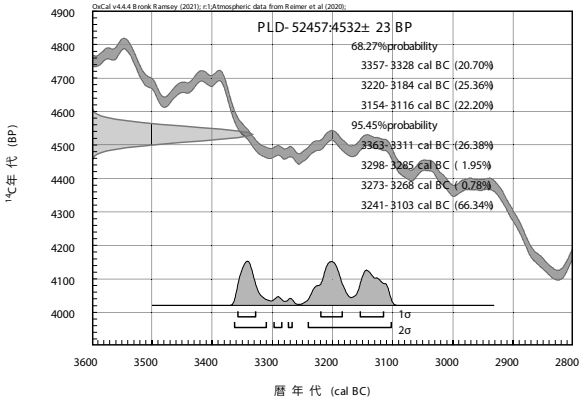












第 65 図　暦年較正結果（2）

Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41 (cited 12 August 2020)

第２節　大畑遺跡から出土した炭化種実

バンダリ・スダルジャン（パレオ・ラボ）

1.　はじめに

愛知県北設楽郡設楽町川向地内に所在する大畑遺跡の縄文時代の土坑から得られた炭化種実の同定を行い、当時利用された種実について検討した。

2. 試料と方法

試料は、22B 区の縄文時代の土坑 2005SK から採取され、水洗選別後に抽出された 38 試料である。試料の水洗は、愛知県埋蔵文化財センターにて、最小 1.0mm 目の篩を用いて行なわれた。水洗前の土壌量は第 6 表を参照されたい。

種実の同定・計数は、肉眼および実体顕微鏡で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても 1 個体とみなせるものは完形として数え、1 個体に満たないものは破片とした。炭化材の破片は、おおよその数を記号（+）で示した。試料は、愛知県埋蔵文化財センターに保管されている。

3. 結果

同定した結果、木本植物では広葉樹のクリ炭化果実とオニグルミ炭化核、ミズキ炭化核の 3 分類群、草本植物ではマメ科炭化種子とヤナギタデ炭化果実、イヌタデ属炭化果実の 3 分類群の、計 6 分類群が得られた。このほかに、科以上の詳細な同定ができなかった種実を不明 A 炭化種実、不明 B 炭化種実とした。また、残存状態が悪く、科以上の細分に必要な識別点が残存していない一群を同定不能炭化種実とした。炭化種実以外には、不明炭化材と炭化菌類、炭化子嚢菌・子嚢菌塊、炭化虫えいも得られたが、同定の対象外とした（第 6 表）。

以下に、炭化種実の産出状況を試料 No. 別に記載する。

試料 No.1：同定可能な種実は得られなかった。
試料 No.2：同定可能な種実は得られなかった。
試料 No.3：同定可能な種実は得られなかった。
試料 No.4：同定可能な種実は得られなかった。
試料 No.5：同定可能な種実は得られなかった。
試料 No.6：同定可能な種実は得られなかった。
試料 No.7：マメ科がわずかに得られた。
試料 No.8：オニグルミとミズキがわずかに得られた。
試料 No.9：クリとオニグルミがわずかに得られた。
試料 No.10：同定可能な種実は得られなかった。
試料 No.12：同定可能な種実は得られなかった。
試料 No.14：同定可能な種実は得られなかった。
試料 No.15：同定可能な種実は得られなかった。
試料 No.16：同定可能な種実は得られなかった。
試料 No.17：同定可能な種実は得られなかった。
試料 No.18：同定可能な種実は得られなかった。

第６表　大畑遺跡から出土した炭化種実（括弧内は破片数）

	試料No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	14	15
	地区	22B区												
	グリッド	8037												
	遺構名	2005SK												
	時期	縄文時代												
分類群	水洗量	9.865	6.920	6.820	8.190	6.820	5.515	8.340	10.690	9.120	10.030	9.730	8.970	10.000
クリ	炭化果実									(2)				
オニグルミ	炭化核								(2)	(1)				
ミズキ	炭化核								(1)					
マメ科	炭化種子							(1)						
同定不能	炭化種実	(9)					(1)							
不明	炭化材				(+)							(+)		
菌類	炭化						1							
子嚢菌	炭化子嚢							1					1	
	炭化子嚢塊													
虫えい	炭化	8 (1)	1	4	4	1	2			5	1	5	3	2

+:1-9

	試料No.	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
	地区	22B区												
	グリッド	8037												
	遺構名	2005SK												
	時期	縄文時代												
分類群	水洗量（kg）	10.720	7.275	7.360	13.580	11.780	10.740	11.140	9.400	11.700	11.560	8.980	9.840	9.380
イヌタデ属	炭化果実						1							
同定不能	炭化種実					(2)								
不明	炭化材													(+)
虫えい	炭化	5	(1)	3	6	1	6	5	1 (4)	1	4	1 (8)	3	1

+:1-9

	試料No.	29	30	31	34	37	38	43	45	51	54	56	60
	地区	22B区											
	グリッド	8037											
	遺構名	2005SK											
	時期	縄文時代											
分類群	水洗量（kg）	10.910	8.690	6.420	10.840	14.330	10.230	9.690	9.170	10.070	15.520	11.760	14.480
ヤナギタデ	炭化果実				1								
イヌタデ属	炭化果実	1				1							
不明A	炭化種実	1											
不明B	炭化種実		(3)										
不明	炭化材			(+)		(+)							
子嚢菌	炭化子嚢					1			1			2	
	炭化子嚢塊										1		
虫えい	炭化				1	(1)	1			1	1 (1)		1
備考								土					

+:1-9

試料 No.19：同定可能な種実は得られなかった。

試料 No.20：同定可能な種実は得られなかった。

試料 No.21：イヌタデ属がわずかに得られた。

試料 No.22：同定可能な種実は得られなかった。

試料 No.23：同定可能な種実は得られなかった。

試料 No.24：同定可能な種実は得られなかった。

試料 No.25：同定可能な種実は得られなかった。

試料 No.26：同定可能な種実は得られなかった。

試料 No.27：同定可能な種実は得られなかった。
試料 No.28：同定可能な種実は得られなかった。
試料 No.29：イヌタデ属と不明 A がわずかに得られた。
試料 No.30：不明 B がわずかに得られた。
試料 No.31：同定可能な種実は得られなかった。
試料 No.34：ヤナギタデがわずかに得られた。
試料 No.37：イヌタデ属がわずかに得られた。
試料 No.38：同定可能な種実は得られなかった。
試料 No.43：同定可能な種実は得られなかった。
試料 No.45：同定可能な種実は得られなかった。
試料 No.51：同定可能な種実は得られなかった。
試料 No.54：同定可能な種実は得られなかった。
試料 No.56：同定可能な種実は得られなかった。
試料 No.60：同定可能な種実は得られなかった。

次に、得られた分類群の記載を行い、第 66 図に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田（2003-）に準拠し、APG Ⅲリストの順とした。

（1）クリ　Castanea crenata Sieb. et Zucc.　炭化果実　ブナ科

完形ならば上面観は楕円形、側面観は広卵形。表面は平滑で、細い縦筋がみられる。底面にある殻斗着痕はざらつくが、残存していない。残存高 4.0mm、残存幅 2.9mm。

（2）オニグルミ　Juglans mandshurica Maxim. var. sachalinensis（Komatsu）Kitam.　炭化核　クルミ科

完形ならば上面観は両凸レンズ形、側面観は広卵形。表面には、浅い溝と凹凸が不規則に入る。内部は二室に分かれるが、残存していない。残存高 3.5mm、残存幅 3.9mm。

（3）ミズキ　Cornus controversa Hemsl. ex Prain　炭化核　ミズキ科

完形ならばゆがんだ球形。基部に裂けたような大きな着点がある。種皮は厚く、やや軟らかい。深い溝と隆起が縦方向に走る。長さ 2.7mm、残存幅 2.5mm。

（4）マメ科　Fabaceae sp.　炭化種子　マメ科

完形ならば上面観、側面観ともに楕円形。表面は平滑。臍は残存していない。長さ 2.1mm、幅 1.9mm。

（5）ヤナギタデ　Persicaria hydropiper（L.）Delarbre　炭化果実　タデ科

上面観は扁平で両凸レンズ形、側面観は広卵形。先端は細く尖る。表面には細かい網目状隆線がある。長さ 1.8mm、幅 1.5mm。

（6）イヌタデ属　Persicaria spp.　炭化果実　タデ科

側面観は広卵形、断面は三稜形。表面は平滑で、光沢がある。長さ 1.2mm、幅 0.9mm。

（7）不明 A　Unknown A　炭化種実

上面観は楕円形、側面観は長楕円形。表面は平滑で、光沢がある。長さ 2.5mm、幅 1.2mm。

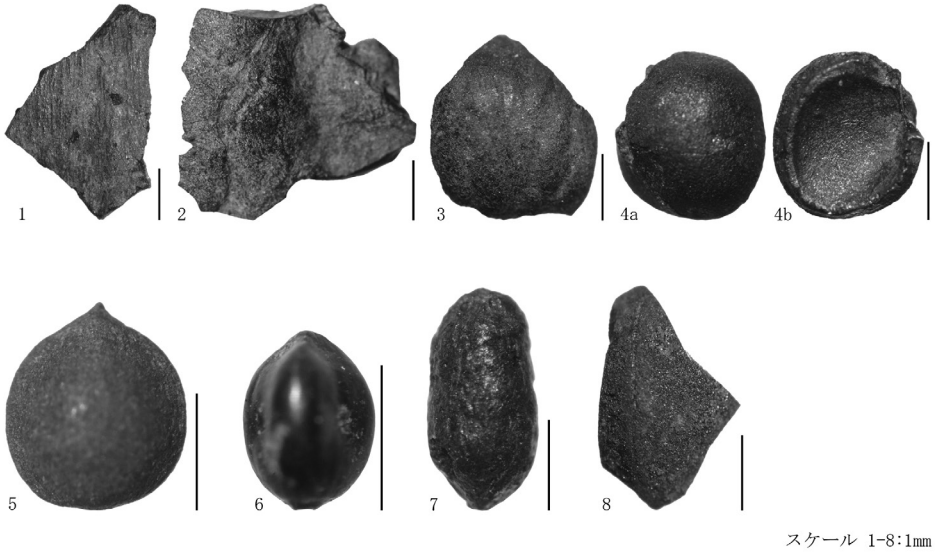
（8）不明 B　Unknown B　炭化種実

破片のため全体形は不明である。表面は平滑。識別可能な構造は確認できなかった。残存長 3.0mm、残存幅 1.9mm。

4. 考察

縄文時代の土坑 2005SK からは、野生植物で食用として利用可能な堅果類のクリとオニグルミ、しょう果類のミズキ、マメ科が得られた。クリ炭化果実やオニグルミ炭化核は、食用となる子葉を取り出したのちに、不要な果実や核が燃やされて、土坑内に堆積した可能性が考えられる。しょう果類のミズキは、香辛料としての利用が想定されている（辻ほか，2006）。野生植物のマメ科とヤナギタデ、イヌタデ属は、周辺に生育していたものが偶発的に炭化し、土坑内に堆積した可能性がある。菌類や子嚢菌、虫えいは、木材などに付着していたものが炭化した可能性などが考えられる。

【引用・参考文献】
辻　圭子・辻　誠一郎・南木睦彦（2006）青森県三内丸山遺跡の縄文時代前期から中期の種実遺体群と植物利用．植生史研究，特別第２号，101 － 120.
米倉浩司・梶田　忠（2003-）BG Plants 和名－学名インデックス（YList），http://ylist.info



第 66 図　大畑遺跡から出土した炭化種実
1．クリ炭化果実（No.9）、2．オニグルミ炭化核（No.9）、3．ミズキ炭化核（No.8）、4．マメ科炭化種子（No.7）、5．ヤナギタデ炭化果実（No.34）、6．イヌタデ属炭化果実（No.29）、7．不明 A 炭化種実（No.29）、8．不明 B 炭化種実（No.30）

第３節　大畑遺跡出土の黒曜石製石器の産地推定

竹原弘展（パレオ・ラボ）

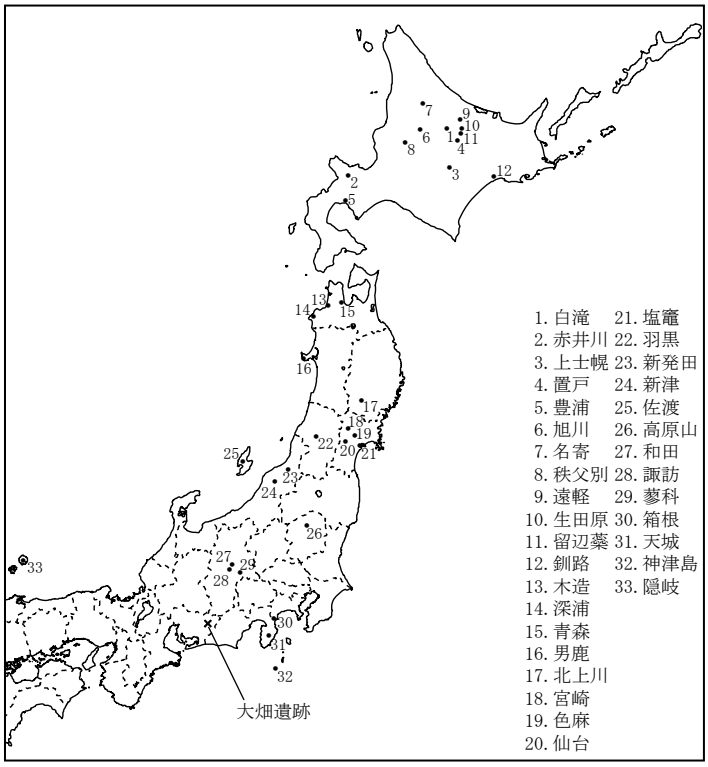
1.　はじめに

北設楽郡設楽町川向地内に所在する大畑遺跡より出土した黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

2. 試料と方法

分析対象は、第７表に示す黒曜石製石器 20 点である。試料は、測定前に超音波洗浄器やメラミンフォーム製スポンジを用いて、測定面の表面の洗浄を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー



第 66 図　黒曜石産地分布図（東日本）

第７表　分析対象

分析No.	通し番号	整理番号	調査区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	遺構等	d-No.	法量(cm,g) 長さ	幅	厚さ	重さ	器種	分類1	分類2	備考
1	006	107	17A	8141	—	d-0122	1.4	1.1	0.2	0.3	石鏃		凹基無茎	
2	011	314	17D	8234	273SK	d-0512	2.6	3.1	0.7	5.8	石核			
3	016	516	17C	7436	包含層	d-0752	(2.0)	0.9	0.3	0.7	尖頭器?		小型	
4	017	535	17C	7235	300SI	d-0773	2.6	1.5	0.4	0.9	石鏃		凹基無茎	
5	018	592	17C	7436	351SK	d-0834	2.8	1.1	0.6	1.1	石錐			
6	025	972	17C	7235	300SI上層	d-1285	2.5	(1.3)	0.5	1.1	石鏃	右側折損		
7	029	1099	17C	7436	362SX上層	d-1443	5.5	2.8	1.7	17.5	剥片	石核調整剥片		
8	030	1110	17C	7336	検出面	d-1458	1.3	1.2	0.2	0.2	石鏃		凹基無茎	
9	033	1252	17C	7436	362SX上層	d-1616	1.9	(1.4)	0.3	0.6	石鏃	脚部折損		
10	035	1335	17D	8236	検出面	d-1710	3.5	3.5	1.0	10.9	掻器		円形掻器?	旧石器?
11	054	1684	17C	7236	463SK	d-2146	1.5	(0.8)	0.3	0.2	石鏃	先端･左脚部折損	凹基無茎	
12	055	1686	17C	7236	463SK	d-2148	2.2	1.6	0.3	0.9	石鏃		平基	
13	058	1782	17C	7235	830SK(300SI)	d-2305	2.2	2.3	1.5	6.7	石核			
14	059	1784	17C	7235	833SK(300SI)	d-2306	2.7	3.6	1.0	9.6	楔形石器			
15	086	2522	17C	7336	検出面	d-3217	2.2	(1.3)	0.6	1.4	石鏃	右脚部折損	凹基無茎	
16	092	2601	17C	7235	833SK	d-3334	1.8	1.6	0.3	1.0	石鏃		凹基無茎	
17	093	2610	17D	8037	検出面	d-0600	5.8	2.0	0.7	8.3	削器	両側縁に加工		旧石器
18	094	2612	17C	7436	検出面	d-0634	(2.5)	1.6	0.3	0.7	石鏃	先端･右脚部折損	凹基無茎	
19	116	3314	17C	7436	362SX南西	—	2.3	1.5	0.3	0.6	石鏃		凹基無茎	
20		761	17C	7336	包含層	d-1025	1.7	0.8	0.3	0.3	ﾅｲﾌ形石器?	左側面にﾌﾞﾗﾝﾃｨﾝｸﾞ？		旧石器

第８表　東日本黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群名	原石採取地	
北海道	白滝	白滝1	赤石山山頂(43),八号沢露頭(15)	赤石山山頂,八号沢露頭,八号沢,黒曜の沢,幌加林道(36)
		白滝2	7の沢川支流(2),IK露頭(10),十勝石沢露頭直下河床(11),アジサイの滝露頭(10)	
	赤井川	赤井川	曲川・土木川(24)	
	上士幌	上士幌	十勝三股(4),タウシュベツ川右岸(42),タウシュベツ川左岸(10),十三ノ沢(32)	
	置戸	置戸山	置戸山(5)	
		所山	所山(5)	
	豊浦	豊浦	豊泉(10)	
	旭川	旭川	辻又台(8),雨紛台(2)	
	名寄	名寄	忠烈布川（19）	
	秩父別	秩父別1	中山(65)	
		秩父別2		
		秩父別3		
	遠軽	遠軽	社名淵川河床(2)	
	生田原	生田原	仁田布川河床(10)	
	留辺蘂	留辺蘂1	ケショマップ川河床(9)	
		留辺蘂2		
	釧路	釧路	釧路市営スキー場(9),阿寒川右岸(2),阿寒川左岸(6)	
青森	木造	出来島	出来島海岸(15),鶴ヶ坂（10）	
	深浦	八森山	岡崎浜(7),八森山公園(8)	
	青森	青森	天田内川(6)	
秋田	男鹿	金ヶ崎	金ヶ崎温泉(10)	
		脇本	脇本海岸(4)	
岩手	北上川	北上折居1	北上川(9),真城（33）	
		北上折居2		
		北上折居3		
宮城	宮崎	湯ノ倉	湯ノ倉(40)	
	色麻	根岸	根岸(40)	
	仙台	秋保1	土蔵(18)	
		秋保2		
	塩竈	塩竈	塩竈(10)	
山形	羽黒	月山	月山荘前(24),大越沢（10）	
		櫛引	たらのき代（19）	
新潟	新発田	板山	板山牧場(10)	
	新津	金津	金津(7)	
	佐渡	真光寺	追分(4)	
栃木	高原山	甘湯沢	甘湯沢(22)	
		七尋沢	七尋沢(3),宮川(3),枝持沢(3)	
長野	和田	西餅屋	芙蓉パーライト土砂集積場(30)	
		鷹山	鷹山(14),東餅屋(54)	
		小深沢	小深沢(42)	
		土屋橋1	土屋橋西(10)	
		土屋橋2	新和田トンネル北(20),土屋橋北西(58),土屋橋西(1)	
		古峠	和田峠トンネル上(28),古峠(38),和田峠スキー場(28)	
		ブドウ沢	ブドウ沢(20)	
		牧ヶ沢	牧ヶ沢下(20)	
		高松沢	高松沢(19)	
	諏訪	星ヶ台	星ヶ台(35),星ヶ塔(20)	
	蓼科	冷山	冷山(20),麦草峠(20),麦草峠東(20)	
神奈川	箱根	芦ノ湯	芦ノ湯(20)	
		畑宿	畑宿(51)	
		鍛冶屋	鍛冶屋(20)	
静岡		上多賀	上多賀(20)	
	天城	柏峠	柏峠(20)	
東京	神津島	恩馳島	恩馳島(27)	
		砂糠崎	砂糠崎(20)	
島根	隠岐	久見	久見パーライト中(6),久見採掘現場(5)	
		箕浦	箕浦海岸(3),加茂(4),岸浜(3)	

分散型蛍光Ｘ線分析計 SEA1200VX を使用した。装置の仕様は、Ｘ線管ターゲットはロジウム（Rh）、Ｘ線検出器は SDD 検出器である。測定条件は、測定時間 100sec、照射径８㎜、電圧 50kV、電流 1000 μ A、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタに Pb 測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光Ｘ線分析によるＸ線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた（望月，1999 など）。本方法では、まず各試料を蛍光Ｘ線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム（K）、マンガン（Mn）、鉄（Fe）、ルビジウム（Rb）、ストロンチウム（Sr）、イットリウム（Y）、ジルコニウム（Zr）の合計７元素のＸ線強度（cps：count per second）について、以下に示す指標値を計算する。

1）Rb 分率 =Rb 強度 ×100/(Rb 強度 +Sr 強度 +Y 強度 +Zr 強度)

2）Sr 分率 =Sr 強度 ×100/(Rb 強度 +Sr 強度 +Y 強度 +Zr 強度)

3）Mn 強度 ×100/Fe 強度

4）log(Fe 強度 /K 強度)

そして、これらの指標値を用いた２つの判別図（横軸 Rb 分率－縦軸 Mn 強度 ×100/Fe 強度の判別図、横軸 Sr 分率－縦軸 log(Fe 強度 /K 強度）の判別図）を作成し、各地の原石データと遺物のデータを照合して、産地を推定する。この方法は、できる限り蛍光Ｘ線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせて指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。ただし、風化試料の場合、log(Fe 強度 /K 強度）の値が減少する（望月，1999)。試料の測定面には、なるべく平滑な面を選

んだ。

原石試料は、採取原石を割って新鮮な面を露出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。第８表に判別群一覧とそれぞれの原石の採取地点および点数を、第 68 図に各原石の採取地の分布図を示す。

第９表　測定値および産地推定結果

分析 No.	K強度 (cps)	Mn強度 (cps)	Fe強度 (cps)	Rb強度 (cps)	Sr強度 (cps)	Y強度 (cps)	Zr強度 (cps)	Rb分率	Mn*100/Fe	Sr分率	log Fe/K	判別群	エリア	分析 No.
1	315.1	79.6	802.1	595.1	219.8	288.4	556.7	35.85	9.92	13.24	0.41	星ヶ台?	諏訪?	1
2	307.7	116.5	1077.9	796.7	307.7	407.4	801.0	34.45	10.81	13.30	0.54	星ヶ台	諏訪	2
3	353.4	130.4	1259.5	963.7	356.2	490.6	998.1	34.31	10.35	12.68	0.55	星ヶ台	諏訪	3
4	295.3	112.9	1090.3	830.9	313.2	424.6	835.6	34.56	10.36	13.03	0.57	星ヶ台	諏訪	4
5	215.2	81.7	790.2	586.2	219.0	289.9	571.7	35.17	10.34	13.14	0.56	星ヶ台	諏訪	5
6	301.7	117.4	1089.5	858.3	329.5	441.2	877.5	34.24	10.78	13.15	0.56	星ヶ台	諏訪	6
7	346.9	134.1	1239.8	946.5	364.0	486.3	960.5	34.33	10.81	13.20	0.55	星ヶ台	諏訪	7
8	190.6	111.5	899.2	1340.7	61.9	540.2	581.5	53.11	12.40	2.45	0.67	西餅屋	和田	8
9	277.9	110.7	1063.3	833.4	322.8	431.3	854.8	34.12	10.41	13.22	0.58	星ヶ台	諏訪	9
10	288.0	111.4	1035.2	823.3	318.4	433.3	860.4	33.81	10.76	13.07	0.56	星ヶ台	諏訪	10
11	172.7	66.0	658.0	467.2	173.5	233.4	449.6	35.29	10.03	13.10	0.58	星ヶ台	諏訪	11
12	275.9	154.3	1251.3	1734.8	77.3	701.5	755.8	53.06	12.33	2.36	0.66	西餅屋	和田	12
13	336.6	129.8	1179.4	890.3	338.5	454.1	889.0	34.62	11.01	13.16	0.54	星ヶ台	諏訪	13
14	291.5	110.4	1019.9	794.5	305.8	409.3	821.0	34.09	10.83	13.12	0.54	星ヶ台	諏訪	14
15	390.8	123.2	1167.3	894.4	340.5	453.5	918.3	34.31	10.55	13.06	0.48	星ヶ台?	諏訪?	15
16	312.5	123.2	1159.2	916.0	350.8	475.2	938.1	34.18	10.63	13.09	0.57	星ヶ台	諏訪	16
17	329.3	127.1	1189.4	938.3	360.1	481.8	955.7	34.30	10.69	13.16	0.56	星ヶ台	諏訪	17
18	257.9	99.9	966.9	733.7	278.4	373.6	732.2	34.64	10.33	13.14	0.57	星ヶ台	諏訪	18
19	172.5	68.1	649.4	510.7	197.4	266.7	526.3	34.02	10.49	13.15	0.58	星ヶ台	諏訪	19
20	214.8	85.7	799.1	607.7	234.6	316.8	624.2	34.08	10.73	13.15	0.57	星ヶ台	諏訪	20

3. 分析結果

第９表に石器の測定値および算出した指標値を、第 68 図と第 69 図に黒曜石原石の判別図に石器の指標値をプロットした図を示す。視覚的にわかりやすくするため、図では各判別群を楕円で取り囲んだ。

分析の結果、２点が西餅屋群（長野県、和田エリア）、16 点が星ヶ台群（長野県、諏訪エリア）の範囲にプロットされた。分析 No.1 と 15 の２点は、第 68 図では星ヶ台群の範囲にプロットされたが、第 69 図では星ヶ台群の範囲の下方にプロットされた。これは、先述したように遺物の風化による影響と考えられ（望月，1999)、星ヶ台群に属する可能性が高い。

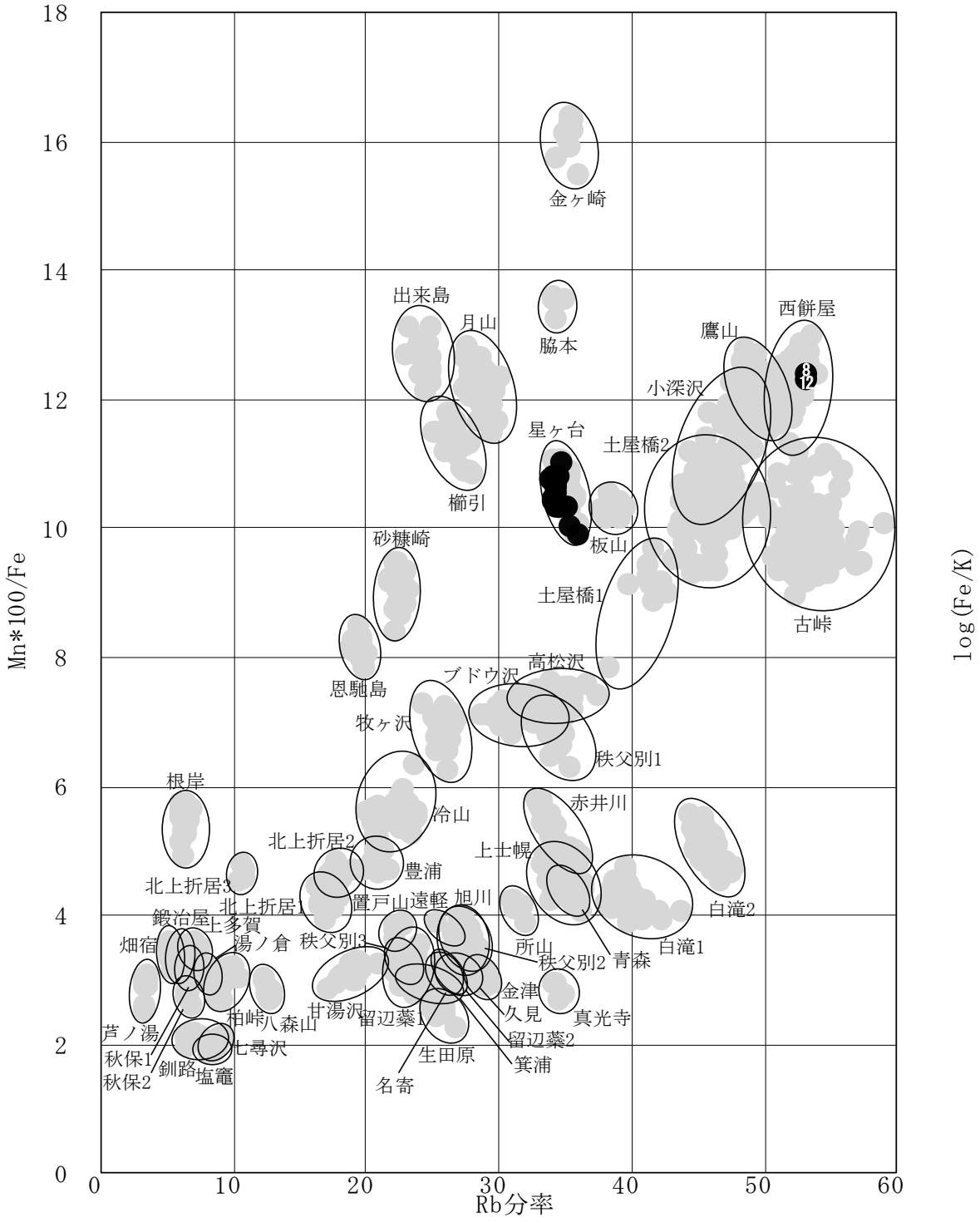
第９表に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。今回分析した 20 点の範囲内において、全点が信州産であった。

4. おわりに

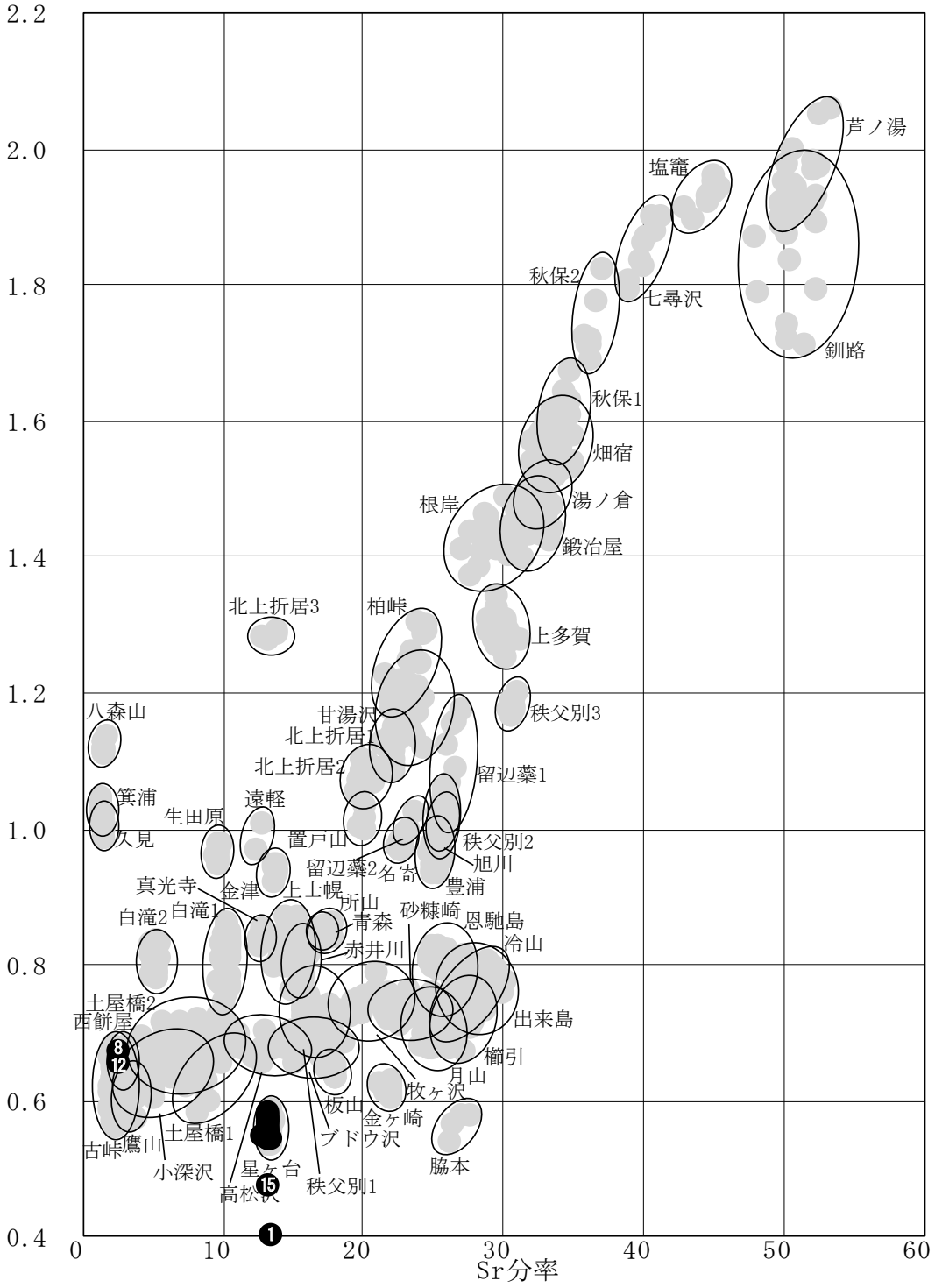
大畑遺跡より出土した黒曜石製石器 20 点について、蛍光Ｘ線分析による産地推定を行った結果、２点が和田、18 点が諏訪エリア産と推定された。

【引用・参考文献】

望月明彦（1999）上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定．大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書２―上和田城山遺跡篇―」：172-179，大和市教育委員会．



第 68 図　黒曜石産地推定判別図（1）



第 69 図　黒曜石産地推定判別図（2）

第５章　総括

第１節　大畑遺跡の地形と遺構

大畑遺跡は周囲と隔てられた地形の中にある。北側は万瀬遺跡方面から細い尾根で連続するものの、東と南は境川によって、西は戸神川によって急峻な崖が形成されている。東西方向は登攀は困難である。南側には道があり、明治 17 年の地籍図（遺構図版 10・11）によれば大畑遺跡の北側から南側に抜ける道が記載されている。北側から細い尾根状地形の上を経て西側丘陵裾付近を通り、17 区南端付近の岩塊付近で谷状地形を北から南に渡り、川向東貝津遺跡付近に降りるルートを採る。大畑遺跡と川向東貝津遺跡の間の斜面ではこの道の一部が調査期間中にも視認できた。以上のように、大畑遺跡付近への到るルートは北と南にほぼ限定され、最も容易に往来できたのは北側からと考えられる。河川との関連では、南側の境川が最も近くはあるが、それでも比高は約 50m ある。

このような地形の条件の下に存在する大畑遺跡では周囲からの土砂の流入が無く、土砂が流出する一方である。遺跡内での地形は、その特徴から「東側の尾根」、「西側の尾根」、「谷頭地区」、「南向きの谷（谷状地形）」、「北向きの谷」の５つに分けることができる。それぞれの地形の中に遺構がまとまって分布することも大畑遺跡の特徴となっている（第 70 図）。

「東側の尾根」は尾根の本体は南北に 130m 程度の長さがあり、最高所付近は標高 447m である。17 区南端付近に南西方向に尾根の先端が突き出しており、ここでは縄文時代中期の竪穴建物跡 065SI が検出された。西側の尾根上と同様に東側の尾根上にも竪穴建物跡が分布する可能性はあるが、ダム湛水区域の標高より上位であることから調査範囲外となった。ただし範囲確認調査の結果では、尾根頂部付近では遺構・遺物とも検出されていない。

「西側の尾根」は、尾根の本体は南北に約 100m の長さがあり、最高所は竪穴建物跡 300SI の立地する地点で標高 433.6m である。西側の尾根上では、縄文時代前期の竪穴建物跡は、北から 310SI、440SI（前期後半から中期前半）がある。縄文時代中期は、300SI、362SI、440SI（前期後半から中期前半）がある。縄文時代後期は、300SI の検出面や埋土から称名寺式に比定される土器が検出されているが、300SI の遺構そのものは縄文時代中期に属し、縄文時代後期の遺構が付近に存在した可能性を考慮するにとどめておきたい。490SI では押型文のある土器が検出されており、縄文時代早期の可能性もあるが、490SI の残存状況からは断定し難い。他には 402SX、395SX、370SX が竪穴状の遺構ではあるが時期は特定し難い。

「谷頭地区」は、東西は東側・西側丘陵に挟まれ、南北は北向の谷、南向の谷それぞれの起点となる。東西の尾根間の往来、また南北方向の移動に際しても、谷頭付近が最も比高が少なくなっており、必然的に往来の多い地点と考えられる。そのためか、比較的狭い範囲に竪穴建物跡の集中する場でもあり、縄文時代前期は 2063SI、1030SI 等、縄文時代中期は 2049/192SI、700SI 等がある。特に 420SI ～ 1030SI 付近では、少なくとも縄文時代前期から中期にかけて５棟が繰り返し造成される状況となっていた。なお、土器 E-37 ～ 39 は 420SI の埋土中で検出され、大麦田Ⅱ式に比定されるが、遺構の断面と平面の切り合い関係からは、420SI は一連の５棟中の最後に造成されており、遺物の比定される年代と遺構の切り合い関係が合致しない。E-37 ～ 39 は 420SI 等の掘削に伴い先行する遺構から掘り起こされた他、西側の斜面上位から流れ下った結果、埋土に混入した可能性を考えたい。一方で、700SI（1010SD）の E-40・41 は遺構の底面、壁溝内で検出されているため、700SI 造成時に近

い時期のものが残存したと考えたい。

「南向きの谷（谷状地形）」は、420SI 付近を谷頭とし、17 区南端の西側より調査区外に続き、川向東貝津遺跡の北側で戸神川に至る。大畑遺跡調査区内での雨水・湧水は概ねここを通り戸神川に注いでいた。この影響で継続的に洗掘されてきたことが推定できる。この谷状地形内部で検出された遺構は少なく、傾斜のゆるい谷頭に近い部分では黒色土（遺物包含層）の堆積は相対的に厚くなるものの、17 区南端に向かい傾斜が強くなる部分では黒色土の堆積は減少し花崗岩の岩盤が露出する。この状況からも遺構の残存状況は 17 区南端付近では少ないことが裏付けられる。22B 区では、遺構の残存状況としてはそれほど良好ではない（深くはない）ながらも木島式に比定される土器を多数包含していた 2004SK、炭化物や種実を多く包含していた 2005SK が検出された。

「北向きの谷」は、「谷頭地区」より北向きに下る地形で、2057SI 付近から始まる。「南向きの谷」同様に継続的に洗掘されてきたと推定される。この谷状地形の多くの部分は調査範囲の北側外部となる。現況では谷の存在と規模は明確には視認できないが、範囲確認調査の際には TT112・113 等で掘削を行った結果、谷状地形が深くまで及び、それが近現代に埋められていることが判明している。

以上の状況から、西側の尾根地形と谷頭地域の地形については、少なくとも縄文時代前期から継続的に遺構が造成されていることから、現在に近い地形となっていたことがわかる。東側の尾根状地形も同様であったことも推定できる。その一方で谷状地形や傾斜の強い部分は雨水等による侵食を受け続けており、遺構の残存状況に影響があったことが推定できる。

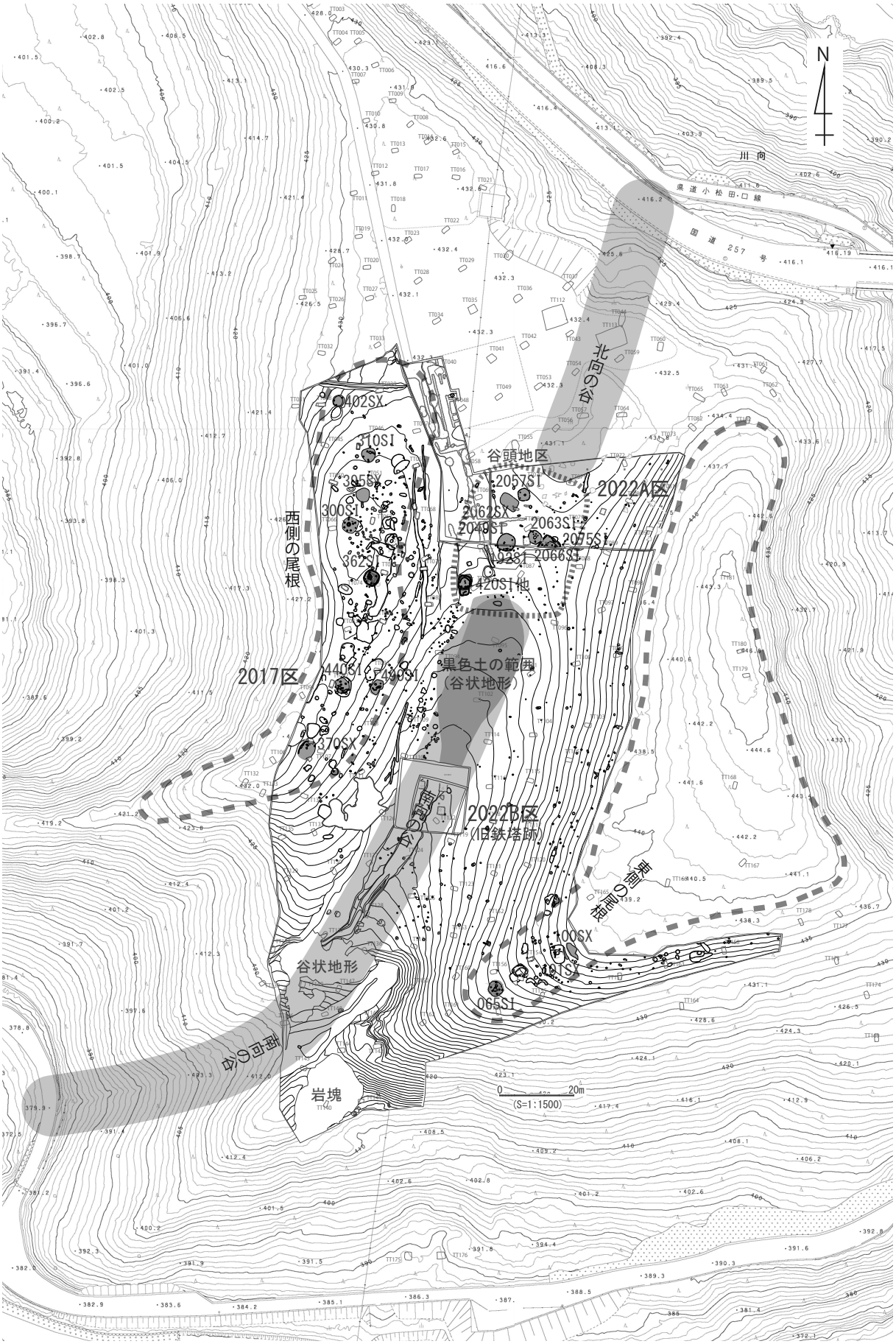
各地形内の竪穴建物跡の数と時期は、西側の尾根内には縄文時代前期が 2 棟（310SI・440SI）、縄文時代中期が 3 棟（300SI・360SI・362SI）、詳細不明 3 棟（395SX・490SI・370SX）。東側の尾根には、縄文時代中期が 1 棟（065SI）、谷頭地区には、縄文時代前期が 2 ～ 3 棟（2063SI・1000SI）、縄文時代中期が 5 ～ 6 棟（2049SI/192SI・2075SI・420SI・700SI・890SI）。1000SI の上層、420SI の下層にあたる 1030SI は遺構の切り合い関係から前期か中期のどちらかに属すと考えられる。詳細な時期が不明なものは 2 棟（2057SI、2062SI）がある。他の谷状地形内では竪穴建物跡は検出されていない。棟数の多少でみれば縄文時代前期よりも縄文時代中期が多くはなるが、362SI･360SI や、420SI･890SI など、同一地点で重複するように造成された棟数を含めているため、このような結果となっている。

縄文時代後期から弥生時代にかけての遺構は時期を確定できるものは検出されておらず、西側の尾根上の 300SI 上や東側の尾根上の 176SK で遺物が検出されている。遺構が滅失した結果、あるいは植栽痕跡の埋没時に取り込まれた結果、遺物が検出されたと考えられる。

第 2 節　大畑遺跡の竪穴建物跡 065SI の炉跡 187SL と副炉 228SL

縄文時代中期の竪穴建物跡 065SI 内の石囲炉 187SL の北側に付属する副炉 228SL は、調査実施時点において設楽ダム関連の調査で初の副炉検出例であった。187SL の掘方の規模が一辺約 1m を測るのに対して、228SL の掘方は一辺約 0.2m の規模である。228SL の内部には顕著な焼土や炭化物は検出されていない。

本調査以降は、上ヲロウ･下ヲロウ遺跡、下延坂遺跡でも副炉の付属する石囲炉が検出されている。マサノ沢遺跡では炉に付属する土坑で副炉の石が抜き取られた可能性も指摘されている。近隣の遺跡では豊田市ヒロノ遺跡、土岐市妻木平遺跡に類例がある。その他、長野県、山梨県には多数の類例があり、本遺跡の副炉についてもこれらの地域との関連が想定されている。



第 70 図　大畑遺跡遺構分布状況図（S=1:1500）

【引用・参考文献】

飯田市教育委員会 1986『恒川遺跡群』−一般国道 153 号座光寺バイパス用地内埋蔵文化財発掘調査報告−
今泉宗男 2014 「江戸城に送られた設楽の木材」『文化したら 25』
（株）平和時計製作所・長野県飯田市教育委員会 1989『下原遺跡』（株）平和時計製作所の工場建設に先立つ埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター 2015「平成 27 年度　設楽ダム建設事業関連埋蔵文化財範囲確認調査報告書 2」
公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター 2016「大名倉遺跡ほか 14 遺跡」『年報』
公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター 2018「大畑遺跡」『年報』
公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター 2023「大畑遺跡」『年報』
公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター 2022『笹平遺跡』
公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター 2020『川向東貝津遺跡』
公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター 2022『大栗遺跡』
公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター 2024『万瀬遺跡』
設楽町 2005『設楽町誌 通史編』
鈴木冨美夫・岡田松三郎他 1968『北設楽郡史　原始〜中世』北設楽郡史編集委員会
長野県飯田市教育委員会 1999『三尋石遺跡Ⅲ』
長野県飯田市教育委員会 1999『三尋石遺跡Ⅳ』
長野県飯田市教育委員会 1996『増泉寺付近遺跡』土地改良総合整備事業に先立つ埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
長野県下伊那郡上郷町役場産業課・長野県下伊那郡上郷町教育委員会 1989『ツルサシ遺跡・ミカド遺跡・増田遺跡・垣外遺跡』−小規模排水対策特別事業下黒田中部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書− 上郷町埋蔵文化財発掘調査報告書第 14 集
長野県飯田市教育委員会 1988『北田遺跡』昭和 61・62 年度農村総合整備モデル事業・ほ場整備事業に先立つ緊急発掘調査報告書
夏目一平 1926「北三河の遺跡（一）」『考古学雑誌第一六巻第十號』考古學會
山梨県教育委員会・山梨県農政部 2019『酒呑場遺跡（第 5 次）』−畜産酪農技術センター長坂支所施設等整備事業に伴う発掘調査報告書−
山本暉久 1994「石柱・石壇をもつ住居趾の性格」『日本考古学 1 号』日本考古学協会

付表

調査区	遺構記号	グリッド	検出面	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土	日付	出土遺物	備考
17A	043SX	8439	1	3.27	3.01	0.41	断面図参照	2016/6/16	土器・石器・礫	
17A	064SI	8439	1	4.50	4.43	0.40	断面図参照	2017/6/20	石器・土器・礫	
17A	065SI	8439	1	4.50	4.43	0.51	断面図参照	2017/6/20	石器・土器・礫・炭化物	
17A	100SX	8341	1	4.03	3.74	0.65	断面図参照	2017/7/3	石器・土器・礫	
17A	101SX	8441	1	4.76	3.58	0.76	断面図参照	2017/7/3	石器・土器・礫	
17B	175SX	7542	1	0.74	0.62	1.15	断面図参照	2017/7/11		
17A	176SK	8441	1	3.58	1.10	0.65	断面図参照	2017/7/11	土器・礫	
17A	187SL	8539	1	1.00	0.95	0.45	断面図参照	2017/7/18	石器	065SI内炉跡
17B	192SI	7339	1	-4.60	-1.39	0.10	断面図参照	2017/8/3	石器・土器・礫	
17A	228SL	8439	1	0.21	0.20	0.05	断面図参照	2017/8/10		065SI内炉跡
17A	230SK	8039	1	1.28	1.02	0.98	断面図参照	2017/8/10		
17A	237SK	8539	1	0.41	0.38	0.16	断面図参照	2017/8/17		065SI内遺構
17A	238SK	8439	1	0.37	0.34	0.32	断面図参照	2017/8/17	石器	065SI内遺構
17A	239SK	8439	1	0.42	0.28	0.16	断面図参照	2017/8/17		065SI内遺構
17A	240SK	8439	1	-0.39	-0.37	0.24	断面図参照	2017/8/17		065SI内遺構
17A	241SK	8539	1	0.43	0.38	0.10	断面図参照	2017/8/17		065SI内遺構
17A	242SK	8539	1	0.51	0.45	0.31	断面図参照	2017/8/17		065SI内遺構
17A	243SK	8539	1	0.41	0.38	0.21	断面図参照	2017/8/17		065SI内遺構
17A	244SK	8439	1	0.72	0.66	0.27	断面図参照	2017/8/17	礫	065SI内遺構
17B	246SK	7339	1	0.35	0.27	0.33	断面図参照	2017/8/17		
17B	247SD	7339	1	-0.33	-0.34	0.11	断面図参照	2017/8/17		192SX周溝
17B	248SK	7339	1	0.34	0.17	0.08	断面図参照	2017/8/17		
17B	250SK	7339	1	0.28	0.25	0.16	断面図参照	2017/8/17		
17B	251SD	7339	1	0.37	0.21	0.08	断面図参照	2017/8/17		
17B	252SK	7339	1	0.27	0.23	0.07	断面図参照	2017/8/17		
17B	253SK	7339	1	0.46	0.36	0.16	断面図参照	2017/8/17		
17B	254SK	7339	1	0.30	0.28	0.23	断面図参照	2017/8/17		
17B	255SD	7339	1	0.62	0.23	0.20	断面図参照	2017/8/17		
17B	256SK	7340	1	-0.37	-0.30	0.20	断面図参照	2017/8/17		
17B	265SK	7640	1	1.21	0.91	1.37	断面図参照	2017/8/22	炭化物	陥し穴
17A	273SK	8234	1	-0.50	-0.22	0.20	-	2017/8/24	石器	撹乱（植生痕）
17A	278SK	8237	1	0.57	0.39	0.08	断面図参照	2017/8/30	石器	
17C	300SI	7235	1	4.09	4.05	0.14	断面図参照	2017/8/22	石器・土器・礫・炭化物	
17A	304NR	8236	1	-26.54	-4.17	2.35	断面図参照	2017/9/5	石器・土器・礫	
17C	310SI	7136	1	4.19	3.91	0.27	断面図参照	2017/9/8	石器・土器・礫	
17C	345SI	7336	1	6.63	3.50	0.05	断面図参照	2017/9/29	石器・土器・礫	
17C	351SX	7436	1	-	-	-	-	2017/10/4	石器・土器・礫	撹乱
17C	362SI	7336	1	4.57	4.53	0.47	断面図参照	2017/10/5	石器・土器・礫	
17D	370SX	7834	1	5.76	4.88	0.72	断面図参照	2017/10/18	石器・土器・礫	
17D	375SK	7834	1	4.39	3.67	0.59	断面図参照	2017/10/18	石器	
17C	390SL	7235	1	1.05	1.02	0.33	断面図参照	2017/11/1	石器・礫・炭化物	300SI石囲炉
17C	395SX	7135	1	4.06	4.00	0.19	断面図参照	2017/11/2	石器・土器	
17C	400SU	7235	1	-	-	-		2017/10/30	土器	300SI床直遺物
17C	402SX	6935	1	3.36	3.16	0.79	断面図参照	2017/10/26	石器・炭化物	
17C	420SI	7438	1	4.00	3.54	0.38	断面図参照	2017/11/13	石器・土器・礫	
17D	440SI	7635	1	4.46	3.95	0.10	断面図参照	2017/11/20	石器・土器・礫・炭化物	
17C	450SX	7336	1	3.70	2.85	-		2017/11/20	礫	配石遺構
17C	460SU	7036	1	-	-	-	-	2017/11/20	土器	
17C	461SK	7035	1	0.38	0.34	0.04	断面図参照	2017/11/16	土器	
17C	463SK	7236	1	1.74	1.30	0.31	断面図参照	2017/11/16	土器・石器・礫	
17D	474SK	7834	1	0.57	0.42	0.08	断面図参照	2017/11/17		
17D	490SI	7636	1	4.60	3.25	0.30	断面図参照	2017/11/24	石器・土器・礫	
17C	493SK	7236	1	0.81	0.73	0.24	断面図参照	2017/11/20	石器・土器	
17D	496SK	7834	1	-0.92	-0.21	0.08	断面図参照	2017/11/20		
17C	560SK	7135	1	2.25	1.24	0.82	断面図参照	2017/11/24	石器・土器・礫	
17C	667SK	7136	1	1.57	0.83	0.10	断面図参照	2017/11/27	石器	
17C	693SK	7638	1	1.05	0.89	0.13	断面図参照	2017/11/28	礫	
17C	700SX	7438	1	2.97	-1.80	0.22	断面図参照	2017/11/28	石器・土器・礫	
17C	750SK	7337	1	0.99	0.94	0.39	断面図参照	2017/11/29	石器	
17C	794SX	7236	1	3.69	2.33	0.18	断面図参照	2017/12/4	石器・土器・礫	
17D	816SK	7635	1	0.54	0.44	0.14	断面図参照	2017/12/7		
17D	817SK	7635	1	0.59	0.44	0.18	断面図参照	2017/12/7		
17D	818SK	7635	1	0.42	0.33	0.12	断面図参照	2017/12/7		
17D	819SK	7635	1	0.76	0.65	0.19	断面図参照	2017/12/7	石器	
17D	820SK	7635	1	1.61	0.72	0.43	断面図参照	2017/12/7	石器・土器	
17D	821SK	7635	1	0.59	0.41	0.42	断面図参照	2017/12/7		
17D	822SK	7635	1	0.57	0.41	0.11	断面図参照	2017/12/7		
17D	823SK	7635	1	0.31	0.24	0.41	断面図参照	2017/12/7		
17D	826SK	7635	1	0.29	0.28	0.20	断面図参照	2017/12/7		
17D	827SK	7635	1	0.37	0.26	0.12	断面図参照	2017/12/7		
17D	828SK	7635	1	0.35	0.17	0.16	断面図参照	2017/12/7		
17C	829SK	7235	1	0.38	0.34	0.08	断面図参照	2017/12/7		
17C	830SK	7235	1	0.32	0.31	0.22	断面図参照	2017/12/7	石器	
17C	831SP	7235	1	0.59	0.41	0.47	断面図参照	2017/12/7	炭化物	300SI主柱穴
17C	832SP	7235	1	0.47	0.42	0.62	断面図参照	2017/12/7	炭化物	300SI主柱穴
17C	833SP	7235	1	0.48	0.46	0.59	断面図参照	2017/12/7	石器・炭化物	300SI主柱穴
17C	834SP	7235	1	0.42	0.37	0.60	断面図参照	2017/12/7	炭化物	300SI主柱穴
17C	835SK	7235	1	0.45	0.39	0.44	断面図参照	2017/12/7		
17C	836SK	7235	1	0.44	0.40	0.09	断面図参照	2017/12/11		
17D	838SK	7635	1	-0.35	-0.29	0.17	断面図参照	2017/12/13		
17D	839SK	7635	1	0.58	0.45	0.10	断面図参照	2017/12/13	石器	
17C	840SK	7336	1	0.94	0.91	0.32	断面図参照	2017/12/13	礫	
17D	841SK	7735	1	0.21	0.19	0.21	断面図参照	2017/12/13		
17D	844SD	7636	1	1.16	0.37	0.16	断面図参照	2017/12/13		
17D	845SK	7636	1	-0.30	-0.28	0.12	断面図参照	2017/12/13		
17D	846SK	7636	1	-0.38	-0.26	0.09	断面図参照	2017/12/13		

表 10-1　大畑遺跡遺構観察表 1

調査区	遺構記号	グリッド	検出面	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土	日付	出土遺物	備考
17D	848SK	7636	1	0.54	0.50	0.19	断面図参照	2017/12/13		
17D	849SK	7636	1	0.33	0.26	0.12	断面図参照	2017/12/13	石器	
17D	851SK	7636	1	0.40	0.30	0.16	断面図参照	2017/12/13	石器	
17D	852SK	7636	1	0.54	0.28	0.14	断面図参照	2017/12/13		
17D	853SK	7636	1	0.58	0.50	0.06	断面図参照	2017/12/13		
17D	854SK	7636	1	0.35	0.32	0.21	断面図参照	2017/12/13		
17D	855SK	7635	1	0.31	0.28	0.41	断面図参照	2017/12/13		
17D	857SK	7635	1	0.41	0.31	0.08	断面図参照	2017/12/13	石器	
17C	862SP	7436	1	0.55	0.49	0.53	断面図参照	2017/12/25	石器	362SI主柱穴
17C	863SP	7336	1	0.45	0.41	0.53	断面図参照	2017/12/25	石器	362SI主柱穴
17C	864SP	7336	1	0.48	0.38	0.51	断面図参照	2017/12/25	石器	362SI主柱穴
17C	865SP	7336	1	0.48	0.39	0.38	断面図参照	2017/12/25	土器	362SI主柱穴
17C	867SK	7435	1	0.23	0.16	0.16	断面図参照	2017/12/25		
17C	872SK	7036	1	0.44	0.39	0.13	断面図参照	2017/12/26		
17C	873SK	7036	1	0.45	0.38	0.12	断面図参照	2017/12/26		
17C	874SK	7036	1	0.80	0.72	0.11	断面図参照	2017/12/26		
17C	875SK	7036	1	0.47	0.40	0.12	断面図参照	2017/12/26		
17C	877SK	7036	1	0.41	0.40	0.26	断面図参照	2017/12/26	土器	
17C	878SK	7036	1	0.54	0.49	0.51	断面図参照	2017/12/26	石器	
17E	885SK	7539	2	1.07	0.80	1.30	断面図参照	2017/12/26		
17E	886SK	7539	2	1.45	0.83	1.08	断面図参照	2017/12/26		
17C	890SI	7438	1	3.13	2.91	0.36	断面図参照	2017/12/26	石器・礫・炭化物	
17E	950SK	7638	2	1.18	0.82	0.87	断面図参照	2018/1/10	炭化物	
17E	964SK	7738	2	1.01	0.71	0.87	断面図参照	2018/1/10		
17E	985SK	7739	2	1.31	1.06	1.13	断面図参照	2018/1/10	炭化物	陥し穴
17C	1000SX	7338	1	3.87	2.03	0.14	断面図参照	2018/1/11	石器・土器・礫	
17C	1005SK	7436	1	0.28	0.24	0.23	断面図参照	2018/1/11		
17C	1006SD	7436	1	0.94	0.25	0.16	断面図参照	2018/1/11		
17C	1010SD	7438	1	-2.40	0.22	0.06	断面図参照	2018/1/12	石器・土器	700SX壁溝
17C	1017SD	7336	1	5.65	0.22	0.04	断面図参照	2018/1/12	石器	362SI壁溝
17C	1018SD	7336	1	2.23	0.30	0.02	断面図参照	2018/1/12		362SI壁溝
17C	1019SD	7336	1	1.35	0.20	0.03	断面図参照	2018/1/12		362SI壁溝
17C	1025SD	7336	1	0.55	0.19	0.13	断面図参照	2018/1/19		362SI壁溝
17C	1026SK	7438	1	0.34	0.28	0.07	断面図参照	2018/1/23		
17C	1027SK	7438	1	0.45	0.27	0.30	断面図参照	2018/1/23		
17C	1028SK	7438	1	0.37	0.30	0.23	断面図参照	2018/1/23		
17C	1029SK	7438	1	0.29	0.27	0.35	断面図参照	2018/1/23		
17C	1030SX	7338	1	3.65	-1.12	0.28	断面図参照	2018/1/23	石器・土器	
17C	1031SK	7438	1	0.30	0.21	0.19	断面図参照	2018/1/23		
17C	1032SD	7338	1	2.68	0.16	0.02	断面図参照	2018/1/23		
17C	1033SD	7438	1	2.78	0.24	0.05	断面図参照	2018/1/23		
17C	1034SD	7438	1	1.01	0.20	0.10	断面図参照	2018/1/23		
17C	1035SK	7438	1	-0.34	0.19	0.05	断面図参照	2018/1/23		
17C	1036SK	7438	1	0.29	0.27	0.32	断面図参照	2018/1/26	石器	
17C	1037SK	7438	1	0.36	0.28	0.23	断面図参照	2018/1/26		
17C	1038SK	7438	1	0.35	0.23	0.09	断面図参照	2018/1/26		
17C	1039SK	7438	1	0.26	-0.16	0.24	断面図参照	2018/1/26		
17C	1040SK	7438	1	-0.72	0.69	0.18	断面図参照	2018/1/26		
17C	1041SK	7438	1	1.15	0.80	0.17	断面図参照	2018/1/26	石器・礫	
17C	1042SK	7436	1	0.28	0.25	0.21	断面図参照	2018/1/26		
17C	1043SK	7436	1	0.31	0.28	0.37	断面図参照	2018/1/26		
17C	1044SK	7336	1	0.27	0.19	0.26	断面図参照	2018/1/26		
22B	2004SK	7938	1	1.53	1.21	0.14	断面図参照	2022/10/25	土器	
22B	2005SK	8037	1	1.78	1.45	0.98	断面図参照	2022/10/25	あり	
A区	2021SP	7242	1	0.39	0.35	0.34	断面図参照	2022/11/11	土器	
22A	2025SK	7241	1	1.11	0.91	0.67	断面図参照	2022/11/11		
A区	2030SK	7141	1	0.93	0.48	0.07	断面図参照	2022/11/16	土器	
22A	2046SL	7241	1	1.52	1.44	0.19	断面図参照	2022/12/1		
22A	2049SI	7239・7240・7339・7340	1	4.84	-3.38	0.09	断面図参照	2022/12/1	石器	
22A	2055SK	7138・7139	1	1.35	0.77	0.33	断面図参照	2022/12/1	石器	
22A	2057SI	7140	1	3.43	3.17	0.11	断面図参照	2022/12/1	炭化物	
22A	2059SK	7240	1	0.26	0.23	0.52	断面図参照	2022/12/1		2063SI内
A区	2060SK	7240	1	0.44	0.34	0.13	断面図参照	2022/12/1	土器	
A区	2062SX	7139・7140・7239・7240	1	5.3	3.49	0.08	断面図参照	2022/12/2	石器	
22A	2063SI	7240・7340	1	3.77	3.42	0.19	断面図参照	2022/12/5	土器・石器	
22A	2065SK	6838・6938	1	1.08	1.05	0.65	断面図参照	2022/12/5		
22A	2066SI	7240・7241・7340・7341	1	3.54	-1.34	0.19	断面図参照	2022/12/5	土器	
22A	2067SP	7239	1	0.34	0.25	0.21	断面図参照	2022/12/5		2049SI内
22A	2068SP	7239	1	0.32	0.29	0.18	断面図参照	2022/12/5		2049SI内
22A	2070SK	7240	1	0.32	0.27	0.09	断面図参照	2022/12/5	土器	2063SI内
22A	2071SP	7140	1	0.23	0.22	0.12	断面図参照	2022/12/6		2057SI内
22A	2072SP	7140	1	0.21	0.18	0.12	断面図参照	2022/12/6		2057SI内
22A	2073SK	7140	1	0.54	0.46	0.05	断面図参照	2022/12/6		2057SI内
22A	2074SP	7341	1	0.35	0.27	0.12	断面図参照	2022/12/6		2066SI内
22A	2075SI	7240・7241・7340・7341	1	6.14	-3.07	0.19	断面図参照	2022/12/6		
22A	2076SK	7240	1	0.22	0.19	0.59	断面図参照	2022/12/6		2063SI内
22A	2077SK	7240	1	0.21	0.18	0.32	断面図参照	2022/12/6		2063SI内
22A	2078SP	7240	1	0.46	0.34	0.12	断面図参照	2022/12/6		2063SI内
22A	2079SL	7240	1	0.86	0.72	0.13	断面図参照	2022/12/6		2063SI内
22A	2080SP	7340	1	0.21	0.21	0.15	断面図参照	2022/12/6		2066SI内
22A	2081SP	7339	1	0.38	0.36	0.13	断面図参照	2022/12/9		2049SI内
22A	2082SP	7339	1	0.37	0.36	0.22	断面図参照	2022/12/9		2049SI内
22A	2083SP	7340	1	0.48	0.46	0.21	断面図参照	2022/12/12		2075SI内
22A	2084SP	7341	1	0.46	0.44	0.18	断面図参照	2022/12/12		2075SI内
22A	2085SP	7240	1	0.24	0.24	0.29	断面図参照	2022/12/12		2063SI内
22A	2086SP	7240	1	0.31	0.25	0.13	断面図参照	2022/12/12		2063SI内
22A	2087SK	7240	1	0.33	-0.22	0.05	断面図参照	2022/12/12		2063SI内
22A	2088SX	7241	1	1.05	0.61	0.29	断面図参照	2022/12/12		
22A	2089SX	7241	1	0.46	0.21	0.06	断面図参照	2022/12/12		

表 10-2　大畑遺跡遺構観察表 2

E番	調査区	グリッド	遺構など1	d-No.	日 付	器種	時期	型式	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土色		AMS採取位置	測定コード	暦年較正用年代	calBC %
												表面	裏面				
1	17A	8439	043SX	d-0123	2017/6/19	深鉢	縄文時代中期	島崎Ⅲ式				7.5YR 7/6 橙	7.5YR 7/6 橙				
2	17A	8441	176SK	d-0375	2017/7/18	壺	弥生時代中期					10YR 6/4 にぶい黄橙	10YR 6/4 にぶい黄橙				
3	17A	8441	176SK	d-0403	2017/8/3	壺	弥生時代中期					10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐				
4	17A	8441	176SK	d-0440	2017/8/4	甕	弥生時代中期					2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
5	17A	8440	検出面	d-0086	2017/6/13	深鉢	縄文時代晩期	伊川津B式				7.5YR 7/6 橙	7.5YR 7/6 橙				
6	17C	7036	310SI	d-2387	2017/12/12	深鉢	縄文時代前期	大麦田Ⅱ式併行？				7.5YR 7/6 橙	7.5YR 7/6 橙				
7	17C	7036	460SU(310SI)	d-2141	2017/12/5	深鉢	縄文時代前期		(19.8)	-	(22.0)	7.5YR 7/6 橙	7.5YR 7/6 橙	外面1	PLD-50577	4989±23	3803-3701 cal BC (79.32%)
			460SU	d-2189	2017/12/6												
8	17C	7036	460SU	d-2188	2017/12/6	深鉢	縄文時代前期	大麦田Ⅱ式	(26.2)	-	(18.2)	2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
	17C	7035	461SK	d-2143	2017/12/5				-	(14.0)	(6.6)	2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
9	17C	7136	395SX	d-1808	2017/11/17	深鉢	縄文時代					2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
10	17C	7235	300SI	d-0662	2017/9/29	深鉢	縄文時代後期	称名寺式				2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
11	17C	7235	300SI	d-0663	2017/9/29	深鉢	縄文時代後期	称名寺式				2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
12	17C	7235	300SI	d-0802	2017/10/5	深鉢	縄文時代後期	称名寺式				2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
13	17C	7235	300SI 上層	d-0845	2017/10/6	壺	縄文時代後期					7.5YR 7/6 橙	7.5YR 7/6 橙				
14	17C	7235	300SI 上層	d-1243	2017/10/31	深鉢	縄文時代後期	称名寺式				2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
15	17C	7235	300SI	d-1244	2017/10/31	深鉢	縄文時代後期	称名寺式				7.5YR 7/6 橙	7.5YR 7/6 橙				
16	17C	7235	300SI 上層	d-1245	2017/10/31	深鉢	縄文時代中期	前田岩峅野式				7.5YR 7/6 橙	7.5YR 7/6 橙				
17	17C	7235	300SI	-	2017/8/22	深鉢	縄文時代後期	称名寺式				2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
18	17C	7235	400SU	d-1301	2017/11/1	深鉢	縄文時代中期	島崎Ⅲ式	(29.6)	-	(23.0)	10YR 6/4 にぶい黄橙	10YR 6/4 にぶい黄橙	外面1	PLD-50574	4077±22	2675-2567 cal BC (72.42%)
19	17C	7235	400SU 右下	-	2017/11/1	深鉢	縄文時代中期	島崎Ⅲ式	(29.6)	9.8	34.1	10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐	底部内面1	PLD-50575	4880±24	3660-3634 cal BC (58.28%)
20	17C	7336	345SX	d-1213	2017/10/30	深鉢	縄文時代前～中期	大麦田Ⅱ式併行？				2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
21	17C	7336	345SX	d-1328	2017/11/2	深鉢	縄文時代前～中期	大麦田Ⅱ式併行？				2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
22	17C	7336	360SI	d-0816	2017/10/5	深鉢	縄文時代					10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐				
23	17C	7336	362SI	d-1445	2017/11/7	深鉢	縄文時代中期	島崎Ⅲ式				10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐				
24	17C	-	362SI 上層	d-2195	2017/12/6	深鉢	縄文時代中期	島崎Ⅲ式				10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐				
25	17C	7336	362SI	d-2935	2017/12/25	深鉢	縄文時代前～中期	大麦田Ⅱ式併行？				5YR 4/4 にぶい赤褐	5YR 4/4 にぶい赤褐				
26	17C	7336	425SX 下層	d-1695	2017/11/15	深鉢	縄文時代前期					10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐				
27	17C	7436	425SX 下層	d-1730	2017/11/16	深鉢	縄文時代中期					10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/2 灰黄褐				
28	17C	7436	425SX 下層	d-1731	2017/11/16	深鉢	縄文時代中期	山田平式				10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐				
29	17D	7635	440SI	d-1747	2017/11/16	深鉢	縄文時代前期	諸磯C式				10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐				
30	17D	7635	440SI	d-2337	2017/12/12	深鉢	縄文時代前期	諸磯C式				2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
31	17D	7635	440SI 南西	-	2017/11/17	深鉢	縄文時代中期	山田平式				10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/2 灰黄褐				
32	17D	7635	440SI	d-1884	2017/11/21	深鉢	縄文時代前期	諸磯C式				2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
33	17D	7635	TT92	d-1110	2017/10/20	深鉢	縄文時代前期	諸磯C式?				2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
34	17D	7636	490SI	d-1972	2017/11/27	深鉢	縄文時代早期					10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/2 灰黄褐				
35	17B	7339	192SI	d-0480	2017/8/10	深鉢	縄文時代中期	山田平式				10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐				
36	17B	7339	192SI	d-0445	2017/8/4	深鉢	縄文時代中期	山田平式				10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐				
37	17C	7438	420SI	d-3158	2018/1/12	深鉢	縄文時代前～中期	大麦田Ⅱ式併行?	-	-	(10.9)	10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐	外面1	PLD-50578	5002±23	3806-3706 cal BC (70.51%)
38	17C	7438	420SI	d-3186	2018/1/16	深鉢	縄文時代前～中期	大麦田Ⅱ式併行?				10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐				
39	17C	7438	420SI	d-3184	2018/1/16	深鉢	縄文時代前～中期	大麦田Ⅱ式併行?				2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
40	17C	7338	700SI	d-3079	2018/1/10	深鉢	縄文時代中期					7.5YR 7/6 橙	7.5YR 7/6 橙				
41	17C	7438	1010SD(700SI)	d-3219	2018/1/18	深鉢	縄文時代中期	山田平式				2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
42	17B	7439	206SK	-	2017/8/8	深鉢	縄文時代後期	称名寺式				10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐				
43	17A	8137	327SK	d-0614	2017/9/25	深鉢	縄文時代晩期	伊川津式				7.5YR 6/6橙	7.5YR 6/6橙				
44	17D	8135	357SK	d-2000	2017/11/28	深鉢	縄文時代晩期	西之山				2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
45	22A	7242	2021SP	-	2022/11/11	深鉢	縄文時代前期?					7.5YR 7/6 橙	7.5YR 7/6 橙				
46	22A	7141	2030SK	d-0171	2022/11/16	深鉢	縄文時代前期	木島式4期				2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				

表 11-1　大畑遺跡出土土器観察表 1

E番	調査区	グリッド	遺構など1	d-No.	日 付	器種	時期	型式	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土色		AMS採取位置	測定コード	暦年較正用年代	calBC %
												表面	裏面				
47	22A	7240	2060SL	d-0307	2022/12/1	深鉢						2.5Y 3/1 黒褐	2.5Y 3/1 黒褐				
48	22A	7240	2063・2070SI	−	2022/12/6	深鉢	縄文時代前期	清水ノ上Ⅱ式・上広覧式				5YR 4/4 にぶい赤褐	5YR 4/4 にぶい赤褐				
49	22A	7240	検出1	d-0227	2022/11/18	深鉢	縄文時代前期	清水ノ上Ⅱ式・上広覧式				5YR 4/4 にぶい赤褐	5YR 4/4 にぶい赤褐				
50	22A	7341	2066SI	d-0377	2022/12/6	深鉢	縄文時代前期	木島式4期?				10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/2 灰黄褐				
51	22A	7341	検出	d-0117	2022/11/15	壺?						7.5YR 7/6 橙	7.5YR 7/6 橙				
52	22B	7938	2004SK	d-0015	2022/10/26	深鉢	縄文時代前期	木島式4期				10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐				
53	22B	7938	2004SK	d-0025	2022/10/26	深鉢	縄文時代前期	木島式4期				10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐	外面1	PLD-50572	5979±24	4939-4793 cal BC (95.45%)
54	22B	7938	2004SK	d-0030	2022/10/26	深鉢	縄文時代前期	木島式4期				10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐				
55	22B	7938	2004SK	d-0032	2022/10/26	深鉢	縄文時代前期	木島式4期				10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐				
56	22B	7938	2004SK	d-0039	2022/10/26	深鉢	縄文時代前期	木島式4期				10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐				
57	22B	7938	2004SK	−	2022/10/25	深鉢	縄文時代前期	木島式4期				10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐				
58	22B	7938	2004SK	d-0018	2022/10/26	深鉢	縄文時代前期	木島式4期				2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
59	22B	7938	2004SK	d-0016	2022/10/26	深鉢	縄文時代前期	木島式4期				2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
60	22B	7938	2004SK	d-0043	2022/10/26	深鉢	縄文時代前期	木島式4期				2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
61	22B	7938	2004SK	d-0074	2022/10/27	深鉢	縄文時代前期	木島式4期				2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
62	22B	7938	2004SK	d-0038	2022/10/26	深鉢	縄文時代前期	木島式4期				2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
63	22B	7938	2004SK	d-0020	2022/10/26	深鉢	縄文時代前期	木島式4期?				2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
64	22B	7938	2004SK	d-0029	2022/10/26	深鉢	縄文時代前期	木島式4期				2.5Y 7/3 浅黄	10YR 7/4 にぶい黄橙				
65	17C	7336	包含層	d-0760	2017/10/5	深鉢	縄文時代前期	十三菩提式				10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐				
66	17C	7336	検出面	d-0621	2017/9/26	深鉢	縄文時代中期	北屋敷式				10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/2 灰黄褐				
67	17C	7638	検出面	−	2017/11/30	深鉢	縄文時代早期					7.5YR 7/6 橙	7.5YR 6/6橙				
68	17B	7539	検出面	d-0350	2017/7/13	深鉢	縄文時代中期	北屋敷式				10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/2 灰黄褐				
69	17B	7539	黒色土検出面	d-0505	2017/8/22	深鉢	縄文時代晩期					7.5YR 6/6橙	7.5YR 6/6橙				
70	17E	7638	黒色土下層	d-2739	2017/12/19	深鉢	縄文時代早期					7.5YR 5/3にぶい褐	7.5YR 5/4にぶい褐				
71	17A	8140	検出面	d-0267	2017/7/7	深鉢	縄文時代晩期					10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐				
72	17A	8241	検出面	d-0149	2017/6/26	深鉢	縄文時代前期	清水ノ上Ⅱ式・上広覧式				2.5Y 7/3 浅黄	2.5Y 7/3 浅黄				
73	17A	8347	検出面	d-0019	2017/6/6	深鉢	縄文時代前期	清水ノ上Ⅱ式・上広覧式				10YR 7/4 にぶい黄橙	10YR 7/4 にぶい黄橙				
74	範囲確認	−	TT070	−	2015/8/6	深鉢	縄文時代早期	三戸式・田戸下層				7.5YR 6/6橙	7.5YR 6/6橙				
75	範囲確認	−	TT123	−	2015/9/15	深鉢	縄文時代晩期	西之山				7.5YR 5/3にぶい褐	7.5YR 5/3にぶい褐				
76	範囲確認	−	TT124	−	2015/9/15	深鉢	縄文時代晩期	西之山				7.5YR 5/3にぶい褐	7.5YR 5/4にぶい褐				
分析	17C	7336	362SX上層	d-1506	2017/11/9	深鉢	縄文時代中期							胴部外面	PLD-50576	3954±24	2498-2400 cal BC (58.70%)
分析	17C	7438	1030SX	d-3303	2017/1/24	深鉢	縄文時代前期							胴部外面	PLD-50579	5585±24	4455-4353 cal BC (95.18%)
分析	17C	7137	検出面	d-0570	2017/9/19	甕	弥生時代							胴部外面	PLD-50573	2168±21	355-281 cal BC (47.22%)

表 11-2　大畑遺跡出土土器観察表２

S番	調査区	グリッド	遺構など1	d-No.	日　付	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	器種	分類1	分類2	残存状況	被熱	備考
1	17A	8439	043SX	d-0126	2017/6/19	2.7	3.9	0.7	7.2	下呂石	加工痕のある剥片					
2	17	8439	064SI	d-0143	2017/6/23	3.0	2.3	1.2	6.6	黒曜石	石核					
3	17A	8539	064SI	d-0366	2017/7/13	4.2	7.0	1.4	38.3	凝灰岩	石核					
4	17A	8439	065SI	d-0431	2017/8/4	1.1	1.1	0.2	0.2	チャート	石鏃	先端・左脚部折損	凹基無茎			
5	17A	8439	065SI	d-0478	2017/8/10	4.9	2.7	1.0	8.2	凝灰岩	剥片					
6	17A	8439	065SI	d-0425	2017/8/4	12.5	9.8	3.2	610.1	花崗岩	台石?		板状			
7	17A	8439	065SI	d-0489	2017/8/17	20.5	20.0	6.7	6000.0	片麻岩	台石		亜円礫			
8	17A	8539	065SI	d-0494	2017/8/17	22.0	20.0	10.3	8500.0	花崗岩	台石	亜円礫				
9	17A	8441	101SX	d-0234	2017/7/3	2.6	1.4	0.4	1.0	溶結凝灰岩	石鏃		凹基無茎			
10	17C	6935	402SX	d-1211	2017/10/27	(10.1)	5.0	2.2	115.3	安山岩B	打製石斧		短冊形		○	
11	17C	7036	310SI 検出	d-1625	2017/11/13	1.5	1.6	0.2	0.3	溶結凝灰岩	石鏃	右脚部折損	凹基無茎			
12	17C	7036	310SI	d-1826	2017/11/17	2.8	2.0	0.5	2.0	溶結凝灰岩	石錐					
13	17C	7036	310SI	d-1824	2017/11/17	7.3	4.3	2.1	36.6	凝灰岩	剥片	石核調整剥片				
14	17C	7036	310SI	d-3021	2017/12/26	2.7	5.3	2.9	33.2	溶結凝灰岩	石核					
15	17C	7036	310SI	d-3023	2017/12/26	3.9	4.9	2.4	40.9	溶結凝灰岩	石核					
16	17C	7036	310SI	d-2219	2017/12/7	2.1	2.3	0.9	4.5	溶結凝灰岩	石核					
17	17C	7036	310SI 南西	-	2017/11/15	11.4	8.1	4.1	720.0	溶結凝灰岩	磨石	両面に顕著な磨り面	円礫			
18	17C	7036	310SI	d-3020	2017/12/26	3.5	2.9	2.5	24.8	凝灰岩	敲石	全周に敲打痕?	円礫			
19	17C	7036	878SK(310SI)	-	2018/1/18	2.3	(1.6)	0.3	0.8	溶結凝灰岩	石鏃	左側面折損	円基			
20	17C	7135	395SX	d-1805	2017/11/17	2.3	4.1	0.7	3.7	安山岩B	石匙		横型			
21	17C	7135	560SK	d-1996	2017/11/27	2.4	(3.5)	0.7	4.7	溶結凝灰岩	石匙		横型			
22	17C	7235	300SI 上層	d-1285	2017/10/31	2.5	(1.3)	0.5	1.1	黒曜石	石鏃	右側折損				
23	17C	7235	300SI 上層	d-0966	2017/10/12	2.5	2.5	0.9	3.5	黒曜石	剥片	両極				
24	17C	7235	300SI 上層	d-1286	2017/10/31	3.5	1.7	0.3	2.0	黒曜石	剥片	両極				
25	17C	7235	300SI	d-0773	2017/10/5	2.6	1.5	0.4	0.9	黒曜石	石鏃		凹基無茎			
26	17C	7235	300SI 南東	d-1158	2017/10/24	2.9	3.3	1.1	5.2	黒曜石	剥片					
27	17C	7235	300SI	d-1302	2017/11/1	1.5	0.6	0.2	0.1以下	黒曜石	剥片	細石刃?				旧石器?
28	17C	7235	300SI	d-0820	2017/10/5	1.9	1.9	1.0	4.0	黒曜石	石核					
29	17C	7235	300SI	d-1561	2017/11/10	5.0	9.1	4.3	295.1	溶結凝灰岩	石核					
30	17C	7235	300SI 北西	d-1172	2017/10/24	9.8	5.3	1.3	60.8	安山岩D	打製石斧		撥形			
31	17C	7235	300SI 北西	-	2017/11/1	(7.0)	4.3	2.4	122.0	片麻岩	砥石	両面に顕著な磨り面	棒状			
32	17C	7235	300SI・390SL	d-1305	2017/11/2	18.0	18.5	4.9	2444.2	片麻岩	台石?	中央に凹み痕	亜円礫			
33	17C	7235	390SL	d-1340	2017/11/6	2.6	1.6	0.7	2.3	黒曜石	剥片	両極				
34	17C	7235	833SK	d-3334	2018/1/30	1.8	1.6	0.3	1.0	黒曜石	石鏃		凹基無茎			
35	17C	7235	833SK(300SI)	d-2306	2017/12/11	2.7	3.6	1.0	9.6	黒曜石	楔型石器					
36	17C	7235	830SK(300SI)	d-2305	2017/12/11	2.2	2.3	1.5	6.7	黒曜石	石核					
37	17C	7236	463SK	d-2146	2017/12/5	1.5	(0.8)	0.3	0.2	黒曜石	石鏃	先端・左脚部折損	凹基無茎			
38	17C	7236	463SK	d-2148	2017/12/5	2.2	1.6	0.3	0.9	黒曜石	石鏃		平基			
39	17C	7236	463SK	d-1941	2017/11/24	(1.9)	(1.4)	0.3	0.9	松脂岩?	石鏃	先端・脚部折損				
40	17C	7236	463SK	d-1903	2017/11/21	(2.0)	1.9	0.4	1.0	溶結凝灰岩	石鏃	未製品				
41	17C	7236	463SK	d-1900	2017/11/21	(6.9)	4.4	1.6	78.2	蛇紋岩	磨製石斧					
42	17C	7236	493SK	d-2145	2017/12/5	10.6	5.4	3.4	313.9	塩基性凝灰岩	磨製石斧	両刃(蛤)				
43	17C	7336	345SX	d-0668	2017/9/29	(1.6)	1.4	0.4	0.8	黒曜石	石鏃	素材剥片				
44	17C	7336	345SX	d-1284	2017/10/31	8.3	3.2	1.0	19.1	溶結凝灰岩	剥片					
45	17C	7336	345SX	d-0686	2017/10/2	2.5	6.9	2.6	27.9	凝灰岩	石核					
46	17C	7436	362SX 上層	d-1616	2017/11/13	1.9	(1.4)	0.3	0.6	黒曜石	石鏃	脚部折損				

表 12-1　大畑遺跡出土石器観察表 1

S番	調査区	グリッド	遺構など1	d-No.	日　付	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	器種	分類1	分類2	残存状況	被熱	備考
47	17C	7436	362SI 上層	d-2263	2017/12/11	(3.3)	1.4	0.4	1.2	溶結凝灰岩	石鏃	先端・脚部折損	凹基無茎			
48	17C	7436	362SX 上層	d-1443	2017/11/7	5.5	2.8	1.7	17.5	黒曜石	剥片	石核調整剥片				
49	17C	7336	362SI 上層	d-2246	2017/12/11	1.6	0.8	0.3	0.3	黒曜石	剥片	細石刃?				旧石器?
50	17C	7336	362SX 上層	d-1530	2017/11/9	10.5	4.6	1.4	105.2	溶結凝灰岩	打製石斧					
51	17C	7336	362SI	d-2583	2017/12/18	2.4	1.8	0.4	1.3	溶結凝灰岩	石鏃					
52	17C	7336	362SI	d-2585	2017/12/18	2.5	2.3	0.4	1.0	サヌカイト?	石鏃		凹基無茎			
53	17C	7336	362SI	d-2582	2017/12/18	2.6	3.5	0.8	5.7	溶結凝灰岩	石匙		横型			
54	17C	7436	362SX	d-1356	2017/11/6	8.4	4.3	1.7	59.8	安山岩E	打製石斧		撥形			
55	17C	7336	362SI	d-2394	2017/12/12	10.7	4.9	2.1	122.8	安山岩E	打製石斧	刃部摩耗	短冊形			
56	17C	7436	362SI 焼土範囲検出面	d-2423	2017/12/13	2.3	2.5	1.4	4.1	溶結凝灰岩	石核					
57	17C	7336	362SI 焼土範囲検出面	d-2429	2017/12/13	2.1	2.0	0.8	2.7	溶結凝灰岩	楔型石器?					
58	17C	7336	362SI 底面	d-1766	2017/11/17	1.3	1.1	0.3	0.3	下呂石	石鏃	右脚部折損				
59	17C	7336	362SX 北西	-	2017/11/9	1.7	1.3	0.2	0.1	溶結凝灰岩	石鏃	左脚部折損	凹基無茎			
60	17C	7336	362SX 北西	-	2017/11/10	3.5	1.5	0.6	2.7	凝灰岩	石錐					
61	17C	7436	362SX 北西	-	2017/11/10	1.2	1.0	0.2	0.2	溶結凝灰岩	石鏃	右脚部欠損	凹基無茎			
62	17C	7436	362SX 南西	-	2017/11/10	1.8	1.0	0.2	0.1	溶結凝灰岩	石鏃	右脚部折損	凹基無茎			
63	17C	7436	362SX 南西	-	2017/11/10	2.3	1.5	0.3	0.6	黒曜石	石鏃		凹基無茎			
64	17C	7436	362SX 南西	-	2017/11/9	1.1	1.2	0.3	0.3	黒曜石	加工痕のある剥片	石鏃素材剥片				
65	4KOH17C	7336	362SI 上層 北東		2017/12/12	(2.3)	1.1	0.2	0.4	溶結凝灰岩	石鏃	脚部折損				
66	4KOH17C	7336	362SI 上層 北東		2017/12/12	1.8	1.1	0.2	0.3	黒曜石	石鏃	凹基無茎				
67	4KOH17C	7336	362SI 上層 北東		2017/12/5	1.6	1.3	0.4	0.7	溶結凝灰岩	石鏃	平基無茎				
68	4KOH17C	7436	362SI 上層 南東		2017/12/5	1.6	1.2	0.3	0.4	凝灰岩	石鏃	凹基無茎				
69	4KOH17C	7336	362SI 上層 南東		2017/12/15	(1.8)	0.6	0.3	0.1	溶結凝灰岩	石錐					
70	4KOH17C	7336	362SI 上層 南東		2017/12/18	1.8	0.8	0.5	0.5	溶結凝灰岩	石錐					
71	4KOH17C	7436	362SI 上層 南東		2017/12/12	1.7	1.2	0.4	0.9	黒曜石	加工痕のある剥片	両側縁に加工				
72	4KOH17C	7436	362SI 上層 南東		2017/12/12	0.8	2.1	0.6	0.9	黒曜石	石核	剥片素材				
73	4KOH17C	7436	362SI 上層 南東		2017/12/7	1.4	2.1	0.9	2.6	溶結凝灰岩	石核	両極				
74	4KOH17C	7436	362SI 上層 南東		2017/12/7	2.7	1.0	0.9	2.7	安山岩(下呂石)	石核	両極				
75	4KOH17C	7436	362SI 上層 南西		2017/12/7	(1.8)	(1.3)	0.3	0.5	溶結凝灰岩	石鏃	凹基無茎	先端、左脚部折損			
76	4KOH17C	7436	362SI 上層 南西		2017/12/7	1.5	1.4	0.2	0.4	溶結凝灰岩	石鏃	平基無茎				
77	4KOH17C	7336	362SI 下層 北東		2017/12/20	2.2	(1.4)	0.3	0.7	黒曜石	石鏃	凹基無茎	右脚部折損			
78	4KOH17C	7336	362SI 下層 北東		2017/12/14	2.0	1.7	0.3	1.1	溶結凝灰岩	石鏃	円基	先端折損			
79	4KOH17C	7436	362SI 北東		2017/11/9	1.7	1.4	0.4	0.8	溶結凝灰岩	石鏃	平基無茎	左脚部折損			
80	4KOH17C	7336	362SX 北東		2017/11/10	1.6	1.2	0.2	0.1	溶結凝灰岩	石鏃	凹基無茎	先端、右脚部欠損			
81	4KOH17C	7336	362SI 北東		2017/11/13	2.1	1.5	0.4	0.5	溶結凝灰岩	石鏃	凹基無茎				
82	4KOH17C	7336	362SI 北東		2017/11/10	1.3	3.2	0.4	1.4	黒曜石	加工痕ある剥片	下端部に加工				
83	4KOH17C	7436	362SI 南東		2017/11/15	2.6	1.7	0.5	1.8	黒曜石	石鏃	平基無茎				
84	4KOH17C	7436	362SI 南東		2017/11/21	1.9	1.3	0.4	0.8	溶結凝灰岩	石鏃	凹基無茎				
85	4KOH17C	7436	362SI 南東		2017/11/21	1.5	0.6	0.2	0.2	凝灰岩	石鏃	凹基無茎	右脚部折損			
86	4KOH17C	7436	362SI 南西		2017/11/13	1.5	1.5	0.3	0.2	溶結凝灰岩	石鏃					
87	17C	7336	840SK 掘り方	-	2018/1/18	1.4	1.2	0.3	0.3	安山岩(下呂石)	石鏃		凹基無茎			
88	17D	7735	440SI 南東	-	2017/11/24	1.5	1.7	0.4	0.7	溶結凝灰岩	石鏃		凹基無茎			
89	17D	7635	440SI	d-1956	2017/11/27	2.8	2.8	0.4	2.5	溶結凝灰岩	石匙		横型			
90	17D	7635	440SI	d-1852	2017/11/20	4.3	2.0	0.8	3.4	溶結凝灰岩	剥片			○		
91	17D	7635	440SI	d-1886	2017/11/21	3.2	2.2	0.6	4.0	溶結凝灰岩	剥片					
92	17D	7635	440SI	d-1851	2017/11/20	8.1	3.9	1.7	66.9	安山岩E	打製石斧		短冊形			

表 12-2　大畑遺跡出土石器観察表２

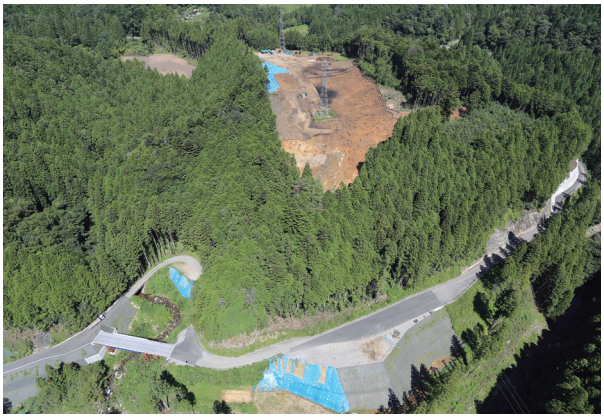
S番	調査区	グリッド	遺構など1	d-No.	日　付	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	器種	分類1	分類2	残存状況	被熱	備考
93	17D	7636	490SI	d-1960	2017/11/27	1.7	1.3	0.3	0.3	溶結凝灰岩	石鏃		凹基無茎			
94	17D	7636	490SI	d-2277	2017/12/11	1.4	0.7	0.3	0.2	溶結凝灰岩	剥片	細石刃?				旧石器?
95	17D	7636	490SI	d-1961	2017/11/27	4.2	7.0	2.2	50.4	溶結凝灰岩	石核					
96	17D	7636	490SI	d-2269	2017/12/11	10.1	7.8	7.1	805.5	花崗岩	磨石	左側面に敲打痕	円礫			
97	17D	7834	370SX	d-1782	2017/11/17	(2.7)	2.2	0.4	1.3	チャート	石鏃		円基			
98	17D	7834	370SX	d-1037	2017/10/18	4.0	5.3	1.4	20.9	凝灰岩	剥片					
99	17D	7834	375SI	d-1033	2017/10/18	1.9	2.7	1.7	6.3	溶結凝灰岩	石核					
100	17D	7734	375SI	d-1032	2017/10/18	6.3	5.3	1.3	55.2	泥質凝灰岩	打製石斧	打製石斧未製品				
101	17C	7136	667SK	d-1989	2017/11/27	4.7	5.3	3.7	66.5	凝灰岩	石核	両設				旧石器
102	17C	7236	794SX	d-2103	2017/12/4	9.3	5.0	0.9	52.1	安山岩B	打製石斧		撥形			
103	17C	7436	351SK	d-0834	2017/10/6	2.8	1.1	0.6	1.1	黒曜石	石錐					
104	17D	8234	273SK	d-0512	2017/8/24	2.6	3.1	0.7	5.8	黒曜石	石核					
105	17A	8237	278SK	d-0525	2017/8/30	10.0	8.4	4.2	518.5	花崗岩	磨石		円礫			
106	17A	8237	278SK	d-0526	2017/8/30	11.0	9.0	4.7	688.3	花崗岩	磨石	中央に凹有り	円礫			
107	17C	7438	420SI	d-2493	2017/12/15	1.8	1.5	0.2	0.3	溶結凝灰岩	石鏃		凹基無茎			
108	17C	7438	420SI	d-3162	2018/1/12	(3.1)	1.2	0.6	1.4	溶結凝灰岩	石鏃					
109	17C	7438	420SI	d-2837	2017/12/20	2.2	(1.4)	0.3	0.5	溶結凝灰岩	石鏃	先端部折損	平基無茎			
110	17C	7438	420SI	d-2839	2017/12/20	3.0	1.2	0.5	1.2	溶結凝灰岩	石鏃	両脚部折損				
111	17C	7338	420SI	d-3093	2018/1/10	(2.5)	1.2	0.4	0.6	溶結凝灰岩	石錐					
112	17C	7338	420SI	d-2768	2017/12/20	2.8	4.5	0.7	6.4	溶結凝灰岩	石錐		先端折損			
113	17C	7438	420SI 西トレンチ 下層	d-2821	2017/12/20	3.3	(1.7)	0.4	1.7	溶結凝灰岩	石匙					
114	17C	7438	420SK	d-2464	2017/12/14	2.7	2.2	0.9	3.7	溶結凝灰岩	楔形石器					
115	17C	7338	420SI	d-2511	2017/12/15	(1.9)	1.0	0.4	0.7	黒曜石	加工痕ある剥片	右側縁に加工				
116	17C	7338	420SI	d-2527	2017/12/15	2.4	1.2	0.8	1.7	溶結凝灰岩	石核	両極				
117	17C	7438	420SI	d-2615	2017/12/18	3.1	4.5	1.7	22.8	溶結凝灰岩	石核					
118	17C	7338	420SI	d-3159	2018/1/12	18.0	13.8	6.8	1876.8	花崗岩	台石	中央に凹	亜円礫			
119	17C	7438	1010SD(700SI)	d-3141	2018/1/12	3.3	1.2	0.5	2.3	溶結凝灰岩	加工痕ある剥片	端部にツマミ状の加工				
120	17C	7438	890SI	d-3257	2018/1/22	1.7	(1.4)	0.3	0.2	溶結凝灰岩	石鏃	右脚部折損	凹基無茎			
121	17	7438	890SI	d-3271	2018/1/22	2.6	(1.2)	0.3	0.4	溶結凝灰岩	石鏃	右脚部折損	凹基無茎			
122	17C	7438	890SI	d-3277	2018/1/22	1.9	(1.3)	0.3	0.4	溶結凝灰岩	石鏃	右脚部折損	凹基無茎			
123	17C	7438	890SI	d-3256	2018/1/22	2.5	3.0	0.3	.6+M261	溶結凝灰岩	石匙		横型			
124	17C	7438	890SI	d-3260	2018/1/22	2.5	2.0	1.0	5.3	溶結凝灰岩	石核	両極				
125	22A	－	2049SI	d-0295	2022/12/1	3.2	3.4	0.5	4.7	溶結凝灰岩	剥片					
126	22A	7139	2055SK	d-0305	2022/12/1	1.4	1.0	0.3	0.3	溶結凝灰岩	石鏃		凹基無茎			
127	22A	7139	2062SX	d-0321	2022/12/2	2.6	1.4	0.4	1.4	溶結凝灰岩	石鏃	部分磨製?	凹基無茎			
128	22A	7240	2063	d-0374	2022/12/5	3.0	4.6	1.1	11.6	溶結凝灰岩or チャート	石匙		横型			
129	17C	7337	750SK	d-2406	2017/12/13	5.6	3.3	0.8	18.6	凝灰岩	スクレイパー					
130	17C	7637	693SK	d-2007	2017/11/28	5.5	4.7	2.7	100.9	珪質岩	敲石	端部に敲打痕	円礫			
131	17A	8236	304NR	d-0549	2017/9/7	(1.8)	1.5	0.4	1.2	黒曜石	石鏃	先端・左脚部折損	平基無茎			
132	17E	7638	黒色土上層	d-2431	2017/12/13	(4.5)	3.5	2.3	39.7	溶結凝灰岩	石核					
133	17E	7638	黒色土上層	d-2380	2017/12/12	9.2	6.0	1.6	71.4	安山岩E	打製石斧	刃部摩耗	撥形			
134	17E	7539	黒色土上層	d-2444	2017/12/13	9.6	5.2	2.2	125.4	安山岩E	打製石斧		短冊形			
135	17E	7539	黒色土上層	d-2447	2017/12/13	6.2	4.8	1.8	45.8	凝灰岩	石錘	打欠	円礫			
136	17E	7838	黒色土下層	d-2879	2017/12/20	(5.1)	4.4	0.7	19.1	凝灰岩	スクレイパー					
137	17E	7638	黒色土下層	d-2742	2017/12/19	4.0	3.8	2.1	40.0	溶結凝灰岩	石核	石刃核?				旧石器?

表 12-3　大畑遺跡出土石器観察表３

S番	調査区	グリッド	遺構など1	d-No.	日　付	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	器種	分類1	分類2	残存状況	被熱	備考
138	17E	7638	黒色土下層	d-2902	2017/12/21	12.9	11.4	8.2	1596.2	安山岩	スタンプ形石器	端部に敲打痕	円礫			
139	17E	7539	黒色土下層	d-2907	2017/12/21	(10.6)	9.2	(5.8)	988.2	花崗岩	石棒?		礫片			
140	17C	7336	包含層	d-1025	2017/10/18	1.7	0.8	0.3	0.3	黒曜石	ナイフ形石器?	左側面にブランティング?				
141	17C	7436	包含層	d-0752	2017/10/5	(2.0)	0.9	0.3	0.7	黒曜石	尖頭器?		小型			
142	17C	7236	包含層	d-1000	2017/10/18	7.7	4.9	2.4	134.4	塩基性凝灰岩	磨製石斧					旧石器
143	17C	7236	検出面	d-0627	2017/9/26	1.8	1.7	0.3	0.9	溶結凝灰岩	石鏃		凹基無茎			
144	17C	7336	検出面	d-1458	2017/11/7	1.3	1.2	0.2	0.2	黒曜石	石鏃		凹基無茎			
145	17C	7136	検出面	d-2041	2017/11/29	1.5	1.2	0.2	0.1	溶結凝灰岩	石鏃	右脚部折損	凹基無茎			
146	17C	7336	検出面	d-3217	2018/1/18	2.2	(1.3)	0.6	1.4	黒曜石	石鏃	右脚部折損	凹基無茎			
147	17C	7436	検出面	d-0634	2017/9/26	(2.5)	1.6	0.3	0.7	黒曜石	石鏃	先端・右脚部折損	凹基無茎			
148	17C	7337	検出面	d-1190	2017/10/26	5.3	2.5	0.6	6.6	溶結凝灰岩	削器					旧石器?
149	17C	7637	検出面	d-2413	2017/12/13	1.3	2.6	2.4	6.5	溶結凝灰岩	石核	細石核?				旧石器?
150	17C	7136	検出面	-	2017/11/20	7.0	6.3	3.8	234.1	凝灰質砂岩	磨石	端部に敲打痕	円礫			
151	17C	7136	415(消滅)	d-1337	2017/11/2	(4.6)	3.4	0.8	16.2	溶結凝灰岩	スクレイパー?	両側縁に加工?				
152	17B	7842	検出面	d-0001	2017/5/29	(9.1)	5.0	1.2	55.4	凝灰岩	打製石斧		短冊形			
153	17B	7640	検出面	d-2070	2017/11/30	(9.2)	4.3	1.4	55.5	安山岩B	打製石斧	刃部摩耗	短冊形			
154	17D	8236	検出面	d-1710	2017/11/15	3.5	3.5	1.0	10.9	黒曜石	掻器		円形掻器?			旧石器?
155	17D	8037	検出面	d-0600	2017/9/22	5.8	2.0	0.7	8.3	黒曜石	削器	両側縁に加工				旧石器
156	17A	8237	検出面	d-0520	2017/8/28	2.3	1.3	0.3	0.9	チャート	石鏃		凹基無茎			
157	17A	8141	-	d-0122	2017/6/16	1.4	1.1	0.2	0.3	黒曜石	石鏃		凹基無茎			
158	17A	8444	検出面	d-0064	2017/6/9	2.2	2.0	1.3	3.8	溶結凝灰岩	剥片					
159	17A	8443	検出面	d-0073	2017/6/9	3.3	3.8	0.5	6.0	溶結凝灰岩	剥片	両極				
160	17A	8041	検出面	d-0091	2017/6/13	9.4	4.2	1.6	68.3	凝灰岩	打製石斧		短冊形			
161	17A	8344	検出面	d-0025	2017/6/6	5.5	6.7	2.5	93.0	安山岩B	打製石斧?	未製品				
162	17A	8339	検出	d-0139	2017/6/23	(9.9)	4.3	2.7	169.0	塩基性凝灰岩	磨製石斧		乳棒状			
163	17A	8439	検出面	d-0097	2017/6/13	(7.9)	(2.2)	0.7	22.0	緑色岩	磨製石斧?	両面に研磨痕	小型			
164	22A	7340	検出	d-0128	2022/11/15	(4.4)	2.3	1.1	10.0	溶結凝灰岩	スクレイパー					
165	22A	7341	検出	d-0120	2022/11/15	7.9	3.5	1.2	33.3	安山岩B	加工痕ある剥片	左側縁に加工	打製石斧未製品?			
166	22A	7240	検出	d-0147	2022/11/15	3.9	2.5	1.0	9.2	溶結凝灰岩	剥片	石核調整剥片				
167	22A	7239	検出1	d-0182	2022/11/18	1.7	1.4	0.3	0.8	溶結凝灰岩	石鏃		平基無茎			
168	22A	7239	検出1	d-0382	2022/12/6	1.1	1.1	0.4	0.4	松脂岩	石鏃		凹基無茎			
169	22A	7138	検出1	d-0283	2022/11/30	(7.8)	5.7	1.6	75.5	凝灰岩	打製石斧	剥片素材	短冊形			
170	22A	7140	検出1	d-0212	2022/11/18	7.2	5.5	3.8	253.6	片麻岩	磨石	両面に顕著な磨り面	円礫			
171	22A	7038	攪乱	-	2022/12/5	(7.9)	2.2	0.9	9.5	溶結凝灰岩	剥片					
172	17C	7336	T1	d-0938	2017/10/11	3.7	7.3	0.9	18.6	溶結凝灰岩	剥片					
173	大畑遺跡	-	TT128	-	2015/9/15	(7.9)	6.1	1.3	87.5	安山岩D	打製石斧		短冊形			

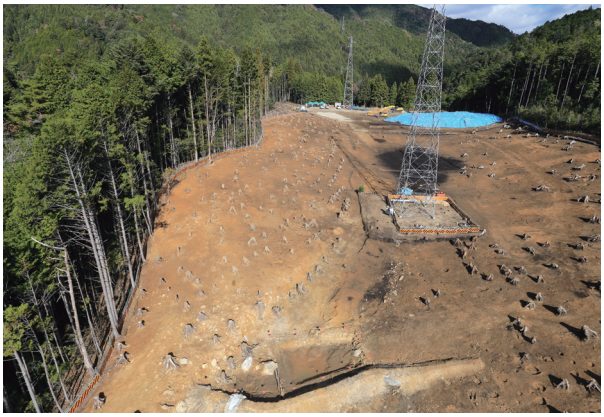
表 12-4　大畑遺跡出土石器観察表４

大畑遺跡 17 区遠景（北より）



大畑遺跡 17 区遠景（南より：写真下端は川向東貝津遺跡）

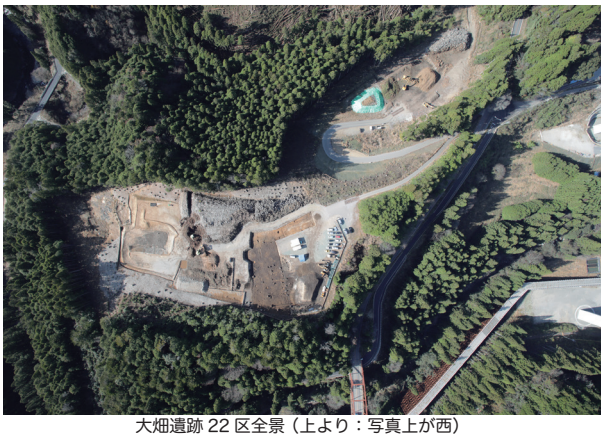
大畑遺跡 17 区 谷状地形黒色土堆積状況（北東より）



大畑遺跡 17 区 西側尾根南端付近（南より）

大畑遺跡 17 区遠景（北東より：調査区奥の谷は境川下流方向）

大畑遺跡 22 区遠景（南西より：写真奥は上ヲロウ・下ヲロウ遺跡、写真左は大栗遺跡、建設中の右側橋脚基部は笹平遺跡、左側橋脚基部は万瀬遺跡）



大畑遺跡 22 区全景（上より：写真上が西）

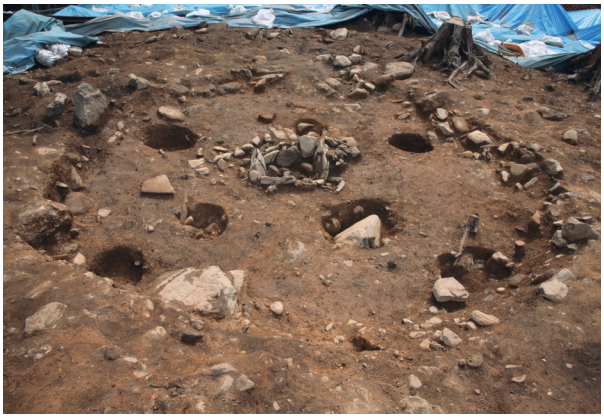
大畑遺跡 22A 区全景（南より）

大畑遺跡 22A 区全景（北より）

大畑遺跡 22B 区全景（南より）


大畑遺跡 17 区 043SX 完掘状況（西より：中央に 187SL の礫が見える）


大畑遺跡 17 区 065SI 全景（北東より）


大畑遺跡 17 区 065SI 完掘状況（北東より）


大畑遺跡 17 区 065SI の位置（南東より）


大畑遺跡 17 区 065SI 内 228SL（副炉：西より）


大畑遺跡 17 区 065SI 内 187SL・228SL（北より）


大畑遺跡 17 区 100SX（南西より）


大畑遺跡 17 区 101SX（西より）


大畑遺跡 17 区 176SK 完掘状況（西より）


大畑遺跡 17 区 176SK 遺物出土状況（南より）


大畑遺跡 17 区 056SX（西より）


大畑遺跡 17 区 310SI の位置（北より）


大畑遺跡 17 区 310SI 内 461SK 遺物出土状況（E-8 底部：南より）


大畑遺跡 17 区 310SI 内 460SU（南より）


大畑遺跡 17 区 310SI 包含礫検出状況（北東より）


大畑遺跡 17 区 310SI 底面検出状況（西より）


大畑遺跡 17 区 310SI 完掘状況（西より）


大畑遺跡 17 区 395SX 遺物出土状況（北より）


大畑遺跡 17 区 300SI の位置（南より）


大畑遺跡 17 区 300SI 完掘状況（北より）


大畑遺跡 17 区 300SI 内 460SU（E-18・19：西より）


大畑遺跡 17 区 300SI 内 390SL（西より）


大畑遺跡 17 区 345SX（東より）


大畑遺跡 17 区 362SI 上の 450SX（石列：南より）


大畑遺跡 17 区 362SI 隣接 840SK 礫検出状況（北西より）


大畑遺跡 17 区 362SI の位置（南より）


大畑遺跡 17 区 362SI 埋没状況（南より）


大畑遺跡 17 区 362SI 埋没状況（北より）


大畑遺跡 17 区 362SI 完掘状況（東より）


大畑遺跡 17 区 360SI・362SI 完掘状況（南より）


大畑遺跡 17 区 800SL(古)・871SL（新) 掘方検出状況 (南より）


大畑遺跡 17 区 800SL(古)・871SL（新) 掘方完掘状況 (東より）


大畑遺跡 17 区 425SX 遺物検出状況（南より）


大畑遺跡 17 区 440SI の位置（南より：440SI の左隣が TT092）


大畑遺跡 17 区 440SI 完掘状況（北より）


大畑遺跡 17 区 490SX 底面検出状況（北より）


大畑遺跡 17 区 192SI 完掘状況（南より）


大畑遺跡 22A 区 2049SI（17 区 192SI と同一遺構：南西より）


大畑遺跡 17 区 420SI 遺構検出状況（南より）


大畑遺跡 17 区 420SI 掘削状況（南より）


大畑遺跡 17 区 420SI 南北断面堆積状況（北東より）


大畑遺跡 17 区 420SI 遺物出土状況（東より）


大畑遺跡 17 区 420SI 完掘状況（東より）


大畑遺跡 17 区 700SI・1010SD 完掘状況（南より）


大畑遺跡 17 区 420・700・890・1000・1030SI 完掘状況（南より）


大畑遺跡 22A 区 2063SI 完掘状況（北西より）


大畑遺跡 22A 区 2057・2062SI 遺物出土状況（南西より）


大畑遺跡 22A 区 2066・2075SI 完掘状況（北西より）


大畑遺跡 22B 区 2004SK 遺物出土状況（東より）


大畑遺跡 22B 区 2005SK 断面状況（東より）


大畑遺跡 17 区 175SK 断面状況（北西より）


大畑遺跡 17 区 230SK 断面状況（北西より）


大畑遺跡 17 区 265SK 断面状況（北西より）


大畑遺跡 17 区 885SK 断面状況（西より）


大畑遺跡 17 区 886SK 断面状況（西より）


大畑遺跡 17 区 950SK 断面状況（南東より）


大畑遺跡 17 区 964SK 断面状況（南より）

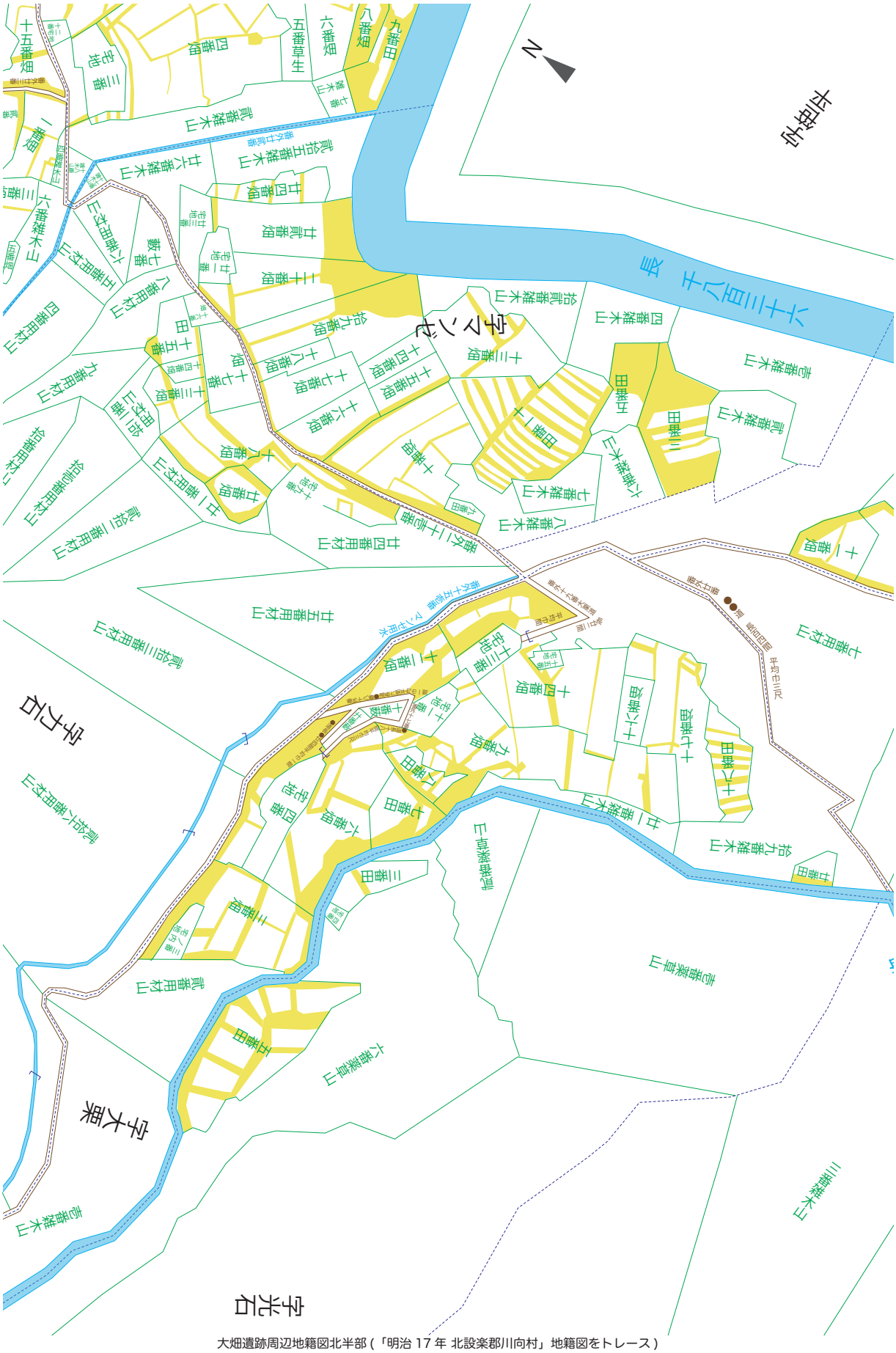

大畑遺跡 17 区 985SK 断面状況（西より）


大畑遺跡 22A 区 2025SK 完掘状況（南より）


大畑遺跡 22A 区 2025SK 断面状況（南より）


大畑遺跡 22A 区 2065SK 完掘状況（西より）


大畑遺跡 22A 区 2065SK 断面状況（西より）



大畑遺跡周辺地籍図北半部（「明治 17 年 北設楽郡川向村」地籍図をトレース）

大畑遺跡周辺地籍図南半部（「明治 17 年 北設楽郡川向村」地籍図をトレース）

遺物図版1

E-1
043SX

E-2

E-3

E-4
E-2~4：176SK

E-5
056SX(検出面)

E-6
310SI

E-9
395SX

E-7
460SU(310SI)

E-8
460SU(310SI)・461SK

E-10

E-11

E-12

E-13

E-14

E-15

E-16

E-17
E-10~17：300SI

E-19 右

E-18

E-18 側面

E-19 左
E-18・19：300SI(400SU)


E-20


E-21
E-20・21:345SX


E-22
360SI


E-23


E-24


E-26


E-27


E-28
E-26~28:425SX


E-25
E-23~25:362SI


E-29


E-30


E-31


E-32


E-33
E-29~33：440SI


E-34
490SX


E-35


E-36
E-35・36：192SI


E-37


E-38


E-39
E-37~39：20SI


E-40
700SI


E-41
1010SD(700SI)

遺物図版3


E-42
206SK


E-43
327SK


E-44
357SK


E-45
2021SP


E-46
2030SK


E-47
2060SL


E-48
2063SX・2070SK


E-49
2063SX


E-50
2066SI


E-52


E-53


E-54


E-55


E-56


E-57


E-58


E-59


E-60


E-61


E-62

E-52~62：2004SK

E-63

E-64
E-63・64：2004SK

E-51

E-51・65~73：包含層・検出面
E-74~76：範囲確認調査 TT

E-65

E-66

E-67

E-68

E-69

E-70

E-71

E-72

E-73

E-74

E-75

E-76

遺物図版5

S-1

S-2

S-3
S-1~3 : 064SI

S-4

S-5

S-6

S-7

S-8
S-4~8 : 065SI

S-10
402SX

S-9
101SX

S-11

S-12

S-13

S-14

S-15

S-16
S-11~16 : 310SI

S-17

S-18
S-17・18：310SI

S-19
878SK(310SI)

S-20
395SX

S-21
560SK

S-22

S-23
S-22~24：300SI 上層

S-24

S-25

S-26

S-27

S-28
S-25~28：300SI

S-29

S-30

S-31

S-32
S-29~32：300SI

遺物図版7

S-33
390SL

S-34

S-35

S-36
S-34~36：833SK

S-37

S-38

S-39
S-37~39：463SK

S-40

S-41
S-40・41：463SK

S-42
493SK

S-43

S-44

S-45
S-43~45：345SI

S-46

S-48

S-47

S-50
S-46~50
362SI 上層

S-49


S-51


S-52


S-53
S-51~55：362SI


S-54


S-55


S-56


S-57
S-56・57：362SI 焼土検出範囲


S-58
362SI 底面


S-59


S-60


S-61
S-59~61：362SI 北西


S-62


S-63


S-64
S-62~64：362SI 南西


S-65


S-66


S-67
S-65~67：362SI 上層北東


S-68


S-69


S-70


S-73
S-68~74：362SI 上層南東


S-71


S-72


S-74


S-75


S-76
S-75~76：362SI 上層南西

遺物図版9


S-77


S-78

S-77・78：362SI 下層北東


S-79


S-80

S-79~82：362SI 北東


S-81


S-82


S-83


S-84


S-85


S-86

S-83~86：362SI 南東


S-87

840SK 掘方


S-88

440SI 南東


S-89


S-90


S-91

S-89~92：440SI


S-92


S-93


S-94


S-95

S-93~96：490SI


S-96


S-97


S-98

S-97・98：370SI


S-99

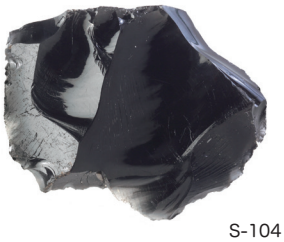

S-100

S-99・100：375SI


S-101
667SK


S-102
794SK


S-103
351SK


S-104
273SK


S-105


S-107


S-108


S-110


S-106
S-105・106：278SK


S-111
S-107~118：420SI


S-112


S-109


S-113


S-115


S-114


S-116


S-117


S-118

S-119
1010SD(700SI)

S-120

S-121

S-122

S-123

S-124
S-120~124：890SI

S-125
2049SI

S-126
2055SK

S-127
2062SX

S-128
2063SI

S-129
750SK

S-130
693SK

S-131
304NR

S-132

S-133

S-134

S-135
S-132~135：黒色土上層 (17E 区)

S-136

S-137

S-138

S-139

S-136~139
：黒色土下層 (17E 区)

S-140
S-140~142:包含層(17C区)

S-141

S-142

S-143

S-144

S-145

S-146

S-147

S-148

S-149

S-150

S-151

S-152

S-153
S-143~153：検出面(17C・B区)

S-154

S-155
S-154~157:検出面(17D・A区、22A区)

S-156

S-157

S-158

S-159

S-158~165:検出面 (17D・A 区、22A 区)

S-160

S-161

S-162

S-163

S-164

S-165

S-166

S-167

S-169

S-170

S-168

S-166~170：検出面 (22A 区)

S-171
かく乱

S-172
T1(17C 区)

S-173
T128(範囲確認調査)

報告書抄録

ふりがな	おおはたいせき
書　　名	大畑遺跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第 227 集
編著者名	樋上 昇・鈴木 恵介・田中良・伊藤 茂・加藤 和浩・佐藤 正教・廣田 正史・山形 秀樹 Zaur Lomtatidze・小林 克也・竹原弘展・バンダリ スダルジャン
編集機関	公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒498-0017　愛知県弥富市前ケ須町野方 802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦 2025 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
おおはたいせき 大畑遺跡	きたしたらぐんしたらちょう 北設楽郡設楽町 かわむきあざおおはた・ひがしがいつ 川向字大畑・東貝津	23561	700164	35 度 6 分 33 秒	137 度 33 分 58 秒	2017.10 ～ 2018.1 2022.10 ～ 2022.12	13,950 2,080	設楽ダム

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大畑遺跡	集落跡	縄文時代前期 ～ 縄文時代中期	竪穴建物跡 13 棟 竪穴状遺構 6 棟、炉跡 副炉、陥し穴 10 基	縄文土器、弥生土器、石器	縄文時代前期の竪穴建物跡 縄文時代中期の竪穴建物跡内で副炉を伴う石囲炉

文書番号	発掘届出（29 埋セ第 2 号・2020.4.4　4 埋セ第 3 号・2022.4.11） 通知（29 教生第 220 号・2017.4.17　4 文芸第 663-1 号・2022.5.13） 終了届・保管証・発見届（30 埋セ第 126 号・2018.2.14　4 埋セ第 110 号・2022.12.26） 鑑定結果通知（29 教生第 3697 号・2018.2.26　4 文芸 2281・2023.2.10）
要　　約	境川右岸丘陵上に立地する縄文時代前期～後期の集落跡。竪穴建物跡は縄文時代前期 4 棟、縄文時代中期 9 棟、縄文時代後期～晩期は竪穴建物跡そのものは検出されず、遺物が検出された。縄文時代中期後半の副炉は特徴的な遺構である。この副炉は調査当初設楽ダム関連遺跡の中で初の検出例であった。 東西および南側が河川によって削られた崖で周囲と隔絶した独立性の高い地形であり、土砂の流入等の影響がない。その一方で当遺跡からは雨水等によって土砂の流出が継続しているため、丘陵上の遺構の一部は残存状況が良好ではなかった。

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第227集

大畑遺跡

2025年３月31日

発行　公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印刷　西濃印刷株式会社